

ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.101
12月15日号
 平成22年(2010年)

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>

E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

介護福祉士の新たな役割と飛躍に向けて

社団法人日本介護福祉士会 会長 石橋 真二



新年明けましておめでとうございます。

介護を取り巻く状況は、介護現場における待遇面の処遇の低さなどから介護現場での人材不足が課題となりましたが、本会としても人材確保対策のために、国や行政に

対して積極的に働きかけたところ、介護職員処遇改善交付金の支給をはじめとする様々な人材確保対策が図られてくるようになり、介護分野は追い風が吹くようになってきたところでもあります。

このように一定の成果を得たことは私たち日本介護福祉士会の活動の賜物であるといっても過言ではありません。

なお、現在では、介護福祉士の資格取得時の実務経験コースにおける600時間への課題、介護職が行える基礎的な医療行為についての課題、次期介護報酬改定への対応、キャリアアップの仕組みに応じた生涯研修

体系の構築、発言力を増すための組織力の強化など、私たちに求められている課題は山積している状況です。

私たち職能団体としては、介護福祉士制度の発展や「利用者本位の介護の提供」など日本介護福祉士会の職業倫理に照らし合わせながら、これらの課題を解決していくことが必要であると思います。

同時に介護福祉士として活躍する領域の広がりや役割も拡大してきている状況でもあり、介護福祉士制度の発展に役立つチャンスとして捉えるという積極的な思考で、これらの課題に対応していくべきだと思います。

そのためには、職能団体としての活動を活性化し、適時・適切な情報発信と一人ひとりの介護福祉士が資質向上のための研修、介護における研究への取り組み等自己研鑽を行い、利用者に対するサービスの向上及び介護福祉士の社会的評価の向上への取り組みが必要です。

今年は、さまざまな制度の改正が介護福祉士制度の発展につながり、介護福祉士の社会的評価の向上に資するよう、会員の皆様、行政、政治家、関係団体、関係者各位の皆様方にも、ご協力・ご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

● 役員の動き ● (10月1日～11月30日)

- 10月 1日 第4回常任理事会 (石橋会長、内田副会長、木村副会長)
- 10月 2日 第8回日本介護学会 (石橋会長、内田副会長、木村副会長)
- 10月 7日 第34回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 10月 9日 リーダー研修会講師 (ファーストステップ研修講師養成研修会) (木村副会長)
- 10月11日 第5回制度・政策検討委員会 (石橋会長、内田副会長、木村副会長、三浦副会長)
- 10月12日 第5回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会 (厚生労働省) (石橋会長)
- 10月28日 第35回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 10月29日 第6回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会 (厚生労働省) (石橋会長)
- 10月31日 第2回介護職のための研究・発表に関する検討会 (内田副会長)
- 11月 2日 日本介護福祉士会ニュース101号座談会 (石橋会長)
- 11月 5日 第1回介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用と資質向上との連関に関する調査研究事業委員会 (石橋会長)

- 11月 9日 第3回障害種別に対応した介護のあり方に関する調査研究事業委員会 作業部会 (内田副会長、三浦副会長)
- 11月12日 第6回制度・政策検討委員会 (石橋会長)
- 11月14日 第3回全国大会実行委員会 (木村副会長)
- 11月15日 第3回障害種別に対応した介護のあり方に関する調査研究事業委員会 (三浦副会長)
- 11月16日 中央福祉人材センター運営委員会 (内田副会長)
- 11月17日 第5回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会 (厚生労働省) (内田副会長)
- 11月17日 国際医療技術交流財団評議委員会 (石橋会長)
- 11月19日 第36回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 11月20日 リーダー研修会講師 (ファーストステップ研修講師養成研修会) (木村副会長)
- 11月25日 正副会長会、第1回生涯研修委員会、第5回常任理事会 (石橋会長、内田副会長、三浦副会長)
- 11月25日 第37回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 11月27日 ナイチンゲールKOMIケア学会開会式典出席 (石橋会長)
- 11月29日 第7回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会 (厚生労働省) (石橋会長)

「日本介護福祉士会ニュース」101号記念対談

これからの介護を担う若手会員、石橋会長と語る 介護福祉士として働くこと

前号に引き続き石橋会長にご登場いただき、若手会員が語る介護福祉士としてのやりがい、将来の夢などについて、ざっくばらんに感想をお伺いしました。



石橋 真二
(日本介護福祉士会 会長)

高木 今日は大先輩の石橋会長を前に、緊張しているかもしれませんが、リラックスして、ざっくばらんに話したいと思います。まずは、お二人の自己紹介から。

橋野 私は、専

門学校を卒業し、介護福祉士として障害児施設に勤務して2年目です。

金井 私は、高校卒業後、介護福祉士として特養で働いています。同じく2年目です。

石橋 お二人は、そもそもどうして介護福祉士になろうと思ったのですか？

橋野 もともと保育士になりたかったんです。でも、高校時代に老人ホームへボランティアに行き、そこで介護福祉士という職業の人を初めて見て、ああ素敵だな、と興味を持って…。それがきっかけです。

金井 私も中学のときの職場体験で老人ホームへ行ったのがきっかけです。その後、高校の福祉科へ進み実習で今の職場へ行き、改めて現場で働く人の姿を見て、机上の勉強とはまた違った魅力を感じました。ここで働きたい！ と強く思いました。

高木 石橋会長にもお聞きしてい

でしょうか。どうして介護の仕事を？

石橋 私は、日々変化のある、人と関わる仕事が好きだった、という理由が大きいですね。今日のお二人も、数ある仕事の中から、あえてこの仕事を選んだというのは、やはり基本的に人と関わるのが好きなのではないでしょうか。

橋野 はい、好きですね。

金井 私は、小さいころから、おじいちゃん、おばあちゃんが大好きでした。

高木 好き、という気持ちは仕事選びの大きな要素ですよ。では、好きで選んだこの仕事ですが、思い描いていたことと実際にやってみて違うなど思った点は？

橋野 この仕事に就くまで障害者とあまり深く接したことがなかったので、最初はどう関わればよいのかわからず戸惑いました。でも、やっていくうちに、ああ、別に構える必要なんてない、ふつうに話せばいいんだ、と思いました。そうすることで向こうも心を開いて、自然に関わってきてくれることに気づいたんです。

金井 私は最初、介護というものは、お年寄りのお世



話をすること、と考えていました。でも、ある時、先輩職員から「私たちは、利用者さんと一緒にお互い助け合って生活しているのよ」と言われ、考え方が変わりました。今では、介護とは、一方が“してあげる”ことではなくて、いろいろな人が“共に生きていく”ことなんだな、と思っています。

石橋 そう。こちらの関わり方、かける言葉ひとつで利用者さんの対応も変わる、またその逆もある、そんな発見が日々あるところが介護の仕事の素晴らしいところでもありますね。

高木 実際に働きだして今2年目ということですが、何か仕事に対して不満や不安に感じることはありますか？

橋野 利用者さんの数に対して職員の数が少ないとは感じています。人数が少ないと、どうしても目が行き届かなくて、突然のことに対応が遅れてしまったりするので。

金井 私は、わかっているのに、介護職には医療行為の権限がなくてできない、というのが、時々もどかしいです。

石橋 そうですね。その点については、日本介護福祉士会としても、介護福祉士による一部の医療行為を法律的にも報酬的にもきちんと認めるよう働きかけているところです。もちろん、そのためには、こちらも知識や技術を身につけてはいけないわけですが。



橋野 美穂
(東京都 日本心身障害児協会 島田療育センター)

を放っておく、ということは実際の現場では無理な話ですものね。

橋野 介護と医療ということで思い出したのですが、私は介護の現場に医療的観点が優先されすぎて、利用者さんの立場に立った、生活の質の観点がないがしろにされてしまうことが少し残念です。たとえば、食事にしても、好物を食べるときは本当に嬉しそう顔をするのに、それを何でも「ダメ」というのは、どうなのかな、と。

金井 私も、特にターミナルの利用者さんの希望など

は、多少無理をしても叶えてあげたい、と思ったりします。外出したいとか、家に帰りたいたいか。

石橋 確かに、利用者の方の生活を、身近で一番よく見ているのは、介護福祉士なわけですからね。生活する主体者は利用者であるという介護の視点というのも大事なことだと思います。

高木 給与面ではどうですか？

橋野 やはり、もっと多いほうが…。

石橋 それは当然ですよ。今年度から介護職員の処遇改善交付金が設けられましたが、少しは上がったという実感はありますか？

金井 去年よりは少し上がりました。

橋野 私はわかりません。交付金のことも今、知ったくらいで(笑)。

石橋 介護の現場で長く働き続けるためには、やはり待遇の向上など労働環境の改善が必要です。お二人は、辞めようと思ったことは？

橋本 今のところないです。

橋野 私も、ずっと続けたいと思っています。

高木 嬉しい答えですね。最後に、日本介護福祉士会に対して何か要望はありますか？

金井 若い会員向けの研修会をもっと増やしてほしい、かな。

橋本 私は、もっと障害者介護がテーマの研修会を充実させてほしいと思います。どうしても高齢者介護のものばかりなので。

石橋 なるほど。参考にします。お二人ともさらに経験を積みスキルを磨いて、これからの介護に貢献してください。期待しています。



金井 千奈
(群馬県 特別養護老人ホーム ねむの丘)



[進行役]
高木 順子
(群馬県介護福祉士会 顧問)

日本介護学会報告

去る10月2日、いわて県民情報交流センター「アイーナ」(岩手県盛岡市)において第8回日本介護学会が開催され、全国各地より、300名を超える参加者が集まりました。

日本介護学会は、午前10時20分より吉田均(岩手県介護福祉士会会長)と、石橋真二(日本介護学会会長)のそれぞれの挨拶で始まった。

引き続き、熊坂義裕氏(盛岡大学栄養科学部教授)による記念講演、「市長12年の経験から、医療・福祉を考える一小さすぎる政府からふつうの政府へ」が行われた。



熊坂 義裕氏
(盛岡大学栄養科学部
教授)

宮古市の現状や介護保険法の問題点などを指摘し、市長として行った医療崩壊・介護崩壊を防ぐために、連携の重要性を強調し、限られた医療福祉資源の中で連携強化のための地域包括ケアの強化を行った際の工夫などを紹介した(次号の学術専門誌「介護福祉」にて特集予定)。

午後は、佐藤嘉夫氏(岩手県立大学社会福祉学部長)を助言者として迎えた第一分科会と、藤田三喜子氏(有料老人ホームやすらぎ施設長)を助言者として迎えた第二分科会の発表が行われた。

今年は計19編の研究発表論文等が投稿され、査読委員により選考された調査研究11編、実践研究1編、特別発表1編が発表された。(テーマと発表者(共同研究者)はホームページにて掲載)。

すべての研究発表が終了したところで、佐藤氏と藤田氏から全体の講評をいただいた。

佐藤氏は、介護の現場で直面する今日的な課題、また広範なテーマについて、非常に実践的な問題意識から様々な研究報告がなされたとし、「皆さん多様な研究方法を使って、文献検索等もきちっとされています。新たな事実の発見、ニューファインディングスが、具体的な課

題解決への示唆になるということで、そういうものが多く集まり、大変興味深く、敬意を表したいと思います。」と述べた。また、現場で研究することの重要性を、①現場的な研究テーマ、②現場に依拠した研究方法として位置づけ、アカデミズムとの連携も含め、今後の研究発表の発展に期待すると述べた。

藤田氏は、研究発表の内容について以下の報告を行った。たんの吸引等の医療行為を介護職が行うことについては、介護福祉士の意識が高まっているということ、介護老人保健施設の在宅復帰については、独居や認知症、家族介護の難しさの点で在宅復帰できない場合があること、介護リーダーについては、連携についての評価が高く、職員間でも評価されているということ、介護福祉士養成教育の内容については、今後介護福祉士がプロとして行っていく実習などの部分に関して、医療関係者も含めた学びの場が必要なのではないかということが報告され、「介護福祉士として自身も勇気付けられプロとしてがんばっていききたい」と述べた。

閉会式において内田千恵子(日本介護学会学会委員長)は「何を持って、介護福祉士とするのか、介護福祉士の専門性とはいったい何なのか、ということについて、豊富な研究材料のある現場からの研究発表は重要」「参加されている学生の方には、現場に出た後も問題意識を持って、研究に取り組んでほしい」と述べた。

最後に、次回開催県の代表として城間雅己(沖縄県介護福祉士会会長)が次回開催予告を行った。その中で「皆様をお待ちしておりますので、沖縄のたくさんの方の魅力を感じていただいて、沖縄で開催されてよかったなと思っていただければ幸いです」と述べ、幕を閉じた。



【次回開催予定】

日程：平成23年7月9日(土)
会場：沖縄コンベンションセンター
(沖縄県宜野湾市)

【論文募集】

第9回日本介護学会の発表論文を募集しています。

受付期間：平成23年1月10日(月)
～3月11日(金)

お申し込み方法など詳細はホームページにて

「介護の日」イベント報告

11月11日の「介護の日」に、プリズムホール(東京都文京区)において「介護の日」フォーラム(主催:厚生労働省・全国社会福祉協議会)が開催されました。

フォーラムでは「記念講演:これから福祉、介護の世界で働く人へのメッセージ(生島ヒロシ氏・フリーアナウンサー)」「介護職員による『ユニークな取り組み』発表会(コーディネーター・野口典子氏)」が行われた。さまざまなセミナーや、相談コーナーが設置され「先輩職員に聞くコーナー」では、日本介護福祉士会会員の施設職員の方にも協力をいただき、自身の体験等を通して介護の仕事の魅力を伝えていただいた。また、同時開催の「介護就職デイ」には、多くの学生や社会人も足を運んでいた。

日本介護福祉士会でも、今年で3回目を迎えた「介護の日」(11月11日)を中心に各都道府県介護福祉士会主催や、他団体との共催で「介護相談」「介護技術実演」「福祉用具展示」「街頭アンケート」「記念講演」「シンポジウム」等、さまざまな催しが行われた。



「介護の日」の周知とともに日本介護福祉士会の取り組みを多くの方に理解と認識をしていただくために、パンフレットや各都道府県介護福祉士会の工夫を凝らした名入りのボールペン・ポケットティッシュや、東洋羽毛工業株式会社より提供していただいたクリアファイルの配布を行った。

「介護の日」の周知とともに日本介護福祉士会の取り組みを多くの方に理解と認識をしていただくために、パンフレットや各都道府県介護福祉士会の工夫を凝らした名入りのボールペン・ポケットティッシュや、東洋羽毛工業株式会社より提供していただいたクリアファイルの配布を行った。



専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

- 秋号(22年9月発行)
特集「介護動作と介護技術を見直そう」
- 冬号(22年12月発行)
特集「やりがい・働きがいのある職場づくりと人材育成」

検討会の動き

厚生労働省で行われている各種検討会において、日本介護福祉士会は職能団体として意見を述べています。

●今後の介護人材養成の在り方に関する検討会 (石橋真二会長)

第5回 (10月12日)

○介護福祉士によるたんの吸引等の実施について、現在検討されているたんの吸引等の軽微な医療行為については、介護福祉士の資格を持った者ができることとし、そのためには養成カリキュラムにも、医行為が出来るようなカリキュラムを追加すべきであると考えます。また、既に介護福祉士資格を取得している人については、一定の追加的研修を修了した場合に限り、たんの吸引等を認めるべきである。なお、たんの吸引等を医行為から外すことについては反対する。

○より高い知識・技術をもつ介護福祉士の養成のあり方については、本会が行っているファーストステップ研修において汎用性のある基礎力を向上させるという段階を踏んで、その後、重度の認知症や障がい分野について、より専門的な知識と技術を持った介護福祉士の養成を行うこととし、本会の生涯研修制度を活用すべきである。また、認定や更新研修については職能団体で担っていきたいと考えている。

第6回 (10月29日)

○【より高い知識・技術をもつ介護福祉士の養成について、資料^{*1}を提出し、それに基づいて日本介護福祉士会の行っている生涯研修制度や、ファーストステップ研修の意義・内容・効果等について説明を行いました。】

○介護福祉士の資格を取ってからのより高い知識・技術をもつ介護福祉士の養成については、職能団体の役割であり、本会の行っているファ

ーストステップ研修を始めとする様々な生涯研修制度を活用すべきである。

○実務経験ルートに課す600時間研修については、6ヶ月で修了しなければいけないという誤った認識があるのではないか。1年から2年で学ぶ方法や、通信学習を活用する方法もあるかと思う。また、働きながら600時間を受講できるようにするためには、代替職員の確保のための支援策や受講料の負担軽減、身近で学べる仕組みなど、学びやすい環境を整えることが必要。

○介護サービスの質を向上させるためには、自分自身の学び、教育が欠かせない。なお、質を向上させることは、利用者へのサービスの向上に繋がることであるという認識が必要。

第7回 (11月29日)

○介護福祉士に至るまでのキャリアパスの在り方については、介護福祉士としての基本的な知識、技術を身につけるために一定の教育が必要であり、同時に介護福祉士に対する社会的評価を高めることが必要。そのためにも資格取得方法の一元化について定めた19年の法律改正から後退するような仕組みにはすべきでない。ただし、働きながら受講できる仕組みや、たんの吸引等を介護福祉士が行えるようにするための法改正を含めた検討は必須である。

○職能団体が認める認定専門介護福祉士については、人員配置基準への位置付けや介護報酬での評価、人材確保指針への明記等により、公的に評価すべきである。

●介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会 (内田千恵子副会長)

第5回 (11月17日)

○【主な論点は①たんの吸引等を実施できる介護職員等の範囲②特定の者を対象とした実地研修修了により特定の者に対してのみたんの吸引等の実

施を認める③介護職員等にたんの吸引等を行わせる施設、事業所等から医療施設を除外する】

○たんの吸引等を実施できる介護職員は原則介護福祉士とし、特定の障害者等に係るヘルパー、

特別支援学校教員は特例とすべきである。また、研修は必要であり、修了していない者と区分することはやむを得ない。

○介護職員がたんの吸引等を実施できる施設等について医療施設まで広げるのはいかがなものか。介護福祉士の本来業務は介護現場での介護である。将来介護職員等が実施可能な行為が拡

大することが予想されるが、看護職員の代替になることは望んでいない。

○事故については、当事者だけでなく、周囲の環境にも問題がある場合が多いので、安全に対する管理体制や責任体制の整備にも十分配慮すべきである。

● 社会保障審議会介護保険部会 (田中雅子名誉会長)

第34回 (10月7日)

○介護職員、看護職員、介護支援専門員等の人員配置について、例えば認知症をもつ利用者の状態像に応じて介護福祉士の割合を定める等、基準介護といった考え方も含めて検討していくべきである。

○ケアマネジャーの在り方について、『保有資格が介護福祉士に偏り、医療的ケアへの知識が十分でない』と限定するような表現には抗議する。ケアマネジャーの資質向上を図るのであれば、ケアマネジャーの研修について見直しを行うべき。

○介護人材の確保と処遇の改善策について、処遇改善交付金の恒久化とあるが、介護人材の確保・定着を図るのであれば介護報酬の枠組みで考えるべきこと。

第35回 (10月28日)

○【「介護保険制度見直しにあたっての提言書」を提出しました。】

○介護現場で利用者にもっと近い専門職の立場から、見直しにあたっては人間の尊厳が守られる介護が実現される制度にする必要があり、そのためには人材の育成・サービスの質に関する議論を十分に行うべきである。

第36回 (11月19日)

第37回 (11月25日)

○「介護保険制度の見直し」について議論が行われた社会保障審議会介護保険部会の取りまとめとして「介護保険制度の見直しに関する意見」が出されました。田中名誉会長は冒頭、内閣府実施の「介護保険制度に関する世論調査」にふれ、行政に対する要望項目「介護人材の確保のために、賃金アップなどの処遇改善」が52%であることに対し、「非常に力強く思っております」と述べた。

○田中名誉会長は委員就任当初より、利用者にもっと近い立場の専門職として、よりよい介護保険制度の発展のために、介護サービスの質の向上と介護福祉士をはじめとする介護職員の処遇改善の重要性を一貫して主張し続けてきた。

○介護保険部会を振り返り、田中名誉会長は、「今回の意見書には、日本介護福祉士会が主張し続けてきた介護職員の人材確保と処遇改善、資質向上等について、その多くが盛り込まれ、一定の成果をあげたと考えています。今後も介護サービスに従事する人々が生きがいと働きがいをもって仕事に取り組むことができるよう主張し続けていきます。皆様のご支援とご協力を引き続きお願いいたします。」と述べた。

※1：日本介護福祉士会における生涯研修の推進と「介護福祉士ファーストステップ研修」各検討会に関する詳細は日本介護福祉士会 (<http://www.jaccw.or.jp/>) または厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/>) のホームページをご参照下さい。

連載

4

介護の現場で輝いています！

介護福祉士の社会的地位の向上を目指す

二瓶さやか

私は、今年の4月から現在盛岡市内のデイサービスに介護福祉士として勤務しながら、岩手県立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程に在学しています。介護の実践現場での経験と、研究活動を通して「介護福祉士の社会的地位の向上」を目指し、日々奮闘中です。それまでは、大学に勤務しながら、大学院での研究活動を行っていましたが、「介護現場の事を何も知らず、介護の何を語れるのだろう」という思いがあり、心機一転、介護福祉士として経験を積む道を選びました。

現場で働く介護福祉士自身が、介護福祉士である事を誇れる環境を作りたいという思いを抱き、介護福祉士として飛び込んだ介護の世界。介護の世界は、とても奥が深く、人と人の触れ合いの温かさで溢れているということを実感しました。私は今、実際に介護サービスを提供する立場に立ち、利用者様との関わりの中で、「介護の仕事が好き」「介護の仕事は素晴らしい」と自信を持って言うことができます。

介護福祉士を取り巻く状況は、他の医療・福祉専門職と比べると決して恵まれているとは言えません。ゆえに、「介護職の離職率の高さ」といった形で介護職のマイナスのイメージがマスメディア等で報道されていると思います。

2000年に介護保険法が導入され、介護サービスの質の向上といったことが盛んに言われていますが、介護サービスを提供する介護福祉士自身が、自分の仕事に誇りを持たない限り、介護サービスの質的向上を図ることは出来ないと感じています。

今後、更に高齢化が進む日本では、介護福祉士は決して欠かすことの出来ない人材であることは明らかです。希望に溢れた明るい未来に、介護福祉士の質の向上は必要不可欠です。小さな子供達や、これから就労を考える人たちが自信を持って介護という仕事を選択出来るように、私は、これからも現場での経験、研究活動を通して、「介護職の魅力や素晴らしさ」を広く伝えていきたいと考えています。



介護の魅力を多くの方に伝えたい

認知症グループホーム 古都の家学園前 杉山 淳彦

「もうこんな歳になったんや」と振り返ることが多くなった今日この頃。

現在、私は認知症グループホーム(2ユニット18名定員)に勤務しています。また、専門学校(介護福祉学科 担当科目:認知症の理解・ケア)の講師や地域の方々に認知症やグループホームについて伝える活動に参加しています。過去に、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問介護(訪問入浴、配食サービス含む)、介護事務、相談、実習指導などの業務に就き、来春で15年となります。

「食事を準備しても食べないし、外に出ると帰ってこられないのです…どうすればよいか…」。グループホームの入所相談で、明らかに疲れのみえる家族から打ち明けられました。認知症状が著明になり、本人はもちろんのこと、家族の生活にもひびきかかってくる頃でした。ホームヘルパーを利用しているが家にあがらせない。また、近所の学生が認知症と知ってか知らずか、家に来てお金をたかかっていくこともあったそうです。話を進めていくと、意外にも家族はグループホームや介護福祉士の役割について、あまり知っているようでは

ありませんでした。急がず焦らず、じっくりと時間をかけて家族に説明しました。その時、父に施設へ入所してもらうことに後ろめたい思いがあるとこぼされました。続けて、「あなたたちのような若者が熱心に父や家族の今後について語ってくれたことに正直驚いています」と言われたのです。数日後、入所することを決めた家族。そして、入所後、生き活きと生活する父をみて安堵の表情を浮かべる家族…。このような関わり方の積み重ねが私と介護の仕事結びつけているのだと思いました。

今年9月、海外研修に行きました。介護の魅力や熱い思いが海外研修に行くことでさらに大きくなりました。介護に携わる方だけでなく学生や地域、関連職種などの多くの方々に、認知症介護や介護福祉士の役割や魅力を私の熱い思いに乗せて伝えていきたいと思っています。



▲満開の桜の下で

ふれあいケア

2011年
1月号
12月20日発行

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 不満・要望をサービス改善に活かそう

施設では、介護職員などが日々研鑽に励み利用者の介護にあたるとともに、よりよいサービスを提供するために利用者や家族へのアンケートなどを実施し、質の向上にも取り組んでいます。特に利用者や家族からの施設的环境やサービスに対する不満や要望が出た時には、真摯に受け止め対応することが大切です。本特集では、利用者や家族からの不満や要望に、施設はどのように対応し、サービス改善につなげているのか、またサービス改善につなげるために家族とどのような協働体制をつくっていけばよいのかについて考えます。

Part1 座談会 Part2 利用者・家族との協力関係づくり Part3 第三者評価から学ぶ

好評
連載企画

- 介護とわたし
- 実践から学ぶ!介護技術
- 実践から学ぶ!認知症ケア
- かけがえのないひとこと
- 地域で支える実践レポート
- ふれあい訪問介護センター物語
- 介護現場のリスクマネジメント
- 介護職員マキコさんのスローライフ日記
- からだがよるこぶ養生ごはん
- ふるさと写真館
- ふれあい訪問

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■

受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉 全国社会福祉協議会 出版部
法人 〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

第18回全国大会開催県

青森県はこんなところ

全国の会員の皆様、来年の全国大会は青森県で行われることになりました。

12月4日、悲願であった東北新幹線が青森市まで全線開通しました。これを機に青森がもっと身近に、もっと気軽に行けるようになりました。

ご存じのように、青森県は本州最北端に位置し、四方を海に囲まれ、津軽半島と下北半島等独特の地形を擁し、厳しい自然や風土が織りなす特異な文化や歴史が広がります。



恐山

作家の故司馬遼太郎氏は、青森の地を“北のまほろば”と呼び、はるか五千年前の縄文時代に隆盛した三内丸山遺跡を始めとする古代の歴史と浪漫に思いを馳せました。

日本で最初に認定された世界自然遺産の白神山地、神秘的十和田湖、奥入瀬溪流、日本三大霊場の恐山、歌でおなじみ竜飛崎、野生馬の寒立馬（かんだちめ）が草を食む尻屋崎。独特の風土が生んだ津軽三味線、世界の火祭りねぶた祭りを筆頭に夏の夜を一気に駆け抜ける弘前市のねぶた祭り、五所川原市の立ちねぶた、華麗な山車の八戸三社大祭、日本一の桜の名所弘前公園、鉄道ファンにはおなじみの郷愁を誘うストーブ列車や人気のリゾート白神号。

冬は時には視界ゼロの地吹雪の後の一面の銀世界。春は待ち焦がれた花々が一斉に咲く百花繚乱。短い夏は人々のエネルギーが弾ける各地での多くのお祭り。そして実りの時を迎え、紅葉が彩りを添える錦秋。四季折々の手つかずの美しい自然が心を和ませます。また、全国有数の温泉数を誇り、名湯・秘湯等大小さまざまな個性的な温泉が県内各地に点在しています。



八甲田の樹氷

勿論、食に関しても厳しい自然が育んだ日本一のリンゴ、大間のマグロ、帆立貝、ブランドのニンニクや長芋、今や大ブームのB級グルメ発祥の地八戸市のせんべい汁、黒石市のつゆやきそばや十和田市のバラ焼き、そして地酒の数々…等山海の恵みや珍味には枚挙にいとまがありません。



青森りんご

是非、来年の11月10日、11日は、寒い時期ではありますが、研修の後温泉にでもつかり、地酒でも飲みながら疲れや寒さを癒しませんか。素朴で人情味あふれるみちのく青森でお待ちしております。一路青森！

青森県介護福祉士会 会長 風晴賢治



奥入瀬溪流



青森ねぶた



大間のまぐろ

新企画 都道府県介護福祉士会 情報交流の泉① ◆鳥取県

我が鳥取よ!

うちげがある鳥取県は、東は兵庫県、南は岡山・広島県、西は島根県にくつついちょー。

東部は、鳥取砂丘があり「遙かな町へ」の谷口ジロー氏、中部には、「江戸川コナン」の青山剛昌氏、西部には、「ゲゲゲのきたろう」でこの度文化功労者に選ばれた水木しげる氏と日本漫画界でえらい活躍しちよな一だがん。平成24年に「世界漫画サミット」が開かれ一だつて。行ってみないけん一。みんなもきてごしないよ。まっちょーけん。



日本中で一番人口の少ない(60万人弱)県ですが、今年4月に一般社団法人化も済ませ、三橋会長はじめ488人の会員で、組織率としては全国10位です。これに満足せず、組織強化に又、魅力ある会となるよう努力中です。

事業は各研修会、介護相談、交流会等を行っています。ホームページも立ち上げました。

沢山の会員、介護福祉士の方の参加をお待ちしています。

これからは、鳥取の味を紹介いたします。「いただき(イカめしの油揚げ版)」とっても簡単ですのでみなさん作ってみて下さい。

「いただきをいただきましょう」

おあとがよろしいよう
で失礼します。

次は秋田県にタッチ。

(鳥取県介護福祉士会ホームページ <http://tottori-kf.jp/>)



「いただき」(イカめしの油揚げ版)

<材料>

- うす油揚げ(三角)10枚or角油揚げ18枚、米3合、
- 「人参・ごぼう・しいたけ」のみじん切り、鶏ミンチ適量、爪楊枝10本or18本
- <A>昆布のだし汁1000cc、しょう油80cc、砂糖50g、酒大さじ2~3
- だし汁に使った昆布・少々

<作り方>

- ①油揚げは熱湯をかけ油抜きをする。
 - ②米はといて水気を切り、水切りした米、みじん切りの具、鶏ミンチを混ぜる。
 - ③①の油揚げの一边を開け、②(米と具を合わせたもの)を7分目まで入れて爪楊枝で止める。
 - ④なべにの昆布を敷き、③を並べ、<A>(あわせだし汁)を注いで煮る。
- 沸騰したら中火でゆっくりと煮る。
煮汁がなくなる直前に火をとめて10分位蒸す。出上がりです。

ソウェルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
<http://www.sowel.or.jp/>

社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

福祉が働く人の福利厚生を支援しています。

都道府県介護福祉士会研修情報

茨城県介護福祉士会研修情報

介護福祉士国会試験対策実技講座

- 日時 平成23年2月6日 (日)、2月13日 (日)
- 場所 茨城県総合福祉会館
- 内容 介護福祉士国家試験対策実技講座 (基本編-2月6日、応用編-2月13日)
- 問い合わせ先 茨城県介護福祉士会 TEL.029-354-4170

群馬県介護福祉士会研修情報

介護技術講習指導者養成講習会

- 日時 平成23年1月22日 (土)、1月23日 (日)
9:00~17:00
- 場所 群馬県社会福祉総合センター 地下B01研修室
- 内容 介護技術講習の指導者養成講習会
- 参加費 会員9,000円 (テキスト代・登録料含む)
- 問い合わせ先 群馬県介護福祉士会 TEL.027-255-6226

石川県介護福祉士会研修情報

東海北陸ブロックリーダー研修会「介護の世界はどのような人材を必要とするか」

- 日時 平成23年3月12日 (土) 13:00~16:15
- 場所 石川県女性センター 2F 大会議室
- 内容 池田省三氏による「地域包括ケアを支える人材」(仮)の講演
- 参加費 会員3,000円 非会員5,000円
- 問い合わせ先 石川県介護福祉士会 TEL.076-234-1151

静岡県介護福祉士会研修情報

プレゼンテーションスキルアップ研修

- 日時 平成23年1月14日 (金) 10:00~16:00
- 場所 静岡県総合社会福祉会館シズウェル 703会議室
- 内容 高室成幸氏による講演
- 参加費 会員2,000円 一般有資格者4,000円
- 問い合わせ先 静岡県介護福祉士会 TEL.054-253-0818

三重県介護福祉士会研修情報

後期研修会

- 日時 平成23年3月12日 (土)、3月13日 (日)
10:00~16:00
- 場所 三重県社会福祉会館 3F 講堂
- 内容 福辺節子氏による福辺流介護術の講演
- 参加費 会員1,000円 非会員5,000円
- 問い合わせ先 三重県介護福祉士会 TEL.059-271-9918

鳥取県介護福祉士会研修情報

平成22年度中国四国ブロックリーダー研修会

- 日時 平成23年1月13日 (木) 14:00~16:00
- 場所 米子コンベンションセンター 3F 第二会議室
- 内容 矢澤秀成氏による「人は花を育てる、花は人を育てる」の講演
- 参加費 中国四国ブロック介護福祉士会会員3,000円
- 定員 40名 (定員になり次第締め切ります)
- 問い合わせ先 鳥取県介護福祉士会 TEL.0857-59-6336

愛媛県介護福祉士会研修情報

介護福祉士第2回スキルアップ研修会『笑いの力』～笑いの力でストレス解消!～

- 日時 平成23年2月8日 (火)
- 内容 芸乃虎や志 (枝廣篤昌氏・精神科医、豊岡台病院院長、日本笑い学会四国支部代表) による講演
- 問い合わせ先 愛媛県介護福祉士会 TEL.089-987-8123

会員の皆様からの投稿をお待ちしております!

「日本介護福祉士会ニュース」に掲載する以下の記事について、会員の皆様から投稿を受け付けております。全国の会員にアピールする機会にもなりますので、奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

◆ 現在募集している記事 ◆

- ☆「介護の現場で輝いています!」
- ☆「私のストレス解消法」
- ☆「手作り介護用品」

※原稿提出先及び投稿に関するお問い合わせはこちらまで。
社団法人日本介護福祉士会 事務局 (担当者:かんだ)
電話 03-3507-0784 FAX 03-3507-8810
メール webmaster@jaccw.or.jp

会員の皆様へ

- 当会の活動は会員様からの会費によって、運営されております。会員サービス取扱いの公平性を保つ観点から、機関誌などの郵送物発送、研修会の会員価格での参加、書籍購入の割引などの会員サービスは会費の納入が確認できた会員様のみ提供させていただいております。
- 住所不明で当会からの発送物が届かないケースが増えております。婚姻等による姓の変更やご住所やご連絡先、ご勤務先などのご登録情報につきまして、変更のあった際は必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。
- やむをえずご退会される場合、本会並びに都道府県介護福祉士会の所定の様式により退会の申請を頂かない限り、会員として登録されたままになります。なお、退会される場合でも当該年度に在籍されている場合は会費をお支払いいただく必要がございますので、ご注意ください。
- 当会は4月1日~3月31日の年度制になっております。
- 新規でご入会いただく方や、ご退会される方は、年度途中でも会費は全額の納入になりますのでご留意下さい。
- 事務手続きが各都道府県によって異なる場合があります。ご不明な点等ございましたら、日本介護福祉士会までお問い合わせいただけますようお願い申し上げます。(webmaster@jaccw.or.jp 電話03-3507-0784)



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.102
2月15日号
 平成23年(2011年)

社団法人 日本介護福祉士会

 URL : <http://www.jaccw.or.jp/> E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

第17回全国大会 宮崎で開催

「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」
 ～介護福祉士の現状を、どげんかせんといかん!!～

開会に先立ち、宮崎県介護福祉士会会長前田薫と日本介護福祉士会会長石橋真二より開会の挨拶が行われた。全国の介護福祉士が一同に集まる研修会において、一人ひとりの介護福祉士が資質向上のための研修、介護における研究への取組み等によって自己研鑽を行うことも、介護福祉士の社会的評価の向上のためには必要なことであり、意義深いものであるとし、全国大会が開会した。厚生労働省、宮崎県知事、宮崎市長をはじめ数多くの来賓の方が参列し祝辞をいただいた。

大会初日は、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室介護福祉専門官の本名靖氏より基調講演として「介護人材確保対策の動向について」というテーマで国の政策についてお話をいただいた。次に、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏より記念講演として、「『がんばらない』けど『あきらめない』～鎌田實の幸せ介護～」というテーマでお話をいただいた。最後に、特別講演として、詩人・児童文学作家である藤川幸之助氏より「支える側が支えられるとき～認知症の母が教えてくれたこと～」として詩の朗読を交えたお話をいただいた。(各講演の内容は2ページ参照)

二日目は、午前は「高齢者施設・認知症施設における福祉と医療の連携について」「障がい者施設における福祉と医療の連携について」「在宅(高齢者・認知症・障がい者)における福祉と医療の連携について」の分科会が開催された。午後は「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」をテーマとしたシンポジウムを行った。(分科会、シンポジウムの内容については2・3ページ参照)

約1,500名が参加した本大会の熱気は冷めることなく、活発な発表や議論が行われ、大盛況のうちに幕を閉じた。



● 役員動き ● (12月1日～1月31日)

- | | | | |
|-----------|--|--------|--|
| 12月 1日 | 厚生労働省内事業仕分け事前会議(内田副会長) | 12月22日 | 第4回障害種別に対応した介護のあり方に関する調査研究事業委員会(三浦副会長) |
| 12月 3日 | 日本精神科病院協会「精神科チーム医療について」の意見交換会(内田副会長) | 12月24日 | 第2回介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用との連関に関する調査研究事業委員会(石橋会長) |
| 12月 6日 | 厚生労働省内事業仕分け(内田・三浦副会長) | 12月24日 | (厚生労働省)第70回社会保障審議会介護給付費分科会(田中名誉会長) |
| 12月 6日 | 第7回制度・政策検討委員会(内田・三浦副会長) | 1月10日 | 生涯研修制度検討委員会第3回作業委員会(内田副会長) |
| 12月 7日 | (内閣府)実践キャリア・アップ制度専門タスクフォース介護人材ワーキング・グループ 第1回会合(田中名誉会長) | 1月17日 | 生涯研修制度検討委員会第4回作業委員会(内田副会長) |
| 12月10～11日 | 第17回全国大会(石橋会長、内田・木村・三浦副会長) | 1月20日 | (厚生労働省)第9回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会(石橋会長) |
| 12月12日 | 九州ブロックリーダー研修会にて基調講演の講師(石橋会長) | 1月20日 | 第6回常任理事会(石橋会長、内田・木村・三浦副会長) |
| 12月13日 | (厚生労働省)第6回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会(内田副会長) | 1月22日 | 「障害者に対する介護」モデル研修会(三浦副会長) |
| 12月20日 | (内閣府)実践キャリア・アップ制度専門タスクフォース介護人材ワーキング・グループ 第2回会合(田中名誉会長) | 1月31日 | 生涯研修制度検討委員会第5回作業委員会(内田副会長) |
| 12月22日 | (厚生労働省)第8回今後の介護人材養成の在り方に関する検討会(石橋会長) | 1月31日 | 介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用及び資質向上との連関に関する調査研究事業第2回小委員会(石橋会長、内田副会長) |

第17回全国大会 (宮崎県)

基調講演

介護人材確保対策の動向について



厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課
福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
本名 靖 氏

まず、福祉サービスを取り巻く環境、福祉・介護人材の状況などについて説明があった。

次に、介護福祉士制度の見直し、福祉・介護人材確保対策、今後の介護人材養成の在り方、医療連携などについて話された。

最後に行政としても、資格者の専門性の向上や、資格の評価、環境整備支援をやっていきたいと述べた。

記念講演

「がんばらない」けど「あきらめない」 ～鎌田實の幸せ介護～



諏訪中央病院 名誉院長
鎌田 實 氏

重度の心臓病を患う母を支える家庭から医師を目指し、東京医科歯科大学医学部を卒業後、35年間医師として地域医療に携わる一方、チェルノブイリとイラクの救援活動に取り組み、また著書も多く発刊されている医師・作家の鎌田實氏が、自身の進路選択の悩みや自身の父の介護などを通して学んだ、介護をされる人、する人にとって幸せな介護のあり方について語った。

特別講演

支える側が支えられるとき ～認知症の母が教えてくれたこと～



詩人・児童文学作家
藤川 幸之助 氏

長崎大学教育学部大学院修士課程修了後、認知症の母に寄り添いながら、命や認知症を題材に作品を作り続け、また全国各地で、認知症への理解を深めるための講演活動を行う、詩人・児童文学作家、藤川幸之助氏が、認知症患者である母に寄り添って生きることの中で感じたことを、詩人として発表されてきた作品の朗読を交えて語った。

シンポジウム

福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか



シンポジウムは社団法人日本介護福祉士会副会長・内田千恵子のコーディネートにより、「福祉と医療の連携 私たちに何ができて、何ができないのか」と題して行われた。黒木茂夫氏（特別養護老人ホーム皇寿園施設長）、吉村照代氏（公益社団法人認知症の人と家族の会宮崎支部代表）、甲斐節子氏（特別養護老人ホーム敬寿園看護課長）、前田薫（一般社団法人宮崎県介護福祉士会会長）、石橋真二（社団法人日本介護福祉士会会長）の5名のシンポジストによる発表の後、内田副会長より「介護福祉士の医行為の実施に対する安全性の確保を実現していくための条件とは何なのか」、「介護福祉士が医行為を行っていく際の、介護福祉士としての視点とは何か」というテーマが提起され、活発な議論が行われた。

石橋会長は、介護職員が行う基礎的な医療行為の検討の背景と経過について説明を行い、介護福祉士の役割と今後の対応について、介護福祉士の専門性は、専門的知識および技術をもって利用者の生活を支援することであるとし、生活支援という観点から医療行為を考え、生活支援の幅を広げていくことが重要だと述べ、本会としてはモデル研修を通じて、研修体制や安全性の確保などをしっかりと提言していくと述べた。



「福祉と医療の連携 私たちは何ができて、何ができないのか」
～介護福祉士の現状を、どげんかせんといかん!!～

懇親会が行われ、楽しいひとときを過ごしました

全国大会の初日終了後、500名近くの参加を得て、懇親会が行われました。

懇親会では、高千穂町の方による「高千穂神楽」と宮崎えれこっちゃん隊による「日本全国福の神」の舞踊が披露されました。



舞踊：高千穂神楽



舞踊：日本全国福の神

また、全国の介護福祉士会より持参されたお土産を抽選で参加した介護福祉士に手渡されました。



抽選会

懇親会場は、楽しく穏やかな雰囲気の中活発な交流が行われ、日頃の疲れを癒す場となりました。



分科会報告

分科会は3つのテーマにより行われ、それぞれ以下のように報告が行われた。

●第1分科会「高齢者施設・認知症施設における福祉と医療の連携について」

第1分科会では座長に北見中央病院地域支援事業施設長の小泉昭江氏を迎え、12事例の発表が行われた。

今後福祉と医療との連携はますます重要となり、介護職のスキルアップが不可欠であり、介護福祉士のやるべきことが再確認できた分科会となったと述べた。

●第2分科会「障がい者施設における福祉と医療の連携について」

第2分科会では座長に身体障害者療護施設修光園係長の三浦晃史氏を迎え、6事例の発表が行われた。

介護職が人に深くかかわる職業であることの倫理を感じ、ケアの向上のためには利用者、家族、職場、他職種との信頼関係を構築し、他職種については特に医療との連携そして尊厳を守ることの大切さなどを確認した分科会であったと述べた。

●第3分科会「在宅（高齢者・認知症・障がい者）における福祉と医療の連携について」

第3分科会では座長にいしかわ内科医院院長の石川智信氏を迎え、7事例の発表が行われた。

福祉と医療の連携に関しては、各関係者が顔をそろえて対面するカンファレンスが望ましく、在宅介護の知識とノウハウを持ったスタッフによる客観的な事実の共有を行い、介護と医療の現場が一緒になって現状に対応していくべきであると述べた。

重要!!

第9回「今後の介護人材の養成の在り方に関する検討会」が行われ、報告書が取りまとめられた

全国都市会館で、1月20日 (木) に第9回「今後の介護人材の養成の在り方に関する検討会」が開催された。今回の検討会が最終であり、「今後の介護人材養成の在り方について」の報告書のとりまとめが行われた。

■報告書の概要 (ポイント)

1 介護人材の養成体系を整理

- ①今後のキャリアパスは、「初任者研修修了者→介護福祉士→認定介護福祉士 (仮称)」を基本とする。
- ②現在のホームヘルパー2級を「初任者研修 (仮称)」と位置付け。
介護職員基礎研修は、実務者研修 (後述) の施行に合わせて、実務者研修に一本化。
- ③実務者研修は、以下のように見直し。(注) 19年法改正により、国家試験を受験する実務経験者に義務付けられた研修
 - ア 研修時間は450時間
 - イ 働きながらでも研修を受講しやすい環境を整備
 - ウ 施行3年間延期 (24→27年度)
- ④介護福祉士養成施設卒業者に対する国家試験の義務付けの施行を3年間延期 (24→27年度)
- ⑤介護福祉士資格取得者がステップアップできるよう、認定介護福祉士 (仮称) の仕組みづくりを職能団体が主役となって進める。

2 介護職員に占める介護福祉士の割合の目安を提示 (当面5割以上)

詳細はWAMNETの行政資料に掲載されている (<http://www.wam.go.jp/ca70/ca70b10.html>)

第9回検討会における石橋会長の主な発言は以下のとおり。

- 「私たち日本介護福祉士会としては、これまでの主張と変わりなく、今、求められている多様で高度な介護ニーズに対応できる介護福祉士を養成するために、質の担保が重要であると考えております。このことは介護福祉士の資格を、ほかの専門職と同等の資格となるように評価を高めるためということでもあり、また、そのことを通じて介護福祉士、介護職員の待遇の改善を図り、介護現場での定着を目指す、という良循環になるのを期待しているわけです。
- 介護を担う人材は、介護福祉士であれ、介護福祉士以外であれ、よりよい介護サービスを提供していくために、自己研鑽、教育などにより常に自分の専門的知識、技術、職業倫理を高めていく努力を怠らないことが求められます。
特に、職業教育においては、初期の段階で、職業上の知識と技能を向上させる意識を根付かせることが極めて重要であり、介護サービスの担い手として継続して、仕事に就き、生きがいを持って仕事をしていくためにも、将来の展望を一定の範囲で獲得するというキャリア教育が重要になります。
- したがって、ここで示されている初任者研修、実務研修においては、介護の現場で働くものに求められるそのような基本的な考え方や、介護福祉士を取得したら職能団体に入会するのは当然であるし、生涯学習の必要性ということなどを理解できるようなプログラムを組み込んだ研修内容を含めていただき、体系的な学びができるようなカリキュラムにしていきたい。
- 資格を取ってからのキャリアパスに応じた研修については、私たち職能団体がファーストステップ研修など積極的に取り組んでいるところですが、その経験を活かしながら、ここで示されている認定介護福祉士についても、できるだけ早く、教育関係者、関係団体の皆様にご協力を得て、今後も本会が中心となって取り組んでいく所存ですので、関係団体の皆様のご協力をお願いしたいと思います。
- なお、認定介護福祉士等を実効性のあるものにしていくためには、施設・事業所などにおいて人員配置基準のなかで明確化する、また、介護報酬上の評価の対象にすることなど資格に対する評価を明確化していくことが必要ことから、国のほうでもそのためのバックアップをお願いしたい。」と述べた。(第9回検討会の石橋会長発言より抜粋)

※報告書の全文及びこれまでの石橋会長の発言要旨は日本介護福祉士会ホームページ (<http://www.jaccw.or.jp>) をご覧ください。

日本介護福祉士会が受託した「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための試行事業」の概要について

1. 厚生労働省が実施する委託事業としての目的

これまで、当面のやむを得ない必要な措置（実質的違法性阻却）として、在宅・特別養護老人ホーム・特別支援学校において、介護職員等がたんの吸引・経管栄養のうち一定の行為を実施することが運用によって認められてきた。

しかしながら、在宅や、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、有料老人ホーム等において医療的なケアに対するニーズが高まっている状況に対応するため、看護職員と介護職員等が連携・協働して、利用者にとって安心・安全なケアを提供するための方策についての検討が必要となってきた。

このため、厚生労働省では、平成22年7月から「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」（座長：大島伸一独立行政法人国立長寿医療研究センター総長）を開催し、介護職員等が、医師・看護職員との連携・協力の下に、たんの吸引や経管栄養を行うことについて、法制度の在り方、適切な実施のために必要な研修の在り方、試行的に行う場合の事業の在り方について検討を行っているところである。今回、その議論を踏まえ、一定の研修の修了や、医師・看護職員と介護職員等との連携・協働等の条件の下で試行事業を実施し、研修の効果や医療安全の確保等についての検証を行うことになったものである。

2. 事業内容

指導者講習、基本研修、実地研修、ケアの試行の4段階となっており、詳細は下図のとおりである。

3. 日本介護福祉士会の事業

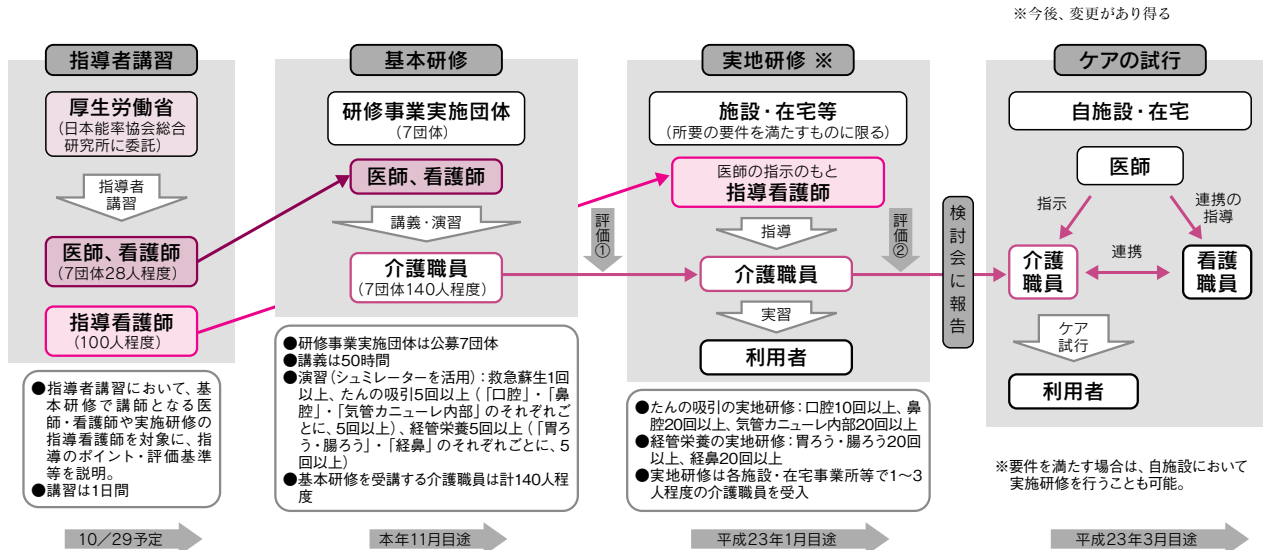
当会は、厚生労働省の企画競争（公募）に参加（応募）し、提出した企画書等が選定された。（当会を含む7団体が受託）

4. 実施状況

北海道介護福祉士会の小泉会長を委員長として15人から成る実施企画委員会を設置し、10月中旬より事業を実施中である。

- 平成22年10月29日に実施された指導者講習会には、講師候補者4人、指導看護師候補者6人、計10人が参加した。
- 基本研修には、19人の受講者（介護職員）が参加し、土・日曜日を中心に延べ11日間にわたって規定の講義・演習が実施された。その後、平成23年1月5日に日本能率協会が行った評価①（筆記試験）を全員が通過し、実地研修に進んだ。
- 実地研修は、医療施設2ヶ所と特別養護老人ホーム1ヶ所の3施設において、1月中旬から開始されたところであるが、試行の対象となる者（利用者、患者）の人数が、諸事情（退院、退所、死亡等）により事業開始時見込数から大幅に減ったため、その確保に苦慮しているところである。

介護職員によるたんの吸引等の試行事業（不特定多数の者対象）の概要



報告

「障害者に対する介護」モデル研修会を 1月22日、23日にわたって実施

日本介護福祉士会では、本年度、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて、「障害種別に対応した介護のあり方」に関する調査研究を行っている。本調査において、障害者に対する介護の現状と問題点等を把握するための調査を行い、その結果をもとに障害者介護に関するモデル研修会として実施した。日本介護福祉士会が実施する生涯研修の中で障害者介護に特化した研修体系が確立していない現状があり、このモデル研修を通じてその確立を目指している。

モデル研修会は、2日間にわたり実施され、参加者は50名だった。初日の午前には、「障害者における介護技術総論」として三浦晃史副会長、「障害者における自立支援」として田中雅子名誉会長が講義を行った。午後には、「行動障害の基本的理解とコミュニケーションの方法」として樋口俊文氏（上田福祉敬愛学院介護福祉学科長）、「障害特性に応じた介護技術（身体障害分野）」として仁田ミチ子氏（全国身体障害者施設協議会副会長）、「障害者支援体制～障害者虐待防止対策～」として高原伸幸氏（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害福祉専門官）が講義を行い、最後に「現場における虐待問題」として谷村敏幸氏（京都市太安泰知的障害者デイサービスセンター施設長）がグループワークを行った。グループワークでは、参加者を8つのグループに分けて、障害者虐待に

についての施設・事業所での現状や取り組みについて活発なディスカッションが行われた。

二日目は、午前には、「介護過程の展開と個別支援計画」として坂本洋一氏（和洋女子大学生活科学系社会福祉学研究室教授）が講義を行い、「個別支援計画作成演習」としての講義を坂本氏が引き続き行った。午後には、「個別支援計画作成」のグループワークを行った。グループワークでは、事前に配布した事例をもとに、そのアセスメントを行い、個別支援計画をグループで作成し発表された。

最後に、調査研究事業の委員長でもある坂本氏より研修の総括が行われ幕を閉じた。

本モデル研修会は2月にも京都において二日間行われる予定。



ふれあいケア

2011年
3月号
2月21日発行

●定価1,020円 (本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円 (10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 脱・水虫

日本人の5人に1人が水虫にかかっているといわれており、60歳以上になるとさらに4人に1人以上が水虫にかかっているほど、高齢者の水虫は割合が高くなっています。特に高齢者の多くいる施設では、水虫だけではなくさまざまな病気を抱えていることから、治療に専念できず、命にかかわる病気ではないことや、水虫は一度感染してしまうと完治させるには根気を要することから、治療を途中でやめてしまう場合も多いようです。当然、水虫にかかっている利用者が多い施設では、介助する介護職員にも感染する可能性があります。そこで、本特集では、介護職員が知っておきたい水虫の予防や、医療職との連携について考えます。

Part1 水虫とは Part2 実践事例 Part3 アンケート

好評
連載企画

- 介護とわたし ●実践から学ぶ! 介護技術 ●実践から学ぶ! 認知症ケア ●かけがえのないひとこと
- 地域で支える実践レポート ●ふれあい訪問介護センター物語 ●介護現場のリスクマネジメント
- 介護職員マキコさんのスローライフ日記 ●からだがよるこぶ養生ごはん ●ふるさと写真館 ●ふれあい訪問

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい (品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■

受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉 全国社会福祉協議会 出版部
法人 〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

第9回日本介護学会開催県

平成23年7月9日（土）

沖縄県



ハイサイ（こんにちは）

この度、平成23年7月9日（土）沖縄コンベンションセンターにて「第9回日本介護学会」が開催されることになりました。

沖縄県は日本最西端に位置し、旧名は「琉球」と呼ばれていました。「琉球諸島」は、世界の他の亜熱帯地域と比較して雨が多いため、豊かな森林が分布しています。また、沖縄の象徴として、エメラルドグリーンに輝く澄みきった海。サンゴのなかを泳ぐ色鮮やかな熱帯魚の姿をみると誰もが心奪われるはずです。この沖縄の大自然には世界的にも珍しい固有の生物が数多く生息しています。ほとんど飛べない鳥「ヤンバルクイナ」や日本最大の甲虫「ヤンバルテナガコガネ」、西表島にだけ生息している「イリオモテヤマネコ」などの天然記念物が有名です。



沖縄は集落ごとに独自の個性があるといわれるほど、文化・慣習が多く存在します。

「食」の面では、豆腐と野菜を中心にいろいろな食材を混ぜ合わせて炒める「チャンプルー」、豚肉料理「ラフテー」、「ていびち」「沖縄そば」など全国的に有名な沖縄料理も多くあります。さらに地酒の「泡盛」や「サーターアンダギー」などのお菓子も多彩です。

その他にも450年の繁栄を築いた「琉球王朝時代の代表建築の首里城」や世界最大のエイのマンタ、世界最大の魚ジンベイザメで有名な「ちゅら海水族館」等、観光名所も多々あります。

是非この機会に沖縄県へ来てみませんか。めんそーりよー。

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回／春・夏・秋・冬号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp>
郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

冬号（22年12月発行）

特集「やりがい・働きがいのある
職場づくりと人材育成」

春号（23年3月発行）

特集「地域包括ケア—地域で支える—」

連載
5

介護の現場で輝いています！

あんたがいないとさみしいわ！！

社会福祉法人 札幌恵友会 札幌市屯田西デイサービスセンター 久保 隆雄

17年前労務兼送迎運転手としてデイサービスに勤務するようになりました。43歳でした。

何も資格が無い私は入浴後の整髪や飲み物のサービスをしながら毎日たくさんおしゃべりをしておりました。そんな時、連休明けの私にアルツハイマー型の認知症のあったおばあちゃんから「あんたがいないとさみしいわ」と言われました。全て忘れた訳でない事を学びました。3年経験したら絶対に介護福祉士になりたいと決心をした時でもありました。46歳で挑戦した国家試験に合格、一つの夢を実現しました。しかし、当時は措置制度の時代、役所任せで来て貰っているといった仕事振りだったような気がします。福祉制度の大きな転換時期で議論が交わされてもいました。福祉分野だけを見て考えるのではなく、経済や経営分野からの仕組み、課題を知りたく50歳の時に夜間の大学に入学し、卒業しました。それでも変わらず続けていたのが利用者さんとの会話でした。この事はとても大切にしました。小さな問題の解決や家族からの相談に対しても出来るだけ解決に向けての対応を心掛けました。やがて保険制度への移行は介護現場は元より高齢者も家族にも混乱をもたらしましたが、そういった時こそ分りやすく、繰り返しの説明に努めました。こうした会話から高齢者さんの特徴、家族関係なども知る事が出来ました。その後、私は相談員となり信頼関係を構築する上でこの会話がとても役立ちました。現在も送迎業務、たまには入浴介助もやっておりますが何か

か、その仕事の中から問題が提議されたり、見えたりするのです。そうして必ず大袈裟にならない解決を私たちに求めている人がいるのです。60歳を迎え施設長になり新たなスタートをしましたが、今も変わらず会話をしています。介護保険制度も益々複雑になり利用する方々もまた色々です。こちらから声掛けをする、待つのではなく。また最近「あんたがいないとさみしいわ」と言っていました。どんな立場になっても今までと変わらない事を心に誓いました。社長、校長先生、駅長、店長と何にでもなれます。この仕事が出来て、たくさん出会いがあり嬉しい。



介護の魅力を多くの方に伝えたい

社会福祉法人幸真会 特別養護老人ホームたんぽぽ 荒井 悠

私は、群馬県松嶺福祉短期大学を卒業し、現在、特別養護老人ホームで勤務しています。一日一日違って勉強の毎日です。失敗して落ち込むこともあります。利用者様とお話をして笑い合っていると、私の方が救われているなあと、毎日感謝の日々です。私は利用者様にとって【安心できる存在】になりたいと思っています。そのためには、利用者様のちょっとした変化に“気づき”が出来るよう毎日心掛けています。利用者様の表情・声のトーン・姿勢・口数・顔色・食事量など…様々な視点から、その方を見るようにしています。そして、利用者様から「助かったよ」「あんたがいてくれて良かったよ」「ありがとう」と、声を聞くことができた時は、介護はなんて楽しくて、やり甲斐のある仕事なんだろう！と実感します。もう一つは、一日の仕事を終えて、その日のことを振り返るようにしています。今日は時間に追われ、バタバタしてしまい、利用者様と接する時間が少なかったなあ、と反省する日もあります。“反省”だけで終わりにせず、明日はこうしてみよう！と目標を立てることが大事であり、充実感や楽しさに繋がるのだと思います。利用者様は人生の先輩ですから、沢山のことを教わるすることができます。そんな先輩方に携われるということは、とても光栄であり、誇りをもてます。しかし世間の介護のイメージは、暗い・大変、などというイメージを持っている人がほとんどだと思います。友人に介護の仕事をしていると話すと、「大変だね、私には無理だな。」と言う人が多いです。私は今の介護のイメージを変えたいです。介護はとても楽しくて、魅力的でやり甲斐があり、色々な方と接していくことで自分も人として成長できる素晴らしい仕事だということをたくさんの人に伝えたいです。私は現場で勤めて二年目でまだまだです。介護の魅力を伝えられるよう、たくさん失敗し、たくさん反省し、たくさん考えて、もっともっと成長していきたいです。



ソウェルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル

Sowel
CLUB

TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

福祉が働く人の福利厚生を支援しています。

第18回全国大会開催県

知れば知るほど青森県 (パート I)

皆さん、今年の全国大会は、11月10日、11日に青森県で行われますが、まだまだ青森のことを知らない方が大半だと思います。そこで、この会報を通じて全国大会までの5回にわたり青森県の魅力を余すところなく紹介してまいります。

第1回は、青森県の方言。特に津軽弁についてです。

青森県は大きく「津軽、南部、下北」の3つに分かれ、気候・風土・文化が異なります。当然言葉(方言)も異なり、津軽弁と南部弁はまったく違った意味やイントネーションがあります。多分、同一県でこんなに言葉が違うところはないんじゃないかと思います。

津軽弁だけでも例えば青森市と弘前市ではまた違うし、地域によっても微妙に違います。人気俳優の松山ケンイチさんは下北のむつ市出身です。なんとなくしゃべりにクセを感じる方もいるかと思いますが、あれが“下北弁”です。タレントの田中義剛さんは八戸市出身。あの喋りが“南部弁”です。マルチな才能を發揮した、故寺山修司さんは、生まれが青森市で、育ったのが南部圏域の三沢市でしたので、津軽弁と南部弁が混ざった言葉でした。その中で、マスコミに取り上げられる頻度で言うと、津軽弁が圧倒的に多いのです。

昨年反響を呼んだ「トヨタパッソ」のCMをご覧になったことは有りませんか？お笑いの森三中の大島さんとタレントの仲里依紗さんの車内での2人の会話です。

仲「わのかでパン、しけるめに鍋さフォンデュせば、うだでぐめよ！」

大島「せばだば、やってみら」

これまで映画やドラマで役者が津軽弁を話すシーンは数多くありましたが、殆ど単語にイントネーションを取ってつけた程度で、津軽人から聞けば偽物の津軽弁でしたが、この二人の喋りは“合格点”です。

以前から津軽弁は、ドイツ語や中国語に似ていると言われたことがありましたが、このCMはフランス語に似ているというのです。

二人の会話を共通語に訳すと

仲「私の固いパンを湿気る前に、鍋でフォンデュにすれば、とっても美味しいよ」

大島「だったら、やってみるわ」となります。

東北の方言は、長い文章を短く表現することが多いのですが、津軽弁で代表的なのが、「どさ？」「ゆさ」という会話です。これは、「どちらへ(行くのですか)？」「お風呂に(行きます)」という省略した会話です。

次に、津軽弁と共通語で文字に直すと同じですが、意味が全く違う言葉をいくつか紹介します。

- ・とろける～読んで字のごとく「蕩ける」ですが、津軽弁では片づけるの意味もあります。
- ・け～毛や家ですが、津軽弁では、召し上がれ、痒い、(物を)下さい、お粥等、一文字で多くの意味があります。
- ・わいはぁ～芸能人らがハワイのことを揶揄する言葉ですが、津軽では、「あらまぁ」という感嘆詞として主に女

性が口にします。

- ・かっぱ～河童、合羽ですが、津軽弁ではひっくり返す、裏返しの意味。
- ・じゃんぼ～外来語で、大きいや(ジャンボ)ジェット機ですが、津軽弁では散髪、床屋を差します。
では、これぞ津軽弁という、解読困難な言葉をいくつか紹介します。
- ・あずましい～心地よい、落ち着く
- ・あどはだり～アンコール、おかわり
- ・もちよこちえ(もちよくちえ)～くすぐったい
- ・あめる～物が腐る、腐敗する
- ・もつけ～お人よし、おつちよこちよい
- ・やっぱはまる～おせっかいをやく
- ・かちゃくちゃね～混乱する、イライラする
- ・からぼねやみ～不精者、怠け者
- ・ごんぼほり～駄々をこねる、無理難題を言う
- ・しみし～オムツ
- ・あこもこ～あることないこと、人の悪口
- ・よつもどね～頼りにならない

最後に津軽弁の比較級(レベル)言葉を紹介します。

普通：タオタオ～少し風が吹き、物が揺れている状態(微風)

上級：ダオダオ～もう少し強くなった状態(弱風)

最上級：ダオラダオラ～強い風で物が曲がるほどの状態(強風)

これらは、ほんの一部に過ぎませんが、津軽の人だったら誰でも理解し、使っているという言葉ではありません。若い人が方言を使わなくなっているし、その地域によっても多少言い方や意味合いも違います。

方言を楽しんでいただけたでしょうか。後は、実際に現地にきて、その難解な言葉に戸惑って？みてはいかがでしょうか。

宣伝を一つ。3月、4月に相次いで、青森県100%の映画が全国上映されます。

一つは、『わさお』です。ブログで大評判になった、“ブサかわいい”秋田犬の「わさお」が映画になりました。しかも日本初の“素人”でモデルの動物がそのまま出演するというのです。私も何回も逢いに行っていますが、わさお見たさに全国からファンが殺到しています。飼い主を薬師丸ひろろさんが演じます(私は個人的には泉ピン子さんが演じた方がリアリティーがあると思いますが…)。青森の美しい自然や人との心のふれあいが散りばめられている映画です。

もう一本は、森沢明夫さん原作でベストセラー小説になった、『津軽百年食堂』です。

弘前市で殆どロケされました。主演には、人気漫才コンビの「オリエンタルラジオ」の藤森慎吾さんと中田敦彦さんが演じます。こちらも津軽の四季や街並みが美しく撮られています。是非この2つの映画をご覧ください。もっと、青森が身近に感じられると思います。

支部
リレー

都道府県介護福祉士会 情報交流の泉② ◆秋田県

秋田の豪雪

今年は全国的に大雪で、生活、仕事に支障をきたしている方もおられると思います。私も毎日、朝、夕の雪よせで泣きたくなくなるくらいです。

私が小学校1年生のころ(昭和49年)の豪雪は、今でもくつきりと情景が浮かびます。玄関を出るとそこには雪の壁があり、雪の階段を2mほど上がり敷地内を歩き、道路に出る時はまた同じように雪の階段を下り学校に行っていました。玄関が埋まってしまい、2階の窓が玄関になる家もありました。これが「秋田の冬」だと思っていましたが、記録的な豪雪だったとは後で知りました。

この年の2月14日の最深積雪は内陸部の横手市で259cm、沿岸部の秋田市で117cmと記録的でした。住宅の倒壊や浸水害のほか、果樹を中心とした農業、林業、土木、公共施設などにあわせて166億円という甚大な被害をもたらしました。

「雪国秋田」では各市町村でいろいろな雪よせ対策を実施しています。



◎大仙市(全国花火競技大会で有名)では…

～大仙市社会福祉協議会がバックアップ～

・除雪ボランティア「雪まる隊」

誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを目標として自力では雪よせが困難な高齢者世帯などの除雪を行っています。

今年で5シーズン目を迎え、オレンジ色のウインドブレーカーを着て雪まる隊のイメージとして定着しています。今年度は1,383名が登録しており、今後は会員が主体となり自主的な活動・運営を目標していきます。

◎仙北郡美郷町(名水百選で有名)では…

～シルバー人材センター会員が除雪作業～

会員が有料で玄関前や玄関から道路までの除雪作業を行います。利用される方は役場福祉保健課、センターへ申し込みます。対象者は①65歳以上の単身世帯、高齢者のみの世帯②心身障がいや疾病等により生活援助が必要な方③町民税非課税世帯で①～③すべて満たす方。利用料金は、1時間100円(年間40時間まで利用可)

※高齢者世帯数・世帯割合(H22.7月現在)

・65歳以上の高齢者だけの世帯割合

県計…22.8%、大仙市…22.6%、美郷町…14.5%

・高齢者のひとり暮らしの世帯数、割合

県計…48,352世帯(12.1%)

大仙市…3,408世帯(11.8%)

美郷町…453世帯(7.1%)

秋田のわらしっこ(こども)

毎年行われる「全国学力・学習状況調査」では、秋田県は常に上位にいます。なぜ、毎年そうなのか、不思議に感じている方もおられると思います。

H19年度の結果を基に作られた「秋田わか杉っ子、学びの十か条」というものがあります。これは、秋田の子供たちの生活習慣、学習意欲、学校の熱意などそれらを支えている家庭や地域のよさを表現しているものです。

◎第一条 「**早ね早おき朝ごはんに家庭学習**」

規則正しい生活がスタートライン

7時前起床・22時前就寝、家庭で学校の復習をする
⇒全国平均を上回っています。

◎第二条 「**学校の話題ではずむ一家団らん**」

笑いが脳を活性化

家族と一緒に夕食を食べている
⇒92.9%(全国89.6%)

◎第三条 「**読書で拓く心と世界**」

めくるページ、広がる想像力

読書好き⇒80.1%(全国73%)

◎第四条 「**話して書いて伝え合う国語**」

国語力は学びの基本

自分の考えを話したり、書いたりする
⇒73.8%(全国60.1%)

◎第五条 「**難問・難題にも挑戦する算数・数学**」

あきらめずやりきること能力アップ

あきらめずいろいろな方法を考える
⇒84.4%(全国77.3%)

◎第六条 「**新発見の連続、広がる総合**」

総合の時間の脳のビタミン

何にでも興味を持つ子供たちが多いです。

◎第七条 「**きまり、ルールは守ってあたりまえ**」

落ち着いた教室で高まる集中力

学校のきまりを守る⇒93.9%(全国89.2%)

◎第八条 「**いつも気をつけている言葉づかい**」

相手意識でみがく活用力

近所の人に会った時あいさつをしている
⇒93.6%(全国89.9%)

◎第九条 「**説明は道筋立てて伝えるように**」

整理する工夫が脳をトレーニング

発表の際、うまく伝えるように組み立て工夫している子供たちが多いようです。

◎第十条 「**学んだことは生活で学校ですぐ活用**」

活用できて本当の生きる力

普段の生活の中で学習したことを活用できないか考える。また、社会に出たとき役に立つと思っている子供たちが多いようです。

…三世同居率が高く、お年寄りの知恵袋があることも結果につながっているのではないのでしょうか。

次回は、和歌山県にバトンタッチします。

社団法人日本介護福祉士会 (仮称) 認定 専門介護福祉士 (認知症) 養成研修 開催要綱

1. 日 時：第1回 平成23年3月26日 (土) 10:00～
3月27日 (日) 17:30
2. 会 場：第1回 松下IMPビル5階 会議室H
4. 研修時間
合計300時間を3年以内に修了するものとする。
①講義及び演習 140時間 ②自職場実習 160時間
5. 受講要件
以下の3項目全てを満たしている者、又はそれと同等以上の能力を有すると都道府県支部長が認めた者とする。
①介護福祉士資格取得後5年以上の実務経験を有する者。(実務経験は介護の業務とし、介護支援専門員、相談員等の業務は含まない。)
②介護施設、認知症グループホーム、訪問介護事業所等で日常的に認知症ケアを実践している者。
③生涯研修制度に位置付けている「ファーストステップ研修」を修了している者又は生涯研修制度100ポイント以上取得者。
6. 受講定員 40名
7. 参加費用 日本介護福祉士会会員 50,000円
その他 100,000円
8. 問い合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局
(担当：神田) TEL.03-3507-0784
Mail webmaster@jaccw.or.jp

第9回日本介護学会論文募集について

平成23年7月9日 (土) に沖縄県において開催される第9回日本介護学会で発表される論文を募集しております。

論文発表をご希望の方は、論文募集要綱・投稿規定をご覧のうえ、所定の申込書にて抄録、論文の本文を添付し、期間内にホームページ上の投稿専用ページ (<http://www.jaccw.or.jp/gakkaironbun.html>) から、またはCDに収録して郵送にてご投稿いただきますようお願い申し上げます。皆様のご応募をお待ちしております。

論文の受付期間 平成23年1月10日 (月)～3月11日 (金)

※申込書などの様式、投稿規定は日本介護福祉士会ホームページ (<http://www.jaccw.or.jp>) からダウンロードできます。インターネット経由で入手が困難な場合は、事務局までお問合せ下さい。

都道府県介護福祉士会研修情報

茨城県介護福祉士会

- 第18回 社団法人日本介護福祉士会 関東・甲信越ブロック大会
- 日時 平成23年6月24日 (金)～25日 (土)
 - 場所 水戸プラザホテル
 - テーマ 「ありがとうを伝えたい!! 笑顔でつなぐ手と心」
 - 内容 1日目 特別講演「新しい自立支援スタイルの提案～介護福祉分野におけるロボットスーツHALの可能性～
筑波大学大学院システム情報工学研究科 サイバニクス研究室 山海 嘉之氏
2日目 記念講演「介護の『評価』を確立しよう」
茨城県立健康プラザ管理者 大田 仁史氏
 - 問い合わせ先 茨城県介護福祉士会 TEL.029-354-4170

静岡県介護福祉士会

- 平成22年度 静岡県介護福祉士会全体研修
- 日時 平成23年3月13日 (日) 10:00～15:00
 - 場所 浜松市福祉交流センター 2階大会議室
 - テーマ 「ターミナルケア」について
 - 講師 小野 宏志氏 (坂の上ファミリークリニック院長)
 - 参加費 1,000円
 - 定員 100名 定員になり次第締切ます
 - 問い合わせ先 静岡県介護福祉士会 TEL.054-253-0818

愛媛県介護福祉士会

- 平成22年度 愛媛県福祉・介護サービスチャレンジ教室
～ 高次脳機能障害者の就労支援～
- 日時 平成23年3月3日 (木)、4日 (金)
 - 場所 愛媛県総合社会福祉会館3階「研修室」
 - 内容 1日目 高次脳機能障害と職業リハビリテーション
障害者の就労支援
高次脳機能障害者への就労支援の実際
2日目 生活を支えた笑顔～高次脳機能障害を抱えた息子との暮らし～
高次脳機能障害者の職業訓練の実際
高次脳機能障害者の支援ツール
高次脳機能障害者の職業リハビリテーション
 - 定員 50名 (ただし、定員になり次第締切)
 - 申込締切 2月21日 (月) 必着 (定員になり次第締切ます。)
 - 参加費 無料
 - 問い合わせ先 愛媛県介護福祉士会 TEL.089-987-8123

会員の皆様へ

- 当会の活動は会員様からの会費によって運営されております。会員サービス取扱いの公平性を保つ観点から、機関誌などの郵送物発送、研修会参加時の会員価格適用、書籍購入時の割引適用などのサービスは会費の納入が確認できた会員様のみに提供させていただいております。
- 住所不明で当会からの発送物が届かないケースが増えております。婚姻等による姓の変更や、ご住所・ご連絡先、ご勤務先などの登録情報に変更があった際は、必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。
- やむをえずご退会をされる場合は、本会並びに都道府県介護福祉士会所定の様式により、退会申請をいただかない限り会員として登録されたままになります。なお退会される場合でも当該年度に在籍されている場合は会費をお支払いいただく必要がございますので、ご了承ください。
- 当会は4月1日～3月31日までの年度制をとっております。新規でご入会いただく方や、ご退会される方は、年度途中でも会費は全額納入となりますので、ご了承下さい。
- 入退会に関する事項や各種変更等で都道府県によって事務手続きが異なる場合がございます。ご不明点等ございましたら、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。
(電話03-3507-0784 E-mail:webmaster@jaccw.or.jp)
- 職場などお近くのお知り合いで会に未加入の方がいらっしゃる際は是非とも入会をおすすめいただきますようお願い申し上げます。



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.103
4月15日号
平成23年(2011年)

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

東北地方太平洋沖地震に関する当会の対応について

平成23年3月11日、日本国内観測史上最大となるM9.0を記録する東北地方太平洋沖地震が発生。津波や火災により多くの方が犠牲になり、東北地方から関東地方にかけて広範囲に甚大な被害をもたらす未曾有の災害となりました。また、福島第一原子力発電所の事故による放射能物質の漏えいなど多くの混乱を招いています。

今回の大震災からの一日も早い復旧にむけて、国内はもとより海外からも様々な支援が行われています。

○災害対策本部の設置とその対応

地震のためお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

当会は、災害対策本部を設置し、各都道府県支部等から情報収集を行いながらその対応に取り組んでいるところです。

宮城県介護福祉士会をはじめとする被災地支部会員の皆様には、すでにボランティア活動に協力いただいているところですが何分にも被害が甚大なためままならない状況にあります。

そのため、3月26日に石橋真二会長と岡田史災害対策副委員長が、現地視察と現地災害対策本部との打合せのため仙台に入りました。

震災後まもなくして、宮城県介護福祉士会において、石巻市など沿岸部において介護福祉士の活動が比較的少ない夜間の時間帯をメインに活動するなど、精力的にボランティア活動を行っておりますが、行政でも被災地の全てを把握しているわけではなく、人手は充足しているとは言えない状況です。



今後の当会の活動としては、介護福祉士の専門性を以て、避難所において介護等必要な方々への生活支援に取り組むことにし、被災地派遣のローテーションを組みながら実施することとしています。

○災害ボランティア活動について

現地の災害対策本部と情報交換をしながら派遣計画を樹立し対応することとしています。宮城県については、4月3日から1週間のローテーションで、4~5名での対応をスタートしました。

また、多職種がばらばらに支援に行くのではなくチームを組んで効果ある対応をすべきという考えから大川弥生氏(国立長寿医療研究センター生活機能賦活研究部長)のまとめるチーム「生活機能対応専門職チーム」のメンバーとしても2名参加し、3日から仙台市にスタートしました。

なお、220人の会員の方から登録を受け賜っていますが、交通事情の現状等を考慮し、1週間継続して現地での対応が可能な方からご協力をお願いしているところです。

岩手県でも支部の会員のみでは対応困難になってきたので日介からの派遣を開始するため、4月3日に石橋会長をはじめ担当者が相談等のため、県

の災害対策本部と調整を行いました。

また、いずれ福島県にも日介からの派遣を開始したいと考えています。

会員の皆様には引き続き、登録者の募集を行っていますのでご協力の程よろしくお祈いします。特に一週間以上の滞在が可能な方のご登録をお待ちしております。(別掲「ボランティア活動に登録された皆様へ」をご参照ください。)

ボランティア活動に登録された皆様へ

ご登録ありがとうございます。宮城県対策本部と宮城県介護福祉士会で調整した結果次のとおりボランティア派遣を開始することになりました。

1 宮城県災害対策本部に「日介」本部から派遣する日程 (土曜日は引継日)

- ① 4月 3日 (日) ~ 4月 9日 (土)
- ② 4月 9日 (土) ~ 4月 16日 (土)
- ③ 4月 16日 (土) ~ 4月 23日 (土)
- ④ 4月 23日 (土) ~ 4月 30日 (土)
- ⑤ 5月 7日 (土) ~ 5月 14日 (土)

○準備していただく持ち物

衣類、タオル、米、電子レンジで調理可能なもの、ケイタイ、充電器、カメラ、筆記用具、ノート、地図、雨具、割り箸、ラップ、ビニール袋、上履き、スリッパ、短パン、Tシャツ、ビーチサンダル、軍手、マスク

○集合場所等

派遣メンバーに決定されたら具体的に連絡します。(混乱を避けるため)

2 岩手県への派遣

○現地支部会員が対応していますが避難所の状況、県対策本部の受け入れ体制等についての現地打合せに4月2日~3日に会長他が行くことになっているので具体的な派遣計画を作成し、皆様にお知らせすることになります。

3 その他

○現在まで登録された方は、220名に上っています。1週間継続してご協力いただける方、2泊3日なら大丈夫な方などその方の条件を見ながら個別相談で具体的な派遣計画を立てているところです。何も本部から連絡なく心配されている方もおられるかと思いますが現状をご理解いただき、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

○義援金の募集

さらなる復興支援活動として、義援金を募集しています (受付は4月30日まで)。

一日でも早い被災地の復興のため、皆様方のご協力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

◆災害義援金受入口

みずほ銀行新橋支店普通口座 No.8441460
社) 日本介護福祉士会災害義援金受入口

◆お問い合わせ先

社団法人日本介護福祉士会事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
西麴虎ノ門ビル3階
TEL: 03-3507-0784
FAX: 03-3507-8810
E-mail: webmaster@jaccw.or.jp
URL: http://jaccw.or.jp



● 役員の動き ● (2月1日~3月31日)

- 2月5~6日 平成22年度第2回都道府県会長会 (石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 2月 7日 (全国社会福祉協議会) キャリアパス対応生涯研修課程開発・推進委員会 (石橋会長)
- 2月 7日 (厚生労働省) 第71回社会保障審議会介護給付費分科会 (田中名誉会長)
- 2月14日 生涯研修制度検討委員会第6回作業委員会 (内田副会長)
- 2月21日 (厚生労働省) 第7回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会 (内田副会長)
- 2月22日 第7回常任理事会 (石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 2月25日 第3回介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用と資質向上との連関に関する調査研究事業委員会 (石橋会長)
- 2月25日 全国大会実行委員会 (木村副会長)
- 2月26日 介護職のための研究発表に関する研修会 (内田副会長)

- 3月 4日 介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用と資質向上との連関に関する調査研究事業 ヒアリング調査 (大阪) (木村副会長)
- 3月 4日 生涯研修制度検討委員会第7回作業委員会 (内田副会長)
- 3月 4日 (全国社会福祉協議会) 第11回「福祉サービス第三者評価事業に関する評価基準等委員会」(内田副会長)
- 3月 4日 一般社団法人日本介護支援専門員協会理事会 (石橋会長)
- 3月 7日 介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用と資質向上との連関に関する調査研究事業 第3回小委員会 (内田副会長)
- 3月 8日 (全国老人保健施設協会) 第4回介護職の離職後の職場復帰に関する調査検討委員会 (内田副会長)
- 3月24日 第4回介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用と資質向上との連関に関する調査研究事業 (石橋会長)
- 3月24日 災害対策本部打合せ会議 (石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 3月25日 第7回障害種別に対応した介護のあり方に関する調査研究事業委員会 (三浦副会長)

第23回介護福祉士国家試験合格発表

第23回介護福祉士国家試験の合格者が厚生労働省及び（財）社会福祉振興・試験センターから発表されました。その概要は、次のとおりです。

1. 合格発表日 平成23年3月29日（火）
2. 受験者数 154,223人
3. 合格者数 74,432人
4. 合格率 48.3%
5. これまでの試験結果

区分	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回
受験者数(人)	145,946	142,765	130,830	153,811	154,223
合格者数(人)	73,606	73,302	67,993	77,251	74,432
合格率(%)	50.4	51.3	52.0	50.2	48.3

6. 合格者の内訳（性別）

区分	男	女	計	備考
人数(人)	15,045 (16,041)	59,387 (61,210)	74,432 (77,251)	()内は第22回の試験結果
割合(%)	20.2 (20.8)	79.8 (79.2)	100.0 (100.0)	

7. 介護福祉士登録者 899,413人（平成23年2月末現在）

! 合格された方をご存知でしたら、入会をおすすめください。

「たんの吸引」「経管栄養」技術研修用テキスト（冊子）

当会において、このたび「たんの吸引」「経管栄養」研修に活用できるテキスト（冊子）をまとめましたので、お知らせいたします。

本冊子は、厚生労働省「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」で討議されている、〈たんの吸引等が必要な方に対して、必要なケアをより安全に提供するため、介護職員等によるたんの吸引等の実施のための法制度の在り方等についての検討〉にともない、本会が実施予定の研修で活用するテキストとしてまとめたものです。

今回、作成したのは「たんの吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）」「経管栄養（胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養）」のテキスト2冊。具体的な実施手順について、カラー写真とイラストを用いてわかりやすく解説しています。

現場の介護福祉士、ヘルパーをはじめ、介護を学ぶ学生の皆さんにも広くご活用いただけるもの

となっていますので、知人・友人等関係者の皆様にご紹介いただけますようお願い申し上げます。

- 「たんの吸引」（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）
テキスト
B5判 オールカラー 28頁 頒布価格500円（税込）
- 「経管栄養」（胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養）
テキスト
B5判 オールカラー 24頁 頒布価格500円（税込）

【おもな構成】

- ・定義
- ・疾患と病態
- ・そろえるもの
- ・基本用語
- ・対象
- ・手順
- ・解剖生理
- ・リスク
- ・急変時の対応

ご購入を希望される場合、会員の方は各都道府県支部へ、一般の方は日本介護福祉士会までお問い合わせ下さい。



「介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用及び資質向上との連関に関する調査研究事業」について

日本介護福祉士会は昨年度、「平成22年度老人保健事業推進費等補助金事業」として「介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用及び資質向上との連関に関する調査研究事業」を実施いたしました。

この事業では、有識者等による委員会を設置し、介護福祉士ファーストステップ研修を中心とする介護職員のキャリアアップシステムについて検討するとともに、平成22年度に厚生労働省で実施された、「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」において提案された「認定介護福祉士（仮称）」制度と介護職員のキャリアアップシステムの連関等について検討いたしました。

こうした介護職員のキャリアアップシステムについて検討するための資料として、アンケート調査・ヒアリング調査を実施いたしました。また、今回実施したアンケート調査・ヒアリング調査の結果、及び以前に実施した調査結果を基に、「介護福祉士ファーストステップ研修の意義や、その効果について周知を図る」ための成果物を作成しました。この成果物は、介護事業者や行政、関連団体等に広く配布いたします。

現在介護職員を取り巻く研修は様々な関係団体の行う研修が乱立しています。本事業では介護職員の研修体系の構築と受講環境の整備を目的とするため、関係団体が一堂に会する「介護職員研修連絡協議会」を実施し、介護職員の研修体系の構築や研修内容の調整について検討を行いました。この「介護職員研修連絡協議会」は来年度以降も継続して実施することとなっています。

本事業の詳細な報告につきましては、今後日本介護福祉士会のホームページなどで「介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用及び資質向上との連関に関する調査研究事業報告書」を公表していく予定としています。

ソウェルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

■加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル

Sowel
CLUB

TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

福祉が働く人の福利厚生を支援しています。

本調査研究事業で実施した、「日本介護福祉士会及び他団体の主催するファーストステップ研修修了者が勤務する事業所の管理者を対象としたアンケート調査」の調査結果から、施設・事業所における介護職員の人材育成に関して、入職後の各段階において、総じて高い重視度を持っていることがわかります。また、介護職員のキャリアパスを確立するにあたって「研修体制の確立」を挙げる割合が高くなっていました。また、施設・事業所において外部研修を受講する介護職員への支援が、費用面・シフト面から手厚く行われている現状も見えてきました。

また、介護福祉士ファーストステップ研修の修了者および勤務先の管理者(又は上司)に対してヒアリング調査を行いました。修了者からは、この研修において「利用者の尊厳を支えること、介護福祉士の専門性、介護職としての倫理観について意識し、実践するようになった」「気づきを掘り下げて考える習慣が身につく、職場での問題解決の過程において大変役に立った」など、意識や技術面での変化があったことがあげられました。一方、管理者(又は上司)においても、ファーストステップ研修の修了者への評価は高く、今後他の職員に受けさせたいという意見が多数を占めていました。今後ファーストステップ研修修了後のステップにつながるような研修を準備し、継続的なスキルアップができるような体系的な研修を望む声も上がりました。

このように、施設・事業所における人材育成において、研修に対する重視度の高さ、また研修に望むことが浮き彫りになりました。今後日本介護福祉士会としては、介護福祉士の質の向上、ひいては介護福祉士の社会的評価の向上のための一つとして、施設・事業所のニーズに対応した研修体系の整備に引き続き取り組んでいきます。

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/春・夏・秋・冬号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>
郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

冬号(22年12月発行)

特集「やりがい・働きがいのある
職場づくりと人材育成」

春号(23年3月発行)

特集「地域包括ケア—地域で支える—」

第18回全国大会開催県

知れば知るほど青森県 Part II ～ガンバレ東北・関東 頑張ろう日本!!～

2011年3月11日午後2時46分を境に、日本は大きな試練を迎えました。

多くの被災地で完全にライフラインが復旧せず、被災地によっては格差も生じてきて、食糧や生活物資等が行き渡っていない箇所がまだある現状です。

20世紀以降では未曾有の災害となった東日本大震災。美しい風景、脈々と受け継がれた家族の歴史や伝統、そしてついさっきまでそこで生活が営まれていた街、家、人々…。

私たちに何が出来、何をやらなければならないのか。不眠不休で要介護者等、災害弱者の安全と安心の生活を支えている現地の介護職たち。又はすでに被災地に出向きボランティア活動をしている全国の福祉専門職。きっと日本国民の多くが、自分も何らかの援助が出来ないか、と思っているはずです。

介護のプロを自負する介護福祉士(会)であれば、今まさに支援を求めている所で、多くの住民の縁の下の力になり、安らぎと笑顔を一時でも届

けられ、介護が必要な人と介護をする人に知識・技術等、専門性をフルに生かして支援できればと思います。

介護福祉士は、こんな時にこそ活動しなければいけない資格であると断言できます。

私たち一人一人が思いだけでなく、それぞれのポジションで具体的に出来る支援を今だけでなく、長期間継続して行くことを皆で考えましょう。

何もかも失った被災地でも、季節は同じように春が訪れます。山里には桜が咲き誇ります。青森県弘前市には全国屈指の桜の名所、弘前公園があります。今年は特に厳しい冬だったので、なおさら春の暖かさや桜の艶やかさが身に沁みるでしょう。

11月の全国大会まで7ヶ月足らずありますが、全国からいらっしゃる方に、東北の復興に向けた姿を感じてもらい、また青森で人々の暖かさに癒され、元気を持って帰っていただきたいと思います。東北は負けません。きっとこの困難を克服していきます。

ガンバレ被災地 頑張ろう日本!!

ふれあいケア

2011年
5月号
4月20日発行

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 介護職員の基本の「キ」

介護施設は、ケアする人とケアされる人との人間関係で成り立っており、利用者の尊厳に配慮したサービスを提供することが求められます。4月に入った新人職員といえども、施設に入れば一人の介護職員としてみられることになります。利用者に不快な思いをしないで生活してもらうために、職員として守るべきルールや基本マナーを知っておく必要があります。そこで、本特集では、利用者への言葉づかいや態度、身だしなみなど、新人職員や福祉以外から入ってきた方が覚えておきたい基本マナーや、その根拠などを紹介します。

Part1 鼎談「介護職員の基本マナー」 Part2 基本マナーQ & A Part3 実践事例

好評連載企画 ●介護現場のリスクマネジメント ●制度の見方ワンポイント解説 ●納得!リハ医の認知症解説 ●かけがえのないひとこと ●地域で支える実践レポート ●ふれあい訪問介護センター物語 など

23年度新企画 ●ワンポイント介護技術 ●認知症ケア相談室 ●もっとコミュニケーション! ●知って使おう!福祉用具 など多数 ※コーナー名は変更する場合がございます。

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■

受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

**連載
6****介護の現場で輝いています！****老桜に励まされて**

神奈川県介護福祉士会 齋藤 世二

私は桜が好きで、毎年巨木の桜を見に出掛けている。昨年4月に岐阜県・根尾谷の国指定天然記念物・淡墨桜を初めて見た。推定樹齢1500年、樹高16メートル、東西の枝張り10メートル、幹周り10メートル。数度の枯死の危機があったが、桜の専門家や地元の人々の努力で不死鳥のごとくよみがえった巨樹は、透き通る青空のもと見る者を圧倒するように美しく咲き誇っていた。さく越しにカメラの望遠レンズで見ると、木肌が焦げ茶色に光り輝いており、この桜の生命力の強さを実感するなど、特別の感慨があった。

約6年前に企業を退職し時間にゆとりができたので、近くのデイサービスセンターで介護のボランティアを始めた。すると楽しくて所長に勧められて週3日のパート勤務となり、1～2年のつもりがすでに6年目に入った。ここまで頑張ったのだからと一昨年秋から介護福祉の資格に挑戦し、淡墨桜を見に行く直前に合格通知を受け取ったばかりだった。時に66歳の誕生日の目前であった。

「ありがとう」という利用者の感謝のひと言がうれしくてここまで続けられた。日々の利用者との交流を通じて「心の介護」ということを学んだ。私達が行う介護行為は日常生活全般にわたる身体介護が主であるが、信頼関係があれば私達の行為のすべてが心の介護に通じるのである。また人生の先輩から学ぶことも数多くあり、「これからの人生をどう生きていくか」を考えるヒントをもらっている。デイサービスでときどき「生き生きカルタ」という遊びをするが、その中の私のお気に入りには「やる気が人生かえていく」という言葉で

ある。時おりこの言葉を思い出しながら、仕事や地域のボランティアに励んでいる。昨年12月から民生委員にもなり、高齢者にとって温かく住み良い地域づくりに少しでも役立ちたいと思う。

淡墨桜がよみがえったのは、多くの人の愛情に支えられながらも、この老桜に生きる気力があつたからだと感じた。私が桜にケアされるように、高齢者に生きる喜びと気力を与えられるよう、もう少し介護の世界で頑張りたいと思う。



第18回 社団法人日本介護福祉士会 関東・甲信越ブロック大会開催概要

1. 日 時 平成23年6月24日(金)～25日(土)
2. 会 場 水戸プラザホテル (Tel.029-305-8130)
3. テーマ ありがとうを伝えたい!!笑顔でつなぐ手と心
4. 参加定員 500名
5. 参加費 会員/3,000円 一般/5,000円 学生/1,000円
6. 懇親会費 7,000円 (1日目終了後に懇親会を予定しています)
7. 特別講演 「新しい自立支援スタイルの提案～介護福祉分野におけるロボットスーツHALの可能性～」
筑波大学大学院システム情報工学研究科
サイバニクス研究室 山海 嘉之教授
8. 問合わせ 茨城県介護福祉士会 (担当:飯村、瀬尾)
TEL.029-354-4170 FAX.029-354-1315

第9回 日本介護学会開催概要

1. 日 時 平成23年7月9日(土) 10:20～16:40
2. 会 場 沖縄コンベンションセンター
3. 参加定員 300名 (定員に達し次第締切)
4. 参加費 会員/3,000円 一般/13,000円 学生/1,000円
5. 記念講演 「当たり前に向かって～障害者や『老い』の取材で考えたこと～」(仮題)
フリーライター 山城 紀子氏
6. 研究発表 助言者 沖縄ココロニーセンター
所長 宮国 明美氏
医療法人おもと会 沖縄リハビリテーション
福祉学院 介護福祉学科 金城 要氏
7. 申込方法 申込専用ページからお申し込み下さい。
<http://www.toptour.co.jp/conv/3713/jaccw2011/>
※インターネットからのお申し込みが困難な方は、
お手数ですが事務局までお問い合わせください。
8. 申込締切 平成23年6月24日(金)
9. 問合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810

会員の皆様へ

- 機関誌などの郵送物発送、研修会参加時の会員価格適用、書籍購入時の割引適用などのサービスは会費の納入が確認できた会員様のみに提供させていただいております。
- 婚姻等による姓の変更や、ご住所・ご連絡先、ご勤務先などの登録情報に変更があった際は、必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。
- やむをえずご退会をされる場合は、所定の様式により、退会申請して下さい。なお退会される場合でも当該年度に在籍されている場合は会費をお支払いいただく必要がございますので、ご了承ください。
- 当会は4月1日～3月31日までの年度制をとっております。
- ご不明点等ございましたら、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。
(電話03-3507-0784 E-mail:webmaster@jaccw.or.jp)
- 職場などお近くのお知り合いで会に未加入の方がいらっしゃる際は是非とも入会をおすすめいただきますようお願い申し上げます。

都道府県介護福祉士会研修情報

静岡県介護福祉士会

平成23年度 介護福祉士ファーストステップ研修

1. 日時 平成23年6月19日(日)～平成24年1月17日(火)
計15日間
2. 場所 シズウエル (会場の詳細は受講案内の際添付します)
3. 対象者 介護福祉士資格取得後2年以上実務に従事した方
4. 定員 40名 (申込みが20名以下の場合開催は致しません)
5. 締切日 4月30日(土) 到着分
6. 問合わせ 一般社団法人静岡県介護福祉士会事務局 (担当:平野)
TEL 054-253-0818 FAX 054-253-0829

第18回 全国大会開催概要

1. 日 時 平成23年11月10日(木)～11日(金)
2. 場 所 「ホテル青森」(青森県青森市)
3. テーマ 「介護福祉士を いかす・のびす・はぐくむ!!」
～介護と医療の連携を目指した人材育成～
4. 参加定員 600名
5. 参加対象者
 - ・社団法人日本介護福祉士会会員
 - ・社会福祉協議会、行政機関等の役職員
 - ・介護福祉士養成校、福祉関係の学生および教職員
 - ・福祉・保健・医療関係者、その他一般
6. 内容 (概略:予定)
 - 1日目 開会式点
 - 基調講演 厚生労働省
 - 記念講演 川口 淳一郎氏
JAXA宇宙航行システム研究系教授
 - 懇親会
 - 2日目 分科会
 - 特別講演 小枝 淳一氏 青森慈恵会病院医師
 - シンポジウム
 - 閉会式典
 - ※詳細につきましては、開催要綱・日本介護福祉士会ホームページをご参照ください
7. 問合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810

平成23年度口座振替のお知らせ

口座振替日：5月26日(木)

対象者:口座登録されている継続会員のみなさま

口座情報に関することや会費納入について不明な点がありましたら、恐れ入りますがご本人様より会員番号をご用意のうえ、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせください。

※東北関東大震災の影響により、東北地方の金融機関では一部口座振替ができない場合がございます。不能の場合は当方より再度通知させていただきます。



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.104
6月15日号
 平成23年（2011年）

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

平成23年度通常総会 全議案が原案通り可決される

平成23年度通常総会は、5月28日（土）、株式会社損害保険ジャパン大会議室で開催された。代議員定数222名に対し出席代議員183名、委任状34名、書面評決4名、欠席39名。全議案は原案通り承認され可決した。



午前中は、山本明彦氏（厚生労働省老健局振興課人材研修係長）による行政説明「地域包括ケアの実現に向けて」（3頁掲載）が行われた。

午後からの開会式典において、山本明彦氏、川井一心氏（社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事）、山口保氏（社団法人日本介護福祉士養成施設協会常務理事）が臨席し、祝辞をいただいた。

山本氏は、東日本大震災に対する日本介護福祉士の行ったボランティア派遣などの対応について感謝の意を述べた。

川井氏は、介護保険制度が抱えるさまざまな課題に対する取り組みにおいて、お互いに協力しながら活動

していききたいと述べた。

山口氏は、質の高いサービス提供のための教育や介護福祉士の地位や魅力の向上などについて、今後一層の連携・協力をしていききたいと述べた。

通常総会挨拶で石橋会長は、最初に東日本大震災の支援のご協力をいただいた方々に対する感謝の意を述べた。さらに日本介護福祉士の昨年度の取り組みや今後取り組むべき課題について説明を行うとともに、介護福祉士が魅力ある職業として確立していくために理事や会員へ協力を呼びかけた（2頁掲載）。

総会議事は、議長に中野朋和（石川県介護福祉士会）と増田恵子（滋賀県介護福祉士会）を選出した後、議案の審議に入った。

平成23年度通常総会の各議案は以下の通りである。

1. 平成22年度事業報告（案）に関する件（4～7頁掲載）
2. 平成22年度決算報告（案）並びに監査報告に関する件（8頁掲載）
3. 平成23年度事業計画（案）に関する件（9～10頁掲載）
4. 平成23年度収支予算（案）に関する件（11頁掲載）

以上の各議案はいずれも採決の結果、原案通り承認、成立した。

● 役員の変動 ●（4月1日～5月31日）

4月2日～4日 被災地（岩手県）視察・災害対策本部と打合せ（石橋会長）
 4月13日 第72回社会保障審議会介護給付費分科会（田中名誉会長）
 4月27日 第73回社会保障審議会介護給付費分科会（田中名誉会長）
 4月28日 第1回常任理事会（石橋会長、内田、木村、三浦副会長）

5月 8日 第1回研修委員会（内田、木村、三浦副会長）
 5月12日 第1回理事会（石橋会長、内田、木村、三浦副会長）
 5月27日 社会福祉法人福利厚生センター理事会（石橋会長）
 5月27日 中央共同募金会へ災害義援金の引き渡し（石橋会長）
 5月28日 通常総会（石橋会長、内田、木村、三浦副会長）
 5月30日 第75回社会保障審議会介護給付費分科会（田中名誉会長）

平成23年度社団法人日本介護福祉士会通常総会挨拶 平成22年度事業総括

社団法人日本介護福祉士会 会長 石橋 真二



平成22年度は介護福祉士制度について、大きな変化がありました。また、年度末には東日本大震災という未曾有の災害があり、多くの方が被災されました。今回の震災に伴い被災された皆様には心からのお見舞いを

申し上げます、早期の復興を願うものです。

なお、被災された支部の皆さんの献身的な活動はもとより、義援金や災害救助活動・ボランティアに関わる支援として活動費や人員を派遣していただいた全国の支部や会員の皆様に心より感謝を申し上げます。

介護福祉士制度を取り巻く状況としては「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」において、平成19年度に改正された資格取得方法の一元化が、3年先送りにされるなど資質の向上と社会的評価の向上に懸念をもたらす状況もありましたが、新たに介護福祉士資格取得者がステップアップできるよう「認定介護福祉士」(仮称)の仕組みづくりを職能団体が主役となって進めることなど、介護職員のキャリアアップの仕組みが明確化されるというプラス面もありました。

また、「介護職員等によるのたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」では、介護福祉

士養成カリキュラムの追加や一定の研修によって、介護福祉士がたんの吸引等を法的に問題なく行えるよう検討されているところです。

本会でも、国民や利用者のニーズに応じていくと同時に介護福祉士の安全性を担保する仕組み等についても検討し、不利益を被らないように試行事業を行うべきであるというスタンスで検討会に臨んでいるところです。

また、次年度は介護報酬改定の時期であり、その前段として社会保障審議会介護保険部会において、国民のための介護サービス充実はもちろんのこと、質の高い介護サービス提供のために介護福祉士制度が介護保険制度に活かされるよう本会の意見を申し上げてきました。今後も介護現場をより魅力あるものにしていくことを提言していきます。

23年度以降も、次期介護報酬改定に向けての検討、認定介護福祉士等キャリアアップに応じた生涯研修体系の確立、介護の日に対する広報、東日本大震災で被災された方への継続的な支援、本会の公益法人への移行、各支部の一般社団法人化、組織率の拡大など本会が取り組むべき課題は山積しております。

国民の介護サービスの充実のためにもこれらの課題を着実に解決し、生涯にわたって目標とやりがいを持つよう介護福祉士を魅力ある職業として確立するために、今後も理事や会員の皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

ソウエルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウエル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722

http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-21-17虎ノ門NNビル

福祉で働く人の福利厚生を支援しています。

通常総会 行政説明

地域包括ケアの実現に向けて

厚生労働省老健局振興課人材研修係長 山本明彦氏



被災地への対応

厚生労働省では被災者の皆様に対して介護サービスを提供するための支援策として、仮設住宅等に介護等のサポート拠点を併設することを被災地の自治体に働きかけているところです。

財源としては、地域支え合い体制づくり事業における手当や、介護事業所等の事業再開に要する諸経費の国庫補助を確保しているところです。

介護保険を取り巻く環境

介護保険制度に対する評価は、国民の約6割が評価しているとしており、その効果についても約5割が家族の負担が軽くなったと一定の評価が得られています。介護の希望として、本人、家族ともに在宅で介護を受けたい(受けさせたい)とする割合が高くなっています。また、さらなる高齢化や認知症高齢者の増加、65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していきます。

そのような利用者を支える介護職員は介護保険制度創設以来、大幅に増加しているものの、これからの高齢化に対応していくためにはさらなる介護職員の確保が課題となっています。しかし、介護職員の賃金は産業平均と比較すると低く、人材確保の観点からこのよ

うな点を含めた対策が必要であると考えます。そのような中、厚生労働省では、介護職員処遇改善交付金の交付を実施しているところです。

地域包括ケアシステムの構築に向けて

このような介護保険を取り巻く課題に対応する一つの方向性として地域包括ケアシステムの構築があげられます。

地域包括ケアを実現していくためには、「医療との連携強化」「介護サービスの充実強化」「予防の推進」「見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など」「高齢期になっても住み続けることのできる高齢者住まいの整備」といった5つの視点での取り組みが包括的、継続的に行われる必要があります。

地域包括ケアシステムを構築していくために、今般の介護保険法の改正案には「24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの創設」「複合型サービスの創設」「介護予防・日常生活支援総合事業の創設」「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の構築」「高齢者の住まいの整備」などを盛り込んでいるところです。

このような状況の中、介護福祉士には大変大きな役割があると考えます。地域包括ケアを進めるため、多職種協働(チームケア)の中で介護福祉士が大きな活躍をしていかれることを期待しています。

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

☆発行回数 年4回/夏・秋・冬・春号
 ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
 ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
 TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
 定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>
 郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

春号(23年3月発行)

特集「地域包括ケア—地域で支える—」

夏号(23年6月発行)

特集「介護サービス向上のためのセーフティマネジメント」

平成22年度事業報告

I 法人の概況

1. 設立年月日

平成12年6月26日(任意団体設立:平成6年2月12日)

2. 定款に定める目的

本会は、介護福祉士の職業倫理及び専門性の確立、介護福祉に関する専門的教育及び研究の推進並びに介護に関する知識の普及を図り、介護福祉士の資質及び社会的地位の向上に資するとともに、国民の福祉の増進に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業
- (2) 介護福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
- (4) 介護福祉の普及啓発に関する事業
- (5) 介護福祉士の相互福祉に関する事業
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課

5. 会員の状況

種類	当期末	前期末比増減
正会員	42,990	△638
賛助会員	17	+2
名誉会員	-	-

6. 主たる事務所の状況

事務所: 東京都港区虎ノ門1丁目22番13号
西勘虎ノ門ビル3階

7. 役員等に関する事項

<省略>

8. 職員に関する事項

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数	
男子	4名	△1名	歳	3年 0月
女子	2名	0名	歳	5年 7月
合計又は平均	6名	△1名	45歳	3年10月

※他に有期労働契約女子社員2名

II 事業の状況

1. 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業

(1) 専門分野に関する事業

○生涯研修制度検討委員会

- ・当年度においては1回の親委員会及び7回の作業委員会を開催し、生涯研修体系の見直しやセカンドステップ研修のあり方について検討した。
- ・介護福祉士初任者研修のカリキュラム見直しについて検討した。
- ・介護福祉士初任者研修及びファーストステップ研修の講師養成を行った。
- ・サービス提供責任者研修の標準カリキュラムを作成し、支部における円滑な運営のため周知した。
- ・介護職員の行うたんの吸引及び経管栄養に関するテキストを作成し、支部において研修を実施するための準備に取り組んだ。

○介護の専門性に関する研究機関の設置の検討

- ・(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修のカリキュラムを見直し、研修会を開始した。
- ・介護職のための事例研究、研究方法及び発表の方法に関する研修の内容を検討し、支部のリーダーを対象とした試行研修を実施した。
- ・日本介護福祉士会の提唱する介護技術マニュアルの作成に向けた検討を行った。

(2) 各種研修に関する事業

①日本介護福祉士会会員が広く参加する研修

○全国大会の開催

全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため次のとおり開催した。

開催年月日	開催場所	人数
第17回全国大会 22.12.10(金)~11(土)	ワールドコンベンションセンター・サミット(宮崎県)	1500名

○ブロック研修会の実施

介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施した。

（ブロック研修）

開催年月日		開催場所	人数
北海道・東北ブロック（北海道）	22.8.27（金）～28（土）	定山溪ホテルミリオーネ	110名
関東甲信越ブロック（埼玉）	22.9.4（土）	大宮ソニックシティ	450名
東海北陸ブロック（富山）	22.7.17（土）～18（日）	黒部市宇奈月国際会館セレネ	400名
近畿ブロック（和歌山）	22.10.30（土）	アパローム紀の国	106名
中国・四国ブロック（高知）	22.8.21（土）～22（日）	高新RKCホール	250名

（ブロックリーダー研修）

開催年月日			開催場所	人数
北海道・東北ブロック	第1回	22.12.18（土）	ホテルサンルート仙台	26名
関東甲信越ブロック	第1回	22.10.16（土）	新潟テルサ	43名
	第2回	23.1.22（土）	北とぴあ（東京都）	29名
東海北陸ブロック	第1回	22.11.6（土）	羽島市文化センター（岐阜県）	45名
近畿ブロック	第1回	22.7.3（土）～4（日）	奈良商工会議所	68名
	第2回	23.1.15（土）	京都テルサ	29名
中国・四国ブロック	第1回	23.1.13（木）	米子コンベンションセンター	12名
九州ブロック	第1回	22.5.15（土）～16（日）	博多都ホテル	268名
	第2回	22.12.11（土）～12（日）	ワールドコンベンションセンター・サミット（宮崎県）	60名

②総合的なキャリアアップを目的とする研修（生涯研修体系に基づき実施）

○介護福祉士初任者研修の実施

・介護福祉士初任者を対象として都道府県支部において実施した。

○ファーストステップ研修の実施

・資格取得後の実務経験2～3年の介護福祉士を対象として、都道府県支部において次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
22.4.17（土）～22.10.17（日）	岐阜県	8名
22.4.17（土）～23.2.27（日）	新潟県	44名
22.4.24（土）～22.8.28（土）	長崎県	10名
22.5.15（土）～22.11.27（土）	岡山県	29名
22.5.15（土）～22.9.25（土）	群馬県	10名
22.5.15（土）～23.2.26（土）	宮崎県	22名
22.5.22（土）～22.12.19（日）	富山県、石川県、福井県	46名
22.5.30（日）～22.12.21（火）	静岡県	27名
22.6.12（土）～22.12.5（日）	鳥取県	23名
22.6.19（土）～22.12.18（土）	東京都	12名
22.6.20（日）～23.2.20（日）	愛知県	40名
22.6.24（木）～23.2.10（木）	長野県	41名
22.6.26（土）～23.1.29（土）	京都府	22名
22.6.28（月）～23.3.11（金）	神奈川県	25名
22.7.10（土）～23.1.29（土）	滋賀県	27名
22.7.10（土）～23.1.30（日）	大阪府	32名
22.9.5（日）～23.3.27（日）	福岡県	17名
22.9.18（土）～23.3.13（日）	兵庫県	27名

○リーダー研修の実施

・介護福祉士初任者研修の講師養成研修を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
22.6.18（金）～20（日）	TOC有明コンベンションホール	25名

・ファーストステップ研修の講師養成を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
前期 22.10.9（土）～11（月）	大阪ビジネスパーク 松下IMPホール	16名
後期 22.11.20（土）～21（日）		17名

○専門研修

・介護職のための事例研究、研究方法及び発表の方法等を学ぶ「介護職のための研究発表に関する研修会」を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
23.2.26（土）	大阪ビジネスパーク 松下IMPホール	26名

○介護福祉士実習指導者講習会の実施

・47都道府県支部（延べ84開催）において実施した。

○介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修の実施

・介護福祉士実習指導者講習会の講師養成を次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
22.7.10（土）～11（日）	TOC有明コンベンションホール	122名

③職能的研修

- 介護技術講習会指導者・主任指導者養成講習会の実施
・指導者養成講習会を次のとおり11支部で実施した。

開催年月日	開催場所	人数
22.6.5 (土) ~6 (日)	愛知県介護福祉士会	21名
22.6.26 (土)、22.7.3 (土)	福岡県介護福祉士会	28名
22.9.19 (日)、22.10.3 (日)		27名
22.8.21 (土) ~22 (日)	富山県介護福祉士会	17名
22.11.6 (土)、22.11.13 (土)	長野県介護福祉士会	28名
22.11.6 (土) ~7 (日)	鹿児島県介護福祉士会	59名
22.11.25 (木)、22.11.30 (火)	神奈川県介護福祉士会	12名
23.1.8 (土)、23.1.15 (土)	福島県介護福祉士会	15名
23.1.22 (土) ~23 (日)	群馬県介護福祉士会	11名
23.2.4 (金) ~5 (土)	香川県介護福祉士会	1名
23.2.26 (土) ~27 (日)	岡山県介護福祉士会	6名
23.3.3 (木) ~4 (金)	広島県介護福祉士会	25名

- ・主任指導者養成講習会を次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
22.9.25 (土) ~26 (日)	TKP大阪梅田ビジネスセンター	43名

④その他の研修

○海外研修の実施

- ・「介護福祉士海外研修・調査」への会員参加及び募集協力を行った。

主 催：財団法人社会福祉振興・試験センター
派遣国：スウェーデン

実施期間：平成22年9月4日～9月18日

- ・「フランス介護福祉視察旅行」への会員参加及び募集協力等を行い出発予定であったが、東日本大震災の影響により中止した。

主 催：日通旅行

派遣国：フランス

実施期間：平成23年3月20日～3月26日

2. 介護福祉に関する調査研究に関する事業

- 第9回介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査

- ・より良い介護サービスの提供に資すること等を目的として、時代の変遷とともに介護福祉士に求められているものおよび就労実態に関する調査を実施し、調査結果をまとめた報告書を配布した。

3. 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業

- 当年度は、各団体と連携強化を図った。
○第23回介護福祉士国家試験（実技試験）の現地試験委員として、115名を社会福祉振興・試験センターに派遣した。

- 厚生労働省「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」、「社会保障審議会介護給付費分科会及び介護保険部会」に参画し意見を述べた。

4. 介護福祉の普及啓発に関する事業

- 「介護の日」に関する事業を実施
・「介護の日」ひろめ隊の活動等に積極的に取り組んだ。
・敬老の日・老人保健福祉週間や介護の日に合わせて、介護相談などを支部において実施した。
・「介護の日」のイベント事業において、「先輩職員に聞く」コーナーを設け、施設等への入職を希望する方に対し、会員である介護職員が自身の体験等を通して介護の仕事の魅力を伝えた。
- 日本介護福祉士会ニュースの発行
・当年度は通巻No.97からNo.102を偶数月15日に発行した。支部を通じて全会員に送付するほか、有償購読者94（介護福祉士養成施設、その他団体・個人）に送付した。
・No.100より新しくA4判に変更した。

○リーフレットの作成

- ・入会を促進するためリーフレットを作成し、適宜配布した。

○ホームページによる情報提供

- ・昨年度に引き続き、速やかな情報更新を行った。

○調査研究事業の情報提供

- 介護福祉士国家試験受験対策事業の実施（模擬試験等）
・介護福祉士国家試験受験支援のための、全国一斉模擬試験を実施した。

- ・「受験ゼミナー」の福祉新聞への掲載

○介護支援専門員全国一斉模擬試験を実施した。

5. 介護福祉士の相互福祉に関する事業

- 会員専用福利厚生制度（安心三重奏）の団体加入促進に取り組んだ。
○昨年度に引き続き、会員証付帯福利厚生制度の充実に取り組んだ。

6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

○制度・政策検討委員会

- ・当年度においては委員会を7回開催し、政策提言事項、要望事項等の内容を検討し、それぞれ対応した。
・介護報酬改定に伴う介護従事者の処遇改善に関する調査結果をまとめ、厚生労働省「社会保障審議会介護保険部会」に資料を提出した。
・「介護保険制度見直しにあたっての提言書」を取りまとめ、厚生労働省「社会保障審議会介護保険部会」に提出した。

- ・「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」(厚生労働省)における提言事項等について検討した。
- ・「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」における提言事項等について検討した。

○倫理委員会

- ・日本介護福祉士会倫理綱領に基づく倫理基準(案)を作成した。

○災害救援事業

- ・東日本大震災について、災害救援対策本部を設置し、本部長等が現地を視察するなど、被災県支部や厚生労働省等の関係団体と連携するとともに、ボランティア派遣に関する準備を進めた。また、義援金を募集した。
- ・委員会を2回開催し、「災害時における介護福祉支援ボランティア・マニュアル」普及方法及び効果的な活用方法について検討した。

○学術研究活動

- ・介護福祉にかかわる学術的な研究を推進し、介護福祉の専門的な技術、知識の向上を図るため、次のとおり開催した。

開催年月日	開催場所	人数
第8回日本介護学会 22.10.2(土)	いわて県民情報交流センター(岩手県)	300名

- ・学術専門誌「介護福祉士」No.14及びNo.15を刊行した。

○組織財政運営

(諸会議の開催)

- ・通常総会 1回
- ・理事会 1回
- ・常任理事会 7回
- ・正会員理事懇談会 2回
- ・都道府県会長会 2回
- ・研修委員会 1回
- ・調査研究委員会 5回
- ・広報委員会 2回
- ・倫理委員会 2回
- ・全国大会実行委員会 3回
- ・災害対策委員会 2回
- ・ブロック会議 (各ブロックごと)

(会員の加入促進)

- ・都道府県会長会において提言を行い、具体的な目標数を決定し、各支部はその達成の取り組みを行った。
- ・本会活動の積極的な周知に努め、賛助会員の獲得を図るなどして組織基盤を整備した。
- ・都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、公益社団法人化及び一般社団法人化を支援した。一般社団法人化支部は5支部(群馬県、千葉県、鳥取県、香

川県、大分県)

○補助金等事業

(公的助成の確保を図り、事業の充実を図った。)

- ・厚生労働省「介護福祉士実習指導者講習会」の実施(介護福祉士養成カリキュラムの見直しにともない、実習施設・事業等(II)における実習指導者が修了しなければならない講習会を47都道府県支部において実施した。)
- ・厚生労働省「介護現場における介護職員キャリアアップ研修体系の普及・活用と資質向上との連関に関する調査研究事業」の実施(4回の親委員会及び3回の作業委員会を実施し、今後検討される「認定介護福祉士(仮称)」の位置づけや、ファーストステップ研修の更なる普及に向けた検討を行い、普及を目的とした成果物及び報告書を作成して関係団体や施設・事業所等に広く配布した。)
- ・厚生労働省「特別養護老人ホームにおける介護職員等によるたんの吸引等の実施のための試行事業」の実施(介護職員の行うたんの吸引及び経管栄養等の行為について、厚生労働省からの委託事業として、関係団体の協力を得て北海道北見市において研修【指導者講習、基本研修、実地研修】を行った。)
- ・独立行政法人福祉医療機構「障害種別に対応した介護のあり方に関する調査研究事業」の実施(障害種別ごとの介護の現状や問題点を把握するためのアンケートを実施し、その結果をもとに研修カリキュラム及びテキスト資料を作成し、研修会を2回開催した。また、それらの内容をまとめた報告書を作成し、関係団体等に配布した。)
- ・財団法人社会福祉振興・試験センター「リーダー研修会」の実施(介護福祉士初任者等を指導するリーダーを養成するために、研修会を実施した。)

○第三者評価事業

- ・評価実績：社会福祉法人多摩済生医療団(特別養護老人ホーム、通所介護、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援)
- ・東京都福祉サービス評価推進機構より認証を受けた。評価者の継続研修7名
- ・各支部の実施状況
神奈川県、新潟県、富山県、長野県、京都府、福岡県で実施した。

○介護サービス情報の公表事業

- ・各支部の実施状況
新潟県、富山県、長野県、静岡県、京都府、福岡県で実施した。

平成22年度 一般会計収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)				(単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異	科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部				③事務所費支出	6,500,000	6,427,725	72,275
1. 事業活動収入				④通信運搬費支出	2,500,000	2,336,002	163,998
(1) 会費収入	241,500,000	237,344,000	4,156,000	⑤事務費支出	11,000,000	4,357,690	6,642,310
①入会金収入	15,000,000	18,310,000	△3,310,000	⑥渉外費支出	1,800,000	909,978	890,022
②年会費収入	225,000,000	217,034,000	7,966,000	⑦租税公課支出	2,000,000	3,406,100	△1,406,100
年会費収入	222,000,000	213,399,000	8,601,000	⑧会議費支出	24,700,000	23,185,688	1,514,312
過年度年会費収入	3,000,000	3,635,000	△635,000	(3) 他会計への繰入金	122,000	510	121,490
③賛助会費収入	1,500,000	2,000,000	△500,000	支出			
(2) 事業収入	117,200,000	163,097,407	△45,897,407	①特別会計 (医療機	0	510	△510
①研修会費収入	100,000,000	139,800,000	△39,800,000	構)への繰入金支出			
②研修手数料収入	1,500,000	1,146,500	353,500	②特別会計 (学会)へ	122,000	0	122,000
③協賛金収入	2,000,000	1,360,000	640,000	の繰入金支出			
④購読料収入	200,000	195,000	5,000	事業活動支出計	382,922,000	425,316,128	△42,394,128
⑤手数料収入	13,000,000	14,495,907	△1,495,907	事業活動収支差額	1,721,000	17,328,875	△15,607,875
⑥委託料収入	500,000	6,100,000	△5,600,000	II 投資活動収支の部			
第三者評価事業収入	500,000	1,600,000	△1,100,000	1. 投資活動収入	0	0	0
(3) 補助金等収入	25,793,000	41,207,000	△15,414,000	投資活動収入計	0	0	0
①国庫補助金収入	21,793,000	21,793,000	0	2. 投資活動支出			
②民間助成金収入	4,000,000	4,000,000	0	①基本財産取得支出	0	0	0
③老人保健健康増進	0	15,414,000	△15,414,000	②固定資産取得支出	0	7,000,000	△7,000,000
等事業収入				投資活動支出計	0	7,000,000	△7,000,000
(4) 災害活動費収入	0	800,000	△800,000	投資活動収支差額	0	△7,000,000	7,000,000
①災害活動費預り金	0	800,000	△800,000	III 財務活動収支の部			
受入収入				1. 財務活動収入	0	0	0
(5) 雑収入	150,000	196,596	△46,596	財務活動収入計	0	0	0
①雑収入	150,000	196,596	△46,596	2. 財務活動支出	0	0	0
受取利息収入	100,000	74,156	25,844	財務活動支出計	0	0	0
雑収入	50,000	122,440	△72,440	財務活動収支差額	0	0	0
事業活動収入計	384,643,000	442,645,003	△58,002,003	IV 予備費支出	1,300,000	0	1,300,000
2. 事業活動支出				当期収支差額	421,000	10,328,875	△9,907,875
(1) 事業費支出	282,800,000	342,685,802	△59,885,802	前期繰越収支差額	48,973,239	48,973,239	0
①研修費支出	116,500,000	168,534,101	△52,034,101	次期繰越収支差額	49,394,239	59,302,114	△9,907,875
②調査研究費支出	1,500,000	22,184,853	△20,684,853				
③広報費支出	10,400,000	10,176,159	223,841				
④組織費支出	7,300,000	5,740,142	1,559,858				
⑤専門研究費支出	1,700,000	2,581,580	△881,580				
⑥その他事業費支出	30,850,000	33,242,204	△2,392,204				
⑦会員証作成費支出	50,000	8,977	41,023				
⑧支部活動費支出	111,000,000	96,918,000	14,082,000				
⑨学術研究活動費支出	3,500,000	3,299,786	200,214				
(2) 管理費支出	100,000,000	82,629,816	17,370,184				
①人件費支出	50,000,000	40,620,633	9,379,367				
②顧問料支出	1,500,000	1,386,000	114,000				

平成22年度特別会計決算、平成23年度特別会計予算についてはホームページをご覧ください。

平成23年度事業計画

「社団法人日本介護福祉士会定款」第4条に定める次の事業

- (1) 介護福祉士の職業倫理ならびに専門的知識及び技術の向上に関する事業
- (2) 介護福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
- (4) 介護福祉の普及啓発に関する事業
- (5) 介護福祉士の相互福祉に関する事業
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事業を行うため、以下の事業を実施する。

1. 各種事業推進のための会議・委員会の実施

1) 生涯研修制度検討委員会【定款第4条-(1)】

- ・生涯研修システムを運営し、認証制度を実施する。さらに継続してシステムの普及・推進について検討を行う。
- ・生涯研修体系を見直し、新たな研修のあり方やポイント制の活用方法について見直しを行う。
- ・ファーストステップ研修を充実させるために、リーダー研修による講師養成研修の実施や各支部との連携により、事業運営に必要なサポート体制を充実する。
- ・介護福祉士初任者研修を充実させるために、シラバス・カリキュラムの見直しを行う。
- ・引き続きセカンドステップ研修の内容について検討を行う。
- ・（仮）生涯研修制度評価委員会を設置し、日本介護福祉士会の実施する各種研修会の評価及び修了者の認定について検討する。
- ・（仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修（日本介護福祉士会の実施する研修）について、評価委員会において研修の評価及び修了者の認定について検討する。
- ・各支部との連携のもと、日本介護福祉士会としての介護技術のモデル化に向けた検討を進める。
- ・障がい者に対する介護の現状と課題を整理し、生涯研修体系における位置づけや、研修のあり方について検討する。
- ・（仮称）認定介護福祉士の確立に向け、厚生労働省及び関係団体の協力を得て、研修カリキュラムや認証システムに関する検討を行い、次年度以降のモデル研修実施を目指す。
- ・日本介護福祉士会のキャリアパス（生涯研修制度）について、社会的認知度の向上を目指す。

2) 制度・政策検討委員会【定款第4条-(6)】

- ・介護福祉士の社会的評価の向上・労働条件の改善

に対する取り組みを図る。

- ・介護保険制度とサービスの質の評価に関する指標、障害者自立支援法・医療行為・国家試験・介護福祉教育・外国人労働者などの介護福祉制度に関する政策・提言について調査研究、研修部門と連携して検討を行う。
 - ・行政を始めとする各委員会等に参画し提言していく。また、国民に向けた情報発信を積極的に行う。
- ### 3) 調査研究委員会【定款第4条-(2)】
- ・時代の変遷とともに移り変わる「介護福祉士の専門性」や就労実態について把握し、より良い介護サービスの提供に資すること等を目的とした「就労実態と専門性の意識に関する調査研究」（次年度に調査実施予定）に関する調査内容を検討する。
- ### 4) 組織財政運営関係委員会【定款第4条-(6)】
- ・諸会議を開催し、健全な本会運営を図る。
 - ・総会、理事会及び常任理事会の開催
 - ・各種委員会及び選挙管理委員会の運営
- ### 5) 倫理委員会【定款第4条-(6)】
- ・倫理綱領及び倫理基準案に基づき、会員の倫理規程や、各支部における倫理委員会の設置に向けた検討を行う。
- ### 6) 災害対策マニュアル検討委員会【定款第4条-(6)】
- ・災害救援実践マニュアルの充実、普及を図る。

2. 各種研修会の開催及び学術研究活動

1) 日本介護福祉士会会員（日本介護学会会員）が広く参加する研修

○全国大会の開催【定款第4条-(1)】

- ・全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため、時宜に合ったテーマに沿って、講演や分科会等、開催県を全支部が支援し、実施する。（第18回開催県＝青森県、平成23年11月10日～11日）

○学術研究活動【定款第4条-(6)】

- ・日本介護学会の運営と学術集会の開催（第9回開催県＝沖縄県、平成23年7月9日）
- ・会員の実践・研究業績を広く周知し、生かすために専門誌「介護福祉士」（年2回）を発行する。

○ブロック研修会の開催【定款第4条-(1)】

- ・介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施する。

2) 総合的なキャリアパスを目的とする研修【定款第4条-(1)】

○介護福祉士初任者研修

- ・介護福祉士初任者を対象とした研修を全支部で実

施する。

- ファーストステップ研修
 - ・小規模チームのリーダーや初任者等の指導係を養成するため、これまでに作成されたシラバスや教材を参考にして、各支部で実施する。
- リーダー研修
 - ・介護福祉士初任者研修・ファーストステップ研修・サービス提供責任者研修などの講師養成をさらに充実させる目的として、カリキュラムを見直したうえで実施する。
- 介護職のための研究・発表に関する研修
 - ・全国大会、日本介護学会、ブロック研修会等における発表を促進するとともに、各支部において研修を実施する際のスキームについて検討を行う。
- (仮称) 認定専門介護福祉士(認知症) 養成研修
 - ・昨年度より新カリキュラムで実施しているモデル研修会を引き続き実施し、研修内容について評価委員会にて評価する。

3) 職能的研修【定款第4条-(1)】

- 介護福祉士実習指導者講習会
 - ・施設及び養成校において実習指導にあたる者に必要な知識・技術を付与することを目的として講習会を実施する。
 - ・各支部においてより充実した講習会が実施できるよう、講師養成研修会を実施する。
- サービス提供責任者研修
 - ・介護保険制度で多くの介護福祉士がその責務を担うサービス提供責任者に必要な知識を付与することを目的として、日本介護福祉士会の示すカリキュラムに則ってブロック又は支部において実施する。
- 介護技術講習主任指導者・指導者養成研修
 - ・主任指導者・指導者養成講習を実施する。(主任指導者養成講習は中央実施、指導者養成講習は支部実施)
- 介護支援専門員現任研修
 - ・「日本介護福祉士会方式アセスメント・ケアプラン」を活用するなどして介護支援専門員の現任研修をブロック又は支部において実施する。
- たんの吸引、経管栄養に関する研修会(予備的な知識・技術を身につける研修)
 - ・介護福祉士の行うたんの吸引や経管栄養について、安心して安全に実施できるよう、厚生労働省が定める予定の本研修が始まる前に、予備的な知識・技術を身につける研修を支部において実施する。

4) その他の研修

- 海外研修の実施
 - ・社会福祉振興・試験センター実施の海外研修への会員参加
- その他時宜に応じて必要な研修

3. 関係団体との連携・協力【定款第4条-(3)】

- 保健・医療・福祉の各団体との連携強化
- 必要に応じ他団体、機関、研究所等との連携
- 後継者の育成

・日本介護福祉士養成施設協会等の団体と協力し、後進の育成を図るとともに講師育成を図る。

- 介護福祉士国家試験(実技試験)の実地試験委員派遣協力

4. 介護福祉の普及啓発に関する事業【定款第4条-(4)】

- 介護の日に関する事業の実施
 - ・「介護の日」ひろめ隊活動や介護相談等の実施を通して、11月11日「介護の日」の普及啓発を図るとともに、地域における支え合いの重要性等の理解と認識をひろめ、「介護の日」の取り組みを促進する。
- 老人の日・老人週間に関する事業の実施
 - ・老人の日・老人週間合わせて47都道府県において介護相談マニュアルを活用した介護相談等、各支部の企画による事業を実施する。
- 日本介護福祉士会ニュースの充実・発行(年6回)
- ポスター及びパンフレットの作成
- ホームページによる情報提供
 - ・内容の一層の充実を図るとともに、各支部のホームページ充実の支援を行う。
- 調査研究事業の情報提供
- 介護福祉士国家試験受験対策事業の実施(模擬試験等)
- 介護支援専門員実務研修受講試験受験対策事業の実施(模擬試験等)
- 介護に関する出版物の発行及び協力

5. 介護福祉士の相互福祉に関する事業【定款第4条-(5)】

- 各種保険制度への団体加入
- 会員証付帯福利厚生制度の充実

6. その他の事業

- 災害救援活動【定款第4条-(6)】
 - ・災害発生時の復興に取り組むため、全支部の協力を得て、ボランティア派遣など災害救援に関わる活動を行う。また、行政、他団体や他職種との連携を深め有意義な支援活動を行う。
- 組織財政運営活動【定款第4条-(6)】
 - ・各支部策定の「会員加入促進計画」に基づいて介護福祉士登録者の本会への加入を促進し、組織基盤を確立する。
 - ・本会活動の積極的な周知に努め、賛助会員の獲得を図るなどして組織基盤を整備する。
 - ・日本介護福祉士会及び都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、公益社団法人認定を目指す。また、各支部の社団化を促進する。
 - ・公的助成の確保を図り、事業の充実を目指す。
- 第三者評価事業の実施・介護サービスの情報の公表事業の推進【定款第4条-(4)】
 - ・日本介護福祉士会による事業の実施ならびに各支部が実施する場合の支援を行う。

平成23年度 一般会計収支予算

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位：円)				(単位：円)			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部				⑥ 渉外費支出	1,000,000	1,800,000	△800,000
1. 事業活動収入				⑦ 租税公課支出	3,500,000	2,000,000	1,500,000
(1) 会費収入	138,000,000	130,500,000	7,500,000	⑧ 会議費支出	26,700,000	24,700,000	2,000,000
① 入会金収入	17,500,000	15,000,000	2,500,000	(3) 他会計への繰入金	5,500,000	122,000	5,378,000
② 年会費収入	118,500,000	114,000,000	4,500,000	支出			
年会費収入	117,000,000	112,500,000	4,500,000	① 特別会計(医療機	0	0	0
過年度年会費収入	1,500,000	1,500,000	0	構)への繰入金支出			
③ 賛助会費収入	2,000,000	1,500,000	500,000	② 特別会計(学会)へ	500,000	122,000	378,000
(2) 事業収入	93,200,000	117,200,000	△24,000,000	の繰入金支出			
① 研修会費収入	72,000,000	100,000,000	△28,000,000	③ 特別会計(災害)へ	5,000,000	0	5,000,000
② 研修手数料収入	1,500,000	1,500,000	0	の繰入金支出			
③ 協賛金収入	2,000,000	2,000,000	0	事業活動支出計	255,726,000	268,422,000	△12,696,000
④ 購読料収入	200,000	200,000	0	事業活動収支差額	△6,000,000	5,221,000	△11,221,000
⑤ 手数料収入	17,000,000	13,000,000	4,000,000	II 投資活動収支の部			
⑥ 委託料収入	500,000	500,000	0	1. 投資活動収入			
第三者評価事業収入	500,000	500,000	0	① 固定資産取得収入	7,000,000	0	7,000,000
(3) 補助金等収入	18,376,000	25,793,000	△7,417,000	投資活動収入計	7,000,000	0	7,000,000
① 国庫補助金収入	14,376,000	21,793,000	△7,417,000	2. 投資活動支出			
② 民間助成金収入	4,000,000	4,000,000	0	① 基本財産取得支出	0	0	0
(4) 雑収入	150,000	150,000	0	② 固定資産取得支出	7,000,000	0	7,000,000
① 雑収入	150,000	150,000	0	投資活動支出計	7,000,000	0	7,000,000
受取利息収入	100,000	100,000	0	投資活動収支差額	0	0	0
雑収入	50,000	50,000	0	III 財務活動収支の部			
事業活動収入計	249,726,000	273,643,000	△23,917,000	1. 財務活動収入			
2. 事業活動支出				財務活動収入計	0	0	0
(1) 事業費支出	201,306,000	168,300,000	33,006,000	2. 財務活動支出			
① 研修費支出	99,776,000	116,500,000	△16,724,000	財務活動支出計	0	0	0
② 調査研究費支出	500,000	1,500,000	△1,000,000	財務活動収支差額	0	0	0
③ 広報費支出	9,700,000	10,400,000	△700,000	0	1,300,000	△1,300,000	
④ 組織費支出	7,800,000	7,300,000	500,000	当期収支差額	△6,000,000	3,921,000	△9,921,000
⑤ 専門研究費支出	2,100,000	1,700,000	400,000	前期繰越収支差額	59,302,114	48,973,239	10,328,875
⑥ その他事業費支出	31,000,000	30,850,000	150,000	次期繰越収支差額	53,302,114	52,894,239	407,875
⑦ 会員証作成費支出	50,000	50,000	0				
⑧ 学術研究活動費支出	3,500,000	3,500,000	0				
⑨ 人件費支出	39,680,000		39,680,000				
⑩ 事務所費支出	5,200,000		5,200,000				
⑪ 通信運搬費支出	2,000,000		2,000,000				
(2) 管理費支出	48,920,000	100,000,000	△51,080,000				
① 人件費支出	9,920,000	50,000,000	△40,080,000				
② 顧問料支出	1,000,000	1,500,000	△500,000				
③ 事務所費支出	1,300,000	6,500,000	△5,200,000				
④ 通信運搬費支出	500,000	2,500,000	△2,000,000				
⑤ 事務費支出	5,000,000	11,000,000	△6,000,000				

(注) 1. 借入金限度額 なし
2. 債務負担額 なし

平成24年度日本介護学会開催県

滋賀県 ①

平成24年に日本介護学会の開催が決定された滋賀県から、一足早く滋賀の魅力と滋賀県介護福祉士会の活動、介護学会に向けた取り組みについてシリーズでお伝えします。

今回は初回ですので、滋賀の魅力の中から観光情報を紹介しましょう。

皆さんは「滋賀」と聞いて、何を思い浮かべますか？ピンとこない方も、「びわ湖」と言えばお分かりになることでしょう。びわ湖は淡路島がすっぽり入る約670km²、周囲は約235kmです。分かりやすく表現すると、面積は滋賀県の約1/6を占め、距離にすると滋賀県の県庁所在地である大津市から静岡県浜松市までほぼ同じとなる日本最大の湖です。



瀬田の唐橋

関西の水源地としても有名です。び

わ湖には大小合わせておよそ2,000本の川が流れ込んでおりますが、びわ湖から流れ出るのは瀬田川とびわ湖疎水の2本だけです。ちなみに、瀬田川は京都付近で宇治川、そして大阪の手前で淀川と名前を変え、大阪湾に流れ込んでいます。

びわ湖で行われるイベントでは、昔から人気のある「びわ湖大花火大会」に続き、最近特に若者の間で有名なのが、イナズマロックフェスという野外コンサートです。滋賀県出身のアーティスト、西川貴教さんがびわ湖の環境保全と地域振興のために滋賀県や草津市と共同で立ち上げたコンサートで、この2日間は全国から多くのロックファンがびわ湖岸に集結する一大イベントになっています。

水に恵まれた滋賀県は、昔から交通や戦略上の要所としても栄え、戦国時代から多くのお城が立てられました。織田信長により築城された安土城をはじめ、今年のNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の最初の舞台、戦国武将浅井長政ゆかりの小谷城や、秀吉が建て、こちらもNHK大河ドラマで有名になった「功名が辻」の山内一豊に引き継がれた長浜城、そして、ご当地ゆるキャラ「ひこにゃん」で一躍有名になった彦根城などが有名で、現在でも安土城跡は多くの歴男、歴女の皆さんが訪れる地となっています。

また滋賀県はお寺の数が多いことでも有名で、「寺密度」(10万人あたりのお寺の数)が全国1位というデータがあります。比叡山延暦寺や三井寺をはじめ、源義仲(木曾義仲)にゆかりの深い義仲寺、紫式部が源氏物語の着想を得たとされる石山寺など、有名なお寺も多くあります。



比叡山延暦寺の夜間ライトアップ

介護学会の会場となる大津市は京都駅から電車で9分とアクセスもよく、周囲を比叡山とびわ湖で囲まれた自然環境もゆたかな地です。

水都で歴史と自然の風にあたりながら、介護福祉士としての学問を学ぶための介護学会への参加を滋賀県介護福祉士会一同、心よりお待ちしております。

次回は滋賀県の「食」を中心にお届けする予定です。



大津市なぎさ公園



彦根城

福祉用具を活用しよう

財団法人テクノエイド協会

このコーナーでは、本人が実現したいケアプランの生活目標を前提に考え、それに対する福祉用具や生活環境などを生活場面ごとに紹介します。

Part 1 起居 –起きることは生活の始まり–

■起居動作とは

「起居動作」とは、寝具に寝た状態から、起き上がる、座る、立ち上がるという一連の動作を言います。人の動きの出発点であり、福祉用具利用の出発点ともいえる動作です。起居動作の支援を行い、離床を促進することは、寝たきりによる廃用性症候群を予防するとともに、その人らしい生活の実現に向けた支援の第一歩だといえます。

■介護ベッド

電動モーターによる背上げ機能、膝（脚）上げ機能、全体の昇降機能などを持ち、寝返りを助けるベッド柵や起き上がりや立ち上がりを補助するベッド用グリップ（介助バー）などを有し、褥瘡対応のマットレスから一般的なマットレスまで体圧分散機能が様々なマットレスが準備されているのが介護ベッドです。個々の生活目標に応じて、機能や付属品を選定して利用します。

①マットレス

安眠の確保や安定した起居動作を行う上でマットレスの選定は重要です。寝心地の良さや動作のしやすさ、体圧分散性、通気性、保温性、清潔の維持などのメンテナンス性など、本人の状態や使用目的を考慮します。

②ベッドの配置

介護ベッドは部屋の形態、出入り口の位置、動作の仕方、動線などを考慮して配置やサイズを決めます。また、動線上に電源コードがないことも重要です。タコ足配線は発火などの原因となります。

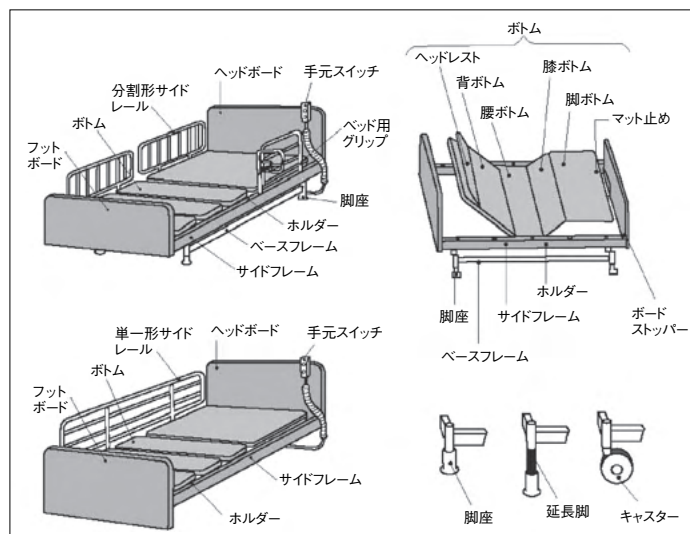
ベッドの昇降を行う際には、ベッドによって「垂直昇降するタイプ」と昇降に伴い前後方向（頭側⇔足側方向）にずれる「円弧軌跡を描くタイプ」があります。後者の場合にはベッドの頭側及び足側が周辺の家具、建物の壁面や構造物に当たらないように離して設置する必要があります。

また、介助するためのスペース、介助しやすい向き（食事介助などは介助者の利き手が足側の方が介助しやすい）、ベッドを離れて移動する方法や、出入り口ドアの開閉状態、車いすなどその他の福祉用具の利用や方位なども考慮し、設置スペースを確保します。

■介護ベッドの安全性に関して

近年、背上げ時のベッド柵や介助バーによる挟み込み事故など、介護ベッドを利用して重症・死亡事故が多く発生しました。このため、介護ベッドによる重大事故を未然に防ぐためにJIS規格が改定されました。現在では、各介護ベッドメーカーがJIS規格の認証を受け、一定の安全性が確保された介護ベッドが流通するようになりましたが、JISマーク表示製品であっても使用状況によっては事故が起こる可能性があります。JIS規格では、主に頭部、頸部、胴の挟み込み防止を中心に考えられており、腕などの挟み込み防止には専用カバーやスペーサーを利用することが必要です。また、誤操作による事故には、誤操作防止機能付きの手元スイッチが有効な場合もありますが、事故が起きる可能性を排除できるものではありません。

いずれにしても、取扱説明書の使用方法にしたがい、使用前の点検、適合確認、注意事項の説明、定期的な使用状況の確認やメンテナンスなど、十分な注意を払うことが必要です。



第18回全国大会開催県

知れば知るほど青森県 PartⅢ ～～ガンバレ東北・祭りで盛り上げよう～～

震災から約100日。まだまだ復興への道のりは長いのですが、落ち込んでばかりはいられません。今回は夏を中心に、青森の地域に根ざした地元イチオシの祭りも紹介致します。

まずは、なんとといっても今や日本だけでなく世界に誇る火祭り、「青森ねぶた祭り」です。起源は諸説ありますが、明治時代には今の祭りの形式になり、終戦直後に復活した経緯もあり、今年はまさに「東北復興への起爆剤」として行われます。期間は8月1日の前夜祭に始まり2日からのパレードで7日のねぶたの海上運行&花火大会まで1週間続きます。(この海上運行&花火大会の有料席が地元でも高い席からなくなりプレミア券です) 迫力ある大型の人形ねぶたが20数台、また地域の町内会等で作る子供ねぶたがこれまた30数台、市内の目抜き通りを行進します。

忘れてならないのが、ねぶたを盛り上げる跳人(はねと)と呼ばれる踊り手達。花笠をかぶり、そろいの浴衣で「ラッセラーラッセラ」の掛け声とともに狂喜乱舞します。そして、跳人を奏でる大迫力の太鼓と横笛、さらにガガシコと呼ばれる金属製の打楽器?。また、祭りに独特のアクセントを付ける化人(ばけと)と呼ばれる仮装人。音・艶・明かり・動き、それらがすべてねぶたにコラボレーションして、盛り上がります。ちなみに、跳人にはきちんとした踊りの型はなく、踊るとは言わず“跳ねる”といえます。ですから観光客の方でもすぐ跳人の輪に加わり、一緒に即興ではねることが出来ます。

青森市が「ねぶた」ならば、城下町弘前市は「ねぶた」祭りです。期間は青森市とほぼ同時期です。ねぶたが賑やかな“凱旋”なのに対し、ねぶたは静かな“出陣”のお祭りといわれています。形もねぶたは扇形をしており、太鼓のリズムや笛の音もねぶたに比べてしっとりとしており、踊り手も掛け声を「ヤーヤドー」と言って行進します。

近年、これに割って入るのが、五所川原市の立佞武多です。約80年前まで行われていたのですがそれ以後中止となり、平成10年に有志が立佞武多を復活させ、地上30メートルの巨大な立佞武多が復活したのです。立佞武多の掛け声は「ヤッテマーレ、ヤッテマーレ」と勇ましく、8月上旬の津軽は、ねぶた、ねぶた、立佞武多のそろい組みです。

それに対し、南部の八戸市は三社大祭が行われます。約

300年の歴史と伝統を誇り、7月31日から8月4日までの5日間、豪華絢爛な山車が街中を練り歩きます。仕掛けもそれぞれの町内の山車にあり、タイムスリップしたような気分になります。

むつ市では下北半島最大の祭り、祇園の流れを汲む「田名部祭り」が、8月18日から3日間行われます。日中は「静」、夜は「動」の様態で一見の価値あり。クライマックスは20日深夜の「5車別れ」です。

津軽半島の先端竜飛崎のある外ヶ浜町(旧三厩村)には、その昔源義経が実は平泉で死んでおらず、北上し三厩村にたどり着き、津軽海峡を越え、蝦夷からその後大陸に渡りチングスハーンになったという伝説があります。津軽海峡を見下ろす場所に義経寺(ぎけいじ)があり、その当時を再現した行列が街を練り歩く義経祭りが8月のお盆の時期に行われます。

十和田湖畔では7月中旬に湖水祭りが行われます。深緑の湖をバックに花火大会やイベントが行なわれます。ちなみに9月は、青森・秋田・岩手の伝統芸能や代表のお祭りを披露しあう“国境祭り”。2月には雪と氷と光のページェント、“十和田湖冬物語り”があり、春の新緑、秋の紅葉と合わせ四季折々に楽しめます。

黒石市では“日本三大流し踊り”の一つ、黒石よささが8月15、16日に行われます。目抜き通りを「エッチャホー、エッチャホー」の掛け声とともに、三千人もが踊り通します。

7月20日～24日まで、“日本三大霊場”の一つ恐山で「恐山大祭」が行われます。亡くなった人を呼び寄せる、イタコの口寄せには3時間待ちも覚悟が必要!。ちなみにイタコは夏秋の祭りの時期だけしか恐山にはいませんので、あしからず。

そして今年は、関東以北では唯一現存する天守閣のある、弘前城の築城400年ということで、様々なイベントが行われます。

北国の短い夏を惜しむように、県内はこの時期に殆どの市町村で祭りが行われます。まだまだ紹介したい奇祭やイベントがありますが、紙面が尽きました。あとは、ホームページ(あいらぶ青森まるごとView)やインターネットで検索して下さい。きっと掘り出し物のお祭りが見つかりますよ。

支部
リレー

都道府県介護福祉士会 情報交流の泉③ ◆和歌山県

自然豊かな和歌山県の暮らし

茶粥と梅干し



茶粥は、現在の和歌山県・奈良県で高齢者の主食

和歌山県では、粥を「おかいさん」と親しみをこめて呼ぶ。紀州和歌山で「おかいさん」と言えば、茶粥と決まっている。茶粥は、紀州を代表する食文化のひとつである。県内のすべての地域でと言ってよいのではないだろうか、ほとんどの地域に茶粥を食べる習慣があり、味は家の数と同じだけある。

茶粥の中に、サツマイモや焼き餅、豆、小豆などを入れて食べることもある。

南高梅 (なんこうばい・なんこうめ)

和歌山県を代表する品種で、日本国内で生産される国産梅の6割は和歌山県産である。果実は非常に大きく、種は果実のわりに小さめであり、果肉が軟らかいのが特徴。主に梅干しや梅酒に加工される。和歌山県のみなべ町が発祥の地。和歌山県の白梅で、果実は最高級品とされる。

茶粥と梅干しは、相性もよく高齢者の毎日の生活そのものになっている。



世界遺産～熊野古道～



熊野古道とは、古代から中世にかけ、本宮・新宮・那智の熊野三山の信仰が高まり、上皇・女院や庶民にいたるまで、旅人の切れ目がなく行列ができた様子から「蟻の熊野詣」と例えられるほど多くの人々が熊野に参詣した。田辺から熊野本宮に向かう中辺路(なかへち)、田辺から海岸線沿いに那智・新宮へ向かう大辺路(おおへち)、高野山から熊野へ向かう小辺路(こへち)が、「熊野参詣道」として世界遺産に登録されている。

世界遺産の熊野古道は、こころとからだに優しい癒しの道であり、効果的なウォーキングコースであり、介護予防や健康増進にも取り入れている。

写真提供 和歌山県観光連盟



次回は熊本県へバトンタッチ!

和歌山県高齢化率26.4% 65歳以上人口 272,177人
全国における和歌山県の高齢化の状況 7位
近畿府県内 1位 (平成22年3月31日現在)

災害義援金を寄付

東日本大震災からの復興のため当会が募集していた災害義援金が、5月27日時点で550万円になり、同日、社会福祉法人中央共同募金会に寄付いたしました。義援金は、石橋真二会長から中央共同募金会常務理事の中島謙次氏に手渡されました。今後被災者に配分され、復興のために使われることとなります。ご協力いただいた方に深く御礼申し上げます。

引き続き第2次災害義援金を受け付けておりますので、多くの方のご協力をお願いいたします。



第18回 全国大会inあおもり

1. 日 時 平成23年11月10日(木)～11日(金)
2. 場 所 「ホテル青森」(青森県青森市)
3. テーマ 「介護福祉士を いかす・のばす・はぐくむ!!」
～介護と医療の連携を目指した人材育成～
4. 参加定員 1,000名
5. 参加対象者
日本介護福祉士会会員、その他一般
6. プログラム
(11月10日) 開会式典
基調講演 厚生労働省 (予定)
記念講演 川口 淳一郎氏 (JAXA宇宙航行システム研究系教授)
「震災への取り組みについて」(予定)
(11月11日) 分科会 (座長は予定)
第1分科会「施設における介護と医療の連携を目指した人材育成について」
座長: 平塚 正博 (秋田県介護福祉士会 会長)
第2分科会「在宅ケアにおける介護と医療の連携を目指した人材育成について」
座長: 篠崎 良勝氏 (八戸大学人間健康学部教員)
第3分科会「新人が思う介護福祉士像～介護と医療の現状を踏まえた意見」
座長: 益城 妃富氏
(青森社会福祉振興団 地域福祉部長)
特別講演 小枝 淳一氏 (青森慈恵会病院緩和ケア科、内科 医師)
シンポジウム「介護福祉士を いかす・のばす・はぐくむ!!」
コーディネーター: 小枝 淳一氏
(青森慈恵会病院緩和ケア科、内科 医師)
シンポジスト: 平塚 正博 (秋田県介護福祉士会 会長)
(予定) 篠崎 良勝氏 (八戸大学人間健康学部教員)
益城 妃富氏
(青森社会福祉振興団 地域福祉部長)
風晴 賢治 (青森県介護福祉士会 会長)
7. 問合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810

また、併せて分科会での発表事例を募集いたします。

※詳細はホームページ又は開催要綱をご覧ください

都道府県介護福祉士会研修情報

京都府介護福祉士会

平成23年度ブロックリーダー研修会

●日程 平成23年10月1日(土)

平成23年度近畿ブロック研修会

●日程 平成23年10月2日(日)

●場所 アバンティ9階 龍谷大学アバンティ響都ホール
●対象者 日本介護福祉士会会員、介護福祉士養成施設学生、その他一般

●定員 300名

●参加費 会員3,000円、一般5,000円、学生1,000円

●問合わせ 一般社団法人京都府介護福祉士会
TEL 075-801-8060 FAX 075-801-8083

愛媛県介護福祉士会

平成23年度介護福祉士初任者研修会

●日程 8月17日(水)、18日(木)、9月12日(月)、13日(火)

●場所 愛媛県総合社会福祉会館3階研修室

●定員 50名

●参加費 会員8,500円、非会員12,500円

●申込締切 7月22日(金)

●問合わせ 愛媛県介護福祉士会
TEL 089-987-8123 FAX 089-987-6047

会員の皆様へ

- 機関誌などの郵送物発送、研修会参加時の会員価格適用、書籍購入時の割引適用などのサービスは会費の納入が確認できた会員様のみ提供させていただきます。
- 婚姻等による姓の変更や、ご住所・ご連絡先、ご勤務先などの登録情報に変更があった際は、必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。
- やむをえずご退会をされる場合は、所定の様式により、退会申請して下さい。なお退会される場合でも当該年度に在籍されている場合は会費をお支払いいただく必要がございますので、ご了承ください。
- 当会は4月1日～3月31日までの年度制をとっております。
- ご不明点等ございましたら、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。
(電話03-3507-0784 E-mail:webmaster@jaccw.or.jp)
- 職場などお近くのお知り合いで会に未加入の方がいらっしゃる際は是非とも入会をおすすめいただきますようお願い申し上げます。

ふれあいケア

2011年
7月号
6月20日発行

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 リーダーになっても悩まない

介護の現場では、3～4年ほどの経験で「リーダー」といわれる立場になる人が数多くいます。そのため、「リーダー」といわれることへのプレッシャーや抵抗感をもったり、その役割をどのように果たせばよいのか、悩んでしまう人もいます。本特集では、若いリーダーが悩まずにできるリーダーシップのとり方を考えます。

Part1 座談会「私たちがめざすリーダー像」 Part2 「リーダーシップをどうとるか」

好評
連載企画

●介護現場のリスクマネジメント ●老い考 ●納得!リハ医の認知症解説 ●かけがえのないひとこと
●地域で支える実践レポート ●ふれあい訪問介護センター物語 など

23年度
新企画

●ワンポイント介護技術 ●認知症ケア相談室 ●もっと・ぐっとコミュニケーション! ●Close Up福祉用具
●職場のあなたの物語 ●介護の味方・看護の見方 ●今の動き 制度解説

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■

受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

発行所/社団法人 日本介護福祉士会 事務局(〒105-0001) 東京都港区虎ノ門1-22-13 西勘虎ノ門ビル3F

電話 (03) 3507-0784 FAX (03) 3507-8810 <http://www.jaccw.or.jp> 発行責任者・石橋真二



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.105
8月15日号
 平成23年(2011年)

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

平成23年度第1回都道府県介護福祉士会会長会を開催

本年度第1回目の都道府県介護福祉士会会長会が、神奈川県ウィリング横浜で開催された。



冒頭で、石橋真二会長が挨拶をし、東日本大震災の被災者にお見舞いを申し上げるとともに、各支部のボランティア、義援金への協力に対して御礼を述べた。次いで、認定介護福祉士(仮称)の

検討会が始まることを報告し、認定介護福祉士(仮称)の制度構築への協力を求めた。同時に、介護職員等によるたんの吸引等が認められたことを報告した。その上で、来年度実施される介護報酬改定への対応や、日本介護福祉士会の組織率の向上・公益法人化等、多くの課題がある中、会長会での活発な議論を求めた。

続いて、泉潤一氏(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長)が「介護福祉士をとりまく環境と求められる人材像について」と題して講演を行った。(詳細は2ページ)

全体会では、平成23年度事業計画について説明がなされたほか、日本介護学会の開催報告が行われるとともに、第18回全国大会の開催要綱が発表された。また、組織率強化や公益法人設立に関して、事務局より各支部に対し依頼がなされた。最後に、たんの吸引等が認められた中で、今後介護福祉士としてたんの吸引等と

どのように向かい合っていくかについて議論がなされた。

グループ討議では、組織強化の方法について討議された。この中で、学生の新規加入の促進、介護福祉士の登録と職能団体への入会が違ふことの周知、退会者対策、研修での会員優遇、生涯研修ポイントの活用、福利厚生制度である安心三重奏の活用、事務局体制の強化などが提案された。

最後に、木村副会長から、介護職員の中で介護福祉士と他の職員との違いを明らかにしていきたい旨が述べられた。また、日本介護福祉士会の組織率向上のためにも、ホームページ上での速やかな情報提供や、研修の充実等を図り、日本介護福祉士会会員のメリットを増やすことで組織力を強化していきたいと述べた。



● 役員の動き ● (6月1日～7月31日)

- 6月10日 第4回災害対策本部会議(石橋会長、木村副会長)
- 6月10日 第1回制度政策検討委員会(石橋会長、木村副会長)
- 6月16日 第76回社会保障審議会介護給付費分科会(田中名誉会長)
- 6月21日 国際医療技術交流財団評議員会(石橋会長)
- 6月24日 第18回関東甲信越ブロック大会(石橋会長、内田副会長)
- 6月30日 第2回常任理事会、第2回制度政策検討委員会(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 7月 9日 第9回日本介護学会(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)

- 7月10日 九州ブロックリーダー研修(講師)(石橋会長)
- 7月12日 財団法人テクノエイド協会委員会(石橋会長)
- 7月14日 中央福祉人材センター運営会議(内田副会長)
- 7月15日～16日 事務局担当者会議・第1回都道府県会長会(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 7月16日～17日 東海北陸ブロック研修会(16日のみ、シンポジスト)(石橋会長)
- 7月28日 第77回社会保障審議会介護給付費分科会(田中名誉会長) 財団法人テクノエイド協会委員会(石橋会長)
- 7月30日～31日 実習指導者講習会講師養成研修(講師)(石橋会長)

会長会 講演

「介護福祉士をとりまく環境と求められる人材像について」 厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 泉 潤一 氏



この度の東日本大震災に被災されました皆様にはお見舞いを申し上げます。

また、日本介護福祉士会の皆様におかれましては、被災地でのボランティアや義援金などにご協力を頂き、ありがとうございます。

福祉サービスと福祉・介護人材を取り巻く状況

現在、わが国は人口の減少局面を迎えています。一方で、高齢化率は上昇し続けており、2055年には高齢化率が40%を超えると想定されております。そのような中、現行の介護サービス水準を維持・改善しようとする場合、労働力人口に占める介護職員数の割合が2007年から2025年にかけて倍以上になることが想定されております。

現在の介護人材数は年々増え続けており、介護福祉士についても、登録者数は100万人目前となっております。

このような中、介護職は入職率が高い一方で、離職率も同様に高くなるなど、職場への定着の観点で課題があります。また、介護福祉士資格を持ちながら介護等の業務に従事していない潜在的介護福祉士も介護福祉士登録者数の35%に上るなど、今後介護人材の充実を図る上で解決しなくてはならない課題があります。

介護福祉制度の見直し（キャリアパスの体系）

平成19年度の介護福祉士・社会福祉士制度の改正の際に、「資質の向上を図るため、すべての者は一定の教育プロセスを経た後に国家試験を受験するという形で、介護福祉士の資格取得方法を一元化する」という方針が示されました。それを受け、昨年度「今後の介護人材養成のあり方に関する検討会」が開催され、石橋会長にも委員としてご助力いただき、今年1月に報告書がとりまとめられたところです。

その中で、介護福祉士取得のための過程が整理されたほか、認定介護福祉士（仮称）として、介護福祉士のキャリアパスの体系が示されました。

介護福祉制度の見直し（たんの吸引等の実施）

現在、「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」が開催されており、その中で「介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員等は、一定の条件の下にたんの吸引等の行為を実施できることとする」という方向性が示されました。

すでに介護福祉士の資格をもっている方については、一定の期間内に「医療行為研修（仮称）」を受講していただいた上で申請をしていただくことにより、喀痰吸引・経管栄養の業務が可能になるような仕組みとなります。

日本介護福祉士会に求めること

法改正に伴い、今後介護福祉士への期待、求められる役割はより大きなものとなります。日本介護福祉士会には介護福祉士の資質と技術の向上を目指す組織として、新たな役割を担う介護福祉士に対して、引き続き十分なサポートを提供していただくことを期待しております。

そのためにも、組織率を向上させ組織基盤を強化し、より多くの会員からの意見をしっかりと吸い上げていただき、円滑な行政運営ができるようご協力下さい。

次に、これから認定介護福祉士（仮称）の制度構築が始まります。この認定介護福祉士（仮称）の検討は職能団体において実施することとされており、日本介護福祉士会にはしっかりとした制度構築をお願いします。

最後になりますが、様々な現場において実践のフィードバックをしていただき、会員間や、行政機関との十分な連携を図っていただきたいと思います。

介護職員等によるたんの吸引等の実施について

6月22日、「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」が公布されました。そのうち、介護福祉士に関係する部分の概要は次のとおりです。（詳細は厚生労働省令で定められる予定です。）

①介護職員等によるたんの吸引等の実施

介護福祉士及び介護職員等は、医師の指示の下、喀痰吸引及び経管栄養を行うことができるようになります。

平成27年4月1日以降に介護福祉士となる者については、介護福祉士養成カリキュラム又は実務者研修における基本研修が平成24年度からスタートする予定となっており、介護福祉士資格取得後に、都道府県知事の登録をうけた研修実施機関において実地研修を行うことになります。

また、現に介護福祉士である者及び介護福祉士以外の介護職員等が喀痰吸引及び経管栄養を行う場合、都道府県知事の登録を受けた研修実施機関において、基本研修及び実地研修を修了し、申請を行う必要があります。

②介護福祉士資格取得方法の見直し時期の変更

介護福祉士資格の取得方法について、養成施設卒業者に国家試験を課すことや、3年以上の実務経験者が国家試験受験資格を得るために、実務者研修を修了しなければならない等の見直しについて、平成24年4月1日から平成27年4月1日に施行時期が変更されました。

●介護職員等が実施できる行為の範囲

たんの吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）

口腔内、鼻腔内については咽頭の手前まで

経管栄養（胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養）

胃ろう、腸ろうの状態確認、経鼻経管栄養のチューブ挿入状態の確認は看護職員が実施

●登録研修機関

喀痰吸引及び経管栄養に関する法律制度及び実務に関する科目を行える機関であって、都道府県知事の登録を受けた機関が行うものとする。

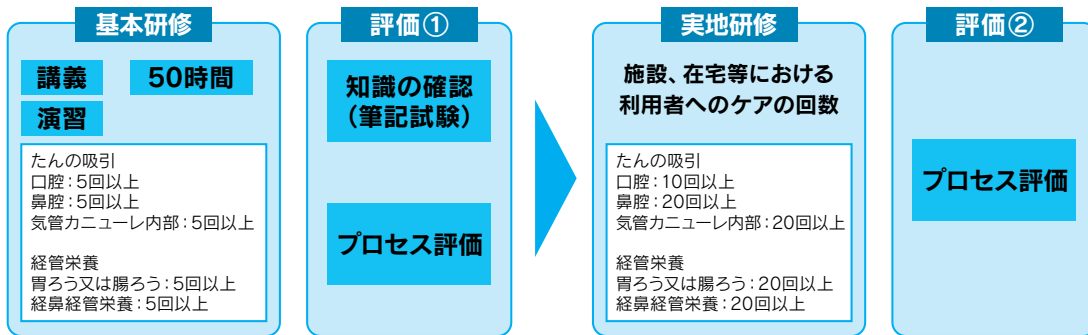
●登録事業者

事業の一環として、たんの吸引等の業務を行う者は、事業所ごとに都道府県知事の登録を受けなければならない。

（登録要件）

- ・医師、看護職員等の医療関係者との連携が確保されている。
- ・記録の整備その他安全かつ適正に実施するための措置を講じている。

■研修のイメージ



第9回介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会資料より

ソウェルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業（旅行・観劇・スポーツ大会等）

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町1-3-11
NBF小川町ビルディング10階

福祉で働く人の福利厚生を支援しています。

東日本大震災 災害ボランティアインタビュー

災害ボランティアと介護福祉士の専門性

東日本大震災に際して、日本介護福祉士会から被災地に行った災害ボランティアの方に、被災地での経験、感想についてお伺いしました。



福塚 恵氏

舟田 日本介護福祉士会では、東日本大震災に関して災害支援として災害対策本部を設置し、義援金の募集と宮城県へ災害時における生活支援ボランティア活動者の送り出しを行っています。今日は、そのうちのお一方に

来ていただき経験、感想

などについてお伺いします。

まずは、自己紹介をお願いします。

福塚氏 私は、介護福祉士を取得して4年目になります。現在は訪問サービス事業所に勤務しています。

舟田 今回、災害ボランティアに参加しようと思われたのは何故ですか。

福塚氏 災害ボランティアには以前より興味があり、参加したいと考えていました。今回の東日本大震災の後、被災地へボランティアをしに行こうと思いを集めていたところ、日本介護福祉士会で災害ボランティアを募集していることを知り、応募しました。

舟田 被災地には3回行かれたと伺っていますが、それぞれどのようなことをなされたのですか。

福塚氏 最初は4月に宮城県の福祉避難所に行き、福祉避難所の立ち上げをお手伝いさせていただきました。また6月には岩手県の避難所に行き、避難所でのサポートをしてきました。また、先日有志の仲間と6月に行った岩手県の避難所を再訪し、ボランティアとして1日お手伝いをしました。

舟田 介護福祉士として被災地支援の観点から気をつけたことは何かありましたか。例えば、医療系の職種で

は「命を助ける」という目的があり、被災者支援の具体的な項目がはっきりしていますが、介護福祉士の支援は生活支援が中心であり、具体的に何をするのか考えた時に、自立支援や他職種連携による情報共有、コミュニティーを混乱させない視点など、いろいろと難しい部分があったと思うのですが、その点はいかがでしたか。

福塚氏 現地で一番心がけたのは「寄り添った見守り」ということです。これは6月に行った時の話ですが、私が行ったときには既に避難所の中での人間関係や生活パターンができていました。以前に、あるボランティアが被災者自身で行っていた配膳作業を行ってしまい、その日以降被災者が自分で配膳を行わなくなってしまうという経験をし、悔しい思いをしたことがありました。そのため、そこでは既にある避難所の環境や状況を大切に、私たちが積極的に何かをするのではなく、私たちがその場において見守っていることによる安心を感じてもらえるように心がけました。

舟田 避難所で生活する方々の役割を守ることは生活を守ることにつながるので、もし役割を奪ってしまうと、生活する力を奪うことになりか



ねません。オムツの交換や食事の介助などのボランティアは勿論必要だと思いますが、それだけが介護福祉士の専門性ではないのではないか。被災者が必要とすることを発見して動き、その方ご自身の生きる力を引き出し、つなぐといったことが必要なのだろうと思う。



舟田 伸司
(日本介護福祉士会
常任理事)

福塚氏 例えば、被災の体験について自分から話す人、話さない人、新聞等の切り抜きをして記録をつけている人など様々な人がいました。こうした人たちに画一的な対応をとるのではなく、それぞれに適した対応をするようにしました。

舟田 介護サービスを提供する際には、個性性をしっかりと理解した上での、ご自身の動機づけが重要なポイントになっていると思います。そのほかに、何か感じられたことはありましたか。

福塚氏 ボランティアが被災者や支援先の施設から気を使われている、被災者がボランティアに遠慮をするというような場面がありました。人間関係が無い中での支援のあり方に課題があるのではないかと感じられました。また、やっと人間関係ができてきたころに帰らなくてはならないこともあり、歯がゆい思いをしました。スポットではなく長いスパンでボランティアが手伝えるような環境ができれば良いと思います。また、私たちのように何度も同じところへボランティアに行く人たちがいても良いと思います。

事務局 同じ施設に何度も行かれる方がいらっしゃるのですね。福塚さんも以前行かれた避難所にボランティアとして伺っていますが、その時の様子はいかがでしたか。

福塚氏 再びボランティアに行った時には、以前現地で知り合った方と連絡をとってからうかがいがありました。仮設住宅への移動が始まっていたのですが、昼間は仮設住宅から避難所にいらっしゃる方が多く、デイサービスのように、お茶飲みや体操、入浴サービスのような活動ができました。でも、避難所がなくなってしまうところした介護の場がなくなってしまうので、その点

が心配です。仮設住宅の連絡先を聞くことができたので、機会を作ってまた訪問できればと思っております。

事務局 今回、災害ボランティア派遣をする中で、派遣先の状況や時期などで変わるニーズに対応しきれない部分があり、コーディネートの難しさを感じました。災害ボランティアを体験された中で、感じられたこと、また事務局への要望などはございますか。

福塚氏 出発前に、先に現地でボランティアをされていた方との情報交換の場やコミュニティなどを設けていただいて、現地の状況や必要としているものについて、より多くの情報がいただけるとありがたかったと思います。

それから、ボランティアを通して介護職のみならず、他職種の方とも一緒に活動できたことはとても勉強になりました。

舟田 最後になりますが、この記事を読んでいる方へのメッセージをお願いします。

福塚氏 最近感じるのには、東日本大震災が忘れられてきているのではないかとということです。実際に周囲の反応が変わってきていて、4月に被災地へ行った時には「頑張ってきてね」という感じだったのが、6月に行った時には「また行くの?」という感じでした。

被災地では、仮設住宅への入居が始まり、避難所が閉鎖されてきています。その代わり、介護等のサポート拠点としてサロンが開設されていますが、仮設住宅からの通いやすさや生活パターンの変化などの課題があり、まだまだ支援が必要な状況が続いています。皆さんには、被災地がこのような状況にあることを知っていただき、今後も支援を続ける必要があることを忘れずにいていただきたいと思います。



川端 哲也
(日本介護福祉士会
事務局)

舟田 日本介護福祉士会としても、今回の被災地支援は貴重な経験になったと思います。今後もこのことを皆さんに伝えると共に、被災地支援のあり方を考える際の一助としてまいりたいと思います。今日は、ありがとうございました。

日本介護学会報告

去る7月9日、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）において第9回日本介護学会が開催され、全国各地より200人を越える参加者が集まりました。

日本介護学会は、城間雅己（沖縄県介護福祉士会会長）と、石橋真二（日本介護福祉士会会長）の挨拶で始まった。その中で、石橋真二（日本介護福祉士会会長）は、次期介護報酬改定の見直しに向けて、更に介護福祉士の専門性・評価を高めていくことが求められており、そのために介護現場での専門性を高めて国民に評価されること、また、介護現場からの発信力を高めて、教育・研究・実践に活かし、介護学・介護福祉学の構築につなげて行くことが大切であり、それを推進するのが日本介護学会の役割であると述べた。

引き続き、山城紀子氏（フリーライター）による記念講演「当たり前に向けて～障害者や『老い』の取材で考えたこと～」が行われた。その中で、「高齢者・障害者の取材をする中で、無自覚だった偏見や差別意識に気づいた。これか



山城 紀子氏
（フリーライター）

らの介護を考える際に、介護される側の人権に対する意識、また介護をする側の待遇に対する配慮が必要になってくる。日本介護福祉士会には、職能団体としてこうした介護の現状を国に訴えていく役割を果たして欲しい。」と述べられた。

午後は、宮国明美氏（沖縄コロニーセンター所長）を助言者として迎えた第1分科会と、金城要氏（医療法人おもと会沖縄リハビリテーション福祉学院介護福祉学科）を助言者として迎えた第2分科会の発表が行われた。

今年は計23本の研究発表が投稿され、査読委員により選考された調査研究15編、実践研究5編が発表された。

◆研究発表 第1分科会

宮国氏は研究発表より、超高齢化社会を迎え利

用者の持つニーズが変化する中で、介護の職務が提供者中心から利用者中心へ、介護から生活へ、与えるから支えるへと変化していることを実感したと述べた。

その上で、今後介護福祉士に期待することとして人間性・倫理性・安全性を重視した介護サービスを提供すること、根拠を持って介護過程の展開を実践することを挙げた。

- 1 介護過程展開状況からみた介護福祉士の専門性を高める取り組みへの課題
- 2 重度重複障害者の通所施設における医療的ケアー東京都の公立障害者通所施設調査からー
- 3 食物繊維を多く含む食事の摂取で便秘改善ー臨時の下剤使用回数を減らすためにー
- 4 介護福祉士養成施設の学生における終末期介護に関する意識調査ー喪失ゲームの体験を通してー
- 5 訪問介護員を対象としたアンケート調査結果からみた精神障害者訪問介護の実態
- 6 介護老人保健施設における学習療法をケアプランと連動させた効果を全般的認知機能検査法、機能的自立度評価法から探る
- 7 「福祉は人」人材の活かされる職場づくりー委員会再構築により職員のモチベーションを高めた取り組みー
- 8 介護業務マニュアル作成に関するー考察ーフローチャート、UML、ピクトダイアグラムの活用ー
- 9 口腔衛生における日常生活支援ー口腔衛生の視点から介護従事者のQOC（クオリティ・オブ・ケア）を考えるー
- 10 介護職におけるストレスと健康への影響に関する予備的研究

◆研究発表 第2分科会

金城氏は、研究発表の質の高さに驚かされ、専門職の重要性に気づかされたと述べた。一方で、研究発表の内容が聴衆に対して上手く伝わっていないのではないかと懸念があり、研究の発表方法の工夫をする必要があると述べた。

また、介護現場での他職種連携の必要性があり、そのためにも他職種と対等に相談できる立場を作っていくことが必要であると述べた。

- 1 ケア行為の適切さの判断基準についての調査研究
- 2 「生活支援技術」基礎教育内容の精選—介護教員と実習指導者への質問紙調査より—
- 3 介護予防体操の効果の検証—山口県介護福祉士会介護予防体操インストラクターの試み—
- 4 介護療養型施設でのレクリエーション活動の試み—患者の可能性を引き出す取り組み—
- 5 介護福祉領域における職能団体についての意識—山口県美祢市介護福祉士へのアンケート調査から—
- 6 介護予防サービス利用者の日常生活機能低下要因の調査研究
- 7 介護福祉士の現状と活性化の方向—介護福祉士の活動に対する意識調査から—
- 8 サービス提供責任者から見たチーム活動を困難にする要因—自由記述の分析結果から—
- 9 介護支援専門員の職務ストレス—把握の試み—
- 10 訪問介護事業所のサービス提供責任者による訪問看護職や介護支援専門員とのチーム活動の実践度の構造

閉会式において内田千恵子(日本介護学会委員長)は「日本介護学会は第9回を迎え、研究の質が上がってきた。介護を日本国民に理解してもらうためには理論が必要であり、そのためには研究をする、論文を書くということが必要である。みなさんには、これからも研究を続けていただきたい。」と述べた。

最後に、次回開催県の代表として村田美穂子(滋賀県介護福祉士会会長)が平成24年9月29日(土)にピアザ淡海(滋賀県大津市)で行われる予定の第10回日本介護学会の開催予告を行った。その中で「滋賀県では介護ゼミを開催し、現場にいる介護福祉士の論文に対する意識が上がってきています。また、滋賀県には史跡や琵琶湖、美味しい地元産の食べ物などがあり、楽しみにして来ていただければ幸いです。」と述べ、幕を閉じた。



専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

☆発行回数 年4回/夏・秋・冬・春号
 ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
 ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
 TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
 定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>
 郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

春号(23年3月発行)
 特集「地域包括ケア—地域で支える—」

夏号(23年6月発行)
 特集「介護サービス向上のためのセーフティマネジメント」

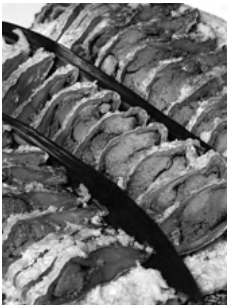
平成24年度日本介護学会開催県

滋賀県 ②

第二回目の今回の滋賀県の紹介は、ずばり「食」です。滋賀県が「近江 (おうみ)」と呼ばれていたことはご存知の方も多いと思いますが、「近江」といえば「牛」！と即答される人も多いほど、三大和牛の一つである「近江牛」は県の内外を問わず高い人気を誇っています。焼肉やしゃぶしゃぶ、ステーキで豪華に食するのもよいですし、最近ではお肉屋さんのコロッケやカレー、地元FM局と某コンビニとのコラボ肉まんなども登場し、コンビニや高速道路のパーキングなどでも手軽に味わうことができます。さて「近江」は更に昔にさかのぼると「淡海」と書かれていたという記録があり、文



近江牛



ふなずし

字通り「びわ湖」が中心だったことが良くわかります。そのため「湖魚」を中心にした郷土料理が多く、その中でもダントツに有名なのが「鮒 (ふな) ずし」です。塩漬にしたフナをご飯に漬け込んで発酵させた「なれずし」で、一説によると1,200年前から食されていたと言われ、昔から滋賀県では家庭で保存食としてつくられていましたが、近年では材料となるニゴロブナが少なくなったことなどもあり、鮒ずしをつくる家庭は少なくなり、高級食材となりつつあります。独特の臭みが特徴ですが、そのまま召し上がるもよし、またお茶漬けとしてサラサラと召し上がるのもよしだとか。また湖魚だけではなく、滋賀県は昔から物流、交通の要所であったことから福井と京都を結ぶ「さば街道」が滋賀を縦断しているため、鯖にちなんだ料理も多く存在しています。鯖寿司をはじめ、長浜名物の「焼き鯖そうめん」は地元で愛される郷土料理として有名です。滋賀県は昔からお米の生産地としても有名で、最近では「近江米」や「近江茶」が有名になってきました。

またお米がおいしいということは、それを材料にするお酒もおいしいということで、滋賀県内には有名な酒造会社が多く存在します。事務局の近くには、江戸城の築城にかかわったという太田道灌 (どうかん) ゆかりの「太田酒造」があり、また琵琶湖ワイナリーでは滋賀県産のワインやブランデーも人気となっています。そして忘れてはならないのが、スイーツ、お土産系です。最近では「バームクーヘン」で人気の高いクラブハリエ (たねや) や多賀大社名物、本当に糸で切っている「糸切餅」、武蔵坊弁慶の怪力にちなんで造られた大津名物「三井寺力餅」、そして滋賀県介護福祉士会一押し、太閤秀吉も食したという「うばがもち」などなど、ここで書ききれないほどです。

皆様、滋賀県にお越しの際は、ぜひ滋賀の各名物をご賞味あれ！

ふれあいケア

2011年
9月号
8月22日発行

●定価1,020円 (本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円 (10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 利用者が望む生活の実現

介護職員は、利用者の尊厳を守るために専門的知識や技術をもって日々介護にあたっています。本特集では、利用者一人ひとりの意向に合ったケアについてあらためて考えるとともに、個別ケアを実現するための課題解決、ケアプランづくりをどのように進めるかなど、利用者の望む介護の実現について考えます。

【解説】利用者の希望をかなえよう ほか 【実践レポート】利用者の希望や夢を実現する取り組み ほか

好評連載企画

- 介護現場のリスクマネジメント ●納得!リハ医の認知症解説 ●かけがえのないひとこと
- ふれあい訪問介護センター物語 ●フンポイント介護技術 ●認知症ケア相談室
- もっと・ぐっどコミュニケーション! ●Close Up福祉用具 ●介護の味方・看護の見方 など

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい (品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■

受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

福祉用具を活用しよう

財団法人テクノエイド協会

Part 1 起居 一起きることは生活の始まりー

今回は、「床から安全に、安心して、容易な立ち上がり」について解説します。

■立ち上がり動作に要求されていることとその解決策

「立ち上がり動作」で要求されることは、「布団からの立ち上がりや、床から立ち上がる場面はあるが、下肢の踏ん張りが弱く、不安定なので何かにつかまって立ち上がりたい。床から安定して立ち上がれるようになりたい。」というケースが多くあります。

これらの解決策としては、置き手すり、突っ張り棒形手すりなどの福祉用具の手すりを活用し、床からの立ち上がりを行いやすくします。また、環境によっては壁面に住宅改修の手すりを設置する方法もあります。

■床からの立ち上がりの適合条件

床から立ち上がる際は、以下の主な「環境条件」と「本人の条件」を考慮する必要があります。

【環境条件】

足下が安定していることが必要です。

- ・支えるものに安定感が必要です。
- ・立ち上がった後の移動動線の環境設定も必要です。
- ・安定性があれば、座卓などの家具も使える場合があります。
- ・床からの立ち上がりに無理や危険性がある場合、布団からベッドへ、和式生活から洋式生活へ生活スタイルを変えるようアドバイスすることも必要になります。

【本人の条件】

床からの立ち上がりが何とかできるだけの下肢機能や上肢の支え、立位バランスが必要です。

- ・膝や股、肩や手首の関節に著しい痛みがないこと。痛みがあると急な脱力を起こし、転倒する可能性があります。また立ち上がれないこともありますので、本人が和式生活にこだわっていても、洋式生活を提案することもあります。
- ・両下肢の筋力低下があっても、両上肢の筋力があれば、安定して立ち上がれることもあります。

■福祉用具の選定

【置き手すり】

①置き手すりの特徴

- ・置き手すりは、布団で寝起きする人や日常的に床に降りる生活スタイルの人が、床からの立ち上が

りの際に支えとして使う道具です。

- ・床からの立ち上がりが大変な人や持ち上げ介助が必要な人には不向きです。
- ・土台部分の重みで手すりは安定します。

②置き手すりの選定

床から立ち上がる際の置き手すりには、その形状や使用方法により種類があります。図1、図2の手すりは横手すりにつかまりながら立ち上がります。図2は立ち上がりの際の前方への重心移動が行いやすいように横手すりが階段状になっています。図3は支えることのできる台と、つかまる手すりからなります。台で支えているので臀部を持ち上げる際の重心の前方移動が行いやすくなっています。手すりの高さが調整できるので、その人の支えやすい高さや身長に合わせて調整できます。

③置き手すりの使い方

図1、2の手すりは、手すりまで座位移動、もしくは手足移動で近づき、横手すりを交互に支えながら、段階的に立ち上がります。

図3の手すりは、台を支えにして立ち上がり、手すりに持ち替え上体を起こしていきます。台を支えにしてしっかり体重を手に移動できるので、臀部を持ち上げやすいのが特徴です。

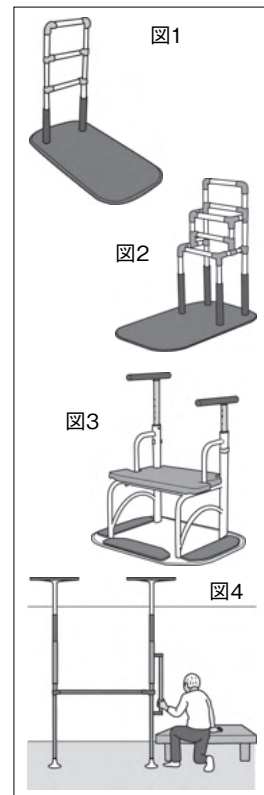
【突っ張り棒形手すり】

①突っ張り棒形手すり

床からの立ち上がりの際に、つかまって立ち上がる時の支えとして使用します。

②突っ張り棒形手すりの選定と使い方

一本のみ立てて、オプションのU字形手すりを設置したり、立ち上がった後の移動動線も含めてH型に組む場合もあります。座卓を支えにして片膝立ちとなり、突っ張り棒形手すり で立位になるといったコンビネーションもできます。(図4)



第18回全国大会開催県

知れば知るほど青森県 PartIV

食の宝庫青森！～来て観て感じて、丸ごと青森～

青森を紹介するのも最終回になりました。自然、街なみ、温泉そしてご当地グルメを紙面の許す限り、てんこ盛りで紹介いたします。

青森県は、四季がはっきりして、手付かずの自然が数多く残っています。その代表が、世界自然遺産に登録された白神山地。11月はトレッキングには遅いのですが、その懐にある日本キャニオンと呼ばれる山岳美と青インクを垂らしたような群青の青池らの十二湖や、変化に富んだ海岸線



十和田湖の紅葉

ギリギリを走るリゾートしらかみ号が人気です。樹氷と山岳スキーが有名な八甲田山、そこから続く紅葉の名所奥入瀬溪流と神秘的湖の十和田湖、青森を代表する観光地です。下北半島に

目を移すと、此の世の物とは思えない奇岩が続く仏ヶ浦、日本三大霊場の恐山、紅葉の葉研渓谷。津軽は信仰のお山霊峰岩木山、本州最北端で強風吹き荒れる、歌と階段国道で有名な竜飛崎。県南は天然の芝生が広がる八戸市の種差海岸とサーフィンのメッカ白浜海岸、ウミネコの繁殖地で有名な蕪島。青森市は縄文時代のイメージを覆した三内丸山遺跡等見どころ満載です。

温泉の数も日本有数で、八甲田山中にある千人風呂の酸ヶ湯温泉、吉田拓郎のヒット曲『旅の宿』が生まれた蔦温泉、ランプの宿で有名な青荷温泉、波打ち際に露天風呂がある不老ふ死温泉、漁火が見える海峡の宿、下風呂温泉、人気投票で常に上位の古牧温泉青森屋、その他こけしが有名な黒石温泉郷、青森市の奥座敷、浅虫温泉、岩木山のふもとの獄(だけ)温泉郷、スキーと出湯の大鰐温泉、秋田県境に近い碓ヶ関温泉郷等々。

青森の“三都物語”という、青森市、八戸市、弘前市ですが、それぞれが個性的です。青森市は、東北新幹線の終着駅で、北海道との玄関口でもあります。知る人ぞ知る“寿司の街”でお寿司屋さんが多く、どの店でもリーズナブルで新鮮で旬な魚介類が味わえます。「七子八珍」といって、



青森の珍珠「ふじつぼ」

他では余りお目にかかれない15種類の魚介類があり、特にお勧めは「フジツボ」という甲殻類で、カニとエビを合わせたような味です。駅前市場では、千円で好きな具材を自分で廻り、どんぶりに載せてもらう“のつけ丼”があります。

八戸市は、今回震災で津波の被害を受けましたが、やはり港町。漁業と工業の都市です。B級グルメ発祥の地で、せんべい汁は今や全国区。ウニとアワビが入った「いちご煮」、

イカやサバ(八戸前沖サバとしてブランド)の水揚げも多く、海産物なら何でもそろそろ八食センター、自動車まで売っている五百余りの店舗が軒を並べる館鼻岸壁の朝市は見て廻るだけでもわくわくします(他にも市内には古くからの朝市が多数あります)。また昭和にタイムスリップしたような飲食街「みろく横町」等、威勢のいい活気あふれた街です。



八戸屋台村「みろく横町」

弘前市は、みちのくの「小京都」といわれ、歴史と文化・学生の街です。築城400年の弘前城がある、桜で有名な弘前公園。古い街並みが残る一方、意外に多いのが、洋館や教会。ハイカラな先人達が残した遺産が受け継がれています。おいしい洋食屋さんが多いのも特徴です。その一方、小説や映画になった「津軽百年食堂」でも出た「津軽そば」は懐かしい味がします。勿論日本一のリンゴの生産地として、様々なスイーツや加工品があり、アップルパイは各店個性を出してのぎを削っています。弘前城菊と紅葉祭りは、11月13日まで開催されます。

まだまだあります。テレビ番組で紹介されブレイクした、青森シャモロック(鶏)や通称“源たれ”こと「上北農産加工スタミナ源たれ」。業界では最上級に位置づけられる“倉石牛”、志村けんさんも大絶賛の十三湖の大和シジミ、幻の淡水魚「イトウ」が食べられる鱒ヶ沢町、生産量日本一の高品質のにんにくと長芋は生は勿論、加工品も充実しています。全国大会が行われる11月は、リンゴの収穫が最盛期で、初めて見たり食したりする品種が数多くあるはず。100%ストレート果汁のジュースは誰もが納得。糖度抜群で日持ちするぶどう、スチューベンや都会では高級果物の洋梨、ゼネラルレクラークも旬。また、寒暖の差が大きい高原で出来た甘さ抜群の獄きみ(「きみ」とは津軽ではとうもろこしの意味)もお勧め。お馴染みの大間のマグロは10月から12月に掛けてが最盛期。また、意外かもしれませんが、アンコウも下北の隠れた名物です。アンコウの刺身もありますよ。県魚のヒラメや郷土料理の“じゃっば汁”に欠かせない冬の代表魚のタラ。寒い時期だからこそ、心に沁みる地酒を飲みながら青森の素材を活かした食文化を堪能して下さい。



大間のまぐろ

大会の懇親会では、青森の食材を活かしたメニューの他に、青森を代表するB級グルメ「八戸せんべい汁」、黒石市のつゆやきそば、青森市の生姜味噌おでん、最近評価の高い、十和田市のバラ焼き(牛肉と大量の玉ねぎを特性の甘たれで炒めた)の4品を皆様に振舞う予定です。ぜひご参加ください。

“頑張ろう東北”を合言葉に、今年の全国大会は特別な意味合いを持った大会になりました。東北人の真心と力を感じて下さい。東北全体が一つとなり、お待ちしております。

支部
リレー

都道府県介護福祉士会 情報交流の泉④ ◆熊本県

『火の国 熊本』よかところバイ!!

九州の中央に位置し、『九州のへソ』と呼ばれる熊本。九州各県へのアクセスも大変便利であり、九州新幹線の全線開通により、今まで以上に活気に溢れる『熱い』夏を迎えています。タレントのスザンヌさんが県の宣伝部長を務めており、



メディアを通じても全国区で熊本の話題を耳にする機会も増えていきます。出身著名人は、スザンヌ、くりいむしちゅー、内村光良(ウッチャン)、コロッケ、古閑美保(ゴルフ)、秋山幸二(野球監督)、福田沙紀、倉科カナ、森高千里、水前寺清子、八代亜紀・・・などなど。この紙面では書き切れないほど第一線で大活躍中の方から大御所まで幅広く、大自然にも囲まれた「地」の魅力もちろんですが、「人」の魅力にも溢れる土地柄です。

そんな熊本は、福祉・介護に関するホットな話題も豊富です。まず、県民に対する認知症サポーターの数が全国ダントツ1位!これは、県知事自らが全国の知事に先駆けてサポーター講座を受講し、県民に広く呼びかけた結果といえます。認知症疾患医療連携についても先進県として『熊本モデル』といわれる取り組みが進められており、医療・保健・福祉の連携をより一層深めています。また、その中でも今年最大のイベントとして、『火の国に燃えろ!ねんりん 夢・未来』第24回全国健康福祉祭くまもと大会 ねんりんピック2011熊本が10月15~18日に開催されます。

ASO坊健太くんをマスコットにしたキャラバン隊や、平均年齢60歳以上の県民で結成された広報サポーター『かせしょう隊(方言:加勢をするの意味)』の皆さんが、開催に向けPR活動を行っています。全国から集まる選手団や応援団の皆さんに、楽しくたくさん思い出を作っていただけるよう、熊本県介護福祉士会も微力ながら実行委員として盛り上げていきます。

介護の日関連イベントも、『介護の日inくまもと2011』と題し、県・各施設協議会・養成校協会・福祉系高校・社協など関係団体と連携し、これからの人材にスポットをあてた参加型イベントを企画中です。

世界に誇るカルデラ『阿蘇』のごとく、ホットで熱い熊本!!水前寺公園や熊本城など歴史的な名所も数多く、馬刺しや辛子レンコン等の地元グルメも豊富です。



見ごたえ!遊びごたえ!
え!食べごたえ!満載の熊本に「是非遊びに来てはよ!!良かトコば~い!!」
次回は三重県へバトンタッチ!



どこさ、どこさ、くまもとさ、
くまもと
Kumamoto

イラスト・写真:熊本県 商工観光労働部(観光経済交流局) 観光課・ねんりんピック推進課 提供

第18回 全国大会inあおもり

1. 日 程 平成23年11月10日(木)～11日(金)
2. 場 所 ホテル青森(青森県青森市)
3. テーマ 「介護福祉士を いかす・のばす・はぐくむ!!」
～介護と医療の連携を目指した人材育成～
4. プログラム概要
(11月10日)
基調講演 厚生労働省(予定)
記念講演 川口 淳一郎氏(JAXA宇宙航行システム研究系教授)
報 告 「震災への取り組みについて」(予定)
(11月11日)分科会
第1分科会「施設における介護と医療の連携を目指した人材育成について」
第2分科会「在宅ケアにおける介護と医療の連携を目指した人材育成について」
第3分科会「新人が思う介護福祉士像～介護と医療の現状を踏まえた意見」
特別講演 小枝 淳一氏(青森慈恵会病院緩和ケア科総括部長)
シンポジウム

参加申し込みと併せて分科会での発表事例を募集しています!

職場での取り組みを全国の仲間に発表してみませんか
詳しくはホームページをご参照ください。

問い合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810
URL : <http://www.jaccw.or.jp/>
MAIL : webmaster@jaccw.or.jp

近畿ブロック研修会

1. 日 程 平成23年10月2日(日)
2. 会 場 アバンティ9階
龍谷大学アバンティ響都ホール
3. テーマ 「地域で暮らしを つなぐ・支える 実践力」
4. 問い合わせ
一般社団法人京都府介護福祉士会
TEL.075-801-8060 FAX.075-801-8083

九州ブロック研修会

1. 日 程 平成23年11月25日(金)～26日(土)
2. 会 場 ユトレヒトプラザ(ハウステンボス内)
3. テーマ 「介護福祉士の専門性を活かした生活支援
～これからの介護福祉士の専門性とは～」
4. 問い合わせ
一般社団法人長崎県介護福祉士会
TEL.095-842-1237 FAX.095-842-1310

「日本介護福祉士会ニュース」アンケートについて
アンケートへのご協力、ありがとうございます。
アンケートにご回答いただいた方の中から、厳正な抽選を行い、下記の方に記念品をお送りいたしました。

【当選者会員番号】	012334	050590
080568	132325	210592
282960	332697	351838
		441637

日本介護福祉士会ニュースに投稿してみませんか?

採用された方にはもちろん1000円分のクオカードを差し上げます! 詳しくはホームページをご覧ください。

都道府県介護福祉士会研修情報

富山県介護福祉士会

平成23年度「よくする介護」研修

第3回「よくする介護」アセスメント、「活動」のレパートリーとバラエティ

第4回 目標指向的アプローチ(多職種とチームアプローチ、自己決定権尊重)

- 日程 第3回 平成23年10月29日(土) 10:00～16:00
第4回 平成24年1月21日(土) 10:00～16:00
- 場所 第3回 富山短期大学 第4回 富山大学
- 講師 大川 弥生氏(独立行政法人 国立長寿医療研究センター 生活賦活研究部部長)
- 受講料 各回 会員5,000円、一般7,500円、学生500円
- その他 テキスト代1,600円
- 定員 200名 ●締切 10月14日(金)

認知症ケアシリーズ

～どんでん返しの認知症ケアとレクリエーション～

- 日程 10月30日(日) 9:30～16:00
- 講師 奥 幸博氏(財)日本レクリエーション協会公認
レクコーディネーター、福祉レク・ワーカー)
- 受講料 会員5,000円、一般7,500円 ●定員 60名
- 場所 サンシップとやま ●締切 10月7日(金)

介護予防体操指導者養成研修(全4回)

- 日程 第1回 10月15日(土) 9:30～17:00
第2回 10月16日(日) 9:30～16:30
第3回 10月29日(土) 9:30～16:30
第4回 10月30日(日) 9:30～16:30
- 講師 大田 仁史氏(茨城県健康プラザ管理者)
- 場所 第1回は自治労とやま会館 他はサンシップとやま
- 受講料 (全4回) 会員20,000円 一般30,000円
- その他 テキスト代4,568円 ●締切 9月30日(金)
- 問合わせ 一般社団法人富山県介護福祉士会
TEL 076-422-2442 FAX 076-422-0440

愛媛県介護福祉士会

平成23年度介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修会

- 日程 10月17日(月)・18日(火)・24日(月)・25日(火)
- 場所 みゆき会館(松山市内)
- 定員 60名(一事業所につき二名までの参加となります)
- 参加費 会員20,000円、非会員31,000円(資料代を含む)
- 申込締切 9月12日(月)
- 問合わせ 一般社団法人愛媛県介護福祉士会
TEL 089-987-8123

会員の皆様へ

- 機関誌などの郵送物発送、研修会参加時の会員価格適用、書籍購入時の割引適用などのサービスは会費の納入が確認できた会員様のみ提供させていただきます。
- 婚姻等による姓の変更や、ご住所・ご連絡先、ご勤務先などの登録情報に変更があった際は、必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。
- やむをえずご退会をされる場合は、所定の様式により、退会申請して下さい。なお退会される場合でも当該年度に在籍されている場合は会費をお支払いいただく必要がございますので、ご了承ください。
- 当会は4月1日～3月31日までの年度制をとっております。
- ご不明点等ございましたら、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。
(電話03-3507-0784 E-mail:webmaster@jaccw.or.jp)
- 職場などお近くのお知り合いで会に未加入の方がいらっしゃる際は是非とも入会をおすすめいただきますようお願い申し上げます。



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.106
10月15日号
 平成23年(2011年)

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

認定介護福祉士(仮称)の検討を進めています

日本介護福祉士会では、平成23年1月にまとめられた「今後の介護人材養成の在り方について」の報告書に基づき、認定介護福祉士(仮称)の検討を行っています。

検討会は、学識者や関連団体の委員で構成し、オブザーバーとしての厚生労働省の協力を得て進めています。検討会設置要綱及び第1回検討会の次第は次のとおりです。詳細及び今後の検討状況はホームページにて随時更新していく予定です。

認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会 設置要綱

社団法人日本介護福祉士会

1. 趣旨

「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」報告書(平成23年1月)において提言された「認定介護福祉士(仮称)」について、その在り方・仕組み等を検討し、早期に具体化を図るため、有識者による検討会を開催する。

2. 検討項目

- ・認定介護福祉士に求められる役割
- ・認定介護福祉士に求められる知識・技能
- ・具体的なスキーム
- ・その他

3. 構成員

別掲のとおりとする。

なお、必要に応じて、検討会の下に部会を設置し、実務的な検討作業を行うものとする。

4. 検討会の運営

- ・検討会は、日本介護福祉士会会長が招集する。
- ・検討会の運営に係る庶務は、社団法人日本介護福祉士会が行う。
- ・検討会の議事は非公開とするが、検討状況は適宜公開する。

認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会 (第1回) 議事次第

日時 平成23年8月11日(木) 18:00~20:00
会場 航空会館 201会議室

1. 開会

2. 議事

- (1) 認定介護福祉士(仮称)について
- (2) 調査部会の設置について
- (3) その他

3. 閉会

配付資料

- 資料1 認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会 設置要綱
- 資料2 認定介護福祉士制度構築に関する研究実施計画
- 資料3 介護福祉士を取り巻く現状について
- 資料4 認定介護福祉士(仮称)検討の視点
- 資料5 認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会 調査部会の設置について
- 参考資料 今後の介護人材養成の在り方に関する検討会報告書

認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会 構成員名簿(五十音順、敬称略)

安東 真	民間事業者の質を高める全国介護事業者協議会研修担当研修室長
石橋 真二	社団法人日本介護福祉士会会長
遠藤 英俊	国立長寿医療研究センター内科総合診療部部長
◎太田 貞司	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授
久保田トミ子	新見公立短期大学地域福祉学科教授
柴山 志穂美	株式会社グラフィックス研修部長
田中 博一	社団法人日本介護福祉士養成施設協会副会長
種元 崇子	一般社団法人日本在宅介護協会業務委員会委員
○栃本 一三郎	上智大学総合人間科学部学部長
廣江 研	全国社会福祉施設経営者協議会介護保険事業経営委員長
藤井 賢一郎	日本社会事業大学専門職大学院准教授
本間 達也	公益社団法人全国老人保健施設協会常務理事
眞下 宗司	全国身体障害者施設協議会副会長
梶田 和平	公益社団法人全国老人福祉施設協議会介護保険委員会委員長

◎は本検討会の委員長、○は副委員長を示す。
(第1回検討会にて選出)

次期役員選挙について

この9月11日(日) 本会事務局において第1回選挙管理委員会が開催された。委員会は、始めに愛知県介護福祉士会所属の沖田健太郎氏を委員長に選出、議案の検討に入った。次期役員選出に関するスケジュール確認と今回公示される「役員候補者選出に関する公示」を定めた。今回は法人化後5回目の選挙となる。

役員候補者選出に関する公示

以下のとおり、社団法人日本介護福祉士の役員候補者選出を行いますので公示致します。

平成23年10月15日

社団法人日本介護福祉士会 選挙管理委員会

- 1 選出する役員候補者の構成および人数
 - ①正会員以外の理事 9人
 - ②正会員理事 19人

【正会員理事の内訳】

 - (1) ブロック選出理事 6人(下記6ブロック各1人)
北海道・東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州
 - (2) 全国選出理事 13人
- 1 選出する役員の任期
平成24年5月の通常総会から平成26年の通常総会まで
- 1 選出時期および選出方法
 - ①ブロック選出理事
平成23年11月30日(水)
ブロック内支部会長により構成するブロック選考委員会の合議により選出する。
 - ②全国選出理事
平成24年1月20日(金)【注：第3回選挙管理委員会実施時】
全国選出理事立候補者に対する代議員の郵送による投票により票数上位13人を当選者とし選出する。
- 1 全国選出理事立候補の受付
 - ①立候補受付期間
平成23年11月14日(月)～11月25日(金)
郵送によることとし、締切日以降の消印書類は受け付けない。
 - ②受付・郵送先
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
西勘虎ノ門ビル3階
社団法人 日本介護福祉士会 選挙管理委員会
- 1 立候補者の要件
 - ①立候補者は、正会員でなければならない。
 - ②立候補者は、正会員20人による推薦がなければならない。
- 1 立候補の方法
立候補は、以下の書類を郵送により提出するものとする。
 - ①役員立候補届 (様式 選-1)

②役員立候補者推薦書 (20人分) (様式 選-2)

③役員立候補者推薦理由書 (様式 選-3)

④役員立候補者公示用原稿 (様式 選-4)

なお、上記の指定様式以外を用いた場合及び書類が一つでも欠けている場合は受け付けないものとする。

1 禁止事項

- ①ブロック選出理事は全国選出理事に立候補することはできない。
- ②推薦者は同時に複数の立候補者を推薦することはできない。
- ③推薦者は立候補できない。
- ④選挙管理委員は立候補できない。また、立候補者を推薦できない。
- ⑤代議員は立候補できない。立候補する場合は代議員を辞任しなければならない。

※ 補足事項

- ①選挙管理委員会は、役員選出にかかる事務すべてを管理します。
- ②立候補に必要な書類(上記別記様式)は、請求により本会事務局より送付致します。また、本会ホームページからもダウンロード(PDF書類)が可能です。
- ③立候補者名簿は、12月15日に本会ニュース及びホームページを通じて公示致します。
- ④正会員以外の理事候補者及び監事候補者は、規定により本年度内の理事会において選出致します。
- ⑤選挙管理委員会は、役員候補者名簿(正会員以外の理事、ブロック選出理事、全国選出理事、監事各候補者の名簿)を整え、平成24年度通常総会に提出致します。総会において役員の選任(承認)を行います。
- ⑥総会において役員の承認が得られ、正式に理事に就任した後理事会を開催して、予め「役職選考会」で内定した候補者を役職者に決定致します。

選挙管理委員会 委員名簿

ブロック	氏名(所属支部)
北海道・東北	安井 真木子(青森)
関東・甲信越	斉藤 ひとみ(千葉)
東海・北陸	○沖田 健太郎(愛知)
近畿	宮野 ひとみ(大阪)
中国・四国	佐井 健二(高知)
九州	藤花 由美子(大分)

※氏名の前○印は、委員長

厚生労働省のパブリックコメントに意見提出

「社会福祉士及び介護福祉士法施行規則等の一部を改正する省令案等」及び「介護職員等によるたんの吸引等の実施」について行われていた厚生労働省のパブリックコメントに対して、日本介護福祉士会は9月9日に意見を提出しました。

提出に先立ち、ご意見をお寄せいただいた会員の方に、この場を借りて御礼申し上げます。

提出した意見の主な内容は次のとおりです。

社会福祉士及び介護福祉士法施行規則等の一部を改正する省令案等に関するご意見募集（パブリックコメント）について

社団法人 日本介護福祉士会
会長 石橋 真二

意見 講師要件等について

実務者研修は、介護福祉士として必要な知識・技術を教授するものであることから、介護福祉士養成課程と同様に、「教育」の視点を十分に備えた者による研修とする必要がある。このことから、実務者研修教員及び「医療的ケア」科目を教授する教員、「介護過程Ⅲ」科目を教授する教員として、必ず教育の視点を十分に備えた者を登用するシステムとしていただきたい。また、「医療的ケア」科目を教授する教員にあっては、「医療的ケア教員講習会修了者等であって、かつ、医師、保健師、助産師又は看護師の資格を取得した後5年以上の実務経験を有する者」とされているが、科目の内容によっては、介護教員講習会修了者等も対象となるよう検討いただきたい。

なお、当該省令案では示されていない「医療的ケア教員講習会」には、必ず教育方法を学ぶ科目を盛り込んでいただきたい。

おって、実務者研修教員講習会で開講する「介護教育方法」「介護過程の展開方法」科目が、介護教員講習会で開講する科目と同様の内容であれば、介護教員講習会修了者にあっては、当該科目の履修を免除としてかまわないのではないかと。

意見 読替対象の研修について

実務者研修の読替対象として取り扱う研修は、「地域の団体等が行う研修であって」とされているが、本会が全国規模で（又は都道府県をまたいで）開催する研修等についても、一定の内容・質が担保されていると確認されたものにあつては、読替対象の研修として取り扱っていただきたい。

介護職員等によるたんの吸引等の実施に関するご意見募集（パブリックコメント）について

社団法人 日本介護福祉士会
会長 石橋 真二

意見 確かな知識・技術を獲得できる研修実施体制の確保について

介護福祉士等による喀痰吸引等の行為が、現場において安全安心に提供され、利用者の利益に反することのないよう、知識・技術を備えられる研修実施体制を確保いただきたい。特に実地研修にあっては、その研修の内容・質の確保を図るためにも、職場内研修（OJT）だけでなく、職場外研修を積極的に活用できるようにしていただきたい。また、併せて、当該行為を実施する介護福祉士等に過剰な負担をかけないリスクマネジメントシステムの構築をお願いしたい。

意見 登録事業者の登録要件について

登録事業者の登録要件として、喀痰吸引等の行為を担える介護福祉士等の配置数を明示いただくとともに、介護福祉士等に対する定期的な継続研修を位置づけていただきたい。

意見 喀痰吸引等を介護福祉士等が実施できる登録事業者に対する介護報酬の加算について

医療ニーズに適切に対応できる、医療と介護の連携体制及び安全確保措置等が整備された事業者として評価し、当該事業者に一定の介護報酬の加算を認めるべきである。

意見 介護福祉士等と医療職が行う喀痰吸引等業務の位置づけについて

介護福祉士等による喀痰吸引等の行為は、生活支援の一環として実施するものであることを、関係各位が当該法改正の主旨を誤って認識することがないように、十分に周知徹底いただきたい。

「介護職員処遇改善交付金の効果等に関する調査」の結果について

日本介護福祉士会では、今年7月から8月にかけて「介護職員処遇改善交付金の効果等に関する調査」を行い、このたび調査結果をまとめましたので、その概要をお伝えいたします。

平成21年より行われている介護職員処遇改善交付金が、介護従事者の処遇改善にどのような影響を及ぼしたのかについて、調査結果をもとに分析し、今後当会が行う政策提言に活用していきたいと考えています。

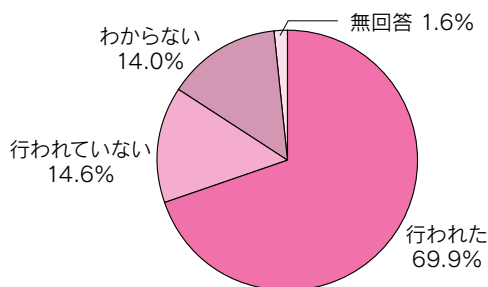
本調査にご回答いただいた会員の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも介護福祉士の社会的地位の向上に向けて、ご協力いただきますようお願いいたします。

(調査結果の全文は日本介護福祉士会ホームページをご参照ください。)

○介護職員処遇改善交付金制度導入後の処遇改善の状況

介護職員処遇改善交付金制度導入後の処遇改善の状況を見ると、「行われた」が69.9%であり、「行われていない」は14.6%であった。このことから、介護職員処遇改善交付金制度の導入により、一定の成果が出ていることが分かる。

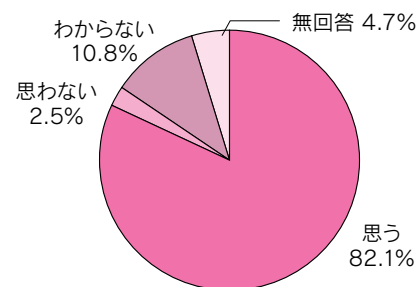
問12 平成22年度の介護職員処遇改善交付金による処遇改善の有無 (n=2,465)



○介護職員処遇改善交付金事業の必要性

介護職員処遇改善交付金事業の必要性では必要だと「思う」が82.1%であり、次いで必要か「分からない」の10.8%であった。また、介護職員処遇改善交付金事業が必要だと「思わない」は2.5%であった。

問24 介護職員処遇改善交付金事業の必要性 (n=2,465)

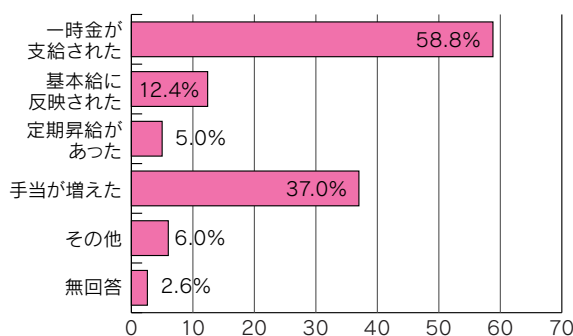


○介護職員処遇改善交付金制度導入後の処遇改善の内容

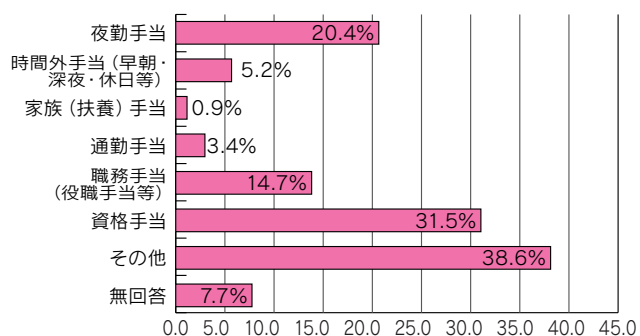
介護職員処遇改善の有無で「行われた」と回答した人の処遇改善の内容を見ると「一時金が支給された」が58.8%と最も高く、「手当が増えた」37.0%が次に高い。

処遇改善の内容で「手当が増えた」と回答した人の手当の内容を見ると、「資格手当」が31.5%、「夜勤手当」が20.4%となったほか、「その他」が38.6%となった。

問13 処遇改善の内容 (n=1,722)



問14 各種手当の引き上げ又は新設について (n=638)



○介護職員処遇改善交付金制度導入後の職場の変化

介護職員処遇改善交付金制度導入後の変化を見ると、「教育・研修」に関わる項目で「充実した・なった」が高くなっており、特に「問15-6. 職場での研修計画が示されるようになったか」で「充実した・なった」が62.9%となっている。

また、「問15-1. 職員の増員」について「改善された」が23.4%、「問15-10. 定期的なミーティングによる職務上のコミュニケーションの充実が図られるようになったか」について「これまでより充実した」が19.4%となっている一方、多くの設問で「これまでと変わらない」が6割程度となっていることから、より一層内容を工夫・改善したうえで、介護職員処遇改善交付金を継続していく必要があると考える。

処遇全般について	改善された	これまでと変わらない	悪くなった	わからない・その他	無回答
問15-1. 職員の増員	23.4	62.9	10.0	-	3.7
問15-2. 有給休暇の取得促進等について	10.7	78.8	4.7	2.6	3.2
問15-3. 昇給又は昇進・昇格要件について	12.9	68.6	2.4	12.9	3.3
問15-4. 非正規職員から正規職員への登用ルートについて	12.9	以前からある 34.5	設けられない 19.5	29.2	3.8

教育・研修について	充実した・なった	これまでと変わらない	悪くなった	無回答
問15-6. 職場での研修計画が示されるようになったか	62.9	18.5	14.4	4.3
問15-7. 資格取得や能力向上に向けた研修会等が充実したか	32.5	63.4	1.7	2.5
問15-8. 資格取得や外部研修参加に係わる費用等の職場から負担してもらえるようになったか	25.3	68.6	2.0	4.1

職場環境について	これまでより充実した	これまでと変わらない	以前から十分充実している	これまでより悪くなった	無回答
問15-10. 定期的なミーティングによる職務上のコミュニケーションの充実が図られるようになったか	19.4	52.6	22.7	3.4	1.9
問15-11. 腰痛対策、メンタルケア等を含めた健康管理面が充実したか	12.9	73.4	9.0	2.8	1.9
問15-12. 出産・子育て・家族等の介護を行う職員への支援強化が図られるようになったか	12.7	64.6	17.8	1.9	2.9
問15-13. 事故やトラブルへの対応に関する業務体制の整備がなされたか	16.9	60.9	18.1	1.5	2.5

※「問15-5」及び「問15-9」は省略

中国四国ブロック研修会報告

一般社団法人島根県介護福祉士会 会長 山本克哉

平成23年8月27日・28日 島根県松江市において、日本介護福祉士会第17回中国四国ブロック研修会が開催されました。

このたびの研修会テーマには「どげだや!? 今からやらこい!!!」を、サブテーマには～「自立支援の鍵」と「介護の楽しさ」で、しっかり考える～を掲げました。

島根県は今年の国勢調査の結果、全国で高齢化率第2位となりましたが、『介護』を必要としている方々の県内における現状は一つ変わりなく、「自分達はどうあるべきか?」を大会開催一年前より検討を重ねました。

そこでは、「例えば個別援助計画上、「意欲の向上」「生活のハリ」云々記載するも、利用者の方々の「元気」を提供する側が「元気」でなくて、また「意欲的」でなくて何を成しえよう…介護福祉士の「専門性」と「元気」を考えてみては」との意見がありました。内容の検討を重ね開催した結果、300名に迫る県内のみならず各県からの参加者をお迎えすることができ、大成功のうちに閉会することが出来ました。

振り返ってみますと、語り尽くせないほどのエピソード

があります。講演でのマル秘話や、約300名のグループワーク、各県お土産争奪ビンゴゲームなど…。

中でも大会準備運営進行する中で理事・役員の方々、50名以上の社会人並びに学生ボランティア有志、各県代表の実践報告・研究発表者、30才以下の青年介護福祉士の叫び、人の皆様…お一人お一人が『お客さん』でなく『主催者の心』で挑んで頂けたということが、最高の喜びで「もし、この中の一人が抜けても喜びはなかった」「ここから良かった」という参加役員や一般参加者を含めて若い人たちが多く、次世代を叫べる人材を育成する大きな機会となりました。

最後になりましたが、残暑の候、またご多忙中、ご協力ご参加いただきました皆様重ねて御礼申し上げます。



介護福祉士による医療行為実施について

社団法人日本介護福祉士会 副会長 内田千恵子

平成23年6月22日、「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」が公布され、平成24年度から一定の研修を受けた介護職が医療行為の一部を実施できるようになります。

介護福祉士の登録をすでに受けている方々（平成27年4月1日時点）等は特定研修課程を修了し、厚生労働大臣に申請すると、（平成27年4月1日から10年間）特定登録証が交付されることになっています。平成27年4月1日以前に喀痰吸引等を行う必要のある方は、都道府県知事またはその登録を受けた研修機関が実施する喀痰吸引等研修の課程を修了し、認定を受けることとなります。

介護福祉士が一部の医療行為を実施することについては、賛成、反対さまざまな考えがあると思います。たんの吸引等を必要とするご利用者が増加しているにもかかわらず、医療職の不足等の事情により十分なケアが受けられない状態の高齢者が増え、当面のやむを得ない措置（実質的違法性阻却）として、在宅、特養、特別支援学校等で介護職員によるたんの吸引等が行われるようになってきました。その他のところでは、事業所の責任も不明確なうえ、十分な研修もないまま、暗黙の了解のもとに介護職員によって医療行為が実施されていた現実があります。このような経緯を考えると介護職員による医療行為が法律により定められ、制度として実施するようになることはよかったですと言わざるを得ません。

また、ご家族の負担も大きく、家族がやっているような医療行為については介護福祉士もやってほしいという要望はずっとありました。日本介護福祉士会は介護福祉士のためだけにあるのではなく、ご利用者、国民の期待に応えていく必要があります。

たんの吸引等については事故が起きたらと心配する方も多いと思います。通常の介護中に起きる事故への対応策と同じように、常日頃からご利用者の状態を把握しておくこと、そのためには観察や情報収集を怠らないこと、知識や技術を身につ

け、手順を守ることなどが大事なのではないでしょうか。事業所でも緊急時に適切に対応できる体制を作るなど、安全に実施することを最優先し、医療職と連携しながら実施することで、事故はかなり回避できるはずです。

引き受けた医療行為を確実に実施するのは当然のことで、医師、看護師の指示や指導を守らなければなりません。医療職の指示ということに過敏に反応する人もいますが、たんの吸引等はあくまで医療行為ですから当然です。一方、医療行為の一部を実施するからと言って、医療職になるわけではありません。介護福祉士本来の生活支援についての専門性が揺らぐものではありません。介護福祉士としての生活支援の視点を持ち続けることが重要なことです。たんの吸引等の技術や行為が目的ではなく、ご利用者の状態や気持ちなどを知り、QOLを向上させるようにすることが求められています。胃ろう等の経管栄養にならずに経口摂取できるように考えたり、自力排痰できるような介護について考えることが利用者にとって大事なことなのです。重度化して経管栄養等に移行したとしても、多くの利用者が医療処置や医療的ケアを受けるのは24時間の中の、ある時間だけのことです。それ以外の生活時間について心身共に安心でき、快適な生活になるような介護サービスを考え、実施することこそ大事です。



「介護の日」イベント予定表

支部	日程	実施場所	支部	日程	実施場所
青森	11月10日	青森空港、JR新青森駅、青森駅	京都	11月5、6日	5日: 福知山ジャスコ前、JR亀岡駅前 6日: 宮津ミップル、京都タワー前、宇治市生涯学習センター
宮城	11月12日	仙台市青年文化センター前			大阪
秋田	11月5日	秋田駅東西連絡自由通路(通称ポポロード)	兵庫	11月11日	
山形	10月上旬	県内4地区	奈良	11月3日	奈良近鉄駅前
福島	11月11日	郡山市ビイックパレットふくしま	和歌山	11月11日	県民交流プラザ和歌山ビッグ愛
茨城	11月3日	つくば国際会議場・多目的ホール	鳥取	11月11日	イオン鳥取北ショッピングセンター、 ショッピングセンター パープルタウン、 イオン日吉津ショッピングセンター
栃木	11月11、12日	とちぎ健康の森			岡山
群馬	11月12日	前橋市ひろせ老人福祉センター	広島	11月12日	福山市西部市民センター
埼玉	11月11日	JR浦和駅西口、伊勢丹側	山口	11月13日	山口県セミナーパーク
千葉	11月23日	木更津グリーンシティ	香川	10月23日	ゆめたうん丸亀 1階中央ブース
東京	11月13日	東京国際フォーラム	愛媛	11月上旬	松山市近郊
神奈川	11月11日	ひろめ隊: 横浜駅前	高知	11月5、6日	中央公園
		公開セミナー: かながわ県民センター	福岡	11月11日	福岡県介護福祉士会事務局内
新潟	11月5日	新潟ユニゾンプラザ	佐賀	11月11日	佐賀駅
富山	11月11日	JR富山駅前、JR高岡駅前、 JR魚津駅前	長崎	10月16日	佐世保市体育文化館
石川	11月12日	石川県女性センター	熊本	11月13日	くまもと県民交流館パレア
福井	11月5、6日	アオッサ4Fギャラリー	大分	11月6日	大分県社会福祉介護研修センター
山梨	11月11日	甲府駅前、山梨市駅前、 甲斐住吉駅前	宮崎	10月8日 11月13、27日	8日: 宮崎保健福祉専門学校 13日: 宮交シティ、 27日: 九州保健福祉大学
長野	11月5日	飯島町文化館			鹿児島
岐阜	11月6日	イオン各務原ショッピングセンター 1F ふれあいコート	沖縄	11月10日	浦添市てだこホール
静岡	11月13日	シズウェル静岡県総合社会福祉会館			
愛知	11月11日	オアシス21銀河の広場			
三重	11月6、11、 16日	6日: イオン伊勢店、11日: 津駅			
		16日: 三重県総合文化センター			
滋賀	11月11日	イオンモール草津1Fセンターコート			

ソウェルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115か所
会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部
他 全国239か所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町1-3-11
NBF小川町ビルディング10階

福祉で働く人の福利厚生を支援しています。

福祉用具を活用しよう

公益財団法人テクノエイド協会

Part 1 起居 一起きることは生活の始まりー

今回は、「昇降座いすを使用した立ち上がり」について解説します。

「床で生活しているが、立ち上がれない。しかし、和式生活を継続して生活したい。」あるいは、「床に降りたり、立ち上がったりする生活を継続したい。」というケースも多くあります。

このような場合には、昇降座いすを利用し、床からの立ち上がり動作を自力で行えるようにする方法もあります。

■昇降座いすにより期待できる効果

昇降座いすを使用することにより様々な効果があります。

- ・床からの立ち上がりが困難でも、「床座位」から「いす座位」に移れます。
- ・和式生活の継続が可能となります。

■床からの昇降座いすによる立ち上がりの適合条件

昇降座いすを使用することは、生活様式やQOLの効果がありますが、十分に効果をあげるためには、次のような条件が重要となります。

【環境条件】

昇降座いすを置くスペースが必要となります。座卓で使用する場合は、いすとテーブルの間に本人の脚が無理なく収まる奥行きが必要となります。

【本人の条件】

自力で床を移動し、床まで下げた昇降座いす (一般的に数cmの高さがある) に座り、昇降操作ができることが必要となります。

■昇降座いすの選定

①昇降座いすの特徴

昇降座いすは、床面からいす座面程度の高さまで昇降する機能があり、床の生活といすや車いすの生活の共有を可能にします。

②昇降座いすの選定

座面が昇降するだけでなく、乗り移りしやすいように、座面が左右に回転するものや、肘掛けが跳ね上げられるもの、座面が前後するものなどがあります。

最低座面高さが機種によって異なり、座面は一般的には5~6cm程度の厚みがあります。

本人の段差乗り越え能力、いすとして使用するか、移乗用具としてだけ使用するか、などを勘案して選定します。



③昇降座いすの使い方

一般的には昇降座いすの肘掛けについている操作レバーを操作して昇降します。

今回は、「床 (畳) から車いすへの移乗」について解説します。

ふれあいケア

2011年
11月号
10月20日発行

●定価1,020円 (本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円 (10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 東日本大震災、そのとき介護現場はどう動いたか

東日本大震災の発生から約半年、今回の大震災の経験から明らかになった防災や高齢者介護の課題を振り返り、今後いっそうの配慮が必要と思われる災害時の高齢者支援や、地域連携のあり方などについて考えます。

災害時の高齢者支援に必要な視点 被災現場からのレポート ほか

好評連載企画

- 介護現場のリスクマネジメント ●納得!リハ医の認知症解説 ●かけがえないひとこと
- ふれあい訪問介護センター物語 ●ワンポイント介護技術 ●認知症ケア相談室
- もっと・ぐっどコミュニケーション! ●Close Up福祉用具 ●介護の味方・看護の見方 ほか

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい (品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■
受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

平成24年度日本介護学会開催県

滋賀県③

一般社団法人滋賀県介護福祉士会

前号までは、滋賀県全体、そして「食」について紹介してきましたが、第3回目の今回はちょっとアカデミックに現在の滋賀県介護福祉士会の「介護研究」への取り組みを紹介します。

滋賀県介護福祉士会では、今年で第30回目となる「滋賀県社会福祉学会」での研究発表を中心として、各地の学会や雑誌への投稿を推奨してきました。そういった経過の中で会員から「論文」の書き方について教えてほしいという要望があがってきたため、まずは平成22年度に「論文講座」を開講しました。当時は「論文」としての文章の書き方にまだまだ戸惑いが多く、介護業務の傍らで論文作成に取り組むことに対する不安や疑問がありました。しかしその中で多くの文献を目にし、「グループ研究」という解決手法にたどり着くなどの成果もありました。平成22年2月に大阪で行われた日本介護福祉士会主催「介護職のための研究発表に関する研修会(近畿ブロックワークショップ)」において、広島国際大学の矢原隆行准教授の講義及びグループワークに参加することができたことで、更に介護研究に対する理解と意欲が深まりました。

幸運にも平成23年度の日本介護福祉士会のモデル事業として滋賀県内において、臨床介護研究、通称「介護研究ゼミ」の開催が決定し、矢原先生の指導のもと、従来の「論文講座」の発展型講座としてスタートすることができました。

第一回目は平成23年5月14日の午前部、「介護研究セミナー」と題し、公開講座形式で「研究するということ」、「研究のはじめかた」、「データのあつめかた」について講義が行われました。公開講座には滋賀県内外の介護福祉士をはじめ、介護福祉士を目指す学生の方々も参加され、臨床介護研究についての学びを深めました。同日の午後は今後の「介護研究ゼミ」への参加希望者でワールドカフェ方式を取り入れた介護研究のテーマとグループ設定が行われ、平成24年度に滋賀県で開催予定の日本介護学会での発表も視野にいた介護研究ゼミが本格的に始まりました。

介護研究については、既に各地の介護福祉士会支部でも様々な形で取り組まれています。特に今回の滋賀県介護福祉士会での取り組みにおいては、先行事例として今年で5年目を迎える山口県介護福祉士会の介護研究セミナーをお手本とさせていただきました。5月29日に山口県山口市で開催された介護研究セミナー、研究発表会にも参加させていただき、山口県介護福祉士会の鳥居会長をはじめ、会員の皆様の介護研究に対する高い意識と熱意、そして発表内容の完成度の高さを肌で感じることができました。

現在の滋賀県介護福祉士会における「介護研究ゼミ」では5つの研究グループが構成されており、5月以降で各グループで独自にミーティングを重ね、7月末に全グループが集合し、研究計画の発表と討議、助言が行われました。この後、殆どのグループが大規模な研究計画の修正を行っており、振り返ると介護研究の最初の難関であったようです。



介護研究ゼミ 8月末合宿ゼミ



介護研究ゼミ 7月末の様子

その後8月末に1泊2日の合宿研修を実施し、研究における調査設計についての様々な討議、アドバイスが行われました。また、合宿は研究事例のみならず、同じグループの共同研究者同士での理解を深める効果もあり、ここで一気に各グループの介護研究への理解と取り組みスピードが上がりました。

今後は9月末にグループ個別での調整を行い、10月～12月にかけては実際に調査と集計作業、そして春の研究発表会に向けて研究の仕上げを行う予定です。

次回は介護研究ゼミ参加者のご紹介をさせていただきますのでお楽しみに！

支部
リレー

都道府県介護福祉士会 情報交流の泉⑤ ◆三重県

「^{うま}美し国おこし三重」・「お伊勢さん」

●三重県介護福祉士会について…

三重県介護福祉士会は、会員数が600人余りと徐々に増えつつありますが組織率はほぼ横ばいの状況です。より良い研修を開催し、活動内容を多くの方に理解してもらい信頼を得ることで会員増加につなげていきたいと思ひます。また、今年度ファーストステップ研修を開催することができました。開催して、参加者の熱心な取り組みや交流の深まりに「やって良かった」と実感しております。少しずつではありますが、会員同志の顔と顔が見える介護福祉士会になっていくのではないかと考えています。



●三重県について…

三重県は日本の中心よりやや西側、紀伊半島にあり、片仮名の「メ」のような細長い地形をしています。人口は約1,860,000人で高齢化率は23.7%です。(平成22年国勢調査結果)

鈴鹿山系と伊勢湾・熊野灘に囲まれた自然豊かな土地で、伊勢海老や安乗ふぐ、牡蠣などの魚介類はもちろん、松阪牛もおいしいと全国的に有名です。

また、津市近郊は、現在放送中の大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の主人公「江」が幼少のころ滞在した地でもあります。

●見どころ…

北から順に、長島スパーランド、なばなの里、御在所岳、四日市コンビナート、伊勢神宮、鳥羽水族館、熊野古道など数多くの観光スポットがあります。

中でも伊勢神宮は古くは中世の時代から、江戸時代には一生に一度はお伊勢さんへ「おかげ参り」をしたいというほどになってきました。平成25年の式年遷宮(20年ごとに社殿を造りかえる行事)を控え、お木曳行事や地鎮祭などの神事が平成17年より順次執り行われています。



大河ドラマ「江」地域活性化推進協議会公認キャラクター"ゴーちゃん"



「おかげ参り」は、お参りの後に伊勢名物をいただくことも楽しみの一つです。伊勢神宮内宮前にはおはらい町通り、おかげ横丁といった伊勢名物の飲食店やお土産屋さんが並びます。「伊勢うどん」を初めて見る方は、真っ黒な汁に太めの腰のない麺に驚かれる方も多いと思ひますが、食べてみると「おいしい」と言われる伊勢名物です。もう一つ有名な食べ物と言えば「赤福餅」です。

夏には「赤福氷」、冬には「赤福ぜんざい」が発売されます。



伊勢神宮はパワースポットとしても有名です。皆様是非「お伊勢さん」にお越しください。

次回は新潟県へバトンタッチ!

写真提供: 株式会社赤福・三重県観光連盟

イラスト提供: 津市商工会議所



会員の皆様へ

- 機関誌などの郵送物の発送、研修会参加費の会員価格適用、書籍の割引などのサービスは会費が既納の会員様のみを提供させていただきます。
- 婚姻等による姓の変更、住所、連絡先、勤務先などに変更が生じましたら、必ずご変更の申請をいただきますようお願いいたします。
- やむをえずご退会される場合は、所定の様式により退会の申請をして下さい。
- 当会の会計年度は4月1日から3月31日までとなっております。新規でご入会いただく方や、ご退会される方は、年度途中でも会費は全額の請求になりますのでご注意ください。また退会申請時に会費の未納がある場合は、お支払いいただいた上での退会手続きとさせていただきます。なお既納の会費は返還いたしかねます。
- 事務手続きが各都道府県によって異なる場合があります。ご不明な点等ございましたら、日本介護福祉士会までお問い合わせいただきますようお願いいたします。
- 職場の同僚などお近くのお知り合いで、介護福祉士会に未加入の方がおられましたら、是非とも入会をお勧め頂きますようお願い致します。

住所・勤務先など登録情報変更申請はこちらのQRコードから
携帯電話でも可能です。



会員番号の表記が現在の6桁表示から7桁表示に変更になります。

会員証は、平成23年9月以降にご入会いただきました会員様より、7桁表示で発行しております。

現在6桁の会員番号で会員証をお持ちの方は、次回の更新の際に、上2桁の支部コードの次に1桁追加いたします。なお、皆様の会員番号の下4桁部分は変更ありません。

(例：会員番号012345 日介 花子 → 会員番号0102345 日介 花子)

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回／夏・秋・冬・春号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
- 定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>
- 郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

夏号(23年6月発行)

特集「介護サービス向上のためのセーフティマネジメント」

秋号(23年9月発行)

特集「介護記録の重要性」

運動機能障害者介護のためのモデル研修 開催要綱

- 主催 社団法人日本介護福祉士会
- 期日 平成23年12月10日(土)～12月11日(日)
- 会場 安田コミュニティプラザ 竹橋・大手町貸会議室A+B会議室
東京都千代田区神田錦町2-9
コンフォール安田ビル地下1階
電話 03-3292-1231
- 参加対象者
社団法人日本介護福祉士会会員または障害者介護に携わっている介護福祉士
- 参加定員
約40名(希望者多数の場合は、先着順)
- 参加費用 会員:5,000円 非会員:10,000円
(ともに資料代、報告書発送料を含む)
- 申込方法
受講申込書に記入の上、社団法人日本介護福祉士会宛に郵送またはFAXにてお申し込みください。また当会ホームページからも申込みできます。
http://www.jaccw.or.jp/kensyu_undo.html
携帯電話からのお申し込みは
右のQRコードから参加申込フォームにアクセスできます。
- 申込締切 平成23年11月25日(金) 必着
- 問い合わせ先
社団法人日本介護福祉士会事務局
TEL.03-3507-0784 FAX.03-3507-8810
MAIL:webmaster@jaccw.or.jp
日本介護福祉士会ホームページ
URL:http://www.jaccw.or.jp/

日本介護福祉士会ニュースに投稿してみませんか?

採用された方にはもちろん1000円分のクオカードを差し上げます! 詳しくはホームページをご覧ください。

●役員の動き● (8月1日～9月30日)

- 8月 3日 生涯研修制度検討委員会第1回生涯研修体系作業委員会(内田、木村副会長)
- 8月 4日 第3回常任理事会(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 8月10日 第78回社会保障審議会介護給付費分科会(田中名誉会長)
- 8月19日(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修～21日(内田副会長)
- 8月25日 日本看護学会(石橋会長)
- 9月 3日 リーダー研修会(介護福祉士初任者研修講師養成～4日 研修)(内田副会長)
- 9月 5日 第79回社会保障審議会介護給付費分科会(石橋会長)
- 9月 6日 第2回障害者介護のためのモデル研修事業検討委員会(三浦副会長)

都道府県介護福祉士会研修情報

茨城県介護福祉士会

「たんの吸引・経管栄養について」研修会

- 日程 12月4日(日)10:00～12:00
- 場所 茨城県職業人材育成センター 中研修室
- 講師 鹿嶋訪問看護ステーション 管理者 畑山 緑氏(看護師)
- 参加料 会員 2,000円 非会員3,000円
日本介護福祉士会編集 テキスト2冊含みます
- 締切日 11月15日(火)
- 問合わせ 一般社団法人茨城県介護福祉士会
TEL 029-354-4170

広島県介護福祉士会

介護の日公開講座「笑う!介護のオシゴト～「笑い」を通して在宅ケアを考えよう～」

- 日程 11月11日(金)
- 場所 広島市南区民文化センター
- 内容 國廣幸亜氏(「実践!介護のオシゴト」著者)講演会 他
- 参加費 無料

「介護の日」市民アピール大作戦2011

- 日程 11月12日(土)
- 場所 福山市西部市民センター
- 内容 世良洋子氏(元RCCアナウンサー)講演会 他
- 参加費 無料
- 問合わせ 社団法人広島県介護福祉士会
TEL 082-254-3016

京都府介護福祉士会

第2回全体研修会「ポジショニングの応用について」

- 日程 11月26日(土)10:00～16:00
- 場所 京都社会福祉会館4階・研修室

3団体合同研修会(作業療法士会・歯科医師会・介護福祉士会)「食事支援について」

- 日程 11月27日(日)10:00～16:00
- 場所 キャンパスプラザ京都2階ホール
- 問合わせ 一般社団法人京都府介護福祉士会
TEL 075-801-8060

大阪府介護福祉士会

介護きらきらフェスタ★2011

入場無料・事前申込不要・手話通訳者配置・保育室あり

- 日程 11月23日(水・祝)11:00～16:00
- 場所 大阪社会福祉指導センター/大阪府社会福祉会館
- 内容 公開セミナー(要予約)、体験ヨガ、ロボットスーツHAL、各種相談コーナーなど
- 問合わせ 社団法人大阪介護福祉士会
TEL 06-6766-3633



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.107
12月15日号
 平成23年(2011年)

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/> E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

社会的役割と評価の向上に向けて

社団法人日本介護福祉士会 会長 石橋 真二



新年明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災という未曾有の災害があり、あらためまして、今回の震災によりお亡くなりになられた皆様には、心からのお悔やみと被災された皆様には心からのお見舞いを申し上げます。

被災地での災害救助活動・ボランティアに関わる支援に際して、東北など地元の介護福祉士会の皆様を中心に、全国の支部・会員の皆様にご協力いただき、また活動資金や義援金にも多大なご協力をいただきましたことにあらためて感謝を申し上げます。

さて、昨年の6月には、介護保険法の一部改正法が成立し、平成19年度に改正された介護福祉士の資格取得方法の一元化が平成24年度から27年度へと先送りされましたが、「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」では、あらたに介護福祉士資格取得者がステップアップできるよう「認定介護福祉士(仮称)」の仕組みづくりを職能団体が主役となって進めることをはじめとして、介護職員のキャリアパスの仕組みが明確化されたことなどプラス面もありました。

認定介護福祉士の検討につきましては、厚生労働省や関係団体のご協力を得て、認定介護福祉士の役割、養成のためのカリキュラムや認定方法などを検討する

委員会を設け、次年度には試行事業を行う予定で進めているところです。

また、介護福祉士の養成カリキュラムの追加や一定の研修によって、介護福祉士等がたんの吸引等について法的にも問題なく行えるよう法律改正が行われたことで、私たち介護福祉士の役割もさらに幅広くなり、より資質の向上が求められてくることになりました。

今後も様々な国民の介護ニーズに応え、介護サービスを充実するためには、私たち介護福祉士の資質の向上と高い倫理性が求められてきます。

また、介護労働に対する評価の向上、キャリアパスの仕組みの導入等、生涯にわたって目標とやりがいを持てるよう介護福祉士を魅力ある職業として確立することが職能団体としての使命です。

そのためには、職能団体としての活動を活発化し、適時・適切な情報発信を行うとともに、一人ひとりの介護福祉士が資質向上のための研修、介護における研究への取り組み等自己研鑽を行い、利用者に対するサービスの向上及び介護福祉士の社会的評価の向上へ取り組むことが必要です。

今年は介護報酬の改定、さまざまな制度の改正が介護福祉士制度の発展につながり、介護福祉士の社会的評価の向上に資するよう、会員の皆様、行政、関係団体、関係者各位の皆様方に、本会に対してのご協力・ご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

役員候補者選出に関する公示

平成23年12月15日
 社団法人日本介護福祉士会 選挙管理委員会

正会員理事(全国選出理事ならびにブロック選出理事)の候補者届出がありましたので以下のとおり公示します。

<全国選出理事選挙について>

定数13名に対し13名の立候補があった。全員について資格を審査した結果、立候補条件を満たしていることが確認された。立候補者が選出人数と同数であるため、選挙管理細則第15条により、全員を無投票当選とし理事予定者と決定した。

<ブロック選出理事について>

6ブロックよりそれぞれ1名の候補者推薦があり、6名の候補者は推薦を受託した。資格を審査した結果、全員が条件を満たしていることが確認されたため、規定により理事予定者とすることを決定した。

※補足

正会員以外の理事(外部理事)予定者10名は、規定に基づき今年度の理事会において選出されることになっています。

全国選出・ブロック選出・正会員以外のすべての理事予定者は、来年5月の平成24年度通常総会において承認を受けた後、正式に理事に就任します。

正副会長は「役職者の互選規定」に基づき、これらの理事予定者すべてが選出された後、通常総会までに互選選挙を実施し、全国選出理事予定者の中から選出される予定になっています。

<全国選出理事立候補者(五十音順)>

氏名	所属支部名	現支部役職
浅野 幸子	大阪府	会長
石橋 真二	香川県	会長
内田 千恵子	東京都	副会長
大谷 久也	佐賀県	会長
岡田 史	新潟県	顧問
木村 晴恵	京都府	理事
草加 昭子	岡山県	理事
小泉 昭江	北海道	会長
田村 尚	群馬県	会長
中根 健男	愛知県	副会長
野上 薫子	神奈川県	会長
前田 薫	宮崎県	会長
三浦 晃史	大分県	会長

(敬称略)

<ブロック名者>

ブロック名	氏名	所属支部名	現支部役職
北海道・東北	斎藤 幸子	山形県	会長
関東・甲信越	畠山 仁美	長野県	会長
東海・北陸	舟田 伸司	富山県	副会長
近畿	村田 美穂子	滋賀県	会長
中国・四国	三橋 一久	鳥取県	会長
九州	因 利恵	福岡県	会長

(敬称略)

第18回全国大会 青森で開催

「介護福祉士を いかす・のばす・はぐくむ!!」

～介護と医療の連携を目指した人材育成～



風晴賢治会長

開会に先立ち、青森県介護福祉士会会長風晴賢治、また社団法人日本介護福祉士会会長石橋真二より開会の挨拶が行われた。東日本大震災を受け開催が危ぶまれたが、東北また日本を元気づけるために開催を決定したことが語られたほか、平成19年の社会福祉士・介護福祉士法改正後の介護福祉士制度の変化、今年度日本介護福祉士会を中心に議論されている認定介護福祉士(仮称)、また「介護職員等によるたんの吸引等」が始まる中、介護福祉士としての職務が幅広くなってきており、介護福祉士自身が専門性をより高め、資質の向上を図る必要があり、そのひとつの機会になればと挨拶し、全国大会が開会した。また、厚生労働省、青森県知事、青森市長をはじめ数多くの来賓の方にご参列いただき、祝辞を頂いた。

大会初日は、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長佐々木裕介氏より「介護人材確保対策の動向について」と題した基調講演を頂いたほか、独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所宇宙航行システム研究系教授川口淳一郎氏より「はやぶさの7年間の歩み」と題した記念講演を頂いた。また、日本介護福祉士会常任理事舟田伸司より「東日本大震災に対する日本介護福祉士会の取り組み」について報告がなされた。その中で、介護福祉士の震災ボランティアに求められる専門性があり、利用者の生活の継続性の観点からも、補完的介護ではなく、自立支援を提供することが重要であると述べた。また、災害ボランティアを実施する際に明らかになった課題があり、専門職としてのマニュアル整備、他職種協働のシステム化、長期的な支援の継続方法、災害対策本部と現地災害対策本部の機能などについて時系列での整理を図り、今後各支部が中心になって災害対策を実施する際に生かせるマニュアルを作りたいと述べた。

大会二日目は、午前中に3部会に分かれて分科会が行われた。分科会は「施設における介護と医療の連携を目指した人材育成について」、「在宅ケアにおける介護と医療の連携を目指し

た人材育成について」「新人が思う介護福祉士像～介護と医療の現状を踏まえた意見」の3テーマに分けて実施され、介護福祉士による発表、また座長による講評が行われる中、質疑応答では参加者とも活発な議論が行われた。午後は、青森慈恵会病院緩和ケア科総括部長小枝淳一氏より「ケアする心－医療と介護の協働に向けて－緩和ケアをとおしてお伝えしたいこと」と題した特別講演が行われた。その後、北海道介護福祉士会会長小泉昭江より「介護職の医療行為モデル事業」について報告された。その中では、時間が無い中での試行事業実施に伴う苦労や、関係諸団体との連携の在り方について報告があった。また、試行事業を実施する中で感じた事として、「たんの吸引等」を実施する介護福祉士に求められる役割や、関連する知識・技術修得の必要性、利用者に対する責任感の持ち方等について報告があった。さらに、「介護福祉士をいかす・のばす・はぐくむ!!」をテーマとして、シンポジウムが行われた。

最後に、第18回全国大会開催支部実行委員長安ヶ平学、日本介護福祉士会副会長内田千恵子より挨拶が行われたほか、次回の全国大会開催地である山梨県の介護福祉士会会長甘利俊明等による挨拶で閉会した。

全国から約800名の参加者が集まり、また青森県内の介護福祉士養成校の生徒も参加した大会の熱気は冷めることなく、大盛況のうちに幕を閉じた。

(各講演の内容は4ページ、シンポジウムの内容は5ページ参照)



全国大会の初日終了後、400名近くの参加を得て懇親会が行われました

懇親会では、山上進氏により尺八や津軽三味線が披露されたほか、バンド「チェリーフィールド」によるライブ、また「青森菱友会」による「ねぶた囃子」が行われ、会場は大いに盛り上がりました。

また、全国の介護福祉士会より持参されたお土産が、懇親会に参加した介護福祉士に抽選で手渡されました。懇親会場は楽しく穏やかな雰囲気の中、他県の参加者との情報交換や日頃の疲れを癒す場となりました。



抽選会



尺八



ライブ



ねぶた囃子

全国大会を終えて

青森県介護福祉士会会長 風晴賢治

全国大会が終わるのを待っていたかのように、青森は初雪が降り出しました。

大会中は天候に恵まれ、スタッフに恵まれ、そして何より青森まで来ていただいた多くの参加者の皆様に支えられての2日間でした。

思えば第1回目の日介との実行委員会を終えた直後でした。東日本大震災。被災地では介護福祉士たちが必死に介護を続けています。そうだ、東北は頑張っているぞという事を、青森から全国に発信していこうと開催を決めました。

止まっていた時間が動き出しました。日介との折衝、関係業者、そして実行委員等との打ち合わせや資料作成等々…。特に安ヶ平学実行委員長は1日の大半が全国大会モードで、いくら御礼を言っても言い足りません。

本番当日はほぼ満員の中で、記念講演では、あの「はやぶさ」で一躍時の人となった、JAXAの川口チーフマネージャーから“決して、あきらめない”というメッセージを戴き、懇親会では津軽三味線、福島にエールを送り大きな感動に包まれた生演奏、フィナーレで皆で跳ねたねぶた囃子。勿論お料理や地元B級グルメや地酒の数々。皆様に喜んでいただけたと自負しております。

被災地への義援金も全国の皆様からの温かい善意が、12万円以上集まりました。さっそく岩手、宮城、福島の各支部にお渡し致しました。

私ごととしては、いくら飲んでも“酔わないお酒” というものを人生55年で初めて経験しました。また気持ちに余裕がなく、大小のミスや心遣いが足りなかったと反省しております。

ただ、それを差し引いても余りあるくらいのスタッフと、関係者一同の皆様。

1人1人の絆と力がオーケストラの様に素晴らしい大会を作ってくれました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

次回開催の山梨県介護福祉士会にタスキをお渡ししますが、最後に一言添えさせていただきます。

「こんなに苦労はしたくないが、こんなに感動するなんて人生そうそうあるもんじゃないぞ」と。

記念講演**はやぶさの7年間の歩み**

独立行政法人宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所 宇宙航行システム研究系
教授

川口 淳一郎 氏

京都大学工学部卒業後、東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程を修了し、旧文部省宇宙科学研究所（後に、独立行政法人航空宇宙技術研究所・特殊法人宇宙開発事業団と統合されてJAXAとなる）に着任、数々の宇宙開発ミッションに携わり、小惑星探査機「はやぶさ」では、プロジェクトマネージャを務められました。

「はやぶさ」は、小惑星の資料を採取し地球に戻ってくることを目的として計画され、世界初の試みであったため、プロジェクトの中では前人未達の事が多く、不十分なことが山のようにあったが、行動を起こさなくては進歩がないとの信念の元、やれる

ことから解決していったと述べられた。また、宇宙開発事業は国民の理解を得にくい面があるため、「はやぶさ」のプロジェクトを進める中で「国民こそが主役」との意識を持ち、国民の信頼を得るために「透明性」を重視し、また国民とのコミュニケーションを積極的にとるように心がけたと述べられた。

現在は「はやぶさ2」のプロジェクトが進行しているが、このプロジェクトは若い研究者が中心となって進められており、彼らが「はやぶさ」プロジェクトを推進した川口氏らを超えられるように、「はやぶさ2」のプロジェクトの裁量を任せ、個性を伸ばせるように心がけていると述べられた。

最後に、プロジェクトを成功させるための鍵は「根性」「忍耐」「自信」「変革を起こすアイデア」であるとし、特に「変革を起こすアイデア」を持ち、実現していくことが重要であると述べられた。

基調講演**介護人材確保対策の動向について**

厚生労働省 社会・援護局
福祉基盤課 福祉人材確保対策室長
佐々木 裕介 氏

福祉サービスを取り巻く環境、福祉・介護人材の状況などについての説明があった。

その上で介護職員処遇改善交付金や介護報酬改定について説明された。

また、昨年行われた「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」報告書で示された「今後の介護人材キャリアパス」について説明されたほか、「介護職員等によるたんの吸引等の現在の取り扱い」について説明された。

最後に、介護人材の資質の向上が今後重要になる中で、厚生労働省と介護福祉士会が協力しながら、介護人材の資質の向上のために取り組みたいと述べられた。

特別講演**ケアする心ー医療と介護の協働に向けてー緩和ケアをとおしてお伝えしたいこと**

青森慈恵会病院 緩和ケア科 総括部長
小枝 淳一 氏

弘前大学医学部を卒業後、地域医療を学ぶために佐久総合病院に研修医として勤め、その際に当時病院長であった若月氏から聞いた「cureからcareへ」を胸にホスピス病棟と在宅ホスピスで緩和ケアを提供している。

医療は元来「care」を提供していたが、専門化する過程で「cure」のみを提供するようになった。現在「care」を提供しているのは介護であり、その中心である介護福祉士が「ケアする心」を大事にし、利用者に「無関心な介護」を提供しないよう語られた。

最後に、緩和ケアでの経験から感じた「死を通じて感じる和合の素晴らしさ」を伝えられた。

シンポジウム

介護福祉士を いかす・のばす・はぐくむ!!



シンポジウムは特別講演をいただいた青森慈恵会病院緩和ケア科総括部長小枝淳一氏をコーディネーターに迎え、「介護福祉士を いかす・のばす・はぐくむ!!」と題して行われた。平塚正博(秋田県介護福祉士会会長)、篠崎良勝氏(八戸大学人間健康学部准教授)、益城妃富氏(社会福祉法人青森社会福祉振興団地域福祉部長)、風晴賢治(青森県介護福祉士会会長)の4名のシンポジストによる発表の後、小枝氏より「介護福祉士の施設での教育および施設と養成校の連携の在り方について」、「『たんの吸引等』の医療行為の実施が認められる中で求められる介護福祉士の専門性と医療との連携の在り方」、「職員のやる気を引き出すことのできるリーダー像

というテーマが提起され、活発な議論が行われた。

議論の中では、介護福祉士にとって重要なことは尊厳の保持、自立支援、良質かつ適切なサービスの提供、他職種との連携といった社会福祉制度の理解、介護職員のスキルアップに必要な事柄を把握し、職務内研修(O-JT)や職務外研修(Off-JT)、自己研鑽を通じた人材育成により、介護福祉士が将来あるべき姿を見据えた資質の向上を図る事であるとの意見があった。「たんの吸引等」については、単なる医療補助者となるのではなく、必要な知識・技術を十分に持ち、医療行為の提供を通じて利用者の生活を向上させるような介護福祉士としての専門性を持つことが重要であるとの意見が出た。また、被災地での介護福祉士の活動を踏まえ、利用者とのコミュニケーションや見守りといった専門性をこれまで以上に発揮してほしいとの意見が出た。

最後に、コーディネーター、シンポジスト、参加者全員で宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を朗読し、人間が本質的に持っている「助け合う心」を確認してシンポジウムは終了した。



ソウェルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝い

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

■加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町1-3-11
NBF小川町ビルディング10階

福祉で働く人の福利厚生を支援しています。

11月11日「介護の日」フォーラム

会場：東北福祉大学国見キャンパス「音楽堂」けやきホール (宮城県)
 主催：厚生労働省・社会福祉法人全国社会福祉協議会



4回目となる今年の「介護の日」フォーラムは東日本大震災を主題として、被災地の介護福祉従事者の報告を元に、行政担当者・学

厚生労働省や各県の担当者により介護人材の役割の重要性、行政による支援の在り方などについて意見交換がされた。

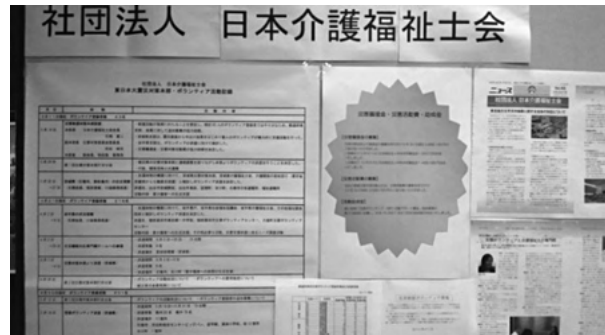
そのなかで、コメンテーターの東北福祉大学大学院特任教授・大橋謙策氏は、災害において福祉関係団体での連携をもっと深める必要があるとの認識を示し、大規模災害に対応できる体制をつくる必要があると語った。

識者等と介護・福祉人材の重要性について考えることを目的に宮城県において開催された。

藤木則夫・厚生労働省東北厚生局長は開会の挨拶のなかで「介護という仕事は人の生活の基盤をつくり、その上にある人生というものを支えている、非常に意義深い大切な仕事だ」と介護の重要性を語った。

「介護現場からの報告」として仙台楽生園ユニットケア施設群総括施設長・佐々木薫氏、社会福祉法人臥牛三敬会理事長・湯村利憲氏、レインボー多賀城管理者・加藤高康氏、石巻市渡波地域包括支援センター所長・高橋了氏による災害時の状況、課題、今後の取組み等についての報告があった。

引き続き行われたシンポジウムでは「震災後の介護現場から見えてくるもの」と題して、各施設からの報告をふまえ、学識経験者、福祉関係者、



また、同会場において「相談コーナー」(資格・就職なんでも相談会)「パネル展示」(災害に対する取組)を、日本介護福祉士会、宮城県介護福祉士会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、介護労働安定センター、福利厚生センター、宮城県福祉人材センターが担当して実施した。大学のキャンパス内にある会場ということで学生の姿が多く、それぞれのコーナーに足を運び説明を受けていた。



「介護相談」・「介護の日」 イベント報告

全国の各都道府県介護福祉士会においては「敬老の日」・「介護の日」に合わせてさまざまな活動、イベント等が行われた。



「老人の日・老人週間」キャンペーンに合わせて実施された「介護相談」では、電話相談の実施や会場に設けたブースを訪れた一般の方々からの相談に対応し、身近な介護福祉士をアピールした。

11月11日「介護の日」に合わせたイベントでは、PR活動、アンケート調査、コンサート、各種講座、著名人を招いての講演会、パネル展示、介護実技指導、高齢者疑似体験等、自治体や他団体とも連携をはかりイベントを盛り上げた。PR活動では都道府県介護福祉士会のパンフレット、名入りテッシュやボールペンなどと合わせて、例年協力をいただいている東洋羽毛工業(株)より提供いただいたクリアファイルを配布した。



街頭アンケートやPR活動の結果を見ると、「介護福祉士」の認知度はかなり高くなってきているように感じるが、「介護の日」はまだ認知度が低いようである。

来年度の実施課題として、事前PR活動の工夫、日程の検討、天候への配慮、スタッフの増員、他団体との連携強化等に関する報告があった。「介護相談」や、各種イベントに参加した方々の喜びの声をきいたり、励ましの言葉をいただいたりすると、今後もこのような活動を継続して取り組んでいけるような実施体制を強化して、介護福祉士会の役割や介護・介護福祉士の仕事への理解と認識を深めていくことが必要であると感じた。

また、このイベントを通して「東日本大震災」への義援金募集を行った都道府県介護福祉士会も数多くあった。



平成24年度日本介護学会開催県

滋賀県④

一般社団法人滋賀県介護福祉士会

11月10日～11日に青森県で開催されました全国大会に、滋賀からも村田会長を筆頭に参加させていただきました。7月に沖縄で行われました学会同様、常に「来年の滋賀県の介護学会では～」ということ念頭に置き、講演や研究発表はもとより、大会の流れやスタッフの皆様動きなども学び、沢山の思い出と、そしてお土産とともに滋賀に戻ってまいりました。

さて、平成24年9月に滋賀県で開催される「日本介護学会」に向けて、これまでは①滋賀県の紹介、②滋賀県の食の紹介、③滋賀県介護福祉士会の「介護研究への取り組み」についてご紹介してきました。4回目となる今回は、現在、滋賀県において日本介護福祉士会のモデル事業として実施されている「介護研究ゼミ」グループの簡単な紹介をさせていただきます。(個人及び研究情報の保護のため、一部略称を用いています)

最初にご紹介するグループは、通称「大鶴荒川」、単に4人のメンバーの名字を取っただけですが、このグループは介護福祉士を目指す「学生」と「実習」をキーワードに研究を進めています。滋賀県下の介護福祉士養成校の理解を得て、学生にインタビュー形式でデータを収集し、研究を行っています。若いメンバーが揃っており、テープ起こしやデータ集計等もインターネットやソフトウェアを駆使して効率的、効果的に研究活動を行っています。

二番目にご紹介するグループは「医療的ケア研究グループ」。グループ研究を薦めている介護研究ゼミでは最も少ないメンバー2名という構成ですが、どちらも医療、看護と連携の深い職場、教育機関に在籍しており、その知識とフットワークの軽さを活かして現在「介護職員の医療的ケア」に関連する調査を行っています。既に滋賀県介護福祉士会全会員へのアンケートを実施しており、そのデータ集計結果がどのようになるのか注目です。

三番目にご紹介するグループは「FSグループ」。現在3名のベテラン介護福祉士で構成されており、グループ名は3名全員がファーストステップ研修の修了者であることを意味しています。この3名は各事業所の中核を担っていることもあり、ベテランならではの非常に興味深い視点からの研究となっています。滋賀県下での介護職員有志による独自ネットワークもアンケート集計等に有効に活用し、主に「他職種」から「介護職」へと転職してきた人達の意識に関連した研究を行っています。

四番目にご紹介するグループは「三丁目の夕日」グループ。リーダーを任されているこのグループの黒1点、T氏は現在29歳、介護研究ゼミでも最年少です。ところがこのT氏とはある理由で多忙のためなかなか介護研究に没頭できない。それを3名の「美人姉妹」がピシバシと？時にはアメと鞭で、でも大事なところはT氏をしつかり立てて研究を進めている懐かしき昭和のお茶の間を彷彿とさせるグループです。ここでのキーワードは介護職員の「関わりの偏重への気づき」です。データ集計手法等が難しい領域ですが、様々な工夫で滋賀県下の施設にアンケートを配布、回収しデータ集計を行っています。

最後のグループは「夫婦漫才」グループ。このグループも2名構成、実は本当の夫婦ではありませんが、同じ職場同士ということで、人前でもゼミでも漫才さながらのやり取りが行われています。ご本人達はもちろん真面目に議論しているそうですが、ハタからみると話し合いなのか喧嘩なのか見分けがつかない時もあるほど。9月に実施した介護研究ゼミの「グループ別面談」では矢原先生の目の前で「夫婦漫才」を展開、さすがの矢原先生も目が点になっていたのはココだけの話です。しかし、矢原先生の介護研究を行う上で「何でも語り合える」というグループ研究での課題項目がある意味で一番クリアしているとも言えます。研究テーマをまとめるならば「自職場の環境向上」と「職員の満足度」でしょうか。自職場研究のため、他グループに比べるとデータ集計までは比較的スムーズでしたが、その後の研究結果を職場のマネジメントにダイレクトに反映させたいという思いも深く、そういう意味では非常にハードな研究だと思われます。

なお、今回の「介護研究ゼミ」全体に関しては、先行の山口県介護福祉士会で行われている取り組みを参考に、指導者である矢原先生と研究ゼミ参加者との間を繋ぐ役として事務局がコーディネーター役を担っています。今回が初めての取り組みであるため本当に試行錯誤、その機能を果たしているかどうかははなはだ疑問ですが、少しでも皆さんの介護臨床研究が良いものになるように出来る限りのことをしています。日本介護福祉士会の内田副会長と事務局からのご支援、ご指導について深く感謝しつつ、来年の研究発表会、そして滋賀での介護学会に向けまだまだ頑張っています。

介護用ベッドサイドポケットのご紹介

一般社団法人滋賀県介護福祉士会 会員 砂田貴彦

今回ご紹介させていただくのは、私ではなく、私の母の発明品です。「発明」というと、多少大げさですが、実はすでに特許取得済みなのです。



ベッドサイドポケット

このベッドサイドポケットは、私の実家である山口県山口市内の緩和ケア病棟においてボランティア活動をしていた母たち3名が、職員から「介護を受ける方に不快感が少なく、介護者の労力も軽減できるベッドサイドのオムツいれがあればいいのだが」という話をうけ、なんとか介護を受ける方と介護を提供する方、どちらにも役立つものを作ろうという思いがきっかけとなって誕生しました。

ボランティアなので費用はありませんが、そこはアイデアでカバーすることにし、市内のデニムブランド会社に相談、趣旨に賛同してくださった社長さんのご好意で、通常であれば破棄する余り布を提供してもらい、それをもとに製作を開始しました。工夫を重ね、特許にもなった5箇所をひもで結ぶというシンプルな方法で多くの介護用ベッドに対応できるようになりました。

今まではベッドの横や下に置かれていた、本当は他人に見られたくない「オムツ」や「パッド」の収納に加え、タオルやパジャマ、テレビやエアコンのリモコンなど、生活小物もシンプルに収納できます。素材もしっかりとした布を使用していますので、家庭用洗濯機で洗濯もでき、衛生面でも安心してご使用いただけます。

また設置先はベッドサイドだけではなく、ポールや竿を通すなど、アイデア次第でどこにでも設置が可能です。ちなみにうちの実家では、ベッドサイドのほか、キッチンでも活躍しています。

お問い合わせは「滋賀県介護福祉士会 ホームページ」まで！ <http://www.shiga-jaccw.jp/>



ベッドサイドポケット開発者の3人

ふれあいケア

2012年
1月号
12月20日発行

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 新人を育てる職場内研修

介護の現場で、採用した新人が3年程度で辞めてしまうということが聞かれます。新人職員が、生き生きとやりがいをもって働き続けるために、受け入れ側はどうしたらよいのでしょうか。職場における人材育成、特に新人研修に視点をあてて考えます。

他業種企業の新人育成 実践レポート ほか

好評連載企画

- 介護現場のリスクマネジメント ●納得!リハ医の認知症解説 ●かけがえないひとこと
- ふれあい訪問介護センター物語 ●ワンポイント介護技術 ●認知症ケア相談室 ●Close Up福祉用具
- もっと・ぐっどコミュニケーション ●介護の味方・看護の見方 ●今の動き・制度解説 ほか

定期購読申込み受付中!

[FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい]
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■
受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

支部
リレー

都道府県介護福祉士会 情報交流の泉⑥ ◆新潟県

『なじらね～ I LOVE 新潟』

●新潟県介護福祉士会について

新潟県介護福祉士会は会員数が約1700人です。会員数は近年、微増で経過しております。日本海に沿って長いこともあり上越ブロック、中越ブロック、下越ブロック、そして佐渡ブロックの4つに分けての会員組織活動も盛んに行われています。ブロック活動においては会員・非会員を問わない研修事業が多く開催されており、仲間作りの交流が図られています。また県の研修としては、介護福祉士初任者研修、現任研修、フォローアップ研修、ファーストステップ研修、実習指導者研修等が定期的に開催されています。県や関連団体からの委託事業も多く手掛けており、多くの会員講師を育成、派遣にも力を入れています。福祉サービス第三者評価・外部評価・サービス情報の公表事業にも多くの実績を出している等、精力的に取り組んでいます。

今後こうした事業に真摯に取り組んでいく方向性の中で、魅力ある介護福祉士会を目指して行きたいと思っています。



●新潟県について

新潟県は日本海側にあり、人口は250万人ほどです。細長くて広い面積を有していて、北は山形県、西は富山県と隣接していて、端から端までは300Km以上になっています。そのためでしょうか、「お国なまり」も多種多様になっており、県内者同士でも理解不能の時もあるくらいです。

観光スポットも紹介しきれないくらいに海・山・川と県内どこでも昔懐かしい景色が魅了してくれます。

●食べどころについて

新潟といえば思い起こすことは「お米」でしょうか。確かに新潟のお米は美味しいです。「コシヒカリ」を代表とした新潟米は天下一品です。しかし、当たり前のように毎日食べているせいか、その美味しさをわかっていない人が多くおられます。県外に出てその「ちがひ」が実感できるのではないのでしょうか。私もその「ちがひ」を実感した一人です。

新潟は「お蕎麦」と「ラーメン」も美味しいです。全国にも引けをとらないと思います。

「お蕎麦」は小千谷・十日町のへぎそばが有名であり、そのなめらかさと歯ごたえは蕎麦通を唸らせませす。「ラーメン」の方も新潟ラーメンの代表名刺になった「背油たっぷり醤油ラーメン」元祖のお店が燕市にあり、全国のラーメン通を喜ばせています。

「お蕎麦」と「ラーメン」と同じ麺類とはいえ新潟県では人気を2分していると言っても過言ではないでしょう。



●雄大な自然、日本の原風景

蒲原平野の広々とした田圃は、日本の原風景、日本人の心のふるさとかな、という不思議な安らぎを感じさせられます。1000以上もある温泉で、のんびり「命の洗濯」をするのもいいと思います。冬はスキー、夏は海、秋は温泉がおすすめです。

美味しいお米にお蕎麦とラーメンが待っている新潟県に是非いらしてくださいね。

次は山口県にバトンタッチ！

福祉用具を活用しよう

公益財団法人テクノエイド協会

Part 1 起居 ー起きることは生活の始まりー

今回は、「床(畳)から車いすへの移乗」について解説します。

夜間は布団で就寝し、日中は畳に座って生活し、移動に車いすを利用されている方の、床から車いす座面への移乗について考えてみましょう。

床(畳)に座っている、あるいは寝ている人を強引に持ち上げる介助は大変な重労働です。この場合、リフトを利用すれば臥位でも長座位でも比較的容易に持ち上げることができ、車いすなどに移乗介助することができます。

■リフトを使用した介助方法

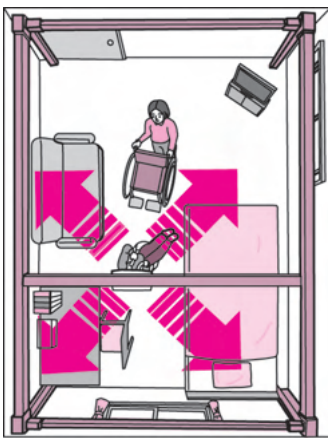


図1

面レール据置型リフトを設置し、脚分離ハイバック7点吊りの吊具を利用すれば、比較的容易に臥位あるいは長座位から車いすなどに移乗することができます。(図1)

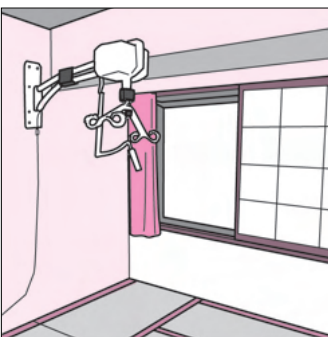


図2

また、線レールタイプでも可能ですが、吊り上げる位置がレールの下に限定されます。同様にベッド固定型リフトの中のベルト巻き上げタイプのブームを壁にブラケットで固定できれば、利用することもできます。(図2)

シート型吊具でも可能ですが、介助者の手間が必要になります。

■リフトを利用した移乗の利点

床から車いす座面に移乗するためには、持ち上

げたり、立たせたりせずに、臥位から吊具を敷き込んでそのまま移乗することができ、介助者にとっては介護負担の軽減(腰痛の予防等)や本人にとっても快適な介護といえます。

■リフトを利用した移乗の条件

①環境の条件

床から移乗させる場所にリフトが設置されている必要があります。レールタイプで面レールなら、ほぼその範囲内で自由に移乗できますが、線レールタイプではレールの下に限定されます。したがって、レールの下にない場合にはレールの下まで移動させなければなりません。

また、ベッド固定型リフトの場合には、ブーム及び巻き上げ機本体をブラケットで壁などに固定させる必要があります。移乗動作を行う場所にこのような壁などがあれば可能です。

②本人の条件

脚分離ハイバック4点吊りの吊具が利用できればよいといえます。ただし、股関節を伸展する筋力が弱く、股関節が軟らかい場合には、脚分離形吊具では臀部が落下した姿勢になることがあります。このような場合にはシート形吊具の方が適しています。(図3)

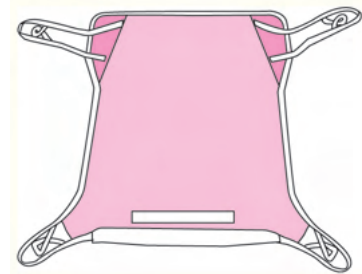


図3

③介助者の条件

リフトの機種、吊具の種類によって介助動作が異なります。介助者の能力に応じて、リフトや吊具の選定することも重要です。吊具は本人の身体機能によっては介助者が使いやすい吊具を使えない場合もありますので、リフト操作と吊具の装着方法が正しく行えることが必要です。

次回は、「寝返り・起き上がり・立ち上がり動作・離床」について解説します。

● 役員の動き ● (10月1日～11月30日)

- 10月 2日 介護支援専門員研修受講管理システム・生涯学習体系実施体制の推進事業 (一般社団法人介護支援専門員協会) (木村副会長)
- 10月 5日 医療ニーズが高い要介護者への訪問看護導入等に向けた課題に関する調査研究事業 第1回検討委員会 (一般社団法人介護支援専門員協会) (内田副会長)
- 10月 7日 第81回社会保障審議会介護給付費分科会 (田中名誉会長)
- 10月 7日 第3回指定試験機関・登録機関の改善に関する検討会 (厚労省) (内田副会長)
- 10月 8日 第2回全国大会実行委員会 (木村副会長)
- 10月13日 第38回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 10月17日 第82回社会保障審議会介護給付費分科会 (田中名誉会長)
- 10月20日 第1回災害対策マニュアル検討委員会 (内田副会長、木村副会長)
- 10月22日～23日 感覚機能障害者介護のためのモデル研修 (三浦副会長)
- 10月31日 第39回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 10月31日 第83回社会保障審議会介護給付費分科会 (田中名誉会長)
- 11月 3日 一般社団法人奈良県介護福祉士会祝賀会 (石橋会長)
- 11月 4日 財団法人社会福祉振興・試験センター臨時評議員会 (石橋会長)
- 11月 5日 第1回学会委員会 (内田副会長)
- 11月 9日 第5回常任理事会 (石橋会長、木村副会長、三浦副会長)
- 11月10日 第84回社会保障審議会介護給付費分科会 (田中名誉会長)
- 11月11日 実践キャリアアップ制度 専門タスク・フォース 介護人材ワーキンググループ 第6回会合 (田中名誉会長)
- 11月10日～11日 第18回全国大会 (石橋会長、内田副会長、木村副会長、三浦副会長)
- 11月14日 第85回社会保障審議会介護給付費分科会 (田中名誉会長)
- 11月15日 第40回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 11月24日 第41回社会保障審議会介護保険部会 (田中名誉会長)
- 11月24日 第86回社会保障審議会介護給付費分科会 (田中名誉会長)
- 11月24日 第3回認定介護福祉士 (仮称) の在り方に関する検討会 (石橋会長)
- 11月25日 九州ブロック研修 (石橋会長)

都道府県介護福祉士会研修情報

東京都介護福祉士会

平成23年度 薬の知識と嚥下体操や口腔ケア

- 日程 平成24年3月10日 (土) 9:30～16:30
- 場所 ティアラこうとう 大会議室
- 内容 午前「介護福祉士に必要な薬の知識、薬剤師との連携(仮題)」(社団法人東京都薬剤師会 調整中)
午後「介護福祉士に必要な嚥下の知識・嚥下体操・口腔ケア(仮題)」(公益社団法人東京都歯科衛生士会 調整中)
- 定員 70名
- 参加費 会員 3,000円 非会員5,500円
※キャンセル等による受講料の返金はいたしません。
- 締切日 平成24年3月2日 (金) 又は定員になり次第
- 問合わせ NPO法人 東京都介護福祉士会 (担当:品川)
TEL 03-5624-2821 FAX 03-5624-9650

愛媛県介護福祉士会

平成23年度愛媛県キャリアアップ支援研修会
「拘縮予防・褥瘡防止に向けたポジショニングの基礎知識」

- 主催 一般社団法人愛媛県介護福祉士会
- 日程 平成24年1月24日 (火)・25日 (水)
- 場所 愛媛県総合社会福祉会館2階 多目的ホール
- 定員 40名
- 参加費 無料
- 締切日 平成24年1月7日 (土)
- 問合わせ 一般社団法人愛媛県介護福祉士会
TEL 089-987-8123 FAX 089-987-6047

中国・四国ブロックリーダー研修会

- 1. 日 時 平成24年3月3日 (土) 10:00～16:00
- 2. 会 場 とりぎん文化会館 2階 第4会議室
- 3. テーマ どうすれば職場をよりよき介護の場へと導く介護福祉士になれるか～フォローアップ力とリーダーシップ力を兼ね備えた真の職業人となる～
- 4. 講 師 日本女子大学 人間社会学部社会福祉学科 教授 久田 則夫氏
- 5. 定 員 約40名
- 6. 問合わせ 一般社団法人鳥取県介護福祉士会
TEL 0857-59-6336

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/夏・秋・冬・春号
- ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>
郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

秋号 (23年9月発行)
特集「介護記録の重要性」

冬号 (23年12月発行)
特集「尊厳と自立を目指した排泄の介護」



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.108
2月15日号
 平成24年（2012年）

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

平成24年度介護報酬改定が提示されました

平成24年1月25日に行われた「第88回社会保障審議会介護給付費分科会」において平成24年度に実施される介護報酬改定について諮問が行われ、了承されました。

この平成24年度介護報酬改定では、「高齢者の尊厳保持と自立支援という介護保険の基本理念を一層推進する」ために、「地域包括ケアシステムの基盤強化」「医療と介護の役割分担・連携強化」「認知症にふさわしいサービスの提供」を基本的な視点として見直しが行われ、全体としてプラス1.2%の改定が行われました。

また、その内容を見ると「介護職員処遇改善加算」が創設されたほか、訪問介護サービスにおいて新たに「20分未満の時間区分」の創設、地域密着型サービスにおいて「定期巡回・随時対応サービス」が創設され、「介護職員によるたんの吸引等の実施」に係る見直し等も行われました。（以下に各サービスの報酬・基準見直しの一部を掲載。）

（参考）介護報酬改定率 プラス1.2%（うち、在宅分1.0%、施設分0.2%）

平成24年度の介護報酬改定は事業者だけでなく、個々の介護福祉士の日々の業務にも直接かかわってきます。ここでは、特に介護福祉士とかわりの深い内容について抜粋しています。

その他の内容及び算定要件、加算率、単位数等の詳細は厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/>) をご参照下さい。

●介護職員の処遇改善に関する見直し

介護職員処遇改善交付金相当分を介護報酬に円滑に移行するために、例外的かつ経過的な取り扱いとして、平成27年3月31日までの間、介護職員処遇改善加算を創設する。なお、平成27年4月1日以降については、次期介護報酬改定において、各サービスの基本サービス費において適切に評価を行うものとする。

介護職員処遇改善加算（Ⅰ）（新規）所定単位数にサービス別加算率を乗じた単位数で算定

介護職員処遇改善加算（Ⅱ）（新規）介護職員処遇改善加算（Ⅰ）の90/100

介護職員処遇改善加算（Ⅲ）（新規）介護職員処遇改善加算（Ⅰ）の80/100

※算定要件（介護職員処遇改善交付金の交付要件と同様の考え方による要件を設定。）

イ 介護職員処遇改善加算（Ⅰ）

(1) 介護職員の賃金（退職手当を除く。）の改善（以下「賃金改善」という。）に要する費用の見込み額が、介護職員処遇改善加算の算定見込み額を上回る賃金改善に関する計画を策定し、当該計画に基づき適切な措置を講じていること。

(2) 介護職員処遇改善加算の算定額に相当する賃金改善を実施すること。

※ (3) から (8) は省略

ロ 介護職員処遇改善加算（Ⅱ）イ (1) から (6) までに掲げる基準のいずれにも適合し、かつ、イ (7) 又は (8) に掲げる基準のいずれかに適合すること。

ハ 介護職員処遇改善加算（Ⅲ）イ (1) から (6) までに掲げる基準のいずれにも適合すること。

●地域密着型サービス

定期巡回・随時対応サービス

日中・夜間を通じて1日複数回の定期訪問と随時の対応を介護・看護が一体的に又は密接に連携しながら提供するサービスであり、中重度者の在宅生活を可能にする上で重要な役割を担う定期巡回・随時対応サービスを創設する。

認知症対応型共同生活介護

認知症対応型共同生活介護については、利用者の平均要介護度の高まりへの対応を強化する観点から、フラット型となっている現行の要介護度別の基本報酬体系を見直すとともに、ユニット数別の報酬設定による適正化を図る。

<認知症対応型共同生活介護費> 認知症対応型共同生活介護費 (I) 認知症対応型共同生活介護費 (II)

要介護1	831単位/日	要介護1	802単位/日	要介護1	789単位/日
要介護2	848単位/日	要介護2	840単位/日	要介護2	827単位/日
要介護3	865単位/日	⇒ 要介護3	865単位/日	要介護3	852単位/日
要介護4	882単位/日	要介護4	882単位/日	要介護4	869単位/日
要介護5	900単位/日	要介護5	900単位/日	要介護5	886単位/日

(注) 認知症対応型共同生活介護 (I) は1ユニット、認知症対応型共同生活介護 (II) は2ユニット以上である場合に算定する。

●訪問系サービス

訪問介護

身体介護の時間区分について、1日複数回の短時間訪問により中重度の在宅利用者の生活を総合的に支援する観点から、新たに20分未満の時間区分を創設する。

(新規)	20分未満	170単位/回
30分未満	254単位/回	⇒ 20分以上 30分未満 254単位/回

生活援助の時間区分について、サービスの提供実態を踏まえるとともに、限られた人材の効果的活用を図り、より多くの利用者に対し、適切なアセスメントとケアマネジメントに基づき、そのニーズに応じたサービスを効率的に提供する観点から時間区分の見直しを行う。

30分以上60分未満	229単位/回	⇒	20分以上45分未満	190単位/回
60分以上	291単位/回		45分以上	235単位/回

生活機能向上連携加算

自立支援型のサービスの提供を促進し、利用者の在宅における生活機能向上を図る観点から、訪問リハビリテーション実施時にサービス提供責任者とリハビリテーション専門職が、同時に利用者宅を訪問し、両者の共同による訪問介護計画を作成することについての評価を行う。

生活機能向上連携加算 (新規) ⇒ 100単位/月

2級訪問介護員のサービス提供責任者配置減算

サービス提供責任者の質の向上を図る観点から、サービス提供責任者の任用要件のうち「2級課程の研修を修了した者であって、3年以上介護等の業務に従事した者」をサービス提供責任者として配置している事業所に対する評価を適性化する。

サービス提供責任者配置減算 (新規) ⇒ 所定単位数に90/100を乗した単位数で算定

●通所系サービス

通所介護

通常規模型以上事業所の基本報酬について、看護業務と機能訓練業務の実態を踏まえて適正化を行う。また、小規模型事業所の基本報酬について、通常規模型事業所との管理的経費の実態を踏まえて適正化を行う。サービス提供時間の実態を踏まえるとともに、家族介護者への支援 (レスパイト) を促進する観点から、サービス提供の時間区分を見直すとともに12時間までの延長加算を認め、長時間のサービス提供をより評価する仕組みとする。

●介護職員によるたんの吸引等の実施について

社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正によって、介護福祉士及び研修を受けた介護職員等が、登録事業所の事業の一環として、医療関係者との連携等の条件の下にたんの吸引等を実施することが可能となったことに伴い、介護老人福祉施設及び訪問介護の既存の体制加算に係る重度者の要件について、所要の見直しを行う。

- ・訪問介護における特定事業所加算の算定要件の見直し
- ・介護老人福祉施設における日常生活継続支援加算の算定要件の見直し

また、介護職員によるたんの吸引等は、医師の指示の下、看護職員との情報共有や適切な役割分担の下で行われる必要があるため、訪問介護事業所と連携し、利用者に係る計画の作成の支援等を行う訪問看護事業所について評価を行う。

- ・訪問看護における看護介護連携強化加算の新設

●短期入所系サービス

緊急時の受入れに対する評価

緊急時の円滑な受入れを促進する観点から、緊急短期入所ネットワーク加算を廃止し、一定割合の空床を確保している事業所の体制や、居宅サービス計画に位置付けられていない緊急利用者の受入れについて評価を行う。その際、常時空床のある事業所については算定しない仕組みとするなど、必要な要件を設定する。

緊急短期入所ネットワーク加算	⇒	廃止
緊急短期入所体制確保加算（新規）	⇒	40単位/日
緊急短期入所受入加算（新規）	⇒	60単位/日

●介護予防サービス

訪問系サービス

介護予防訪問介護については、サービスの提供実態を踏まえるとともに、適切なアセスメントとケアマネジメントに基づき、利用者の自立を促すサービスを重点的かつ効果的に提供する観点から見直しを行う。

介護予防訪問介護費（Ⅰ）	1,234単位/月	⇒	1,220単位/月
介護予防訪問介護費（Ⅱ）	2,468単位/月	⇒	2,440単位/月
介護予防訪問介護費（Ⅲ）	4,010単位/月	⇒	3,870単位/月

また、利用者の在宅における生活機能向上を図る観点から、介護予防訪問リハビリテーション実施時に介護予防訪問介護事業所のサービス提供責任者とリハビリテーション専門職が、同時に利用者宅を訪問し、両者の共同による訪問介護計画を作成することについての評価を行う。

生活機能向上連携加算（新規）	⇒	100単位/月
----------------	---	---------

●在宅復帰・在宅療養支援機能加算（介護老人保健施設）

在宅復帰・在宅療養支援機能を強化するため、在宅復帰・在宅療養支援機能加算の創設等を行う。

在宅復帰・在宅療養支援機能加算（新規）	⇒	21単位/日
---------------------	---	--------

●特定施設入居者生活介護

看取りの対応強化

特定施設入居者生活介護については、看取りの対応を強化する観点から、特定施設において看取り介護を行った場合に評価を行う。

看取り介護加算（新規）	⇒	死亡日以前4～30日 80単位/日
		死亡日前日及び前々日 680単位/日
		死亡日 1,280単位/日

役職者の互選に関する公示

平成24年 2月15日
社団法人 日本介護福祉士会 選挙管理委員会

以下のとおり、平成24年度役員改選にかかる役職者の互選を行うので公示します。

1 選出する役職者

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 3人以内 (会長立候補者の指名による)

1 選出する役員の任期

平成24年5月の通常総会から平成26年の通常総会まで

1 選出方法

平成24年度通常総会開催の概ね1ヶ月前に、選挙管理委員長が理事予定者全員を招集し役職選考会を開催する。
会長の選考は、全国選出理事予定者による立候補制とし、無記名投票により最多得票者を次期会長内定者とする。ただし、得票数が同数の場合はくじ引きにより決する。
副会長は、会長立候補者が立候補時に3人以内の副会長候補者を全国選出理事より指名し、会長内定に伴い副会長内定者となる。

1 立候補の受付

2月15日から3月12日を立候補届出期間とし、所定の立候補届出を郵送により提出する。
なお、届出は上記期間内の消印をもって有効とし、選挙管理委員会あてに立候補届在中と朱書きのうえ郵送する。

1 立候補者の要件

会長立候補者、副会長立候補者ともに全国選出理事予定者でなければならない。

平成24年度介護福祉士海外研修・調査募集要項

財団法人社会福祉振興・試験センター (以下「センター」という。) では毎年、介護業務等を行っている三福祉士の海外研修・調査を行っています。日本介護福祉士会 (以下「本会」という。) では、その中の介護福祉士海外研修・調査の申込みを受け付けています。

●実施主体

財団法人社会福祉振興・試験センター

●研修・調査の実施方法

施設又は在宅における介護の実態について、福祉先進国 (昨年はスウェーデン・フィンランド) で、現地のケアワーカーと高齢者介護の実地体験研修を行う。

●派遣対象者 (10名以内とする)

- (1) 現に社会福祉施設等において、介護業務に従事して3年以上の者 (本会の会員であるか否かは問わない)
- (2) 平成24年12月1日現在において、つぎのいずれにも該当する者
 - ア 25歳以上55歳未満の者
 - イ 介護福祉士の資格取得後3年以上である者
- (3) 研修・調査終了後も引き続き介護業務に従事する意志を有する者
- (4) 心身ともに健康で、協調性があり、研修期間中団体行動ができる者
- (5) 過去において、センターの海外研修に参加したことのない者

●研修・調査実施期間

平成24年9月1日 (土) ~9月15日 (土)

●研修・調査派遣国

福祉先進国 (北欧) を予定

●研修費用

原則、センターが全額負担

●オリエンテーション

平成24年7月20日 (金) 実施

●応募方法 (締切: 平成24年5月7日 (月))

参加希望者は、次に掲げる書類を、本会を經由してセンターに提出するものとする。

- (1) 別紙1- (2) 「介護福祉士海外研修・調査参加申込書」
- (2) 履歴書 (写真添付のこと)
- (3) 健康診断書 (1年以内の定期健康診断書等、コピー可)
- (4) 小論文 (1,200字程度、横書き、A4サイズたて用紙を使用すること。海外研修に参加したい目的及び理由を明記すること。)

●派遣者の選考方法

センターにおいて書類審査により決定し、選考結果は6月下旬に通知

●研修・調査報告書

派遣者は、報告書を提出するものとする

※提出書類は一切返却しないものとする。

※その他詳細、申込用紙のダウンロードは本会のホームページをご覧ください。

日本介護学会 研究発表募集要綱

第10回日本介護学会で発表する研究を募集しています！

研究の成果を学会で発表してみませんか。多数のご応募をお待ちしております！！

日時 平成24年9月28日（金）13：00～29日（土）17：00

会場 ピアザ淡海（滋賀県大津市におの浜1-1-20）

【募集する研究発表テーマ】

介護と医療の連携 災害と介護福祉士 介護人材の育成 介護実践の改善

【申込方法】

「研究発表に際しての留意事項¹」をご覧の上、受付期間内に提出物²の全てを研究発表申込みフォーム³からお申込み、またはCDに収録して郵送⁴してください。

- 1 「研究発表に際しての留意事項」 本会ホームページ<http://www.jaccw.or.jp>に掲載
- 2 提出物 研究発表申込書・共同発表者登録書 抄録（書式は本会ホームページに掲載、ダウンロード可）
- 3 研究発表申込みフォームURL <http://www.jaccw.or.jp>
- 4 送付先（その他お問合せ）〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13西勘虎ノ門ビル3F社団法人日本介護福祉士会内 日本介護学会事務局 宛

TEL03-3507-0784 FAX03-3507-8810 Email : webmaster@jaccw.or.jp

【申込受付期間】

平成24年4月1日（日）～5月31日（木）

※研究発表には要件があります。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.jaccw.or.jp>

●役員の動き●（12月1日～1月31日）

- | | |
|---|---|
| 12月 1日 キャリアブレイン・インタビュー（石橋会長） | 12月18日～19日（仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修（内田副会長） |
| 12月 1日 第5回制度・政策検討委員会（石橋会長、内田副会長、木村副会長、三浦副会長） | 1月 7日（仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修第1回認定試験作成委員会（仮）（内田副会長） |
| 12月 1日 第1回生涯研修制度検討委員会（石橋会長、内田副会長、木村副会長、三浦副会長） | 1月13日 正副会長会、第6回常任理事会（石橋会長、内田副会長、木村副会長、三浦副会長） |
| 12月 5日 第87回社会保障審議会介護給付費分科会（田中名誉会長） | 1月13日 第6回制度・政策検討委員会（石橋会長、内田副会長、木村副会長、三浦副会長） |
| 12月 9日 日本の医療を守るための総決起大会（石橋会長） | 1月14日～15日（仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修（内田副会長） |
| 12月10日～11日 運動機能障害者介護のためのモデル研修（三浦副会長） | 1月25日 第88回社会保障審議会介護給付費分科会（田中名誉会長） |
| 12月13日 厚生労働省へ災害ボランティアの経過報告（石橋会長、内田副会長） | 1月28日 福岡県介護福祉士会20周年及び公益社団化記念（石橋会長） |
| 12月13日 第4回認定介護福祉士（仮称）の在り方に関する検討会（石橋会長） | |

ソウエルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業（旅行・観劇・スポーツ大会等）

■職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115か所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239か所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウエル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
<http://www.sowel.or.jp/>

社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町1-3-11
NBF小川町ビルディング10階

福祉で働く人の福利厚生を支援しています。

平成24年度日本介護学会開催県

滋賀県⑤

一般社団法人 滋賀県介護福祉士会

早いもので、日本介護学会に向けての滋賀県紹介を担当し5回目となりました。遅ればせながら、今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、今回は「滋賀県介護福祉士会」事務局の紹介と、現在の介護研究ゼミの進行状況について紹介します。

滋賀県介護福祉士会は平成5年5月22日に当時、県内の介護福祉士119名の参加を得て設立総会を開催、発足しました。当時、事務局は滋賀県社会福祉協議会内に設置させていただいておりましたが、現在は移転しました。現在はJR琵琶湖線草津駅より、びわ湖に向かって車で10分ほど、駒井沢という小さい集落の中にある「茅葺き屋根の家」の中にあります。この茅葺き屋根の家は、当会の村田美穂子会長が理事長及び所長をつとめるNPO法人宅老所「心」が2年前まで地域密着型の小規模デイサービスをされていた場所でもあります。



平成22年、近隣に小規模多機能型居宅介護事業所を開設したため、現在は地元駒井沢地域の方向けの「居場所」として活用されており、滋賀県介護福祉士会もここに事務局を置かせてもらっています。現在の当会事務局の勝手な目標は「会員1,000人以上」と「事務局を町中へ！」を合い言葉に頑張っています。とはいえ、茅葺き屋根の事務局は以外と落ち着くもので、個人的にはとても気に入っています。主には地域の元気高齢者の方や小規模多機能型居宅介護事業所の利用者の方々がコーヒーを飲みに来られたり、地元のボランティア会合に使われたり、最近では会員の悩み相談や、介護福祉士国家試験の受験生が受験勉強のために活用したりと、様々に活用されています。

さて、日本介護福祉士会のモデル事業として平成23年度に取り組んでいる「介護研究ゼミ」ですが、1月現在、かなりの山場を迎えています。1月末は夏に行われた「合宿ゼミ」を再度開催し、短期集中で抄録を仕上げにかかります。

このために、ゼミ参加生は年末年始の時間を削って介護研究に取り組んでいます。

事務局として、また介護研究ゼミコーディネーターとして気になる各グループの進行状況ですが、現在データの収集と分析がほぼ終了した状況です。各グループは「抄録(しょうろく)」という、研究内容の要約の作成と提出に取り組んでいます。今後はこれらの「抄録」を練り直していき、発表でのスライドや発表原稿の最終作成と、発表のリハーサル等をゼミとして行う予定です。

滋賀県での介護学会で、介護研究ゼミの成果を発表できるよう、各グループが真剣に取り組んでいます。是非、皆様も臨床介護研究に取り組み、ともに切磋琢磨してまいりましょう！！



介護研究ゼミの自主勉強会で集まったデータをKJ法で分析している某グループ

第19回全国大会開催県



やまなし

シリーズ 1



5回にわたって山梨の紹介が出来るという機会をいただいたので、12月7日～8日に予定している全国大会までの約10か月、いろんな山梨をアピールしていきたいと思っています。1回ももらさずお読みいただけることを期待して！そして平成24年度の全国大会には是非とも山梨へおいでください！第18回開催県の青森からエールをいただき、実行委員会の士気も高まっています！おもてなしの心でお待ちしています。

富士山

山梨といえば『富士山』。静岡にまたがる独立峰として日本列島のほぼ中央に位置しています。登山を楽しむなら夏！雄大な景色を楽しむなら冬！と季節に沿った楽しみがあります。以前から進められていた世界遺産登録にも進展が！2013年夏の登録に向けユネスコに推薦することが決まりました。プレ世界遺産を堪能してください。



下部ホテル
〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1900
TEL 0556-36-0311 <http://www.shimobe.co.jp/>

温泉

古湯あり、秘湯あり、心癒される眺めあり。山々に抱かれた数々のやすらぎの湯がお待ちしています。



そのひとつ、武田信玄の隠し湯として知られ療養客や湯治客が多く訪れる下部温泉郷。下部ホテルのおすすめは、2011年に新設された「松ぼっくりの湯」。硫黄泉と高温源泉の2種類で全12種の温泉を湯めぐりしてみませんか？



ルミエールワイナリー
〒405-0052 山梨県笛吹市一宮町南野呂624
TEL 0553-47-0207

ワイン

日本で初めて甲州ぶどうが栽培されたやまなし。近年、情熱溢れる醸造家の努力により品質が著しく向上し、様々な権威あるワインコンクールで入賞を果たしています。県内には約80のワイナリーがあり、ワインの産地をゆったりと巡り、美しい景観とワイン、郷土料理を楽しむワインツーリズムもお勧めです。

写真の農場をお持ちのルミエールワイナリー。数々の受賞歴あるワインが並びイベントも開催されています。

ご自分に合ったワインを探してみてください。

写真提供：山梨県観光部『ビタミンやまなし』・下部ホテル

連載

7

介護の現場で輝いています！

私、輝いています

社会福祉法人 楠黄福祉会 特別養護老人ホーム 泰昌園 後藤 良彰

介護福祉士養成校を卒業後、介護福祉士11年選手、特別養護老人ホームでの介護職を経て、現在、認知症対応型生活介護施設（グループホーム）にて認知症ケアに従事しています。

私は、本来引っ込み思案の性格です。その私がレクリエーションの魅力にとらわれ、今では企画や司会を率先して担当するまでになりました。そこに没頭している自分が好きになり、徐々に人前に立ち、人を魅了する楽しみを覚えていきました。利用者の笑顔を引き出すことが自分の楽しみになり、自分が楽しめば利用者から笑顔がこぼれる。自分を変えるきっかけになったレクリエーションの研修を思い出します。研修を受講することで自己を見つめ、自分の考え方を整理する機会となり、そして、どのように実践したらよいかそのヒントを得たことを思い出します。

現在、ファーストステップ研修真っ最中、新たな自分探しを求めて受講しています。全研修15回の内、やっと半ばにさしかかり、苦しさや楽しさのなか、嬉しさも覚えるようになっていきます。日常業務とファーストステップ研修の事前・事後課題に追われ、日々うまくしたてられている様な気持ちの真っ只中ですが、講師の想いを聞き興奮して真っ赤な顔になったり、意見を求められてあせって青ざめたり冷や汗がでたり、学生時代にもどったような時を過ごしています。同期の仲間もでき、同じ想いを共有する楽しみも味わっています。気づいていなかったことやみえていなかったことに気づかされ、考えをどう行動にうつすのか、その方法を学んでいます。自分にふりかかる全ての問題を解決する術を学びつつあるようで、最近自分の行動に自信がついてきたように感じています。

利用者に笑顔を再び取り戻すために自分達の仕事があると信じ、人から「ありがたい。」と認めていただけるように今以上に専門性を高めていきたいと思っています。言語化する重要性も理解した上で、まず私自身できること、つまり「笑顔」、これが生きる秘訣であることを信じて介護していきたいと思っています。



ご利用者に支えられて

特別養護老人ホームねむの丘 都丸 あかり

私は群馬県の特別養護老人ホーム、32名定員の従来型のフロアで介護職員として勤めています。就職して1年目の職員です。初めはご利用者の心身の状態が把握できず、コミュニケーションがうまくとれずに悩んだりしましたがようやく仕事に慣れ、大変な中でも楽しい毎日を送っています。

介護をしていて1番幸せなことは自分の関わりでご利用者が笑顔を見せてくれること、以前はできなかったことができたりすることです。高齢になり、身体機能が低下したり認知症を患ったりしているご利用者ですが、そんな中で何か少しでもできることが増えたら、とスタッフ皆で考えながらケアを行っています。

入職してすぐ、認知症で介護拒否がありコミュニケーションがうまく図れないご利用者Aさんがいました。移乗等で体に触れようとすると「嫌だよー!」と大きな声で叫んでしまいます。できる限り安心して頂けるよう優しく接しようと努力するも拒否される毎日で、苦手意識を感じてしまうこともありました。しかしある日、仕事でつらい思いをした後にAさんと接したことがありました。つい甘えたくなくて、Aさんに寄り添うと、「どうしたの?」と私の顔を見るなり、表情からつらい気持ちが伝わったのか、「だいじょうぶよ。」と優しく私の頭を撫でてくださったのです。たとえ認知症になっても感情や感性は最後まで残ると学生の時に学んできましたが、まさにこういうことなのだと思います。同時にAさんがとても頼もしく、大きく見え、私たちスタッフもこうしてご利用者に助けられながら生きているのだと実感しました。

ご利用者は敏感に私たちの雰囲気や気持ちを感じ取っているのだと思います。その日楽しかったと思うのも、辛かったと思うのも私たちスタッフの関わり次第だと思います。大好きな人生の大先輩に、最後に笑って頂きたい。その気持ちを忘れずに、これからも日々学びながらご利用者とともに楽しく過ごしていきたいです。



ふれあいケア

2012年
3月号
2月20日発行

●定価1,020円(本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円(10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 再考 医療との連携

利用者の高齢化・要介護度の重度化がすすむなか、入退院を繰り返す方、痰の吸引など医療的ケアが必要となる方が増加しています。また、人生の最期を施設で迎えたいと希望される方の看取りを行う施設も増えつつあります。利用者が住み慣れた場所で安心して暮らし続けるために、介護と医療はどのように連携していけばよいか考えます。

インタビュー 実践レポート ほか

好評連載企画

- 介護現場のリスクマネジメント ●納得!リハ医の認知症解説 ●かけがえのないひとこと
- ふれあい訪問介護センター物語 ●ワンポイント介護技術 ●認知症ケア相談室 ●Close Up福祉用具
- もっと・ぐっどコミュニケーション ●介護の味方・看護の見方 ●今の動き・制度解説 ほか

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい(品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店・都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■

受注 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
専用 E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉人 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

支部
リレー

都道府県介護福祉士会 情報交流の泉⑦ ◆山口県

おいでませ 西の京 山口へ

●山口県介護福祉士会のご紹介

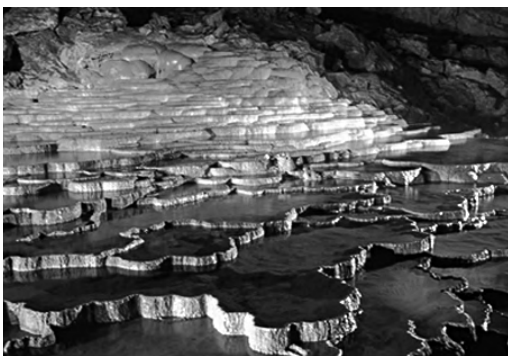
山口県介護福祉士会は平成4年に発足し、新たに平成23年7月に一般社団法人 山口県介護福祉士会として誕生しました。会員数は1,840名ですが、全国でも高い組織率を保持しています。会員一人ひとりのニーズに応え、専門的知識や技術向上に努め、介護福祉士としての資質向上を図るために多くの研修会を実施しています。なかでも『介護予防体操』・『介護研究セミナー』は、山口県が先駆けとして全国の介護福祉士会に発信しています。

職場や地域に根差した介護福祉士を目指し、会員の皆さんと共にこれからも活動の輪を広げていきたいと思っています。

●山口 お国自慢

①山口県は、本州最西端に位置し、3方を海に囲まれた自然豊かなところです。

人口は145万人余りですが、明治維新～今日に至るまで日本で1番多く総理大臣を生み出しており(9名)、初代内閣総理大臣『伊藤博文』もその一人です。(昔の千円札の肖像にも登場していました)長州の志士達の気質を受け継ぎ、情熱的で理想を求める気風がある半面、穏やかな気候の中で育まれた温和な性格の人が多とも言われています。



②観光スポットも盛りだくさん! って知っちゃう?

日本最大級のカルスト台地『秋吉台』や東洋屈指の大鍾乳洞『秋芳洞』は、自然の神秘を感じます。日本海の荒波が削り出した豪壮雄大な景勝『青見島』、本州と九州を結ぶ『関門海峡』近郊では、フグをはじめとするたくさんの海産物を味わうことができます。

日本三大奇橋の一つ岩国の『錦帯橋』は、5つのアーチが美しく、釘を使わない木組み技法で築かれています。他にも『萩城下町』や『国宝瑠璃光寺』、『毛利氏庭園』など見どころがいっぱいです!ぜひ1度来てみんさい!
※ちなみに「知っちゃう?」は山口弁で「知ってますか?」、「来てみんさい!」は、「来て下さい!」の意味です。



次は北海道にバトンタッチ!

画像提供: おいでませ山口へ、岩国の観光.com

福祉用具を活用しよう

公益財団法人テクノエイド協会

Part 1 起居 ー起きることは生活の始まりー

今回は、「寝返り・起き上がり・立ち上がり動作や離床」について解説します。

介護ベッドから無理なく自分で離床してほしい、あるいは離床時の介護負担を軽減したい場合、ベッドの背上げ機能や介助バーを利用して起き上がりを容易にし、ベッドの昇降機能や介助バーなどのベッド用手すりを利用して立ち上がりや立位の安定を図る方法があります。

また、身体機能だけでは起き上がりが困難になってきたら、背上げ機能を有効に利用すれば容易に起き上がることも可能です。浅く腰掛けて、昇降機能を利用して立ち上がりやすい高さに調節すれば、立ち上がるのが容易になり、さらに介助バーを利用すれば安定した立位も維持できます。

■介護ベッド及び介助バー

不足する身体機能をベッドの機能によって補完することにより、動作が容易になる、自立が可能になる、介護負担の軽減を図ることができるなどの利点がありますが、環境条件(生活動線、介護スペース、居室の広さなど)や本人の条件(身体機能など)等を考慮することが必要です。

【用具の選定】

①ベッドに必要な機能

電動の背上げ機能と昇降機能が必要です。

軟らかすぎるマットレスは端座位が安定しづらくなるので、本人の身体機能で座位が安定する程度の硬さがマットレスに必要です。

ベッド上で体をずらす、寝返りをする、起き上がる、立ち上がるなどの動きはマットレスの硬さに大きく影響を受けます。本人の動きや生活習慣、個人の好みをしっかり確認しましょう。

差し込み式のベッド柵は本人や寝具の転落を防止するものであり、いろいろな動作の時に身体を支えるものではありません。手がかりや支持に使用する時は、ベッド本体に固定できる介助バーを使用してください。つかまる位置によって、固定位置や高さを調整できるタイプや垂直ポールタイプの手すりもあります。(図1)

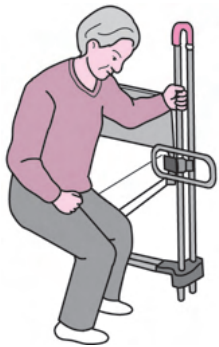


図1 垂直ポールタイプのベッド用グリップ

②使い方

基本的に自立して行う場合を想定して記述しますが、自立してできない場合には、本人ができないことだけを介助者が行います。

- ・寝返りをして仰臥位になります。
- ・ベッドの背上げ機能を利用して背を上げます。
- ・背上げ角度は本人の身体機能に応じて決めますが、背を高く上げれば上げるほど容易に起き上がれます。
- ・介助バーをつかみ、肘や掌でマットレスを押しようにしながら起き上がります。(図2)
- ・仰臥位のまま背上げを行う場合もありますが、背上げ角度を大きくすると臀部が前方に滑り、いわゆる「ずっこけ姿勢」になって、かえって起き上がりにくい場合があります。
- ・このような時にはあらかじめ、膝を上げて臀部の滑りを防止し、ついで背上げ、後に膝を降ろしてベッドを平らにしてから端座位になります。このベッドの動きを一つのスイッチ操作でできる機種もあります。
- ・背上げ時にベッド柵や介助バーへの挟み込みや転落の不安がある人には、ボトム一体型のベッド柵(ベッド柵が背ボトムに固定されていて、背が上がりと同時に上がってくるタイプ)を利用します。
- ・端座位になった時、足が引けていないと立ち上がりにくくなります。足が引けていない時は、お尻を少し前方に出します。
- ・体格に対しベッド幅が広すぎると、端座位に移行する時に大きく移動しなければならず、負担となることがあります。
- ・足が床に着いている範囲内でベッド面を高くすると、立ち上がりやすくなります。
- ・立ち上がる時は体幹を前傾させ、介助バーを利用して立ち上がります。(図3)



図2 マットレス面を押し、手すりを利用し起き上がる



図3 足を引き、体幹を前傾させて立ち上がり

次回は、「ベッド上での背上げ座位の安定の仕方」について解説します。

平成24年度年会費振替のお知らせ

5月28日に実施します

- 下記の日程でご指定の口座から年会費の自動振替を実施いたします。
つきましては前日までに口座へのご入金をお願いいたします。
- 平成24年5月28日 (月)
- 口座登録されている継続会員のみなさま
口座情報に関することや会費納入について不明な点がありましたら、恐れ入りますがご本人様より会員番号をご用意のうえ、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせください。

会員の皆様へ

- 機関誌などの郵送物発送、研修会参加時の会員価格適用、書籍購入時の割引適用などのサービスは会費の納入が確認できた会員様のみ提供させていただいております。
- 婚姻等による姓の変更や、ご住所・ご連絡先、ご勤務先などの登録情報に変更があった際は、必ずご連絡いただきますようお願い申し上げます。
- やむをえずご退会をされる場合は、所定の様式により、退会申請して下さい。なお退会される場合でも当該年度に在籍されている場合は会費をお支払いいただく必要がございますので、ご了承ください。
- 当会は4月1日～3月31日までの年度制をとっております。
- ご不明点等ございましたら、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。
(電話03-3507-0784 E-mail:webmaster@jaccw.or.jp)
- 職場などお近くのお知り合いで会に未加入の方がいらっしゃる際は是非とも入会をおすすめいただきますようお願い申し上げます。

都道府県介護福祉士会研修情報

東京都介護福祉士会

介護職に必要な法律の知識研修

- 日時 平成24年4月28日 (土) 10:00～16:00
- 講師 弁護士 吉岡 譲治 先生
- 場所 ティアラこうとう 大会議室B
- 内容 ①リスクマネジメントを法律の視点から考える
②介護事故からみた介護職の法的責任
③個人情報保護とプライバシーとは
④介護職と医行為のリスクマネジメント (福祉関連法令)
⑤虐待と身体拘束
- 定員 50名
- 参加費 会員 3,000円 非会員5,500円
※キャンセル等による受講料の返金はいたしません。
- 締切日 平成24年4月20日 (金) 又は定員になり次第
- 問合わせ NPO法人 東京都介護福祉士会 (担当:加藤)
TEL 03-5624-2821 FAX 03-5624-9650

京都府介護福祉士会

平成23年度市部・全体合同研修会

- 日時 平成24年3月17日 (土) 10:00～16:00
- 場所 京都社会福祉会館 3階 第5会議室
- 内容 「平成24年4月の医療・介護保険制度の改定について」
講師:ヒューマンリソシア (株) メディカル営業部長 顧問兼経営コンサルタント 宮坂 佳紀 氏
「事例に基づく認知症ケア」
～事例を通して代表的な病態の特徴を理解する～
講師:京都府立洛南病院 精神科医 森 俊夫 氏
80名 (定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 定員 80名 (定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 参加費 会員1,000円 賛助会員1,000円
会員外5,000円 (当日受付で)
- 締切日 平成24年3月12日 (月)
- 問合わせ 一般社団法人京都府介護福祉士会事務局
TEL 075-801-8060 FAX 075-801-8083

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

- ☆発行回数 年4回/夏・秋・冬・春号
- ☆購読料(年) 3,440円 (4号分・送料含む)
- ☆申込み先 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

冬号 (23年12月発行)
特集「尊厳と自立を目指した排泄の介護」

春号 (24年3月発行)
特集「からだと病気に対応した癒しの介護」



ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.109
4月15日号
平成24年（2012年）

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/> E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

認定介護福祉士（仮称）制度の方向性について 平成23年度研究の中間まとめが 公表されました

日本介護福祉士会は昨年度、「平成23年度老人保健事業推進費等補助金事業」として「質の高い介護サービスの提供力を持つ介護福祉士（認定介護福祉士）の養成・技能認定等に関する調査研究事業」を実施しました。

昨年度、日本介護福祉士会が事務局となり、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正時の国会附帯決議を受け、平成22年度に厚生労働省で実施された「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」報告書において提案された認定介護福祉士（仮称）制度の構築を目的として、「質の高い介護サービスの提供力を持つ介護福祉士（認定介護福祉士）の養成・技能認定等に関する調査研究事業」を実施いたしました。

本事業において、有識者等による「認定介護福祉士（仮称）の在り方に関する検討会」を設置し、「認定介護福祉士（仮称）制度のねらい」、「認定介護福祉士（仮称）の役割・実践力」、「研修体系及び研修カリキュラム」、「制度の運営スキーム」等

について検討し、「認定介護福祉士（仮称）制度の方向性について平成23年度研究の中間まとめ」を作成いたしました。認定介護福祉士（仮称）についての理解を共有するために、この「中間まとめ」は介護事業者や行政、関連団体等に広く配布していきます。また、日本介護福祉士会ホームページでも公開しております。

今年度は認定介護福祉士（仮称）研修の具体的な運営方法等を中心に、検討を継続実施することとしています。

以下に、「認定介護福祉士（仮称）制度の方向性について平成23年度研究の中間まとめ」の一部を抜粋いたします。

●認定介護福祉士（仮称）制度のねらいについて

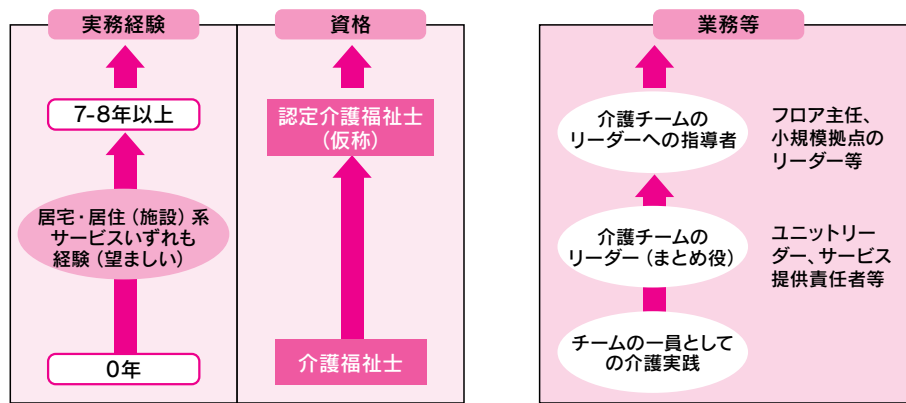
1. 生活を支える専門職としての介護福祉士の資質を高め、利用者のQOLの向上、介護と医療の連携強化と適切な役割分担の促進、地域包括ケアの推進など、介護サービスの高度化に対する社会的な要請に応える。
【認定介護福祉士（仮称）が配置されることにより期待される社会的な成果】
 - ・生活機能の維持・改善により、要支援・要介護度が改善される
 - ・障害に応じた生活環境が整備され、地域での自立生活、社会参加ができる
 - ・重度の認知症となっても地域生活を継続することができる
 - ・医療依存度が高くても、早期に退院し、施設や在宅で生活できる
 - ・口腔機能の維持向上、排泄の自立、BPSDの減少などがはかられる
 - ・地域生活を継続しながらその人らしい終末期を迎えることができる
2. 介護福祉士に対する、他職種、事業者、利用者・家族等からの社会的な評価を高める。
3. 介護福祉士の資格取得後のキャリアパスを整備する。

●役割について

認定介護福祉士 (仮称) は、次のような役割をもつ

- 介護チーム (ユニット等、5~10名の介護職によるサービス提供チーム) のリーダーに対する教育指導、サービスのマネジメントを行い、介護チームのサービスの質を向上させる役割
- ※介護チームのリーダー (ユニットリーダー、サービス提供責任者等) を教育指導したり、小規模拠点のサービス管理を行う位置にある。
- 利用者の生活支援において他職種と介護チームとの連携・協働を促進する (中核となる) 役割
- ※この役割を果たす前提として、十分な介護実践力 (実務経験等を通じた判断力、介護提供能力) を備えていることが必要。

認定介護福祉士 (仮称) の実務経験と業務等のイメージ

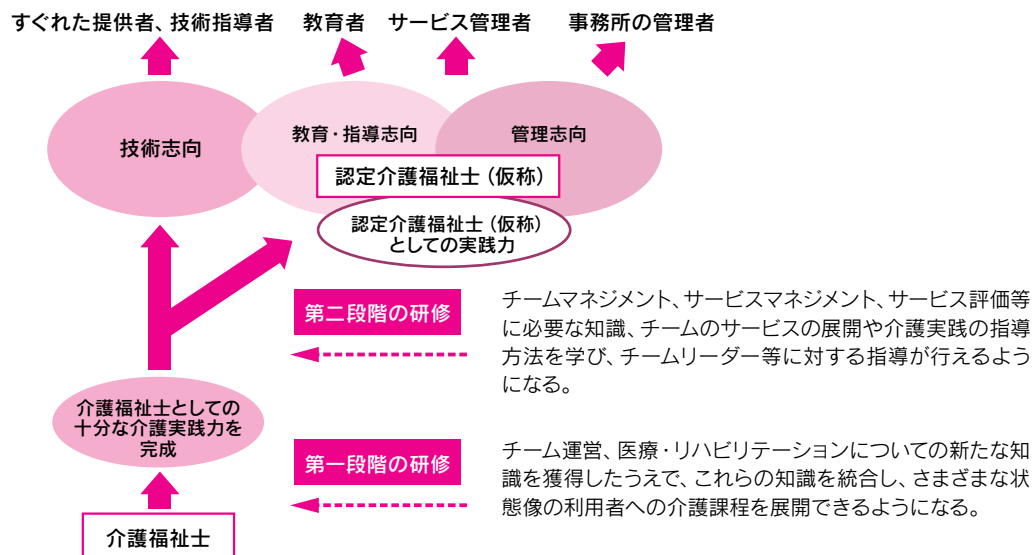


※介護福祉士養成課程を修了した場合

●介護福祉士のキャリアパスと認定介護福祉士 (仮称) との関係

- 第一段階の研修はさまざまなキャリアの志向の共通の基礎となる。技術志向のキャリアをめざす人にも不可欠な内容。
- 認定介護福祉士 (仮称) は教育・指導やサービス管理を中心とした役割であり、第二段階の研修はこれに対応したものの。
- 認定介護福祉士 (仮称) としての研修やキャリアは、その後、事業所の管理者等へのキャリアや教育者としてのキャリアにもつながりうる。

介護福祉士のキャリアパスと認定介護福祉士 (仮称) との関係



「介護老人保健施設における介護職員のキャリアパスに関する調査」の結果について

平成23年12月に公益社団法人全国老人保健施設協会にて、「介護老人保健施設における介護職員のキャリアパスに関する調査」が実施され、その結果が公表されました。

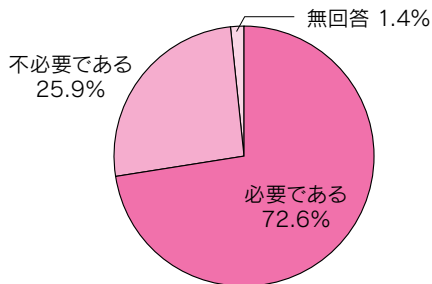
この調査は、全国老人保健施設協会の正会員施設を対象に実施され、認定介護福祉士（仮称）を中心に、介護職員のキャリアパスの在り方について調査されました。

調査結果から、多くの施設で認定介護福祉士（仮称）が求められていることがわかるほか、認定介護福祉士（仮称）像も「介護現場のリーダー」が中心となるなど、日本介護福祉士会を中心に行われている認定介護福祉士（仮称）の議論の後押しをする内容となっています。

認定介護福祉士（仮称）を必要だと思うか

「認定介護福祉士（仮称）を必要だと思うか」を聞いたところ、「必要だと思う」が最も多く72.6%であり、「不必要である」は25.9%であった。

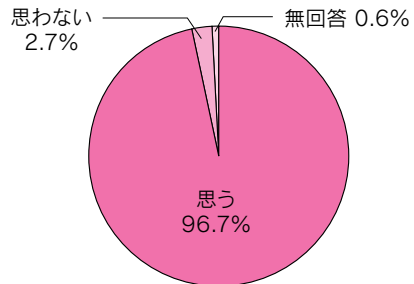
問9 認定介護福祉士（仮称）を必要だと思うか (n=1,334)



自施設に勤務する介護福祉士に認定介護福祉士（仮称）を取らせたいと思うか

認定介護福祉士（仮称）を「必要だと思う」回答者が「自施設に勤務する介護福祉士に認定介護福祉士（仮称）を取らせたいと思うか」を聞いたところ、「思う」が最も多く96.7%であり、「思わない」は2.7%であった。

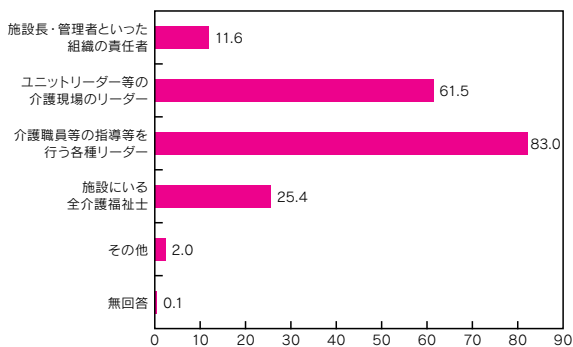
問10 自施設に勤務する介護福祉士に認定介護福祉士（仮称）を取らせたいと思うか (n=969)



どのような職員に認定介護福祉士（仮称）を取らせたいか

認定介護福祉士（仮称）を自施設に勤務する介護福祉士に取らせたいと「思う」回答者が「どのような職員に認定介護福祉士（仮称）を取らせたいか」を聞いたところ、「介護職員等の指導等を行う各種リーダー」が最も多く83.0%であり、次いで「ユニットリーダー等の介護現場のリーダー」が61.5%、「施設にいる全介護福祉士」が25.4%であった。

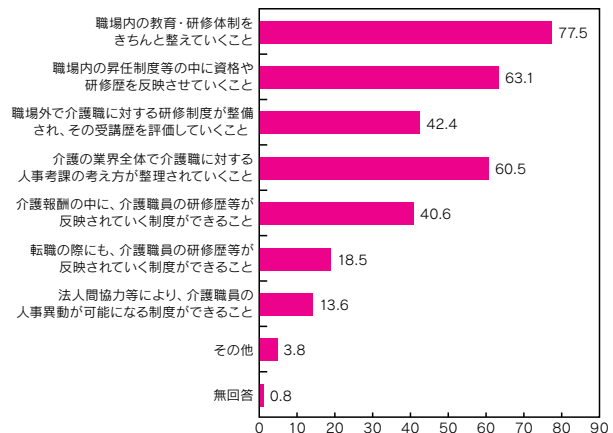
問12 どのような職員に認定介護福祉士（仮称）を取らせたいか (n=937)



今後、介護職員のキャリアパスシステムを確立するために必要なこと

施設で今後、介護職員のキャリアパスシステムを確立するために必要なことを聞いたところ、「職場内の教育・研修体制をきちんと整えていくこと」が77.5%と最も多く、次いで「職場内の昇任制度等の中に資格や研修歴を反映させていくこと」が63.1%であった。

問14 今後、介護職員のキャリアパスシステムを確立するために必要なこと (n=1,334)



介護に関するシンポジウム開催

2月25日に、「これで良いのか日本の介護（福祉人材と介護報酬そしてあるべき介護の姿）」と題し、コーディネーターに栃本一三郎氏（上智大学大学院総合人間科学部学部長）を、シンポジストに池田省三氏（地域ケア政策ネットワーク研究主幹）、対馬徳昭氏（ジャパンケアグループ代表）、時田純氏（一般社団法人24時間在宅ケア研究会理事長）、堀田聡子氏（独立行政法人労働政策研究・研修機構研究員）を迎え、シンポジウムが開催されました。



栃本 一三郎 氏

シンポジウム開会にあたり、日本介護福祉士会会長石橋真二が挨拶を行い、今後の日本の介護の在り方を議論する機会として、シンポジウムを企画したことを述べた。

シンポジウムは最初にコーディネーターの栃本一三郎氏より、「税と社会保障の一体改革のもとで、あるべき介護が提供される安心できる社会に到達できるのか、またその像が示されたのか」、「事業者や市町村の社会的責務や役割が果たされているのか」の2つの課題があることが提起され、その後各シンポジストより意見交換がなされた。

まず、池田省三氏より今回の介護報酬改定で方向転換が図られており、巡回型訪問介護など在宅サービスの拡充が図られると共に、従来の保護型の介護から自立支援型の介護へと政策誘導が行われていることが述べられた。その上で在宅サービスの拡充を図る際に、介護のプロフェッショナルとしての介護福祉士の役割が重要であり、今後さらなる介護福祉士の資質の向上が求められると述べられた。

次に、対馬徳昭氏より現在多くの高齢者が在宅での生活が可能であるにもかかわらず施設へ入所している現状があり、在宅で中重度の高齢者を支えるためには、利用者のニーズを峻別するオペレーション機能を備えた24時間巡回サービスが有効であることが述べられた。また、24時間巡回サービスでは今まで以上にケアマネジメントが重要な位置を占めるため、介護支援専門員が他職種と協力し、より利用者の為になるケアマネジメントが提供されることが求められると述べられた。

次いで、時田純氏より現在提供されている介護サービスにおける、施設と居宅サービスの格差について説明され、その格差を埋めるために施設で提供されてい

る介護サービスを地域で展開することが求められていることが述べられた。また、介護施設の運営基準を緩和し、同一法人内で複数の介護サービスの兼務を可能とすることにより、介護人材の質の向上が図れるほか、各法人の多機能化を促進できるのではないかと述べられた。

最後に、堀田聡子氏より、オランダで高い評価を受けている訪問看護・介護事業所の例が報告され、少人数チームによる包括的なケアの提供や、トランザクションコストを下げる事、インターネットを用いた報告、利用者やその家族も含めた意見交換のシステム等が介護の質を上げる事に有効であることが述べられた。また、日本の介護サービスの質を上げるためにも、介護サービス利用者団体・介護福祉士養成施設・研修提供機関・職能団体等の代表者が集まり、定期的に介護人材の在り方や求められる介護の姿について議論する場を構築することが求められると述べられた。

シンポジウムは、今後日本の介護を良くしていくためには介護サービス事業のイノベーションが必要であり、そのために現場から情報発信を行い、介護保険制度の規制緩和や、介護事業所経営者の意識の変化、個々の介護職員の多機能化や介護のプロフェッショナルとしての意識を持つこと等が必要であることを確認し、閉会した。



平成23年度第2回都道府県介護福祉士会会長会を開催

本年度第2回目となる都道府県介護福祉士会会長会を、神奈川県ウィリング横浜で開催しました。



会長会は本年の2月25日、26日と二日間にわたり行われた。一日目は、TKP渋谷カンファレンスセンターで介護に関するシンポジウム「これで良いのか日本の介護～福祉人材と介護報酬そしてあるべき介護の姿～」が

開催され、その後ウィリング横浜に場所を移して「ブロック会議」が行われた。

二日目冒頭の挨拶で、石橋真二会長がシンポジウムでは初の試みとなるインターネットの生中継を行ったことを述べ、介護保険制度とこれからの介護について、職能団体として国民にメッセージを発信することの必要性を述べた。次にたんの吸引と経管栄養等を介護職員が行えるようになった事を受け、その中で職能団体としていかに安全を保って安心を与えられるような仕組みを作っていくか考えなくてはならず、リスクマネジメントに対する体制を整えながら、事故・訴訟に対応する新しい保険制度の構築について関係団体と協力していかなければならないと述べた。

続いて制度説明として、鈴木康介氏（株式会社損害保険ジャパン医療・福祉開発部第2課副長）と長井亨氏（株式会社ジャパン保険サービスメディカル開発部長）によって、たんの吸引や経管栄養等の介護福祉士の行う医療的ケアに対して、「安心三重奏」における対応の説明がなされた。

全体会では平成23年度事業の進捗状況と平成24年度の実業計画案について説明がなされた。その中で認定介護福祉士（仮称）、ファーストステップ研修、介護福祉士実習指導者講習会等に対する質疑が行われた。



鈴木 康介 氏



長井 亨 氏



午後からのグループ討議では、「組織強化に対する取り組み」「事業計画、今後の方向、20周年事業等」について討議された。この中で「組織強化の取り組み」では、未加入者に対する入会促進や、会員への働きかけによる退会者減を狙った取り組みについてさまざまな意見が出され、全支部における社団化及び組織率の向上を目指すこと等が確認された。また、生涯研修の実施は職能団体の基本として、より多くの会員が受講しやすくするなどの研修会の工夫について話し合われた。「事業計画、今後の方向、20周年事業等」においては、事業計画における障害者介護の位置づけや介護福祉士会としての介護技術マニュアルの作成、ファーストステップ研修の在り方、事務局体制の強化などが議論された。20周年事業についてもさまざまな意見が出された。

最後に木村副会長より閉会の挨拶

があり、日本介護福祉士会の会員数は4万人を超えてきたが、本会長会で議論されたさまざまなご意見を各都道府県に持ち帰って頂き、さらなる会員増を目指して頑張って頂きたい、また、公益社団法人化に向けて全国の皆様方のご支援・ご協力をお願いしたいと述べた。



東日本大震災に対する当会の支援活動

東日本大震災への当会の災害支援活動に対して、平成24年2月17日村井嘉浩宮城県知事より感謝状を拝受いたしました。

介護福祉士の派遣による支援活動は、宮城県仙台市、石巻市、女川町などへ73日間、岩手県大槌町、陸前高田市などへ158日間のべ774名の方にご協力をいただいて実施して参りました。

被災地へ行くことが叶わなかった方も義援金や災害活動費への募金という形で支援をしていただき、義援金約600万円、災害活動費約360万円が集まりました。義援金は社会福祉法人中央共同募金会を通じて被災地へ届けられました。

この度の支援活動にご協力いただきました皆様へ改めて感謝申し上げます。今後は、被災県介護福祉士会と連携して、よりよい支援を提供できるように体制を検討していきます。



右 小松 直子 氏
宮城県保健福祉部長寿社会政策課介護政策専門監
左 内田 千恵子 副会長



ソウエルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品付与
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
- 会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウエル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

■加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル



TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町1-3-11
NBF小川町ビルディング10階

福祉で働く人の福利厚生を支援しています。

日本介護福祉士会生涯研修制度図を改定しました

生涯研修制度において、各研修の位置付けや、受講に必要なとなる経験年数が示された「生涯研修制度図」を4月1日付けで改定しました。

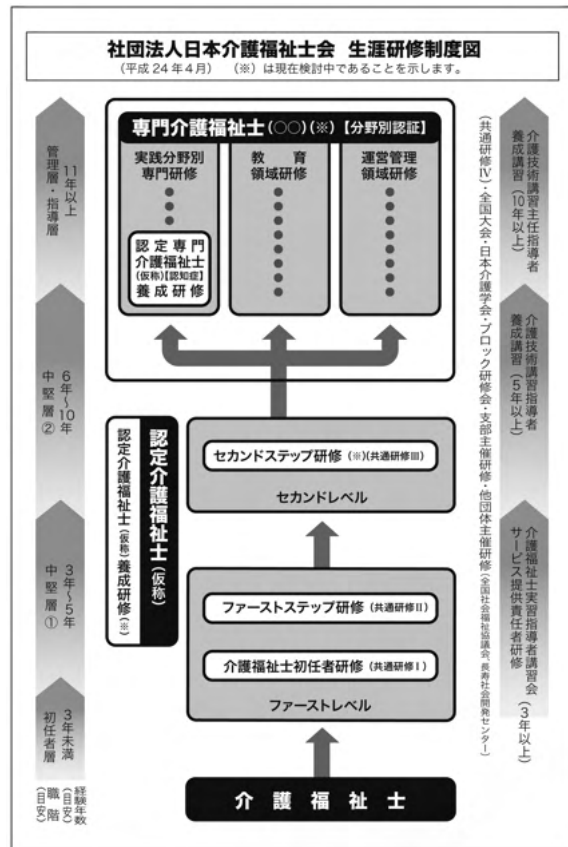
これは、生涯研修制度をスタートした平成19年に比べ、利用者の多様化とともに介護福祉士に求められる役割も多種多様になっているということだけでなく、現在関係団体と共に検討を進めている「認定介護福祉士（仮称）」の創設が予定されていることや、生涯研修制度検討委員会において、「セカンドステップ研修」や「専門介護福祉士」の検討が進められていることを踏まえたためです。

今回の改定にともなう主な変更点は次のとおりです。

- ①各研修の対象者を明確にするため、職場での職階や介護福祉士資格取得後の経験年数を目安として示しました。
- ②現在検討を進めている「認定介護福祉士（仮称）」を表記しました。
- ③「介護福祉士初任者研修」及び「ファーストステップ研修」を【ファーストレベル】、「セカンドステップ研修」を【セカンドレベル】としました。また、さらに上級の資格として、「実践分野別専門研修」、「教育領域研修」、「運営管理領域研修」から成る【専門介護福祉士】を位置付けることで、介護福祉士資格取得後も目標を持って研鑽を積むことができるよう改めました。

なお、「日本介護福祉士会生涯研修制度免除規定」

は、平成24年3月で終了致しましたので、今後は「介護福祉士初任者研修」より、順次受講していただくことになります。



ふれあいケア

2012年
5月号
4月20日発行

●定価1,020円 (本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円 (10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 おしゃれをしよう!

おしゃれをすると気分が変わり、生活にはりが出ます。高齢者介護施設の利用者が日常生活でおしゃれをすると、どんなよいことがあるでしょうか。簡単にできて心地よい、おしゃれのポイントを紹介します。

解説 実践レポート ほか

- 好評連載企画**
- 介護現場のリスクマネジメント ●実践! 脳活性化リハビリテーション ●かけがえのないひとこと
 - パワーアップ訪問介護 ●ワンポイント介護技術 ●認知症ケア相談室 ●もっと・ぐっどコミュニケーション
 - Close Up福祉用具 ●介護の味方・看護の見方 ●今の動き・制度解説 ほか

定期購読申込み受付中!

【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい (品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター
受注専用 TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法 全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

連載

8

介護の現場で輝いています！

言葉の大切さ

大阪介護福祉士会 会員 上村 淳

私は、専門学校を卒業し、特別養護老人ホームに勤めて、約8年になります。

介護という仕事を始めた当初は、続ける事ができるかな？と毎日、自問自答しながら、精一杯仕事をしてきました。

その中で、私自身がとても印象に残った出来事を書かせて頂きます。

入居者のAさんが、長期入院していたのですが、退院が決まり、施設に帰って来られた時の事です。

Aさんは、家族さんと一緒に帰って来られ、職員一同、いつものように「お帰りなさい！」と、Aさん、家族さんに挨拶をしました。

その「お帰りなさい！」という何気ない一言が、家族さんのお話では「とても嬉しく、温かかった。」とおっしゃっていました。

長期入院した事で、施設に対し、迷惑が掛かる、申し訳なさなどの様々な想いや背景があったそうです。

しかし職員がいつものように、迎えてくれた事が、とても嬉しかったと涙ながらに話をされていました。

職員からの何気ない言葉が、家族さんからすると、状況によっては、心に残るような重みのある言葉にも

なる、「言葉の大切さ」を、この出来事で感じました。

私達は、普段何気なく入居者さん、家族さんと話していますが、その言葉の奥には、時には自分達が気づかずに、相手を不快にさせてしまっている事もあると思います。

現に、施設のアンケートでも言葉使いは、日々、課題の一つとして挙がっています。

言葉は使い方一つで、喜びや不快にも感じる武器でもあるという「言葉の重み」を私自身、理解し、大切にしていきたいと実感する事が出来た、忘れられない出来事でした。

最後に、介護福祉士として、入居者さん、家族さんの思いや気持ちを大切に、安心して過ごして頂けるように、そして人として、配慮や気配りが出来るように、日々成長していきたいと思っております。



専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

☆発行回数 年4回／夏・秋・冬・春号

☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)

☆申込み先 公益財団法人 社会福祉振興・試験センター

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル

TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514

定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

春号(24年3月発行)

特集「からだと病気に対応した癒しの介護」

夏号(24年6月発行)

特集「認知症ケアの新たな流れ」

福祉用具を活用しよう

公益財団法人テクノエイド協会

Part 1 起居 一起きることは生活の始まりー

今回は、「ベッド上での背上げ座位の安定の仕方」について解説します。

ベッドの背上げ座位をとったとき、膝上げ機能は身体が前方へ滑らないために必要であり、また脊椎が起き上がるにつれて骨盤も起きてくるベッドの方が楽になります。脊椎が起き上がっても骨盤が起きてこない、いわゆるずっこけ姿勢になり、作業もしにくく、楽な姿勢ではありません。また、ベッドの大腿部分に相当する膝ボトムの長さを本人の大腿の長さに近づけることも必要になります。

■背上げ・膝上げ機能のついたベッドを使用する利点

最初に膝を上げることによって、お尻の前方への滑りが止められ、背上げ姿勢を維持できます。膝を上げなかったり、上げるタイミングが遅れると、お尻が前方に滑り、ずっこけた姿勢になってしまいます。

■用具の選定

①ベッドの選定

少なくとも背上げ・膝上げ機能の二つは必要です。

本人の大腿長と膝ボトムの長さがあまり変わらないベッドを選びます。ベッドの機種によってこの部分の長さや機能が異なります。一般的な長さ、それより短い長さが準備されている機種、比較的短めにしている機種、調節できる構造の機種などがあります。(図1)

嚙下障害の人など、より楽な背上げ姿勢が必要な場合には、脚部が下がり踵の位置が通常よりも下がるタイプのベッドが有効な場合があります。(図2)

②ベッドの使い方

自分で身体を動かせない人の場合には、背を上げる前にまず、正しい位置に寝ていることを確認することが大切です。身体が足側にずれていると、膝を上げて背を少し上げただけで、腹部や胸部に大きな

圧迫を感じ苦しくなります。本人の股関節がベッドの背上げ軸の回転中心と合っていないことによる圧迫です。(図3・図4)



図3 股関節とベッドの背上げ軸の位置を合わせる

③背を上げるとき

ベッドの背を上げるときには、背上げ角度が大きくなると腹部・胸部などに圧迫感を感じます。身体を動かせる人は自

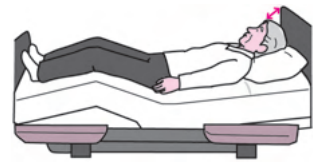


図4 適切な位置はヘッドボードから頭までの距離で覚えると便利



図5 足抜き



図6 体幹をおこす



図7 肩を交互に上げる



図8 滑る布で背中をさする

分で、もじもじしてこの圧迫を除去しようとします。身体を自分で動かせない人の場合にはこの圧迫を除去するためにはこの圧迫を除去するための介助（背抜きや足抜き）が必要になります。(図5)

背抜きは本人の体幹を一度前方に屈曲させたり(図6)、肩を片方ずつ持ち上げたり(図7)、スライディングシートなど滑る素材で背中をさすような(図8)介助動作になります。

④ベッドの背を下げるとき

背を上げた状態から背を下げる時にも介助動作が必要になります。

ベッドの背を上下させると、必ず背とマットレスとの間にずれる力が働きます。ベッドを平らにしたとき、このずれる力によるひずみが背中に残り不快です。これを除去するために側臥位にしてひずみをとります。

今回は、「端座位を安定させて食事などをとる方法」について解説します。

倫理綱領に基づく倫理基準 (行動規範) について

このたび、日本介護福祉士会が1995年に宣言した「日本介護福祉士会倫理綱領」に基づき、我々介護福祉士が常に心がけて実践すべき行動規範を示した「日本介護福祉士会倫理基準 (行動規範)」を策定しました。

ここに示す内容を実践することで、介護サービスの質の向上を図るだけでなく、国家資格である介護福祉士の専門性を、国民に広く理解してもらうことに繋がりたいと考えています。会員の皆様には、倫理綱領とともにこの倫理基準 (行動規範) に則った行動をお願いしたいと思います。

併せて、策定にあたりご協力をいただいた内外部の先生方に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

日本介護福祉士会 倫理基準 (行動規範)

(利用者本位、自立支援)

1. 介護福祉士は、利用者をいかなる理由においても差別せず、人としての尊厳を大切に、利用者本位であることを意識しながら、心豊かな暮らしと老後が送れるよう介護福祉サービスを提供します。
2. 介護福祉士は、利用者が自己決定できるように、利用者の状態に合わせた適切な方法で情報提供を行います。
3. 介護福祉士は、自らの価値観に偏ることなく、利用者の自己決定を尊重します。
4. 介護福祉士は、利用者の心身の状況を的確に把握し、根拠に基づいた介護福祉サービスを提供して、利用者の自立を支援します。

(専門的サービスの提供)

1. 介護福祉士は、利用者の生活の質の向上を図るため、的確な判断力と深い洞察力を養い、福祉理念に基づいた専門的サービスの提供に努めます。
2. 介護福祉士は、常に専門職であることを自覚し、質の高い介護を提供するために向上心を持ち、専門的知識・技術の研鑽に励みます。
3. 介護福祉士は、利用者を一人の生活者として受けとめ、豊かな感性を以て全面的に理解し、受容し、専門職として支援します。
4. 介護福祉士は、より良い介護を提供するために振り返り、質の向上に努めます。
5. 介護福祉士は、自らの提供した介護について専門職として責任を負います。
6. 介護福祉士は、専門的サービスを提供するにあたり、自身の健康管理に努めます。

(プライバシーの保護)

1. 介護福祉士は、利用者が自らのプライバシー権を自覚するように働きかけます。
2. 介護福祉士は、利用者の個人情報収集または使用する場合は、その都度利用者の同意を得ます。
3. 介護福祉士は、利用者のプライバシーの権利を擁護し、業務上知り得た個人情報について業務中か否かを問わず、秘密を保持します。また、その義務は生涯にわたって継続します。

4. 介護福祉士は、記録の保管と廃棄について、利用者の秘密が漏れないように慎重に管理・対応します。

(総合的サービスの提供と積極的な連携、協力)

1. 介護福祉士は、利用者の生活を支えることに対して最善を尽くすことを共通の価値として、他の介護福祉士及び保健医療福祉関係者と協働します。
2. 介護福祉士は、利用者や地域社会の福祉向上のため、他の専門職や他機関と協働し、相互の創意、工夫、努力によって、より質の高いサービスを提供するように努めます。
3. 介護福祉士は、他職種との円滑な連携を図るために、情報を共有します。

(利用者ニーズの代弁)

1. 介護福祉士は、利用者が望む福祉サービスを適切に受けられるように権利を擁護し、ニーズを代弁していきます。
2. 介護福祉士は、社会にみられる不正義の改善と利用者の問題解決のために、利用者や他の専門職と連帯し、専門的な視点と効果的な方法により社会に働きかけます。

(地域福祉の推進)

1. 介護福祉士は、地域の社会資源を把握し、利用者がより多くの選択肢の中から支援内容を選ぶことができるよう努力し、新たな社会資源の開発に努めます。
2. 介護福祉士は、社会福祉実践に及ぼす社会施策や福祉計画の影響を認識し、地域住民と連携し、地域福祉の推進に積極的に参加します。
3. 介護福祉士は、利用者ニーズを満たすために、係わる地域の介護力の増進に努めます。

(後継者の育成)

1. 介護福祉士は、常に専門的知識・技術の向上に励み、次世代を担う後進の人材の良き手本となり公正で誠実な態度で育成に努めます。
2. 介護福祉士は、職場のマネジメント能力も担い、より良い職場環境作りに努め、働きがいの向上に努めます。

平成24年度介護福祉士海外研修・調査募集要項

●実施主体

財団法人社会福祉振興・試験センター（以下「センター」という）

●研修・調査の実施方法

施設又は在宅における介護の実態について、福祉先進国（昨年はスウェーデン・ファルケンベルグ）で、現地のケアワーカーと高齢者介護の実地体験研修を行う。

●派遣対象者（10名）

- (1) 平成24年12月1日現在において、つぎのいずれにも該当する者
 - ア 現に社会福祉施設等において、介護業務に従事して3年以上の者
 - イ 介護福祉士の資格取得後3年以上の者
 - ウ 25歳以上55歳未満の者
- (2) 研修・調査終了後も引き続き介護業務に従事する意志を有する者
- (3) 心身ともに健康で、協調性があり、研修期間中団体行動ができる者
- (4) 過去において、センターの海外研修に参加したことのない者

※本会の会員であるか否かは問わない

●研修・調査実施期間

平成24年9月1日（土）～9月15日（土）

●研修・調査派遣国

福祉先進国（北欧）を予定

●研修費用

原則、センターが全額負担

●オリエンテーション

平成24年7月20日（金）実施

●応募方法（締切：平成24年5月7日（月））

参加希望者は、次に掲げる書類を、本会を經由してセンターに提出するものとする。

- (1) 別紙1- (2) 「介護福祉士海外研修・調査参加申込書」
- (2) 履歴書（写真添付のこと）
- (3) 健康診断書（1年以内の定期健康診断書等、コピー可）
- (4) 小論文（1,200字程度、横書き、A4サイズたて用紙を使用すること。海外研修に参加したい目的及び理由を明記すること。）

●派遣者の選考方法

センターにおいて書類審査により決定し、選考結果は6月下旬に通知

●研修・調査報告書

派遣者は、報告書を提出するものとする

※提出書類は一切返却しないものとする。

※その他詳細、申込用紙のダウンロードは本会のホームページをご覧ください。

「わが母の記」コンビニ発券端末を利用した特別チケット販売について

映画配給を行っている「松竹」より、4月28日公開の映画「わが母の記」の特別割引チケットのご案内をいただきました。会員の皆様様が直接、全国のコンビニ（ローソン、セブンイレブン、サークルKサンクス）にて特別料金にてお買い求め頂けるチケットとなっています。（詳細は日本介護福祉士会ホームページにも掲載しています。）

『普遍的な、誰にでもある家族の絆。時代が変わり、社会が複雑になり、困難な未来が訪れても、家族の絆だけは変わらない。人と人との絆の大切さを知った今の時代にこそ、ふさわしい希望に満ちた愛の物語』となっていますので、是非ご鑑賞ください。（出演：役所広司 樹木希林 宮崎あおい 他）

【コンビニ発券端末を利用した特別チケット販売 概要】

全国の下記コンビニ設置の発券機（ローソン：Loopiロッピーなど）にご入力して頂くと、特別料金でチケットをご購入頂けます。

発券コード ローソン（Lコード）：39998

セブン-イレブン、サークルK・サンクス（Pコード）：463-576

●「わが母の記」特別チケット

1,000円（税込）※劇場窓口・プレイガイド等では前売り券は一般1,300円となります。

（劇場当日窓口の料金は通常一般1,800円となります。）※一部劇場を除く

◆上映開始日並びに終了日 平成24年4月28日（土）～終了日は未定

◆上映劇場 全国222館（2月21日現在決定数）詳細は映画ホームページをご参照くださいませ。

「わが母の記」ホームページ（<http://www.wagahaha.jp/>）

◆チケット販売期間 3月1日（木）～5月11日（金）

※紙面の都合により、「全国大会開催県紹介」「日本介護学会開催県紹介」「都道府県介護福祉士会情報交流の泉」はお休みいたします。

平成24年度 中国・四国ブロック研修会

- 主催 社団法人日本介護福祉士会
一般社団法人香川県介護福祉士会
- 期日 平成24年9月7日(金)～8日(土)
- 会場 高松テルサ 大ホール、大会議室
- テーマ 「明るい介護の未来を作ろう」
～楽しい介護と暮らしを支える専門職を目指して～
- 参加費用 会員：3,000円 学生：1,000円
一般：8,000円 交流会費：6,000円
- プログラム
[9月7日(金)]
13:30～ 開会式
14:00～ 基調講演
『介護報酬改定など厚生行政を取り巻く情勢について』
講師 厚生労働省(予定)
15:20～ 記念講演
『尊厳を支える介護・介護福祉士の役割』(仮題)
講師 茨城県立医療大学名誉教授 大田 仁史 先生
18:30～ 交流会
[9月8日(土)]
9:00～ 実践報告・研究発表
第1分科会 施設部門
第2分科会 在宅部門
11:00～ 特別講演
『助け合うって ということ』講師 伊是名 夏子氏
12:30～ 新人介護福祉士・未来の介護福祉士の主張
12:50～ 閉会式
- 問い合わせ先 一般社団法人香川県介護福祉士会
TEL.0877-46-0143

第19回 全国大会開催案内

テーマ「原点回帰」
～私たちがめざしてきたもの そして、何をめざすのか～
平成24年12月7日(金)～8日(土)
山梨県「甲府富士屋ホテル」にて開催いたします！
詳細はホームページをご覧ください。

平成24年度口座振替のお知らせ 5月28日に実施します

- 下記の日程でご指定の口座から年会費の自動振替を実施いたします。
つきましては前日までに口座へのご入金をお願いいたします。
- 平成24年5月28日(月)
- 口座登録されている継続会員のみなさま
- ※口座情報に関することや会費納入について不明な点がございましたら、恐れ入りますがご本人様より会員番号をご用意的うえ、日本介護福祉士会事務局までお問い合わせください。

都道府県介護福祉士会研修情報

茨城県介護福祉士会

平成24年度総会&記念講演

- 日程 5月13日(日) 13:00～
- 場所 茨城県立医療大学名誉教授 大田 仁史 先生
- 講師 茨城県立医療大学名誉教授 大田 仁史 先生
- 問合わせ 一般社団法人茨城県介護福祉士会
TEL 029-353-7244

東京都介護福祉士会

「ひもときシート」研修会

- 日程 7月22日(日) 9:30～16:30 受付 9:00～
- 場所 ティアラこうとう 大会議室A
- テーマ 「新しい認知症ケア」～ひもときシートのポイント～(仮題)
- 講師 特別養護老人ホーム「じょうもの郷」
施設長 助川 未枝保 氏
- 締切 7月6日(金)又は定員(70名)になり次第
- 受講料 会員 2,600円 非会員 4,800円
※キャンセル等による受講料の返金はいたしません。
- 問合わせ NPO法人 東京都介護福祉士会(担当:加藤)
TEL 03-5624-2821

静岡県介護福祉士会

平成24年度 介護福祉士実習指導者講習会 開催要綱

●日程

区分	Aコース	Bコース	時間
1日目	7月7日(土)	10月8日(祝・月)	9:30～17:20
2日目	7月29日(日)	10月21日(日)	9:30～16:30
3日目	8月4日(土)	11月17日(土)	9:30～17:30
4日目	8月29日(水)	11月23日(祝・金)	9:30～17:00

- 場所 シズウエル(静岡県総合社会福祉会館)601会議室
- 受講対象 ①介護福祉士で資格取得後の実務経験が3年以上の方
②静岡県内養成校実習施設の指導者として登録された方又は今後実習指導者となる方
③4日間受講可能な方
- 定員 Aコース 50名 Bコース 50名
- 締切 Aコース Bコースとも6月1日(金)必着または定員に達した場合
- 受講料 会員 20,000円 非会員 31,000円
(テキスト代・資料代・登録料含む)
◎今回研修と同時入会されまると会員価格で受講できます。詳細は下記事務局まで!
- 問合わせ 一般社団法人静岡県介護福祉士会
(担当:平野)
TEL 054-253-0818

- 役員の動き ● (2月1日～3月31日)
- 2月 1日 第19回全国大会 第1回全国大会実行委員会(木村副会長)
- 2月 3日 リーダー研修会(ファーストステップ研修講師養成～5日 研修)前期(内田副会長)
- 2月 8日 (仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修第2回認定試験作成委員会(内田副会長)
- 2月10日 「おはよう21」6月号座談会(石橋会長)
- 2月10日 第7回常任理事会、第7回制度政策検討委員会(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 2月18日 (仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修～19日(内田副会長)
- 2月23日 第7回介護人材ワーキンググループ(田中名誉会長)
- 2月25日 平成23年度第2回都道府県介護福祉士会会長会～26日(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)

- 2月28日 第89回社会保障審議会介護給付費分科会(田中名誉会長)
- 3月 1日 第5回認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会(石橋会長)
- 3月 2日 生涯研修制度検討委員会第2回介護技術マニュアル(仮)作成委員会(内田副会長)
- 3月 6日 第8回常任理事会(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)
- 3月14日 生涯研修制度検討委員会第2回セカンドステップ研修作業部会(内田、木村副会長)
- 3月14日 第6回認定介護福祉士(仮称)の在り方に関する検討会(内田副会長)
- 3月22日 (仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修評価委員会(内田副会長)
- 3月25日 生涯研修制度検討委員会第3回介護技術マニュアル(仮)作成委員会(内田副会長)
- 3月29日 第2回理事会(石橋会長、内田、木村、三浦副会長)

発行所/社団法人 日本介護福祉士会
事務局(〒105-0001)東京都港区虎ノ門1-22-13 西勤虎ノ門ビル3F
電話(03)3507-0784 FAX(03)3507-8810 <http://www.jaccw.or.jp> 発行責任者・石橋真二



(問合せ)(会員情報変更)

ニュース



The Japan Association of Certified Care Workers

Vol.110
6月15日号
 平成24年（2012年）

社団法人 日本介護福祉士会

URL : <http://www.jaccw.or.jp/>E-mail : webmaster@jaccw.or.jp

平成24年度通常総会 全議案が原案通り可決される

平成24年度通常総会は、5月26日（土）、株式会社損害保険ジャパン本社ビル2階大会議室で開催された。代議員定数222名、出席162名、欠席60名（うち委任状52名、書面評決8名）。全議案は原案通り承認され可決した。



午前中は相磯義明氏（内閣府公益認定等委員会事務局、大臣官房公益法人行政担当室参事官補佐）による講演「公益社団法人化に向けて」（3頁掲載）が行われた。

午後からの開会式典では、佐々木裕介氏（厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長）、川井一心氏（社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事）、山口保氏（社団法人日本介護福祉士養成施設協会常務理事）が臨席され、祝辞をいただいた。

佐々木裕介氏は、認定介護福祉士（仮称）制度構築などを含め、厚生労働省と日本介護福祉士会が協力し、介護人材の資質向上や介護人材の確保に取り組みたいと述べられた。

川井一心氏は、介護人材の置かれている状況にはさまざまな課題があり、互いの協力のもと10年先を見据えた活動をしていきたいと述べられた。

山口保氏は、介護福祉士という国家資格をより魅力あるものとするため、日本介護福祉士養成施設協会と日本介護福祉士会が連携し介護福祉士の質の向上に取り組む必要があると述べられた。

通常総会挨拶で石橋会長は、平成23年度事業総括を行った後、今後も介護福祉士が生涯にわたって目標とやりがいを持てるような魅力ある職業として確立していくために理事や会員への協力を呼びかけた。（2頁掲載）。

総会議事は、議長に山内良治氏（青森県介護福祉士会）と檀原雪美氏（香川県介護福祉士会）を選出した後、議案の審議に入った。

平成24年度通常総会の各議案は以下の通りである。

1. 平成23年度事業報告（案）に関する件（4～7頁掲載）
2. 平成23年度決算報告（案）並びに監査報告に関する件（10頁掲載）
3. 平成24年度事業計画（案）に関する件（8～9頁掲載）
4. 平成24年度収支予算（案）に関する件（11頁掲載）
5. 平成24年度役員選任に関する件（12頁掲載）
6. 公益社団法人化に関する件（12頁掲載）

以上の各議案はいずれも採決の結果、原案通り承認、成立した。

● 役員の動き ●（4月1日～5月31日）

- 4月17日 第2回経済連携協定（EPA）介護福祉士候補者に配慮した国家試験のあり方に関する検討会（石橋会長）
- 4月21日 生涯研修制度検討委員会第1回セカンドステップ研修作業部会（内田、木村副会長）
- 4月26日 岩手県介護福祉士会一般社団法人設立総会（石橋会長）
- 4月27日 第1回常任理事会（石橋会長、内田、木村、三浦副会長）
- 4月28日 介護研究発表会in滋賀（内田副会長）
- 5月 8日（仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修

- 第1回認定試験作成委員会（内田副会長）
- 5月11日 第1回理事会（石橋会長、内田、木村、三浦副会長）
- 5月17日 第90回社会保障審議会介護給付費分科会（田中名誉会長）
- 5月19日 明日の福祉を考える公開セミナー（長野県）（石橋会長）
- 5月20日 一般社団法人青森県介護福祉士会設立総会・記念祝賀会出席（石橋会長）
- 5月26日 平成24年度社団法人日本介護福祉士会通常総会（石橋会長、内田、木村、三浦副会長）

平成24年度社団法人日本介護福祉士会通常総会挨拶 平成23年度事業総括

社団法人日本介護福祉士会 会長 石橋 真二



平成23年度は介護保険制度の一部改正・介護報酬の改定、社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正など介護福祉士を取り巻く状況についての大きな変化がありました。

また、昨年3月には東日本大震災という未曾有の災害があり、災害救援事業として、災害対策本部を設置し、避難所、ボランティアセンター等に延べ774名の生活支援ボランティアを派遣し、被災地の支部や厚生労働省等の関係機関とも連携しながら、災害救援活動を行ってきました。また、多くの義援金も各支部、会員からの支援で集まり、社会福祉法人中央共同募金会を通じて被災地へ寄付を行ってまいりました。

被災された支部の皆さんの献身的な活動はもとより、義援金や災害救援活動・ボランティアに関わる支援として活動費や人員を派遣していただいた全国の支部並びに会員の皆様には心より感謝を申し上げます。今後も支援が必要な方たちに対して支援を続けていきたいと思っております。また、この経験を活かし、万が一に備え、より迅速に効果的に活動できるように災害救援活動のマニュアルの見直しを行ってまいります。

また、厚生労働省や関係団体などのご協力を得て介護福祉士のキャリアアップの仕組み等の検討を行うために「認定介護福祉士(仮称)あり方検討会」を設け、中間まとめを行いました。

その他、今年度の介護報酬改定に向けて、介護保険部会や介護給付費分科会において、国民のための介護サービス充実はもちろんのこと、質の高い介護サービス提供と人材確保のために介護福祉士が介護保険制度に活かされるよう本会の意見を申し上げてまいりました。

また、組織強化として、各支部の社団化の促進や本会の公益法人化に向けての準備も行なってまいりました。

平成24年度は、認定介護福祉士(仮称)となる為の研修の試行事業などを行い、その効果や研修内容への評価を踏まえ、研修カリキュラムの成案や認定の方法、制度運営の仕組みについて検討を進めたいと思っております。

今後、職能団体として私たち介護福祉士の専門性と役割の明確化を進めていくことがさらに重要になってくるため、しっかりと平成24年度事業に取り組んでまいりたいと思っております。

今後も生涯にわたって目標とやりがいを持てるよう介護福祉士を魅力ある職業として確立するために、理事や会員の皆様、行政、関係団体の皆様方のご協力ご支援のお願いを申し上げ、ご挨拶に変えさせていただきます。

ソウエルクラブ(福利厚生センター) ご加入のおすすめ

■職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ
- 電話健康相談

■職員の慶事のお祝いに

- 結婚お祝品贈呈
- 出産お祝品贈呈
- 入学お祝品贈呈
- 資格取得記念品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈

■地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)

■職員の万一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

■職員の余暇活用のために

- 指定保養所・休暇村他 全国115カ所
会員制リゾート施設・ラフォーレ倶楽部
他 全国239カ所
- 海外リフレッシュツアー
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク
- 国内・海外旅行
- レンタカー
- カルチャースクール・ゴルフ・乗馬等

■職員の資質向上のために

- 海外研修
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- 接遇講習会
- パソコン講習会
- メンタルヘルス講習会

■職員の生活サポートのために

- 住宅ローン・特別資金ローン
- ソウエル団体生命保険 損害保険

■各種情報提供

- 会員情報誌
- ホームページ

■加入できる職員

社会福祉事業に従事する職員の他、常勤の役員や同一法人において社会福祉事業以外の公益事業、収益事業などに従事する職員なども加入できます。

■掛金

掛金は職員一人あたり毎年度1万円です。

加入申し込み、お問い合わせは、フリーダイヤル

TEL ☎0120-292-711
FAX ☎0120-292-722
http://www.sowel.or.jp/

Sowel CLUB

社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町1-3-11
NBF小川町ビルディング10階

福祉で働く人の福利厚生を支援しています。

通常総会 講演

公益法人化に向けて

内閣府公益認定等委員会事務局大臣官房公益法人行政担当室参事官補佐 相磯義明氏



公益法人制度の状況

平成20年12月1日に「公益法人制度改革関連3法案」が施行され、新公益法人制度が始まりました。制度開始時点で国所管の法人が日本介護福祉士会を含めて6,625法人ありました。このうち

2012年3月末現在、内閣府に公益法人への移行認定を申請した法人が1,439法人、一般法人への移行認可を受けた法人が1,053法人であり、合計して2,492法人が既に特例民法法人から一般法人または公益法人に移行しています。

公益法人申請の期限

「公益法人制度改革関連3法案」では公益法人または一般法人への移行期間が定められており、平成25年11月末までに公益法人または一般法人に移行しない場合、「みなし解散」となります。

また、一般的に公益法人化の認定作業には4か月ほどかかりますが、実作業開始までの手続きにさらに時間を要するため、その時間を見込んだ早めの公益法人化申請が必要となります。

公益法人化の条件

公益法人となる為には、事業内容を「公益目的事業」「収益事業」「共益事業」「法人会計事業」と4事業種に分類した際に、「公益目的事業」が費用ベースで50%を超える必要があります。また、個々の事業にも「公

益目的事業」とされるための条件があります。例えば日本介護福祉士会等で行われている研修も、日本介護福祉士会会員のみを対象とするのではなく、介護福祉士資格所持者であれば誰でも受ける事の出来る研修とする必要があります。

また、公益法人化に合わせて定款を修正する必要があります。定款修正の手続きについても、公益法人化の申請の前に整えておく必要があります。

代議員制の留意事項

旧定款において、既に代議員制が導入されておりますが、公益社団法人への移行にあたり、移行前に最初の代議員を選挙で選出する必要があります。そのため新定款第11条には、下記の5要件を満たす方法で代議員の選挙を行う事を規定しています。

1. 「社員」（代議員）を選出するための制度の骨格（定数、任期、選出方法、欠員措置等）が定款で定められていること
2. 各会員について、「社員」を選出するための選挙（代議員選挙）で等しく選挙権及び被選挙権が保障されていること
3. 「社員」を選出するための選挙（代議員選挙）が理事及び理事会から独立して行われていること
4. 選出された「社員」（代議員）が責任追及の訴え、社員総会決議取消しの訴えなど法律上認められた各種訴権を行使中の場合には、その間、当該社員（代議員）の任期が終了しないこととしていること
5. 会員に「社員」と同等の情報開示請求権等を付与すること

専門性が支える介護福祉の充実のために

介護専門職情報誌

介護福祉

☆発行回数 年4回／夏・秋・冬・春号
 ☆購読料(年) 3,440円(4号分・送料含む)
 ☆申込み先 公益財団法人 社会福祉振興・試験センター
 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル
 TEL 03-3486-7511 FAX 03-3486-7514
 定期購読の申込方法 <http://www.sssc.or.jp/>
 郵便振替口座 00120-5-138401

この『介護福祉』は、介護福祉士の皆様の自己研鑽のため、また、施設等における介護職員の資質向上のための必携の書として大変好評を得ています。本誌は、日常の介護業務において、そこで求められる介護行為・動作等について、論理的根拠を医学・心理学・解剖学・看護学その他の面から、分かりやすく解説するほか、介護福祉士として是非知っておいていただきたい専門知識や技術・福祉機器の活用など、介護に関する最新情報を提供しています。

春号（24年3月発行）

特集「からだと病気に対応した癒しの介護」

夏号（24年6月発行）

特集「認知症ケアの新たな流れ」

平成23年度事業報告

I 法人の概況

1. 設立年月日

平成12年6月26日(任意団体設立:平成6年2月12日)

2. 定款に定める目的

本会は、介護福祉士の職業倫理及び専門性の確立、介護福祉に関する専門的教育及び研究の推進並びに介護に関する知識の普及を図り、介護福祉士の資質及び社会的地位の向上に資するとともに、国民の福祉の増進に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 介護福祉士の職業倫理並びに専門的知識及び技術の向上に関する事業
- (2) 介護福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
- (4) 介護福祉の普及啓発に関する事業
- (5) 介護福祉士の相互福祉に関する事業
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課

5. 会員の状況

種類	当期末	前期末比増減
正会員	44,657名	1,667名
賛助会員	15団体	△2団体
名誉会員	—	—

6. 主たる事務所の状況

事務所: 東京都港区虎ノ門1丁目22番13号
西勘虎ノ門ビル3階

7. 役員等に関する事項 (省略)

8. 職員に関する事項

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数	
男子	5名	1名	歳	3年4月
女子	2名	0名	歳	6年7月
合計又は平均	7名	1名	39歳	4年3月

※他に有期労働契約女子社員2名

II 事業の状況

1. 各種事業推進のための会議・委員会の実施

1) 生涯研修制度検討委員会

○当年度においては1回の親委員会及び10回の作業委

員会を開催し、生涯研修体系の見直しやセカンドステップ研修の内容等について検討した。

- ・生涯研修制度図の改定や生涯研修ポイントの新たな活用について検討を行った。
- ・介護福祉士初任者研修のカリキュラムを見直すため、全支部にアンケート調査を実施した。
- ・サービス提供責任者研修の標準テキスト作成に向けた検討を行った。
- ・介護福祉士セカンドステップ研修の枠組みやカリキュラムについて検討を行った。
- ・(仮称)認定専門介護福祉士(認知症)養成研修の修了認定を行うための認定基準について検討を行い、認定試験を実施した。
- ・介護職の事例研究、研究発表を促進するため、滋賀県介護福祉士会においてモデル研修を実施した。
- ・日本介護福祉士会の提唱する介護技術マニュアル(仮)の内容について検討を行った。
- ・障害者介護のための研修について、前年度までの結果を踏まえプログラムを検討し、モデル研修を実施した。

2) 制度・政策検討委員会

- 当年度においては委員会を7回開催し、政策提言事項、要望事項等の内容を検討し、それぞれ対応した。
- ・「平成24年度介護報酬改定にあたっての要望」を取りまとめ、厚生労働省「社会保障審議会介護給付費分科会」に提出した。
- ・「介護職員処遇改善交付金の効果等に関する調査」を実施し、その結果を厚生労働省「社会保障審議会介護給付費分科会」に資料として提出した。
- ・「これで良いのか日本の介護～福祉人材と介護報酬そしてあるべき介護の姿～」と題し、公開シンポジウムを実施した。また、その模様をインターネット上で生中継した。

3) 調査研究委員会

- 第10回介護福祉士の就労実態と専門性の意識に関する調査
- ・より良い介護サービスの提供に資すること等を目的として、時代の変遷とともに介護福祉士に求められているものおよび就労実態に関する調査を実施するため、調査項目に関する検討を行った。

4) 組織財政運営関係委員会

- 諸会議を開催し、本会の健全な運営を図った。
- ・通常総会 1回
- ・理事会 2回
- ・常任理事会 8回
- ・選挙管理委員会 4回
- ・都道府県会長会 2回
- ・都道府県介護福祉士会事務局担当者会議 1回
- ・研修委員会 2回

- ・調査研究委員会 1回
- ・広報委員会 1回
- ・倫理委員会 2回
- ・全国大会実行委員会 2回
- ・学会委員会 1回
- ・災害対策マニュアル検討委員会 2回
- ・ブロック会議 (各ブロックごと)

5) 倫理委員会

○日本介護福祉士会倫理綱領に基づく倫理基準（行動規範）を作成した。

6) 災害対策マニュアル検討委員会

○東日本大震災を踏まえ委員会を2回開催し、災害支援体制を構築した。また「災害時における介護福祉支援ボランティア・マニュアル」改訂に向けて検討した。

2. 各種研修会の開催及び学術研究活動

1) 日本介護福祉士会会員（日本介護学会会員）が広く参加する研修

○全国大会の開催

・全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため次のとおり開催した。

開催年月日	開催場所	人数
第18回全国大会 23.11.10(木)～11(金)	ホテル青森 (青森県)	800名

○学術研究活動

・介護福祉にかかわる学術的な研究を推進し、介護福祉の専門的な技術、知識の向上を図るため、次のとおり開催した。

開催年月日	開催場所	人数
第9回日本介護学会 23.7.9(土)	沖縄コンベンションセンター(沖縄県)	240名

○ブロック研修会の実施

・介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施した。

(ブロック研修)

開催年月日	開催場所	人数
関東甲信越ブロック(茨城) 23.6.24(金)	水戸プラザホテル	330名
東海北陸ブロック(福井) 23.7.16(土)～17(日)	AOSSA 曹洞宗大本山 永平寺	205名
近畿ブロック(京都) 23.10.2(日)	龍谷大学アバンティ響都ホール	253名
中国・四国ブロック(島根) 23.8.27(土)～28(日)	くにびきメッセ	278名
九州ブロック(長崎) 23.11.25(金)～26(土)	ユトレヒトプラザ	243名
合計		1309名

(ブロックリーダー研修)

開催年月日	開催場所	人数
北海道・東北ブロック 第1回 23.10.1(土)	ヒルズサンピア(山形県)	59名
関東甲信越ブロック 第1回 23.9.24(土)	ホテル信濃路(長野県)	27名
関東甲信越ブロック 第2回 23.12.24(土)	中野サンプラザ(東京都)	29名
東海北陸ブロック 第1回 23.7.30(土)	地場産業振興センター(石川県)	57名
東海北陸ブロック 第2回 23.12.10(土)	桜花会館(愛知県)	18名
東海北陸ブロック 第3回 24.3.17(土)	サンシップ富山	56名
近畿ブロック 第1回 23.10.1(土)	京都テルサ	55名
近畿ブロック 第2回 24.3.10(土)	大阪府社会福祉会館	30名
中国・四国ブロック 第1回 24.3.3(土)	鳥取市福祉文化会館	57名
九州ブロック 第1回 23.7.9(土)	沖縄コンベンションセンター	27名
九州ブロック 第2回 23.12.12(日)	ユトレヒトプラザ(長崎県)	54名
合計		427名

2) 総合的なキャリアアップを目的とする研修（生涯研修体系に基づき実施）

○介護福祉士初任者研修の実施

・介護福祉士初任者を対象として都道府県支部において実施した。

○ファーストステップ研修の実施

・資格取得後の実務経験2～3年の介護福祉士を対象として、都道府県支部において次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
23.4.10(日)～24.2.26(日)	新潟県	53名
23.5.15(日)～23.12.11(日)	愛知県	46名
23.5.14(土)～24.3.20(火)	宮崎県	31名
23.6.11(土)～23.12.4(日)	鳥取県	26名
23.6.11(土)～23.12.18(日)	富山県、石川県、福井県	37名
23.6.12(土)～24.2.18(土)	兵庫県	49名
23.6.16(木)～24.1.27(金)	長野県	41名
23.6.18(土)～24.1.14(土)	滋賀県	47名
23.6.18(土)～24.1.28(土)	群馬県	14名
23.6.19(日)～24.1.17(火)	静岡県	24名
23.6.19(日)～24.3.4(日)	神奈川県	21名
23.6.25(土)～24.1.28(土)	京都府	16名
23.6.26(日)～24.1.21(土)	東京都	11名
23.7.2(土)～24.2.19(日)	大阪府	28名
23.8.28(日)～24.3.25(日)	福岡県	14名
23.11.19(土)～24.3.24(土)	埼玉県	8名
合計		466名

○リーダー研修の実施

・介護福祉士初任者研修の講師養成研修を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
前期 23.9.3 (土) ~4 (日)	TWIN21MIDタワー 松下IMPホール (ともに大阪府)	31名
後期 23.10.8 (土) ~9 (日)		

・サービス提供責任者研修の講師養成研修を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
23.10.28 (金) ~3 (日)	オフィス東京	35名

・ファーストステップ研修の講師養成を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
前期 24.2.3 (金) ~5 (日)	東京八重洲ホール	24名
後期 24.3.10 (土) ~11 (日)		

○介護職の研究・発表に関する研修

・介護職の事例研究、研究発表を促進するため、滋賀県介護福祉士会においてモデル研修を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
第1回23.5.14 (土)	ピアザ淡海	15名
第2回23.7.30 (土)	長寿社会福祉センター	
第3回23.8.26 (金) ~27 (土)	ひこね燦パレス	
	千松会館	
第4回23.9.30 (金)	フェリ工南草津	
第5回24.1.27 (金) ~28 (土)	長寿社会福祉センター	
第6回24.2.18 (土)	滋賀県介護福祉士会	
第7回24.3.24 (土)	モリノビル	
(全て滋賀県)		

○(仮称) 認定専門介護福祉士(認知症) 養成研修

・昨年度に引き続きモデル研修を実施した。また、認定試験の内容や研修内容の評価について検討を行った。

開催年月日	開催場所	人数
第1回23.4.29 (金) ~30 (土)	TWIN21MIDタワー 松下IMPホール (ともに大阪府)	47名
第2回23.6.4 (土) ~5 (日)		
第3回23.6.18 (土) ~19 (日)		
第4回23.7.23 (土) ~24 (日)		
第5回23.8.19 (金) ~21 (日)		
第6回23.9.17 (土) ~18 (日)		
第7回23.10.15 (土) ~16 (日)		
第8回23.11.19 (土) ~20 (日)		
第9回23.12.18 (日) ~19 (月)		
第10回24.1.14 (土) ~15 (日)		
第11回24.2.18 (土) ~19 (日)		

○障害者介護のためのモデル研修の実施

・感覚機能障害者介護のためのモデル研修を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
23.10.22 (土) ~23 (日)	TWIN21MIDタワー (大阪府)	13名

・運動機能障害者介護のためのモデル研修を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
23.12.10 (土) ~11 (日)	安田コミュニティー プラザ (東京都)	42名

・発達障害・行動障害者介護のためのモデル研修を実施した。

開催年月日	開催場所	人数
24.3.10 (土) ~11 (日)	アットビジネスセンター 東京駅八重洲通り	30名

3) 職能的研修

○介護福祉士実習指導者講習会の実施

・47都道府県支部(延べ85開催)において実施した。

○介護福祉士実習指導者講習会講師養成研修の実施

開催年月日	開催場所	人数
23.7.30 (土) ~31 (日)	TOC有明コンベンションホール	102名

○サービス提供責任者研修の実施

・多くの介護福祉士がその責務を担うサービス提供責任者に必要な知識を付与することを目的として都道府県支部において実施した。

○介護技術講習会主任指導者・指導者養成講習会の実施

・主任指導者養成講習会を次のとおり実施した。

開催年月日	開催場所	人数
23.8.6 (土) ~7 (日)	西部ガスパピヨン 24 (福岡県)	69名

・指導者養成講習会を次のとおり18支部で実施した。

開催年月日	開催場所	人数
23.6.18 (土) 、6.25 (日)	福岡県介護福祉士会	40名
23.7.2 (土) 、7.3 (日)	東京都介護福祉士会	68名
23.7.5 (火) 、7.19 (火)	静岡県介護福祉士会	28名
23.8.18 (木) 、8.24 (水)	神奈川県介護福祉士会	16名
23.8.20 (土) 、8.21 (日)	富山県介護福祉士会	23名
23.8.27 (土) 、8.28 (日)	大分県介護福祉士会	28名
23.9.10 (土) 、9.11 (日)	石川県介護福祉士会	18名
23.9.17 (土) 、9.18 (日)	千葉県介護福祉士会	16名
23.10.15 (土) 、10.16 (日)	福島県介護福祉士会	9名
23.11.3 (木) 、11.13 (日)	埼玉県介護福祉士会	19名
23.11.5 (土) 、12.10 (土)	滋賀県介護福祉士会	16名
23.11.6 (日) 、11.13 (日)	茨城県介護福祉士会	8名
23.11.19 (土) 、11.26 (土)	長野県介護福祉士会	33名
23.12.10 (土) 、12.11 (日)	群馬県介護福祉士会	7名
23.12.10 (土) 、12.11 (日)	香川県介護福祉士会	6名
24.1.27 (金) 、1.29 (日)	大阪介護福祉士会	28名
24.2.11 (土) 、2.12 (日)	鹿児島県介護福祉士会	31名
24.2.25 (土) 、2.26 (日)	愛知県介護福祉士会	44名
合計		438名

○たんの吸引、経管栄養に関する研修会の実施

・厚生労働省の定める本研修受講前に、予備的な知識・技術を身につけるための研修を都道府県支部において実施した。

4) その他の研修

○海外研修の実施

- ・「介護福祉士海外研修・調査」への会員参加及び募集協力を行った。

主 催：財団法人社会福祉振興・試験センター

派遣国：スウェーデン

実施期間：平成23年9月3日～9月17日

3. 関係団体との連携・協力に関する事業

○当年度は、各団体と連携強化を図った。

○第24回介護福祉士国家試験（実技試験）の現地試験委員として184名、試験モデルとして144名を社会福祉振興・試験センターに派遣した。

○厚生労働省「社会保障審議会介護給付費分科会及び介護保険部会」及び内閣府「実践キャリア・アップ戦略推進チーム専門タスク・フォース介護人材ワーキング・グループ」に参画し意見を述べた。

4. 介護福祉の普及啓発に関する事業

○「介護の日」に関する事業を実施した。

- ・「介護の日」ひろめ隊の活動等に積極的に取り組んだ。
- ・「介護の日フォーラム」において、資格、仕事等に関する相談コーナーを設け、施設等への入職を希望する方に対し、会員である介護職員が自身の体験等を通して介護の仕事の魅力を伝えた。

○老人の日・老人週間に関する事業を実施した。

- ・「敬老の日・老人保健福祉週間や介護の日に合わせて、介護相談などを都道府県支部において実施した。

○日本介護福祉士会ニュースの発行

- ・当年度は通巻No.103からNo.108を偶数月15日に発行した。支部を通じて全会員に送付するほか、有償購読者105（介護福祉士養成施設、その他団体・個人）に送付した。

○リーフレットの作成

- ・入会を促進するためリーフレットを作成し、適宜配布した。

○ホームページによる情報提供

- ・「認定介護福祉士（仮称）」に関する専用ページを新設した。また、昨年度に引き続き、速やかな情報更新を行った。

○調査研究事業の情報提供

○介護福祉士国家試験受験対策事業の実施（模擬試験等）

- ・介護福祉士国家試験受験支援のための、全国一斉模擬試験を実施した。
- ・福祉新聞「受験ゼミナール」コーナーの模擬問題を作成し、掲載した。

○介護支援専門員全国一斉模擬試験を実施した。

5. 介護福祉士の相互福祉に関する事業

○会員専用福利厚生制度（安心三重奏）の団体加入促進に取り組んだ。

○昨年度に引き続き、会員証付帯福利厚生制度の充実に取り組んだ。

6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

○災害救援事業

- ・東日本大震災について、災害救援対策本部を設置

して、避難所、ボランティアセンター等に延べ774名の生活支援ボランティアを派遣し、被災県支部や厚生労働省等の関係団体と連携して災害救援活動を行った。また、義援金として5,991,684円の募金があり、社会福祉法人中央共同募金会を通じて被災地へ寄付した。

○会員の加入促進

- ・都道府県会長会において提言を行い、具体的な目標数を決定し、各支部はその達成の取り組みを行った。
- ・本会活動の積極的な周知に努め、賛助会員の獲得を図るなどして組織基盤を整備した。

・都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、公益社団法人化及び一般社団法人化を支援した。公益社団法人化支部は1支部（福岡県）、一般社団法人化支部は10支部（栃木県、福井県、山梨県、岐阜県、奈良県、島根県、山口県、徳島県、愛媛県、鹿児島県）。

○補助金等事業（公的助成の確保を図り、事業の充実を図った。）

・厚生労働省「介護福祉士実習指導者講習会」の実施（介護福祉士養成カリキュラムの見直しにともない、実習施設・事業等（II）における実習指導者が修了しなければならない講習会を47都道府県支部において実施した。）

・厚生労働省「質の高い介護サービスの提供力を持つ介護福祉士（認定介護福祉士）の養成・技能認定等に関する調査研究事業」の実施（6回の親委員会、6回の作業委員会及び2回のワーキングを実施し、認定介護福祉士（仮称）の役割・実践力や研修カリキュラム等について検討を行った。また、平成23年度の研究成果をまとめた「中間まとめ」を作成し、会員のみならず、関係団体や施設・事業所等に広く配布した。）

・公益財団法人社会福祉振興・試験センター「リーダー研修会」の実施（介護福祉士初任者等を指導するリーダーを養成するために、研修会を実施した。）

・公益財団法人社会福祉振興・試験センター「介護福祉士福祉人材・養成研修助成事業」の実施（介護福祉士のキャリアアップシステムとなる生涯研修制度を充実し、介護福祉士の専門性の向上、社会的地位の向上を図るため、制度に関する検討や研修会を行った。）

○第三者評価事業

・評価実績：社会福祉法人多摩済生医療団（特別養護老人ホーム、通所介護、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援）

特定非営利活動法人桜実会（訪問介護、通所介護）
社会福祉法人武蔵野（特別養護老人ホーム）

・東京都福祉サービス評価推進機構より認証を受けた。評価者の継続研修7名

・各支部の実施状況

神奈川県、新潟県、富山県、長野県、京都府、福岡県で実施した。

○介護サービス情報の公表事業

・各支部の実施状況

新潟県、富山県、福岡県で実施した。

平成24年度事業計画

「社団法人日本介護福祉士会定款」第4条に定める次の事業

- (1) 介護福祉士の職業倫理ならびに専門的知識及び技術の向上に関する事業
- (2) 介護福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 介護福祉士教育機関その他関係団体との連携及び協力に関する事業
- (4) 介護福祉の普及啓発に関する事業
- (5) 介護福祉士の相互福祉に関する事業
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事業を行うため、以下の事業を実施する。

1. 各種事業推進のための会議・委員会の実施

1) 生涯研修制度検討委員会【定款第4条-(1)】

- ・生涯研修システムを運営し、認証制度を実施する。さらに継続してシステムの普及・推進について検討を行う。
 - ・生涯研修制度に基づいた研修のあり方について見直すとともに、ポイントの新たな活用方法を実施する。
 - ・「認定介護福祉士（仮称）養成の在り方に関する検討会」の検討結果に基づき、試行事業として養成研修を実施する。
 - ・リーダー研修の実施により、介護福祉士初任者研修、ファーストステップ研修、サービス提供責任者研修等の講師養成を行い、各支部における事業運営に必要なサポート体制を充実する。
 - ・介護福祉士を取り巻く環境の変化に対応すべく、介護福祉士初任者研修等のカリキュラムの充実を図る。
 - ・引き続きセカンドステップ研修の内容について検討し、試行事業実施のため運営スキームを検討する。
 - ・（仮）生涯研修制度評価委員会を設置し、（仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修等、日本介護福祉士会の実施する各種研修会の評価及び修了者の認定について検討する。
 - ・各支部との連携のもと、日本介護福祉士会としての介護技術のモデル化について引き続き検討する。
 - ・障がい者に対する介護の現状と課題を整理し、生涯研修制度に基づいて障がい種別に応じた研修を実施するとともに、ブロック又は支部での実施に向けた検討を行う。
 - ・日本介護福祉士会のキャリアパス（生涯研修制度）について、社会的認知度の向上を目指す。
- #### 2) 制度・政策検討委員会【定款第4条-(6)】
- ・介護福祉士の社会的評価の向上・労働条件の改善に対する取り組みを図る。
 - ・介護保険制度とサービスの質の評価に関する指標、障害者自立支援法・医療行為・国家試験・介護福祉教育・外国人労働者などの介護福祉制度に関する政策・提言について調査研究、研修部門と連携して検討を行う。

- ・行政を始めとする各委員会等に参画し提言していく。また、国民に向けた情報発信を積極的に行う。

3) 調査研究委員会【定款第4条-(2)】

- ・時代の変遷とともに移り変わる「介護福祉士の専門性」や就労実態について把握し、より良い介護サービスの提供に資すること等を目的とした「就労実態と専門性の意識に関する調査研究」に関する調査を実施し、介護福祉士の現況と今後の方向性について研究する。

4) 組織財政運営関係委員会【定款第4条-(6)】

- ・諸会議を開催し、健全な本会運営を図る。
 - ・総会、理事会及び常任理事会の開催
 - ・各種委員会及び選挙管理委員会の運営

5) 倫理委員会【定款第4条-(6)】

- ・倫理綱領及び倫理基準（行動規範）に基づき、各支部における倫理委員会の設置に向けた検討を行う。

6) 災害対策マニュアル検討委員会【定款第4条-(6)】

- ・災害時支援活動実践マニュアルの充実、普及を図る。

2. 各種研修会の開催及び学術研究活動

1) 日本介護福祉士会会員（日本介護学会会員）が広く参加する研修

○全国大会の開催【定款第4条-(1)】

- ・全ての介護福祉士の研究意欲を高めるとともに、介護福祉実践場面での知識・技術の向上を図るため、時宜に合ったテーマに沿って、講演や分科会等、開催県を全支部が支援し、実施する。（第19回開催県＝山梨県、平成24年12月7日～8日）

○学術研究活動【定款第4条-(6)】

- ・日本介護学会の運営と学術集会の開催（第10回開催県＝滋賀県、平成24年9月28日～29日）
- ・会員の実践・研究業績を広く周知し、介護現場におけるケアの質の向上に生かすため、専門誌「介護福祉士」（年2回）の内容を見直し、充実、普及を図る。

○ブロック研修会の開催【定款第4条-(1)】

- ・介護福祉士としての資質の向上を図るため、介護問題を巡る最新のテーマに基づいた研修会を実施する。

2) 総合的なキャリアパスを目的とする研修【定款第4条-(1)】

○介護福祉士初任者研修

- ・介護福祉士初任者を対象とした研修を全支部で実施する。

○ファーストステップ研修

- ・小規模チームのリーダーや初任者等の指導係を養成するため、これまでに作成されたシラバスや教材を参考にして、各支部で実施する。

○リーダー研修

- ・介護福祉士初任者研修・ファーストステップ研修・サービス提供責任者研修等の研修会をさらに充実させる目的として講師養成研修を実施する。

○介護職のための研究・発表に関する研修

- ・全国大会、日本介護学会、ブロック研修会等にお

ける発表を促進するとともに、各支部において研修を実施する際の運営スキームを提示し、実施県を支援する。

- （仮称）認定専門介護福祉士（認知症）養成研修
 - ・昨年度より新カリキュラムで実施しているモデル研修会を引き続き実施し、研修内容について評価委員会にて評価する。
- 法制度等に関する研修会
 - ・介護福祉士を取り巻く法制度等に関する正しい知識を身につけ、後進の育成に資するための研修を支部において実施する。

3) 職能的研修【定款第4条-（1）】

- 介護福祉士実習指導者講習会
 - ・社会福祉士及び介護福祉士法改正に伴う実習指導者の資格要件を付与すること等を目的として介護福祉士実習指導者講習会を各支部で実施する。
- サービス提供責任者研修
 - ・介護保険制度で多くの介護福祉士がその責務を担うサービス提供責任者に必要な知識を付与することを目的として、日本介護福祉士会の示すカリキュラムに則ってブロック又は支部において実施する。また、標準テキストを発行する。
- 介護技術講習主任指導者・指導者養成講習会
 - ・主任指導者・指導者養成講習を実施する。（主任指導者養成講習は中央実施、指導者養成講習は支部実施）
- 介護支援専門員現任研修
 - ・「日本介護福祉士会方式アセスメント・ケアプラン」を活用するなどして介護支援専門員の資質向上のための現任研修をブロック又は支部において実施する。
- たんの吸引、経管栄養に関する研修会（予備的な知識・技術を身につける研修）
 - ・介護福祉士の行うたんの吸引や経管栄養について、安心して安全に実施できるよう、法律で定められた研修の受講前に、予備的な知識・技術を身につけることを目的とした研修を支部において実施する。
- 実務者研修教員講習会
 - ・実務経験を3年以上有する者が介護福祉士国家試験を受験するために受講しなければならない実務者研修（450時間）の円滑な運営に資するため、その教員養成を目的とした講習会を実施する。

4) その他の研修

- 海外研修の実施
 - ・社会福祉振興・試験センター実施の海外研修への会員参加
- その他時宜に応じて必要な研修

3. 関係団体との連携・協力【定款第4条-（3）】

- 保健・医療・福祉の各団体との連携強化
- 必要に応じ他団体、機関、研究所等との連携
- 後継者の育成
 - ・日本介護福祉士養成施設協会等の団体と協力し、後進の育成を図るとともに講師育成を図る。
- 介護福祉士国家試験（実技試験）の実地試験委員派遣協力

4. 介護福祉の普及啓発に関する事業【定款第4条-（4）】

- 介護の日に関する事業の実施
 - ・「介護の日」ひろめ隊活動や介護相談等の実施を通して、11月11日「介護の日」の普及啓発を図るとともに、地域における支え合いの重要性等の理解と認識をひろめ、「介護の日」の取り組みを促進する。
- 老人の日・老人週間に関する事業の実施
 - ・老人の日・老人週間合わせて47都道府県において介護相談マニュアルを活用した介護相談等、各支部の企画による事業を実施する。
- 日本介護福祉士会ニュースの充実・発行（年6回）
- ポスター及びパンフレットの作成
- ホームページによる情報提供
 - ・内容の一層の充実を図るとともに、各支部のホームページ充実の支援を行う。
- 調査研究事業の情報提供
- 介護福祉士国家試験受験対策事業の実施（模擬試験等）
- 介護支援専門員実務研修受講試験受験対策事業の実施（模擬試験等）
- 介護に関する出版物の発行及び協力

5. 介護福祉士の相互福祉に関する事業【定款第4条-（5）】

- 各種保険制度への団体加入
 - 安心三重奏の充実（喀痰の吸引等医療行為に伴い、新たな保険制度の検討を行う）
- 会員証付帯福利厚生制度の充実

6. その他の事業

- 災害救援活動【定款第4条-（6）】
 - ・災害発生時の復興に取り組むため、全支部の協力を得て、ボランティア派遣など災害救援に関わる活動を行う。また、行政、他団体や他職種との連携を深め有意義な支援活動を行う。このような活動が迅速に行えるようにマニュアルの作成・充実を図る。
 - ・災害支援に関する研修会を行い、災害に対する介護福祉士の専門性をより高める。
 - ・災害支援介護福祉士（仮）の養成について検討する。
- 組織財政運営活動【定款第4条-（6）】
 - ・各支部策定の「会員加入促進計画」に基づいて介護福祉士登録者の本会への加入を促進し、組織基盤を確立する。
 - ・会員情報管理システム「ケアウェル」により、各支部との情報管理を一本化し、組織基盤を強化する。また「ケアウェル」と連動した会員専用サイトを立ち上げ、情報発信の強化に努める。
 - ・本会活動の積極的な周知に努め、賛助会員の獲得を図るなどして組織基盤を整備する。
 - ・本会の社会的評価向上のため、公益社団法人の認定を受ける。また、都道府県介護福祉士会の健全な発展のため、社団化を促進する。
 - ・公的助成の確保を図り、事業の充実を目指す。
- 第三者評価事業の実施・介護サービスの情報の公表事業の推進【定款第4条-（4）】
 - ・日本介護福祉士会による事業の実施ならびに各支部が実施する場合の支援を行う。
 - ・日本介護福祉士会設立20周年（平成25年度）記念事業・記念誌の発行についての準備を行う。

平成23年度 一般会計収支計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位：円)				(単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異	科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部				④通信運搬費支出	500,000	595,020	△95,020
1. 事業活動収入				⑤事務費支出	5,000,000	5,040,194	△40,194
(1) 会費収入	138,000,000	147,840,000	△9,840,000	⑥渉外費支出	1,000,000	1,054,779	△54,779
①入会金収入	17,500,000	18,675,000	△1,175,000	⑦租税公課支出	3,500,000	1,869,700	1,630,300
②年会費収入	118,500,000	127,265,000	△8,765,000	⑧会議費支出	26,700,000	25,785,109	914,891
年会費収入	117,000,000	123,594,000	△6,594,000	(3) 他会計への繰入金	5,500,000	5,895,384	△395,384
過年度年会費収入	1,500,000	3,671,000	△2,171,000	支出			
③賛助会費収入	2,000,000	1,900,000	100,000	①特別会計(医療機	0	0	0
(2) 事業収入	93,200,000	173,692,712	△80,492,712	構)への繰入金支出			
①研修会費収入	72,000,000	146,063,500	△74,063,500	②特別会計(学会)へ	500,000	895,384	△395,384
②研修手数料収入	1,500,000	2,195,000	△695,000	の繰入金支出			
③協賛金収入	2,000,000	1,560,000	440,000	③特別会計(災害)へ	5,000,000	5,000,000	0
④購読料収入	200,000	240,000	△40,000	の繰入金支出			
⑤手数料収入	17,000,000	21,738,812	△4,738,812	事業活動支出計	255,726,000	349,582,426	△93,856,426
⑥委託料収入	500,000	1,895,400	△1,395,400	事業活動収支差額	△6,000,000	22,335,377	△28,335,377
第三者評価事業収入	500,000	1,895,400	△1,395,400	II 投資活動収支の部			
(3) 補助金等収入	18,376,000	50,270,000	△31,894,000	1. 投資活動収入			
①国庫補助金収入	14,376,000	14,376,000	0	①固定資産取得収入	7,000,000	6,874,245	125,755
②民間助成金収入	4,000,000	12,520,000	△8,520,000	投資活動収入計	7,000,000	6,874,245	125,755
③老人保健健康増進	0	23,374,000	△23,374,000	2. 投資活動支出			
等事業収入				①基本財産取得支出	0	0	0
(4) 雑収入	150,000	115,091	34,909	②固定資産取得支出	7,000,000	16,874,880	△9,874,880
①雑収入	150,000	115,091	34,909	投資活動支出計	7,000,000	16,874,880	△9,874,880
受取利息収入	100,000	53,441	46,559	投資活動収支差額	0	△10,000,635	10,000,635
雑収入	50,000	61,650	△11,650	III 財務活動収支の部			
事業活動収入計	249,726,000	371,917,803	△122,191,803	1. 財務活動収入			
2. 事業活動支出				財務活動収入計	0	0	0
(1) 事業費支出	201,306,000	299,032,836	△97,726,836	2. 財務活動支出			
①研修費支出	99,776,000	177,500,435	△77,724,435	財務活動支出計	0	0	0
②調査研究費支出	500,000	23,476,257	△22,976,257	財務活動収支差額	0	0	0
③広報費支出	9,700,000	11,858,608	△2,158,608	IV 予備費支出	0	0	0
④組織費支出	7,800,000	8,449,334	△649,334	当期収支差額	△6,000,000	12,334,742	△18,334,742
⑤専門研究費支出	2,100,000	3,966,142	△1,866,142	前期繰越収支差額	59,302,114	59,302,114	0
⑥その他事業費支出	31,000,000	31,368,214	△368,214	次期繰越収支差額	53,302,114	71,636,856	△18,334,742
⑦会員証作成費支出	50,000	28,350	21,650				
⑧学術研究活動費支出	3,500,000	3,000,000	500,000				
⑨人件費支出	39,680,000	31,885,835	7,794,165				
⑩事務所費支出	5,200,000	5,119,582	80,418				
⑪通信運搬費支出	2,000,000	2,380,079	△380,079				
(2) 管理費支出	48,920,000	44,654,206	4,265,794				
①人件費支出	9,920,000	7,971,459	1,948,541				
②顧問料支出	1,000,000	1,058,050	△58,050				
③事務所費支出	1,300,000	1,279,895	20,105				

平成23年度特別会計決算、平成24年度特別会計予算についてはホームページをご覧ください。

平成24年度 一般会計収支予算

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位：円)				(単位：円)			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部				⑥ 渉外費支出	1,000,000	1,000,000	0
1. 事業活動収入				⑦ 租税公課支出	3,500,000	3,500,000	0
(1) 会費収入	144,000,000	138,000,000	6,000,000	⑧ 会議費支出	24,500,000	26,700,000	△2,200,000
① 入会金収入	17,500,000	17,500,000	0	(3) 他会計への繰入金	2,000,000	5,500,000	△3,500,000
② 年会費収入	124,500,000	118,500,000	6,000,000	支出			
年会費収入	123,000,000	117,000,000	6,000,000	① 特別会計(学会)へ	0	500,000	△500,000
過年度年会費収入	1,500,000	1,500,000	0	の繰入金支出			
③ 賛助会費収入	2,000,000	2,000,000	0	② 特別会計(災害)へ	2,000,000	5,000,000	△3,000,000
(2) 事業収入	44,000,000	93,200,000	△49,200,000	の繰入金支出			
① 研修会費収入	11,850,000	72,000,000	△60,150,000	事業活動支出計	192,100,000	255,726,000	△63,626,000
② 研修手数料収入	11,750,000	1,500,000	10,250,000	事業活動収支差額	0	△6,000,000	6,000,000
③ 協賛金収入	2,000,000	2,000,000	0	II 投資活動収支の部			
④ 購読料収入	200,000	200,000	0	1. 投資活動収入			
⑤ 手数料収入	17,000,000	17,000,000	0	① 固定資産取得収入	10,000,000	7,000,000	3,000,000
⑥ 委託料収入	1,200,000	500,000	700,000	投資活動収入計	10,000,000	7,000,000	3,000,000
第三者評価事業収入	1,200,000	500,000	700,000	2. 投資活動支出			
(3) 補助金等収入	4,000,000	18,376,000	△14,376,000	① 基本財産取得支出	0	0	0
① 国庫補助金収入	0	14,376,000	△14,376,000	② 固定資産取得支出	10,000,000	7,000,000	3,000,000
② 民間助成金収入	4,000,000	4,000,000	0	投資活動支出計	10,000,000	7,000,000	3,000,000
(4) 雑収入	100,000	150,000	△50,000	投資活動収支差額	0	0	0
① 雑収入	100,000	150,000	△50,000	III 財務活動収支の部			
受取利息収入	50,000	100,000	△50,000	1. 財務活動収入			
雑収入	50,000	50,000	0	財務活動収入計	0	0	0
事業活動収入計	192,100,000	249,726,000	△57,626,000	2. 財務活動支出			
2. 事業活動支出				財務活動支出計	0	0	0
(1) 事業費支出	143,380,000	201,306,000	△57,926,000	財務活動収支差額	0	0	0
① 研修費支出	38,100,000	100,276,000	△62,176,000	IV 予備費支出			
② 調査研究費支出	2,000,000	500,000	1,500,000	当期収支差額	0	△6,000,000	6,000,000
③ 広報費支出	10,700,000	9,700,000	1,000,000	前期繰越収支差額	71,636,856	59,302,114	12,334,742
④ 組織費支出	8,800,000	7,800,000	1,000,000	次期繰越収支差額	71,636,856	53,302,114	18,334,742
⑤ 専門研究費支出	2,100,000	2,100,000	0				
⑥ その他事業費支出	34,100,000	30,500,000	3,600,000				
⑦ 会員証作成費支出	700,000	50,000	650,000				
⑧ 学術研究活動費支出	0	3,500,000	△3,500,000				
⑨ 人件費支出	39,680,000	39,680,000	0				
⑩ 事務所費支出	5,200,000	5,200,000	0				
⑪ 通信運搬費支出	2,000,000	2,000,000	0				
(2) 管理費支出	46,720,000	48,920,000	△2,200,000				
① 人件費支出	9,920,000	9,920,000	0				
② 顧問料支出	1,000,000	1,000,000	0				
③ 事務所費支出	1,300,000	1,300,000	0				
④ 通信運搬費支出	500,000	500,000	0				
⑤ 事務費支出	5,000,000	5,000,000	0				

(注) 1. 借入金限度額 なし
2. 債務負担額 なし

平成24年度役員選任

第5号議案「平成24年度役員選任に関する件」においては、選挙管理細則、役員選出規則、役職者の互選規程に基づき行われた一連の選挙結果について、選挙管理委員長の沖田健太郎氏 (愛知県支部) より報告があった。

議決では賛成多数で承認され、その後、別室にて行われた選任された役員による臨時理事会において役職者の互選に関する協議があり、役職者が正式決定した。

平成24年度 社団法人 日本介護福祉士会 役員名簿

平成24年6月1日現在

役職名	氏名	所属・役職名	役職名	氏名	所属・役職名
会長	石橋 真二	社会福祉法人 旭川荘 顧問	理事	小泉 昭江	医療法人 治恵会 北見中央病院 地域包括支援事業 施設長
副会長	内田 千恵子	株式会社 あいゆうサポート 代表取締役	理事	田村 尚	中之条町地域包括支援センター 主任介護支援専門員
副会長	木村 晴恵	社会福祉法人 洛東園 園長	理事	中根 健男	社会福祉法人 岡崎市福祉事業団 施設サービス課 総務班 主任
副会長	三浦 晃史	障害者支援施設 修光園 課長	理事	野上 薫子	一般社団法人 神奈川県介護福祉士会 会長
常任理事	因 利恵	筑紫女学大学 非常勤講師	理事	前田 薫	社会福祉法人 まりあ 施設長
常任理事	齋藤 幸子	東北文科大学短期大学部 非常勤講師	理事	稲庭 千弥子	公益社団法人 全国老人保健施設協会 常務理事
常任理事	畠山 仁美	公益社団法人 長野県介護福祉士会 会長	理事	沖藤 典子	作家
常任理事	舟田 伸司	黒部市介護老人保健施設 カリエール 主査介護員	理事	鈴木 利定	社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 副会長
常任理事	三橋 一久	介護老人福祉施設 美和あすなろ 主幹	理事	柄本 一三郎	上智大学 大学院 総合人間科学部 学部長
常任理事	村田 美穂子	特定非営利活動法人 宅老所 心 理事長	理事	眞下 宗司	全国身体障害者施設協議会 副会長
理事	浅野 幸子	社団法人 大阪介護福祉士会 会長	理事	松本 敦	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 21世紀委員会 委員長
理事	大谷 久也	佐賀女子短期大学 健康福祉学科 准教授	理事	村田 幸子	社会福祉評論家
理事	岡田 史	新潟医療福祉大学 社会福祉学科 准教授	監事	白仁田 敏史	有限会社 あんのん 代表取締役
理事	草加 昭子	社団法人 岡山県介護福祉士会 事務局長	監事	繁田 勝男	公認会計士 繁田勝男事務所 代表公認会計士

(敬称略、構成別50音順)

公益社団法人化

第6号議案「公益社団法人化に関する件」では、事務局より定款をはじめとする公益社団法人日本介護福祉士会の各種規程、規則等の説明があり、その後、会員資格等に関する質疑応答が行われた。議決は代議員総数の4分の3以上の賛成多数により承認された。今後は11月の公益認定申請を経て、平成25年4月の公益社団法人化を目指すことになる。

ふれあいケア

2012年
7月号

6月20日発行

●定価1,020円 (本体971円) ●毎月20日発行 ●B5判・80頁
●送料300円 (10冊以上・定期購読の場合は送料サービス)

介護に携わるプロフェッショナルのための応援誌。毎日の介護実践に役立つ専門知識や技術についての情報を満載。高齢者ケアに関わる施設福祉や在宅福祉の最新情報や、先駆的な実践事例も紹介。

特集 ショートステイを考える

今後、在宅支援においてショートステイのニーズが高まると考えられます。介護者にとって利用しやすく、要介護者にとって居心地の良い受け入れ先が求められています。今後のショートステイのあり方を考えるとともに、多様化するニーズに応じた先駆的な施設などの実践を紹介します。

座談会 実践レポート ほか

好評連載企画

- 古い考
- 介護現場のリスクマネジメント
- パワーUP! 訪問介護
- ワンポイント介護技術
- Close Up福祉用具
- 実践! 脳活性化リハビリテーション
- 認知症ケア相談室
- 介護の味方・看護の見方
- 職場のあなたの物語
- 災害リスクマネジメント ほか

定期購読申込み受付中! 【FAX、郵送、E-mailのいずれかでお申込み下さい】
お申込みの際は「〒住所・氏名・電話番号」のほか、「購読開始月号、冊数」を忘れずにご記入下さい。
バックナンバーをご希望の場合はその月号・冊数もご記入下さい (品切れの際はご容赦下さい)。

●お申し込みは、書店・都道府県・指定都市社会福祉協議会、または下記へ●

全社協出版部受注センター

TEL: 049-257-1080 FAX: 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法 全国社会福祉協議会 出版部

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書を検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

▶▶ <http://www.fukushinohon.gr.jp>

平成24年度日本介護学会開催県

滋賀県⑥

一般社団法人 滋賀県介護福祉士会

今回で第6回目となりましたが、9月28日、29日の第10回日本介護学会開催県の滋賀より、学会に向けた滋賀県介護福祉士の取り組み状況をお伝えします。

4月28日（土曜日）に大津市の「ピアザ淡海大会議室」において、昨年の5月からほぼ1年かけて取り組んだ介護研究ゼミの公開発表、「介護研究発表会in滋賀」が日本介護福祉士会主催で行われました。会場には滋賀県内のみならず、京都、大阪、奈良、兵庫など近畿圏はもとより、福井や名古屋、遠くは静岡、東京、福岡からもおいでいただきました。発表された研究は下記のとおりです。（発表研究順 敬称略）

1. 介護サービス業務をめぐる認識の実態～滋賀県内特別養護老人ホームの調査から～
高島 聡 川村 恵美子 井上 美和子 成川 洋子
2. 介護福祉士による医療的ケアの現状（1）～A県介護福祉士会員の実施状況とその認識～
田原 育恵 北村 建宏
3. 他職種経験者の感じる介護の「魅力」に関する研究
村田 才司 奥嶋 たみ子 上島 蝶子
4. 介護福祉士養成校の学生が実習先で違和感を抱いたエピソードについての研究
～違和感生成の過程とその影響 X県A校の事例から～
鶴房 祐治 荒木 猛 大原 英子 川添 誠

「介護研究」はどうしても取り組み難いイメージを持たれやすいのですが、医療、看護、リハビリ領域では「臨床研究」の必要性、重要性は既に述べるまでもありません。それを介護でも我々介護福祉士自身がより専門的、積極的に取り組んでいってみようという試みでしたが、介護研究ゼミでの皆さんの努力はこの日、目に見える形で成果へと繋がったのではないのでしょうか。

4つの研究発表終了後、日本介護福祉士会の内田千恵子副会長をコーディネーターとし、この介護研究をご指導くださった広島国際大学の矢原隆行准教授、滋賀県介護福祉士会の村田美穂子会長、そしてゼミ参加者と事務局を交えてのシンポジウムが行われました。

実際の介護現場では、いまだ「介護職員に研究なんてできる筈がない」という厳しいご意見等もあるようです。しかし「介護職員ならではの」「臨床介護福祉研究」に実際に取り組み、発表という形で公開まで出来たということは、我々滋賀県の介護福祉士にとってこれからも必要なそして大きな一歩です。ご支援くださった日本介護福祉士会とご指導くださいました矢原先生に深く感謝を申し上げます。またこの成果を次に繋げるために当会は介護研究ゼミ第二期に向けてスタートしました。

今回の会場となった「ピアザ淡海」は今年の介護学会会場としても予定されており、特に大会議室前からのびわ湖の景色は雄大です。ぜひ今年の9月最終週は滋賀にお越しくださいますよう、心よりお待ちしております。



第19回全国大会開催県



やまなし

シリーズ 2



大人の事情でひとつ飛びましたが、山梨の紹介Part2です。今回も最後までお読みいただくと嬉しいです！
 全国大会開催に向け、最近県内各地へ出向くことが増えました。県内の新たな一面を探索しつつ『おもてなし』を第一に着々と準備をすすめているところです。要綱も出来上がりましたので、お手元に届いた際には是非「校正」するくらいの気持ちで熟読していただくと嬉しさ倍増です！

12月まで、お付き合いよろしく願いいたします。



富士山

前回、世界遺産に申請の話題を書きました。今年の2月23日（富士山の日）には山梨・静岡にて223（ふじさん）にちなんだ多くのイベントが開催され盛り上がったようです。どちらの県から見た富士山が一番か？といったTV番組もありましたが、どちらから見ても雄大なその姿は間違いなし！天候によっては写真のような湖に映る逆さ富士が堪能できます。

ワイン



県内には醸造元が多くあるので、今回全国大会の懇親会にて振る舞う予定のワインをお願いするため、こちらの醸造元にお邪魔し試飲させていただきました。ひんやりと

して落ち着いた建物内にはワイングラスのミニギャラリーと温かなスタッフ。こんな癒しもあるんですね！

勝沼醸造株式会社
 〒409-1313 山梨県甲州市勝沼町下岩崎371
 TEL 0553-44-0069 <http://www.katsunuma-winery.com/>



武田信玄

山梨県はその昔「甲斐の国」といわれ、武田信玄が治めていたのは有名です。そして、軍旗に使われた「風林火山」の文字もまた県内随所で見ることができます。

雄姿を見るなら甲府駅南口に銅像が君臨しておりますのでツーショットをお楽しみください！信玄の菩提寺に…という歴史女は甲州市にある恵林寺を訪れてみてはいかがでしょうか？

恵林寺
 〒404-0053 山梨県甲州市塩山小屋敷2280
 TEL 0553-33-3011 <http://www.erinji.jp/>



福祉用具を活用しよう

財団法人テクノエイド協会

このコーナーでは、本人が実現したいケアプランの生活目標を前提に考え、それに対する福祉用具や生活環境などを生活場面ごとに紹介します。

Part 1 起居 —起きることは生活の始まり—

今回は、「安定した端座位のとり方」について解説します。

安定した端座位で食事や介護動作を行うためには、座位能力向上のため、まず端座位をとる機会や時間を増やすことが大切です。端座位をとることにより覚醒度を高めたり、自発的行動の増加が見込まれます。

端座位をとるために多く用いられるのが、背もたれつきの端座位テーブルです。端座位まで起こすことはベッドの機能を利用すれば比較的容易に実現できます。さらにこのテーブルを利用すれば座位バランスが悪い場合でも端座位を維持でき、骨盤が立った良い姿勢を維持することができます。

本来はベッドから離れて生活したいのですが、移乗介助が大変であったり、短期間で臥位に戻さなければならないなどの理由から、端座位で姿勢を維持したい場合に有効な方法です。

■端座位保持テーブル

一人介助で簡単に設置でき座位姿勢を維持してくれるので、食事などの介助もしやすくなり、また、座位バランスの訓練にも繋がります。

移乗介助をせずに、起こした姿勢を作ることができます。ベッドの背上げ座位は寝ている姿勢ですが、このテーブルを利用すれば起こした姿勢を容易に作るすることができます。

■端座位保持テーブルを使用する条件

①環境条件

ベッドの下に、このテーブルの脚部が入るスペースが必要です。また、端座位のときに足底がしっかりと床についていることが必要なので、端座位が安定するマットレスや、高さ調節機能のあるベッドが望ましいでしょう。ベッドの高さ調整を行い、端座位が安定したあとテーブルの高さを調整します。

②本人の条件

立位がとれない人が対象になります。このテーブルをセットすると前方がふさがれ、立位をとることができなくなりますので立ち上がれる人や歩行が可能な人は対象外です。

極端な側弯の場合には使用できません。また、円背が強いと背中が背もたれにぶつかって、前屈みになったり、テーブル高さや前後位置が調整できないなどの問題を生じる場合があります。

③介助者の条件

ベッドで寝ている人を背上げ機能などを使いながら起き上がらせ、端座位保持能力がない人を支えながら、前方からこのテーブルをセットしなければなりませんので、この程度の作業ができることが条件となります。利用者が短時間でも端座位を維持できる人の場合には、この作業が楽になります。

■用具の選定

この端座位テーブルは背もたれが直角に交差する2枚の板でできています。(図1)

使い方は端座位にしたあと、前方から背もたれを開けてアクセスします。

体幹が前方に倒れてしまうような人の場合には肩ベルトを使用することもできます。(図2)



図1 端座位保持テーブル

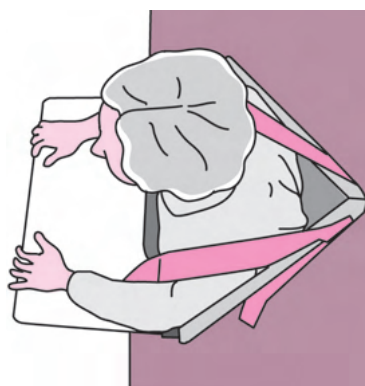


図2 前方への転倒を防止するベルト

次回は、「ベッド上での安眠」について解説します。

第19回 全国大会開催要綱

- 日時 平成24年12月7日 (金)～12月8日 (土)
- 場所 「甲府富士屋ホテル」(山梨県甲府市)
- テーマ 「原点回帰」～私たちがめざしてきたもの
そして 何をめざすのか～
- 参加定員 600名
- 参加対象者 社団法人日本介護福祉士会会員 その他一般
- 会費 会員/3,000円 一般/10,000円 学生/1,000円
- プログラム
(12月7日) 基調講演 厚生労働省 (予定)
記念講演 太田 貞司氏 (神奈川県立保健福祉大学名誉教授)
懇親会
(12月8日) 分科会 (座長は予定)
第1分科会「介護福祉士って何だろう」
専門職として“在宅”の現場から見てきたもの
座長: 服部 万里子氏 (服部メディカル研究所所長)
第2分科会「介護福祉士って何だろう」
専門職として“施設”の現場から見てきたもの
座長: 村岡 裕氏 (社会福祉法人依田窪福祉会常務理事)
第3分科会「医療的ケアと介護福祉士」
座長: 田中 涼子氏
(高齢者福祉総合施設ももやま施設長)
特別講演 土橋 久忠氏
(山梨学院大学 就職・キャリアセンター次長)
「人を育てることは自らを育てること、
自己改革で明日を拓く」
- 問い合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局
※現在分科会での事例発表を募集しています。ふるってお申し込み下さい。

第19回 関東・甲信越ブロック研修会

- 日時 平成24年9月7日 (金) 13:00～17:00
9月8日 (土) 9:30～12:00
- 場所 鬼怒川温泉 あさや (栃木県日光市)
- テーマ THE ☆介護福祉士 生活をつくれ!!
～介護福祉士はスペシャリスト 更なる向上を目指して～
- 参加定員 400名
- 会費 会員/3,000円 一般/5,000円 学生/1,000円
- プログラム
(9月7日) 基調講演 厚生労働省 (予定)
分科会 第1分科会「育成」～スペシャリストをめざそう～
第2分科会「実践」～頑張っています～
第3分科会「連携」～利用者の安心な生活のために～
(9月8日) 記念講演 本田 芳香氏
(自治医科大学看護学部 大学院看護研究科 教授)
- 申込締切 7月27日 (金)
- 問い合わせ 一般社団法人 栃木県介護福祉士会
TEL.028-600-1725 Fax.028-600-1730

平成24年度介護技術講習主任指導者養成講習会実施要綱

- 日時 平成24年8月25日 (土)～8月26日 (日)
- 場所 サンパルテ山王 (長野県長野市)
- 定員 50名
- 会費 会員/28,000円 一般/39,000円
- 申込締切 8月3日 (金) 必着
- 問い合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局

第10回 日本介護学会開催要綱

- 日時 平成24年9月28日 (金) 13:00～29日 (土) 15:30
※プレセミナーは28日 (金) 10:00から開始
- 場所 ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター
- テーマ 介護と医療の連携～介護福祉士の役割～
- 参加定員 400名 ※プレセミナー 50名
※カフェセミナー100名 ※ランチョンセミナー 50名
- 参加対象者 会員 学生 その他一般の方
- 会費 ●学術集会 会員/3,000円 一般/13,000円 学生/1,000円
●プレセミナー 会員・学生/1,000円 一般/2,000円
- プログラム
(9月28日) プレセミナー「入門!介護研究へのいざない」
講師 矢原 隆行氏
(広島国際大学 医療福祉学部医療福祉学科 准教授)
記念講演 笹田 昌孝氏 (滋賀県立成人病センター総長)
シンポジウム「介護と医療の連携～介護福祉士の役割～」
カフェセミナー 研究発表者を囲んで
(9月29日) 来賓挨拶 嘉田 由紀子氏 (滋賀県知事)
研究発表
分科会① 介護と医療の連携
分科会② 災害と介護福祉士
分科会③ 介護人材の教育、育成
分科会④ ケアの質の向上に関する実践
ランチョンセミナー「口腔ケア」
- 申込締切 8月31日 (金)
- 問い合わせ 社団法人日本介護福祉士会事務局

都道府県介護福祉士会研修情報

東京都介護福祉士会

介護職のためのスーパービジョン研修

- 日程 8月11日 (土) 9:30～16:30 受付 9:00～
- 場所 ティアラこうとう 大会議室A
- テーマ スーパービジョン (SV) の理解
スーパービジョン (SV) の実践
- 講師 茂木高利氏 『聴育』(あけび書房) 著者 他
- 締切 7月31日 (火) 又は定員 (80名) になり次第
- 受講料 会員 2,700円 非会員 5,100円
※キャンセル等による受講料の返金はいたしません。
- 問い合わせ NPO法人 東京都介護福祉士会 (担当: 阿久津)
TEL 03-5624-2821

ケアマネスキルアップ研修

- 日程 8月25日 (土) 10:00～15:00
- 場所 北とびあ 901研修室
- テーマ 法令をふまえた、効率的なケアマネジメント
講師 栗岡清英氏 (江東園さわか相談室・介護支援専門員)
障害者施策から介護保険へ移行ケアマネジメント
講師 金 貞子氏 (東京都介護福祉士会コア・介護支援専門員)
- 定員 50名 (先着順)
- 受講料 会員 2,500円 非会員 5,000円
- 問い合わせ NPO法人 東京都介護福祉士会 (担当: 加藤)
TEL 03-5624-2821

愛媛県介護福祉士会

平成24年度 排泄ケア研修会

- 日程 8月10日 (金)
- 場所 愛媛県男女共同参画センター 3階「研修室」
- 定員 50名
- 受講料 正会員 3,000円 準会員及び非会員 6,000円
- 締切 7月25日 (水)
- 問い合わせ 一般社団法人愛媛県介護福祉士会
TEL 089-987-8123

